

大阪市平野区

瓜破北遺跡発掘調査報告

V

大阪府営瓜破2丁目第1期住宅(建て替え)建設工事
に伴う瓜破北遺跡発掘調査報告書

2009.3

財団法人 大阪市文化財協会

大阪市平野区

瓜破北遺跡発掘調査報告

V

大阪府営瓜破2丁目第1期住宅(建て替え)建設工事
に伴う瓜破北遺跡発掘調査報告書

2009.3

財団法人 大阪市文化財協会





石器遺物集中部LC1301·1302出土旧石器

大阪市平野区

瓜破北遺跡発掘調査報告

V

大阪府営瓜破2丁目第1期住宅(建て替え)建設工事
に伴う瓜破北遺跡発掘調査報告書

2009.3

財団法人 大阪市文化財協会

序 文

本書は当協会が刊行してきた『瓜破北遺跡発掘調査報告』シリーズの5冊目に当るものである。

遺跡発見の契機となった1976年の阪神高速道路松原線および下水道建設工事に伴う発掘調査以来、瓜破北遺跡ではとくに弥生時代後期から古墳時代前期にかけての多くの遺構・遺物が見つかっている。なかでも中国鏡や隣接する瓜破遺跡から出土した貨泉などの遺物は、この時代の国際交流を物語る証拠として内外から注目を集めてきた。また、近年における調査の進展によって、瓜破北遺跡の規模はさらに拡がり、遺跡の西域にも弥生時代から古墳時代の集落・墓域が存在することが明らかとなった。これに加え、旧石器から縄文時代の遺構・遺物も多数見つかっており、この遺跡に太古より人々の営みが連綿と刻まれてきたことが知られるようになった。今回行われた発掘調査でも、旧石器時代の石器製作址が良好な状態で見つかり、瓜破北遺跡の調査の歴史に新たな1ページを加えることができた。こうした成果の積み重ねによって、この遺跡の実態がより一層明らかになることを期待したい。

最後に、発掘調査ならびに報告書刊行に当ってご尽力をいただいた大阪府住宅まちづくり部ならびに関係者各位に心より感謝の意を表したい。

2009年3月

財団法人 大阪市文化財協会

理事長 脇田 修

例　　言

- 一、本書は財団法人大阪市文化財協会が2007年度に実施した、大阪府による平野区瓜破2丁目の大坂府営瓜破2丁目第1期住宅(建て替え)建設工事に伴う発掘調査(UR07-2次、URは瓜破・瓜破北遺跡を示す)の報告書である。
- 一、発掘調査と遺物整理、報告書作成の費用は、大阪府の負担による。
- 一、発掘調査は、財団法人大阪市文化財協会文化財研究部次長南秀雄の指揮のもと、長原調査事務所長代理絹川一徳が主として担当した。調査の期間・面積は第Ⅰ章に記す。
- 一、本書の執筆および編集は、南の指揮のもと、絹川が行った。第Ⅲ章の火山灰分析についての執筆は株式会社蒜山地質年代学研究所草野高志・曾根原崇文が担当した。なお、本書の用字用語や体裁などの調整は、文化財研究部技術管理担当課長田中清美ほか、同部長原調査事務所長趙哲済、同部事業企画担当課長代理清水和明、同部事業担当係長佐藤隆らの報告書校正委員が行った。
- 一、出土土器の理解については佐藤・主任学芸員松本啓子・黒田慶一の助けを得た。英文目次・要旨は大阪歴史博物館学芸員宮本康治と絹川で作成した。
- 一、遺構写真は主として絹川が撮影した。遺物写真の撮影は、阿南写真工房阿南辰秀氏に委託した。
- 一、空中写真測量および基準点測量は、株式会社かんこうに委託した。
- 一、火山灰分析作業は株式会社蒜山地質年代学研究所に委託し、その分析結果は第Ⅲ章に収録した。
- 一、発掘調査ならびに遺物整理作業に係わり、旧石器資料について以下の方々から現地指導並びに種々のご教示を得た。
以下に記して謝意に代えたい。(敬称略・順不同)
松藤和人(同志社大学文学部教授)、鈴木忠司(財団法人古代学協会)、佐藤宏之(東京大学人文社会系研究科教授)、
佐藤良二(香芝市教育委員会)、森川実・国武貞克(独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所)、内山ちとせ、
森先一貴(東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程後期)、上峯篤史(同志社大学大学院文学研究科博士課程
後期)、大場正善(東北学院大学大学院文学研究科博士課程後期)
- 一、発掘調査で得られた出土遺物、図面・写真などの資料はすべて当協会が保管している。
- 一、発掘調査から本書の作成に係わる作業には、補助員諸氏から多くのご援助を受けた。深謝の意を表したい。

凡　　例

1. 本書で用いた層位学・堆積学的用語、および断面図に示した岩相の基本パターンは、[趙哲済2001]に準じる。
2. 本書における地層名は第○層と表記する。また、各遺構埋土の地層名は「第」をとつて○層とのみ表記し、調査地の地層名と区別する。
3. 遺構名の表記は、溝(SD)、土壤(SK)、小穴(SP)、その他遺構(SX)、石器遺物集中部(LC)の分類記号の後に、番号を付している。この番号はまず遺跡における地区番号を冠し、その後に遺構の分類別に調査時に検出された順に1からの通し番号を付けた。
4. 本書における遺物番号は、土器・金属製品・木製品・弥生時代以降の石器(ただし石鏃を除く)・石製品について、1からの通し番号を付した。また、旧石器・縄文時代の石器遺物については、別途、調査地の固有番号をアルファベット2文字で示し、その後に調査時あるいは調査後に付した整理番号を続けて表記した。この方法は[大阪市文化財協会1995]に準拠するものである。
5. 本書で用いた座標値は世界測地系に基づく。水準値はT.P.値(東京湾平均海面値)を用い、本文・挿図中ではTP+○mと記した。
6. 本書で用いた地層の土色および土器の色調は[小山正忠・竹原秀雄1996]に拠った。
7. 各遺物の記述方法、分類、年代観などについては、以下の文献に従っている。石器の定義・記載法について：[平口哲夫1987] [竹岡俊樹1989] [絹川一徳2000] [旧石器文化談話会2007]、石鏃について：[菅栄太郎1995]、弥生土器について：[寺沢薰・森井貞雄1989]。なお、弥生土器の編年観について上記文献に従いながらも、本書では土器様式である庄内式を時期名として扱い庄内式期とし、弥生時代終末期に位置づけている。

本文目次

序文

例言

凡例

第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 瓜破北遺跡の立地	1
第2節 瓜破北遺跡における既往の調査	4
第3節 調査に至る経緯と経過	8
第Ⅱ章 調査の結果	11
第1節 調査地の層序	11
第2節 I区の調査成果(旧石器時代)	19
1)石器遺物集中部LC1301・1302	19
i)石器調査の概要	ii)I区における地区割りと小区画グリッドの設定について
iii)石器遺物集中部の認定について	iv)微細石器遺物の捕集
v)LC1301・1302石器遺物組成	vi)LC1301・1302における石器遺物の分布
2)ナイフ形石器・削器	26
i)ナイフ形石器の分布	ii)LC1301出土のナイフ形石器
iii)LC1302出土のナイフ形石器	iv)削器とその分布
3)石核・楔形石器・叩き石	31
i)石核と楔形石器の分布	ii)石核・楔形石器・打面再生剥片
iii)叩き石とその分布	
4)剥片	39
i)剥片の分布	ii)大型剥片
iii)石刃・石刃状剥片	iv)横長剥片・短形剥片
5)接合資料	46
i)石刃技法の接合資料(剥片+石核)	ii)石刃技法の接合資料(剥片+剥片)
iii)短形剥片の接合資料	iv)その他の接合資料
6) I区中央部の石器遺物分布の概要	60
第3節 I区の調査成果(縄文時代以降)	62
1)縄文時代の石器遺物	62
i)石器遺物の出土状況	ii)I区西北部出土の石鎌

iii) I 区中央部出土の石鎌		
2)弥生～古墳時代の遺構と遺物	66
i)第10A1層下面の遺構	ii) I 区南東側の遺構	
iii) I 区北西側の遺構と遺物	iv)第10層出土の石器遺物	
3)平安～江戸時代の遺構と遺物	73
i)第9層上面の遺構	ii)第8層出土の遺物	
iii)粘土探掘坑		
第4節 II 区の調査成果	76
1)縄文時代の遺構と遺物	76
i)NR2008・2009	ii)縄文時代の石器遺物	
2)弥生時代～中世の遺構と遺物	77
i)第10層下面の遺構	ii)第7層上面の遺構	
iii)弥生時代の石鎌		
3)近世の遺構と遺物	79
i)第6層上面の遺構	ii)第3層上面の遺構	
第5節 III 区の調査成果	84
1)遺構と遺物	84
i)第10層下面の遺構	ii)出土遺物	
第Ⅲ章 火山灰分析	87
1)目的	87
2)試料採取位置および層相記載	87
i)No. 3 土柱	ii)No. 8 土柱	
iii)No. 9 土柱		
3)試料処理と測定	89
i)試料処理	ii)鉱物組成分析	
iii)火山ガラス形態分類	iv)火山ガラス屈折率測定	
v)重鉱物組成分析		
4)分析結果	90
i)No. 3 土柱	ii)No. 8 土柱	
iii)No. 9 土柱		
5)考察	109
i)No. 3 土柱試料の対比	ii)No. 8 土柱試料の対比	
iii)No. 9 土柱試料の対比		
6)まとめ	111
i)No. 3 土柱	ii)No. 8 土柱	
iii)No. 9 土柱		
第Ⅳ章 まとめ	113

1) LC1301・1302出土石器群の特徴	113
i) 石器群の概要	ii) 石器群の出土層位
iii) ナイフ形石器の特徴	iv) 剥片剥離技術の特徴
v) LC1301・1302石器群の編年的位置づけ	
2) 縄文時代以降の調査成果	117
引用・参考文献	135
あとがき・索引	

英文目次

原色図版目次

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 後期旧石器時代の石器製作址 | 2 後期旧石器時代の石器遺物 |
| 上：I区 石器遺物集中部LC1301・1302 | 上：石器遺物集中部LC1301・1302出土の |
| (北東から) | ナイフ形石器 |
| 下：I区 石器遺物集中部LC1301・1302近景 | 下：石器遺物集中部LC1301・1302出土の |
| (北から) | 削器・石刃および石刃核 |

図版目次

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 I区 地層断面(一) | 7 I区 古代～近世の遺構(一) |
| 上：I区 南西壁断面(北西端、東から) | 上：I区 第9層上面の遺構検出状況 |
| 中：I区 南西壁断面(南東端、北から) | (北西から) |
| 下：I区 南西壁断面(中央北側、北東から) | 中：I区 SD1002検出状況(南から) |
| 2 I区 地層断面(二) | 下：I区 SD1002完掘状況(南から) |
| 上：I区 南西壁断面(中央南側、北東から) | 8 I区 古代～近世の遺構(二) |
| 中：I区 北東壁断面(南東端、南西から) | 上：I区 SK1001断面(南東から) |
| 下：I区 北東壁断面(北西から) | 中：I区 SK1003断面(南西から) |
| 3 I区 旧石器時代の遺構(一) | 下：I区 SK1003完掘状況(南西から) |
| 上：I区 LC1301・1302石器遺物出土状況 | 9 II区 地層断面 |
| (北東から) | 上：II区 南東壁断面(西側、北から) |
| 中：I区 LC1301石器遺物出土状況(北から) | 中：II区 南東壁断面(北東側、西から) |
| 下：I区 LC1301石器遺物出土状況 | 下：II区 北東壁断面(西から) |
| (南東から) | 10 II区 NR2009 |
| 4 I区 旧石器時代の遺構(二) | 上：II区 NR2009完掘状況(北東から) |
| 上：I区 LC1301石器遺物出土状況 | 中：II区 NR2009完掘状況(南西から) |
| (南西から) | 下：II区 NR2009完掘状況(北から) |
| 中：I区 LC1302石器遺物出土状況(西から) | 11 II区 中世の遺構 |
| 下：I区 南東側石器調査状況(南東から) | 上：II区 第7層上面の遺構全景 |
| 5 I区 弥生～古墳時代の遺構(一) | (検出状況：北東から) |
| 上：I区 第10A1層下面の遺構全景 | 中：II区 第7層上面の遺構全景 |
| (検出状況：北西から) | (完掘状況：北東から) |
| 中：I区 第10A1層下面の遺構北西側 | 下：II区 東北部第12層上面の検出状況 |
| (検出状況：北東から) | (西から) |
| 下：I区 第10A1層下面の遺構全景 | 12 II区 中世～近世の遺構 |
| (検出状況：南東から) | 上：II区 第6層上面の遺構全景 |
| 6 I区 弥生～古墳時代の遺構(二) | (検出状況：北東から) |
| 上：I区 第10A1層下面の遺構全景 | 中：II区 第6層上面の遺構全景 |
| (完掘状況：北西から) | (検出状況：南西から) |
| 中：I区 第10A1層下面の遺構全景 | 下：II区 SD2003完掘状況 |
| (完掘状況：南東から) | (北東から) |
| 下：I区 SD1004完掘状況(中央部、南東から) | 13 III区 地層断面 |

- 上：Ⅲ区 北西壁断面(南西側、南から)
 中：Ⅲ区 北西壁断面(北東側、南東から)
 下：Ⅲ区 北東壁断面(南西から)
- 14 Ⅲ区 繩文～弥生時代の遺構
 上：Ⅲ区 第10A1層下面の遺構完掘状況
 (南西側、南東から)
 中：Ⅲ区 SD3001断面(南から)
 下：Ⅲ区 第11層下面風倒木痕検出状況
 (南西側、南西から)
- 15 各区出土の遺物(一)
- 16 各区出土の遺物(二)
 17 各区出土の石鏃
 上：表面
 下：裏面
- 18 I区出土の旧石器(一)
 19 I区出土の旧石器(二)
 20 I区出土の旧石器(三)
 21 I区出土の旧石器(四)
 22 I区出土の旧石器(五)
 23 I区出土の旧石器(六)

挿 図 目 次

図1	瓜破北遺跡の位置図	1
図2	瓜破北遺跡と周辺の遺跡分布図	2
図3	瓜破北遺跡とその周辺の地形分類図	2
図4	瓜破北遺跡における既往の調査地	4
図5	瓜破北遺跡の方形周溝墓平面図	5
図6	瓜破北遺跡出土の中国鏡実測図	5
図7	調査区の位置	8
図8	UR07-2調査地の層序模式図	11
図9	I区北東壁断面図	12
図10	II区南東壁断面図(1)	13
図11	II区南東壁断面図(2)	14
図12	III区北西壁断面図	15
図13	旧石器時代の遺構(I区)と地区割り図	20
図14	石器遺物集中部LC1301・1302平面・断面図	22
図15	LC1301・1302における微細石器遺物の等密度図	25
図16	ナイフ形石器・削器の分布図	27
図17	LC1301・1302出土のナイフ形石器・削器実測図	28
図18	石核・楔形石器・叩き石の分布図	33
図19	LC1301・1302出土の石核・楔形石器実測図	34
図20	LC1301・1302出土の叩き石実測図	35
図21	大型剥片の分布図	37
図22	LC1301・1302出土の大型剥片実測図(1)	38
図23	LC1301・1302出土の大型剥片実測図(2)	39
図24	石刃・石刃状剥片の分布図	41
図25	LC1301・1302出土の石刃・石刃状剥片実測図	
	(1)	42
図26	LC1301・1302出土の石刃・石刃状剥片実測図	
	(2)	43
図27	横長剥片・短形剥片の分布図	44
図28	LC1301・1302出土の横長剥片実測図	45
図29	LC1301・1302出土の短形剥片実測図	46
図30	接合資料07JEB1・7・8の分布図	47
図31	接合資料07JEB1実測図	48
図32	接合資料07JEB7・8実測図	49
図33	接合資料07JEB16・17・19の分布図	51
図34	接合資料07JEB16実測図	52
図35	接合資料07JEB17・19実測図	53
図36	接合資料07JEB9の分布図	54
図37	接合資料07JEB9実測図(1)	55
図38	接合資料07JEB9実測図(2)	56
図39	その他の接合資料の分布図	57
図40	接合資料07JEB2・4・6・10・20・22実測図	58
図41	接合資料07JEB5・11・15・21実測図	59
図42	I区中央部出土の削器・彫器実測図	60
図43	I区出土の縄文時代石器遺物分布図	62
図44	I区西北部出土の石鏃実測図	63
図45	I区中央部出土の石鏃実測図	64
図46	弥生～古墳時代の遺構平面図(I区)	66
図47	第10A1層下面の遺構平面図(I区)	67
図48	第10A1層下面の遺構平面図(西北部)	68
図49	遺構断面図(1)	69
図50	遺構断面図(2)	70
図51	遺構断面図(3)	71

図52	SK1015出土の土器実測図	72
図53	SD1026・SX1005・1012出土の土器実測図	72
図54	第10層出土の石器・石製品実測図	72
図55	平安～江戸時代の遺構平面図(Ⅰ区)	73
図56	I 区 SD1002平面・断面図	74
図57	第8層出土土器実測図	74
図58	I 区 SK1001・1003平面・断面図	75
図59	縄文時代の河川平面図(Ⅱ区)	76
図60	NR2009の等高線図	77
図61	II区出土の石器遺物実測図	78
図62	弥生時代～中世の遺構平面図(Ⅱ区)	79
図63	近世の遺構平面図(Ⅱ区)	79
図64	SD2004・2005・2007・SX2006平面・断面図	80
図65	第7層上面の遺構平面・断面図	81
図66	SK2001・2002平面・断面図	82
図67	SD2003出土の遺物実測図	82
図68	SD2003出土の北宋銭	83
図69	縄文～弥生時代の遺構平面・断面図(Ⅲ区)	84
図70	III区出土の遺物実測図	85
図71	瓜破北遺跡(UR07-2次)の位置図	87
図72	石器の出土状況と土柱試料の位置図	88
図73	土柱試料のスケッチ	88
図74	礫・砂・泥の割合	91
図75	全鉱物組成結果	92
図76	土柱試料(UR07-2次No.3)の火山灰分析試料採取位置と層相の特徴	93
図77	土柱試料No.3における極細粒砂以上の粒径頻度分布グラフ(ヒストグラム)と累積粒径曲線図	94
図78	土柱試料(UR07-2次No.8)の火山灰分析試料採取位置と層相の特徴	98
図79	土柱試料No.8における極細粒砂以上の粒径頻度分布グラフ(ヒストグラム)と累積粒径曲線図	99
図80	土柱試料(UR07-2次No.9)の火山灰分析試料採取位置と層相の特徴	102
図81	土柱試料No.9における極細粒砂以上の粒径頻度分布グラフ(ヒストグラム)と累積粒径曲線図	103
図82	火山ガラスの形態分類結果図	104
図83	火山ガラス屈折率ヒストグラム	106
図84	重鉱物組成分析結果図	107
図85	大阪平野中央部の上部更新統～完新統における主要5火山灰層の標準的な岩石記載的性質	108
図86	旧石器の出土層準	113
図87	UR07-2次調査地出土主要石器遺物	114
図88	近畿地方における始良Tn火山灰 降灰以前の石器群	116
図89	近畿地方の旧石器時代遺跡分布図	134

表 目 次

表1	瓜破北遺跡における既往の調査	6
表2	UR07-2次調査地の層序	17
表3	UR07-2次調査地出土の石器遺物組成表	23
表4	LC1301・LC1302における微細石器遺物出土一覧表	24
表5	ナイフ形石器観察表	30
表6	LC1301・1302出土の石核観察表	32
表7	出土剥片の分類表	40
表8	I区出土の搬入礫一覧表	63
表9	全鉱物組成結果	91
表10	火山ガラスの形態分類結果	104
表11	火山ガラス屈折率測定結果	105
表12	重鉱物組成結果	105
表13	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(1)	118
表14	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(2)	119
表15	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(3)	120
表16	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(4)	121
表17	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(5)	122
表18	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(6)	123
表19	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(7)	124
表20	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(8)	125
表21	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(9)	126
表22	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(10)	127
表23	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(11)	128
表24	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(12)	129
表25	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(13)	130
表26	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(14)	131
表27	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(15)	132
表28	UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(16)	133

写 真 目 次

写真1 発掘調査のようす	9	写真3 現地説明会のようす(1)	10
写真2 石器調査風景	9	写真4 現地説明会のようす(2)	10

第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過

第1節 瓜破北遺跡の立地

大阪市平野区瓜破と瓜破西にかけて所在する瓜破北遺跡は、平野区西北部に位置する後期旧石器時代から江戸時代に至る複合遺跡である。平野区を東西に横切る長居公園通りの南側に位置し、遺跡の中央は阪神高速が縦断している。遺跡範囲は東西・南北とも400mほどの範囲である(図1)。

瓜破北遺跡の南～南東側には東西1.7km、南北1.6kmに及ぶ瓜破遺跡が隣接している(図2)。後期旧石器時代から江戸時代にかけての大規模な複合遺跡であり、特に弥生時代の標式遺跡として全国的にも知られている。

瓜破北・瓜破遺跡は、地形的には南から北に延びる河内台地の北端に立地しており、北側には沖積平野である河内平野が拡がっている(図3)。瓜破北遺跡と瓜破遺跡西半部はこの河内台地の西側縁部に位置している。河内台地は、宝永元(1704)年に付替えられた大和川によって南北に分断されており、特に瓜破北・瓜破遺跡が立地する大和川以北の河内台地の張出した部分は瓜破台地と呼称されている[建設省国土地理院1965]。この台地はおもに中位段丘構成層がベースであり、最終間氷期に形成された上町累層が厚く堆積し、上位に低位段丘構成層が薄く覆っている。台地東側の東除川流域は、中位段丘面を削りながら形成された低位段丘構成層が発達しており、台地の東縁と沖積平野部の間に段丘崖を形成するような急傾斜面がなく、緩やかな地形となっている。一方、西側の西除川流域では低位段丘構成層は未発達で、台地の西縁は5 m前後の比高をもつ急な傾斜で沖積面下に埋没している[趙哲済1995a]。こうした地形的な特徴は一帯の遺跡立地にも反映されている。瓜破台地の東側から河内平野にかけては長原遺跡などの大規模な複合遺跡が面的に拡がっているのに対し、台地西側は遺跡の分布が希薄である。

台地を構成する中位段丘面は、南から北に向って緩やかに低くなり、瓜破北遺跡と瓜破遺跡の北端付近で沖積平野である河内平野の地下に埋没する。瓜破台地上にはいくつかの凹凸面があり、段丘面を侵食して形成された開析谷が認められる。谷は東から「馬池谷」、「東谷」、「西谷」と呼称されている[京嶋覚1992]。これまで馬池谷については、既往の発掘調査事例も多く、その位置や規模、埋没過程などが明らかとなっているが、最近では「東谷」、

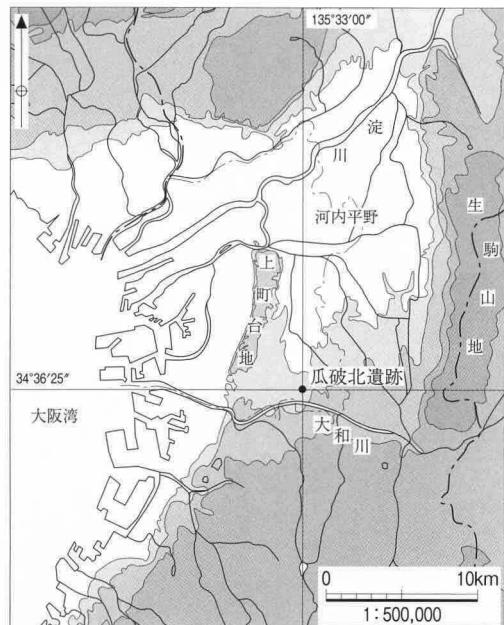
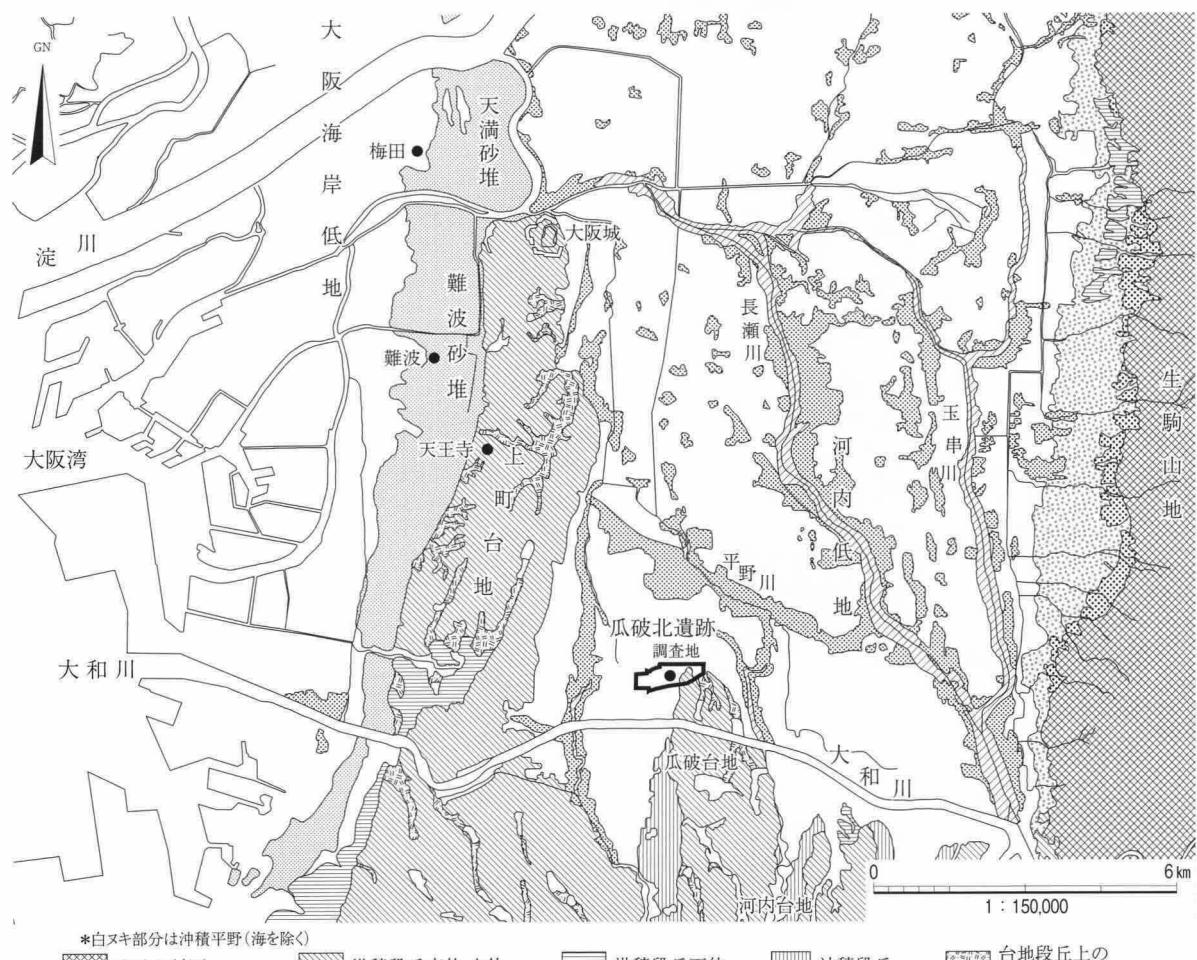


図1 瓜破北遺跡の位置図



図2 瓜破北遺跡と周辺の遺跡分布図



*白ヌキ部分は沖積平野(海を除く)

山地の斜面	洪積段丘高位・中位	洪積段丘下位	沖積段丘	台地段丘上の凹地・浅い谷
段丘化した扇状地	扇状地・扇状地性低地	自然堤防	砂堆・砂州	旧天井川および天井川沿いの微高地

図3 瓜破北遺跡とその周辺の地形分類図(土地条件図[建設省国土地理院1983]に一部加筆)

「西谷」の発掘調査も実施され、その埋没過程が明らかになりつつある。

今回報告するように、最近の瓜破北遺跡の発掘調査では、各調査地で後期旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物が多数見つかっている。かつての調査では、瓜破北遺跡は弥生時代後期～古墳時代前期を中心とした遺跡と考えられていたが、最新の成果からみて、瓜破台地先端部には長期にわたる人間活動の痕跡が残されていることが明らかとなっている。

第2節 瓜破北遺跡における既往の調査

瓜破台地の先端部に位置する瓜破北・瓜破遺跡の一帯に遺跡が存在することは相当以前から知られていた(図2)。例えば、瓜破遺跡は考古学史上、比較的早くから著名な遺跡であったが、その存在が知られるようになったのは戦前に遡る。1939年に市営瓜破靈園建設に伴って弥生土器が出土したことがその端緒である[東住吉区役所1961、関西大学考古学等資料室1985]。1940年には大和川河床で採集された弥生土器が学会に紹介された[山本博1940・1941a・b]。これを受けた今里幾次は、1940・41年に大和川河川敷で発掘調査を実施し、その成果に基づいて弥生時代前期土器の細分案を提唱した。1949年には、瓜破遺跡で採集された中国「新」代の貨泉が学会に報告されている[日本考古学協会1949]。さらに、1953年には、近畿地方における弥生文化の成立と前期土器の編年研究を目的として、日本考古学協会によって再び大和川河川敷で発掘調査が実施された[杉原莊介・神沢勇一1961]。この

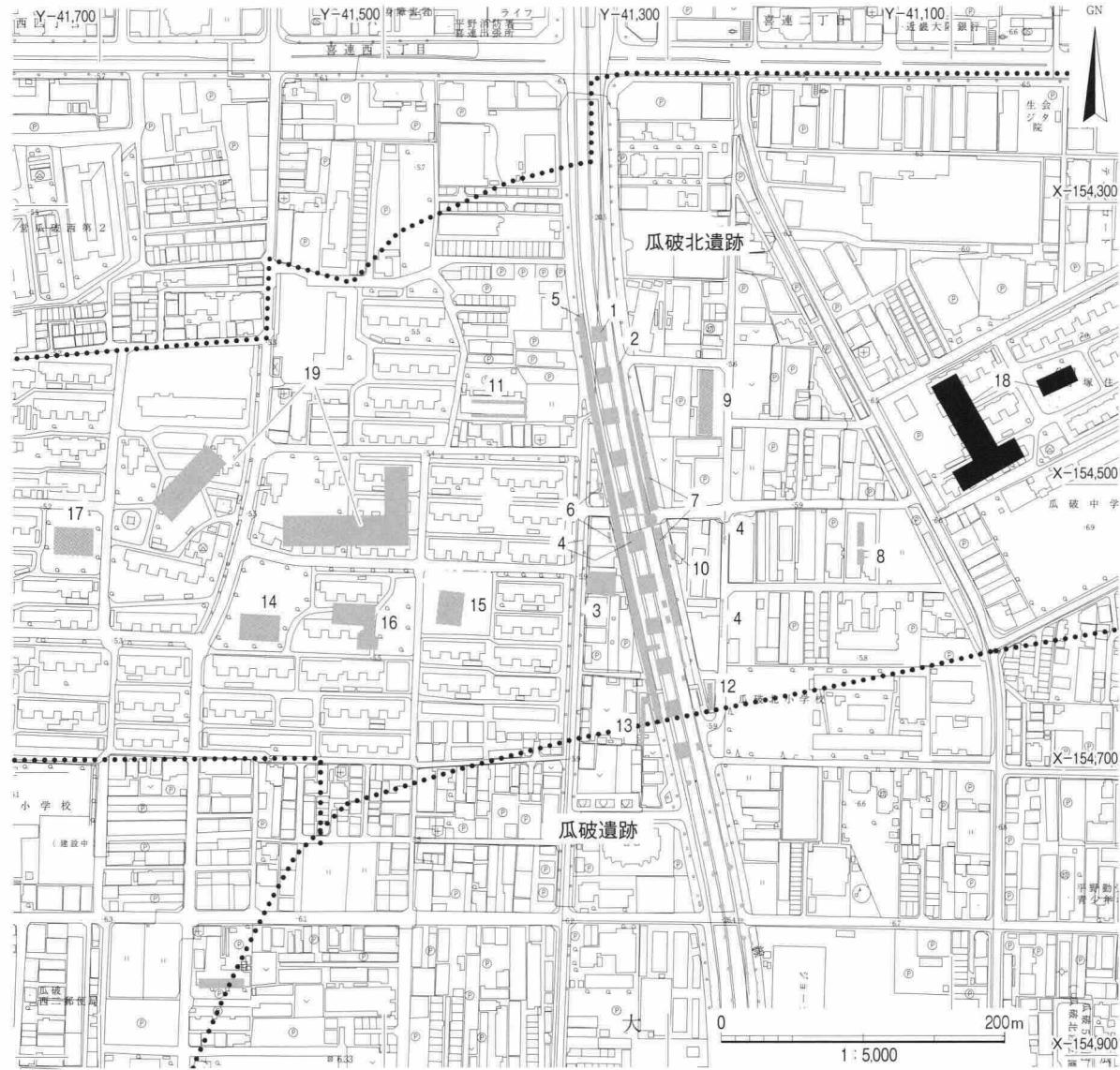


図4 瓜破北遺跡における既往の調査地

ように、瓜破遺跡では弥生時代前期を中心とした土器編年研究が進められ、学史的にも近畿地方における弥生時代の代表的な遺跡の一つとして知られるようになった。

一方、瓜破北遺跡の存在が確認されたのは、この地域の開発に伴い本格的な発掘調査が実施されるようになった1976年である。まず、瓜破遺跡西地区において阪神高速道路松原線建設に伴う試掘調査が実施された[大阪文化財センター1976]。その後、1976年から1978年にかけて、難波宮址顕彰会と大阪市教育委員会によって阪高橋脚・共同溝・下水・ガス工事などに伴う10件の調査(UR 1～10次：図4-1～5)が集中的に行われ[大阪市文化財協会1980・1981・1983]、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての堅穴建物や掘立柱建物、方形周溝墓が見つかり、また中国「新」代の方格規矩鏡や「後漢」代の内行花文鏡片が出土するなど、大きな成果を挙げることができた(図5・6)。これら一連の調査によって、瓜破遺跡の北方にも遺跡が存在することが明らかとなり、調査地一帯は瓜破北遺跡と命名されることとなった。

以下、瓜破北遺跡における既往の調査成果について概観しておく(図4、表1)。

瓜破北遺跡においては最近の調査によって後期旧石器時代の遺構と遺物の存在が明らかとなっている。今回報告を行うUR07-2次調査地のほか、これまでにUR04-3・06-1・07-3次調査地(図4-16・17・19)においてナイフ形石器を伴う石器群が出土している。主体はサヌカイト製で瀬戸内技法に代表される横長剥片剥離技術を技術基盤とする石器群であるが、本調査地のように石刃技法によるナイフ形石器も認められ、後期旧石器時代の

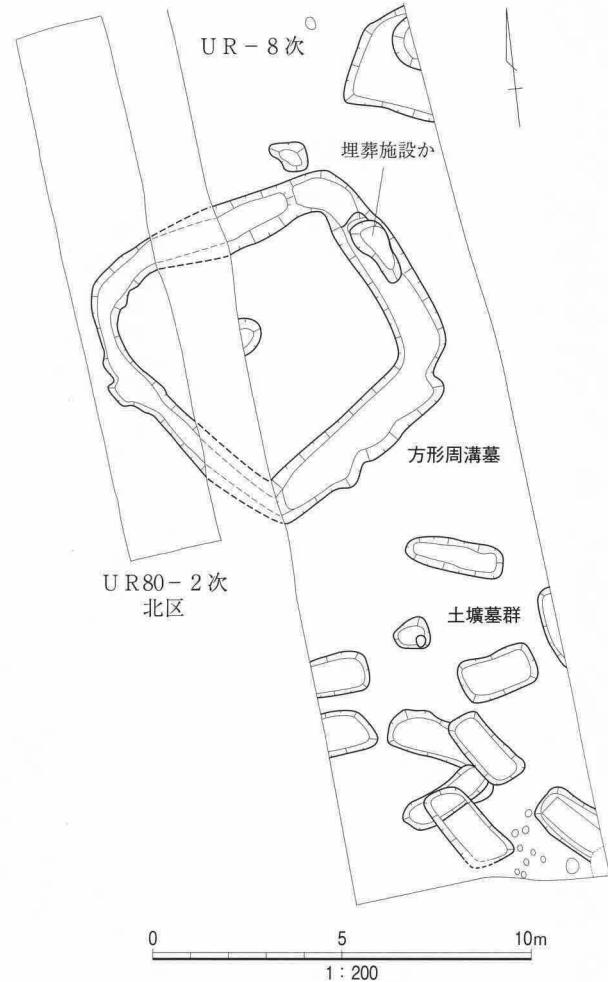


図5 瓜破北遺跡の方形周溝墓平面図
[大阪市文化財協会2006]

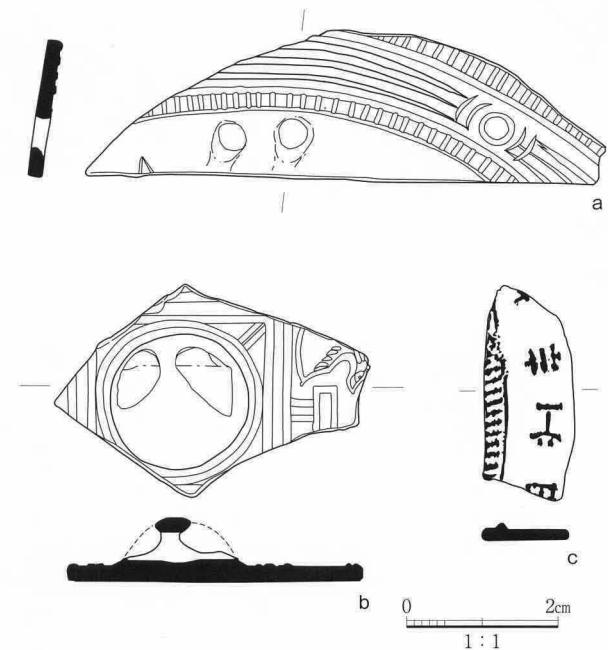


図6 瓜破北遺跡出土の中国鏡実測図
[大阪市文化財協会1980・2000・2006]

表1 瓜破北遺跡における既往の調査

番号	名称および調査名	調査年度	おもな遺構・遺物	参考文献
1	UR-4	1976	弥生後期～古墳前期集落、大溝	大阪市文化財協会1980
2	UR-5	1976	弥生後期～古墳前期集落、大溝	大阪市文化財協会1981
3	辻本商店跡地	1977	弥生後期大溝	(未報告)
4	UR-7	1978	弥生後期大溝、小穴群	(未報告)
5	UR-8	1978	古墳前期方形周溝墓、土壙墓、大溝、中国鏡	大阪市文化財協会1980
6	UR80-2	1980	古墳時代前期方形周溝墓	大阪市文化財協会2000
7	UR80-3	1980	弥生時代後期・古墳時代前期集落、大溝、中国鏡	大阪市文化財協会2000
8	UR81-3	1981	太形蛤刃石斧、溝、小穴群	大阪市教育委員会・大阪市文化財協会1983
9	UR81-5	1981	弥生時代の沼上堆積	大阪市教育委員会・大阪市文化財協会1983
10	UR88-43	1988	弥生時代後期～古墳前期集落、吉備型甕	大阪市文化財協会2000
11	UR89-1	1989	弥生時代後期～庄内期集落	大阪市文化財協会2000
12	UR90-13	1990	自然流路、深掘りによって段丘構成層を確認	大阪市文化財協会2000
13	UR91-3	1991	弥生中期石器製作址	大阪市文化財協会2000
14	UR04-1	2004	旧石器～縄文時代石器遺物、縄文石器製作址	大阪市文化財協会2006
15	UR04-2	2004	弥生後期後半～古墳前期集落、庄内方形周溝墓	大阪市文化財協会2006
16	UR04-3	2004	縄文流路・土器・石器、弥生後期後半集落	大阪市文化財協会2006
17	UR06-1	2006	縄文時代土器・石器遺物	大阪市文化財協会2009
18	UR07-2	2007	後期旧石器時代前半石器製作址	本書
19	UR07-3	2007	旧石器製作址、縄文前期流路、弥生後期末集落	大阪市文化財協会2009

中でも前半に遡る時期から旧石器人が活動していたことが窺える。

縄文時代では、かつてはUR-5次調査地(図4-2)で縄文時代晩期の土器片が出土しているのみであったが、UR04-2・06-1次調査地(図4-15・17)では流路中遺物や包含層ではあるが縄文時代前期初頭の条痕文土器や中期の船元式土器が出土し、UR04-1・04-3・07-3次調査地(図4-14・16・19)では石器製作址が見つかっている。特にUR04-1・07-3次調査地からは黒曜石の石器遺物が出土している。

弥生時代になると瓜破北遺跡に存在した谷が埋積され、これとともに人間活動も活発となりその痕跡も明瞭となる。UR-8次調査地(図4-5)で弥生時代前期の土壙が検出されており、UR-5次調査地(図4-2)からはこの時期の土器が出土している。第Ⅱ様式の時期は、瓜破北遺跡では遺構・遺物が認められていないが、南側に隣接する瓜破遺跡西地区の現大和川以南において集落の存在が確認されている[大阪市文化財協会2007]。続く第Ⅲ～Ⅳ様式の段階では、瓜破北遺跡の中央部にある微高地を取囲むように大溝が開削されるが、本格的な集落の形成には至っていないようである。遺跡南端にあるUR91-3次調査地(図4-13)でこの時期に属する石器製作址とみられる石器遺物集中部が検出されている程度である。

一方、弥生時代後期から古墳時代前期は、瓜破北遺跡において遺構・遺物数が大幅に増加する時期である。この時期は本遺跡を特徴づける時期として注目してきた。これまでの調査成果を踏まえると、弥生時代後期中葉に瓜破北遺跡の中央南寄りの場所でUR88-43次調査地(図4-10)付近を中心に居住域が形成されるようになる。遺跡の西北部にあるUR89-1次調査地(図4-11)でも、後続する時期である弥生時代後期後葉～庄内期の溝・井戸などが検出されており、集落が継続していたことが予想される。この後、しばらく空白期が生じるようだが、古墳時代前期後半段階になると、北側に再び集落が形成される。居住域の西側に当るUR-8・80-2次調査地(図4-5・6)では、1基の方形周溝墓と多数の土壙墓が検出されている(図5)。また、この周溝墓に共伴するとみられる中国「新」代の方格規矩鏡および「後漢」代の内行花文鏡が出土している[大阪市文化財協会1980]。また、弥生

時代後期中葉の居住域からも「前漢」代の異体字銘鏡が出土している[京嶋覚1981、大阪市文化財協会2000]（図6）。南側に隣接する瓜破遺跡の西地区からは、原位置ではないが貨泉が出土している[日本考古学協会1949、大阪市文化財協会1983]。また、この時期には、UR88-43次調査地(図4-10)において外来系土器である吉備型甕が出土している。

古墳時代中期になると瓜破北遺跡では再び遺構・遺物数が減少する。TK23~47型式に属する須恵器が後世の作土層などからわずかに出土する程度である。古墳時代後期も同様である。

その後、中世に至るまで瓜破北遺跡では明確な遺構は認められていない。当遺跡では耕作地としての土地利用が主体となっていったものとみられる。この耕作地としての利用は江戸時代、さらには戦後に至るまで継続した。

第3節 調査に至る経緯と経過

調査地は大阪市平野区瓜破2丁目に所在する。大阪市平野区の西北部に位置し、長居公園通りの南側、阪神高速松原線の東側に当る。調査地となった場所は、大阪府営瓜破国塚住宅の5～7棟(I・II区)と住宅に敷設されていた児童公園(III区)であった(図7)。一帯はもともと耕作地であったが、戦後の高度経済成長期における都市部への労働者の流入に伴い、市内人口が急増したため、住宅不足の緩和を目的に都市部近郊に残されていた田園地帯などで昭和30年代を中心として公営住宅の建設が進められた。本調査地でも府営瓜破国塚住宅が建設され、周辺には同時期に建設された大阪府・市の公営住宅が配置されている。これらの住宅では近年に至り建物の老朽化が相当進んでいる。そのため、住戸の集約化と高層化によって居住環境の改善を図るために、1989(平成元)年頃以降、順次建替え工事が進められている。

今回、大阪府によって大阪府営住宅の建替え事業が施工されることになった。この建設予定地が周知の遺跡範囲内に当ることから、2004年、大阪府の委託により大阪市文化財協会による試掘調査が行われた。試掘調査では、地表下1.7m以下に良好に各時代の地層が残存し、また古墳時代初頭と思われる遺構が検出された。これを受け、大阪府と大阪市教育委員会は発掘調査の実施についての協議を行

い、2007(平成19)年度に大阪府より大阪市文化財協会が発掘調査を受託した。

建設予定地が2箇所に及ぶことから、西側のT字状の主要調査区は北半をI区、南半をII区とし、北東に離れた公園側をIII区(図7)とした。このうちI・II区を2007年5月より先行して調査し、その後、公園の利用停止措置と周囲の準備工事の完了を待って8月からIII区の調査を行うこととした。以下、本報告書においてはI～III区の名称で統一しておく。調査面積はそれぞれ、1,220m²、775m²、378m²で、合計2,373m²である。掘削の深度は地山層が認められる地表下3.5mまでとし、以深については調査状況に応じ

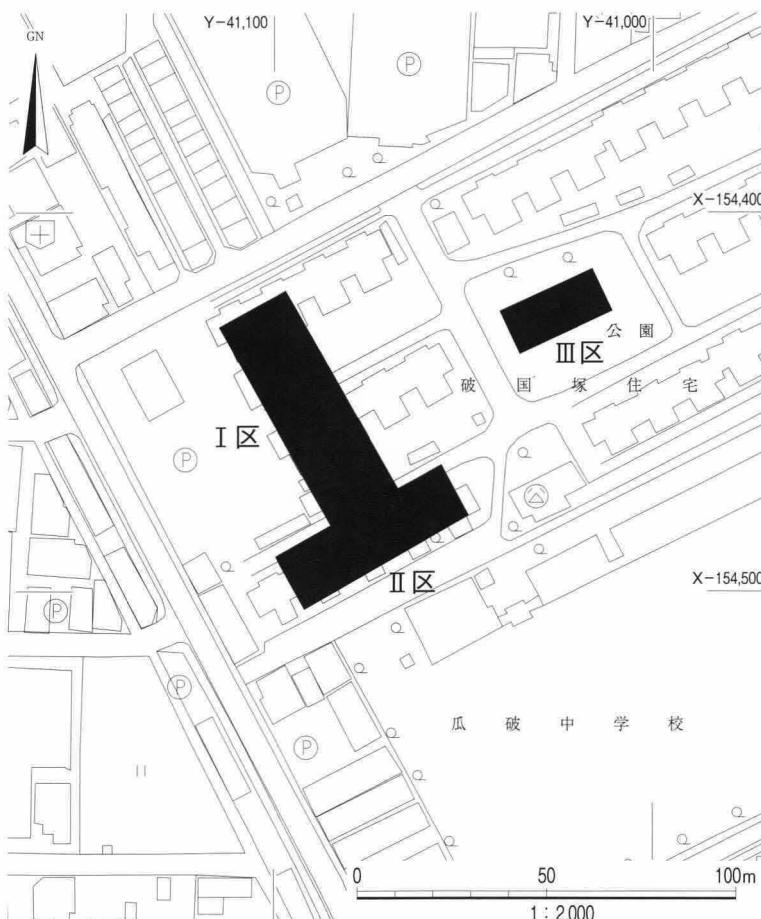


図7 調査区の位置



写真1 発掘調査のようす



写真2 石器調査風景

て、十分な安全対策を講じた上で部分的な掘削を行った。各調査区の調査経過は以下のとおりである。

発掘調査に先立ち、近隣住民に発掘調査の場所と予定期間について連絡・周知を行ったのち、2007年5月24日から準備工に取りかかった。

5月29日にI区の重機掘削を開始した。特に旧石器時代から古墳時代に至る複数時期の遺構面の存在が予想されたため、掘削深度は地表下約2m前後で、I区に厚く堆積していた平安時代の洪水砂層までとした。第9層以下は人力で掘削しながら遺構面の精査と検出、実測・写真撮影などの記録作業を行った(写真1)。7月26日に基準点測量と弥生～古墳時代の遺構面の空中写真測量を実施し、世界測地系に基づく座標値を得た。7月31日からはI区の西北部と中央部で石器調査を開始した(写真2)。その結果、8月6日には西北部で石器遺物集中部の存在が確認できたため、西北部で石器調査の範囲を広げることとなった。特に西北部の石器遺物集中部については、より慎重な作業が必要となつたため、継続して調査を行うこととした。そこで、I区南側の発掘作業を先行して終了させて、西北部の石器調査区画を除いた部分を8月31日から埋戻した。I区西北部の石器調査は継続して10月29日まで実施した。その後、埋戻しを行い、10月31日にI区におけるすべての作業を完了した。

II区は9月4日から重機掘削を開始した。I区とは異なり、II区では洪水砂層の堆積が薄かつたため、地表下約2mの近世の作土層まで掘削を行い、以下を人力で掘削し、適宜、遺構面の精査・検出を行い、実測・記録作業などを実施した。9月21日からは縄文時代の河川部分の掘下げ作業に着手し、10月12日に河川部分について2回目の空中写真測量を実施した。10月25日にII区におけるすべての作業を終了し、10月25日から埋戻しを行い、10月31日にII区におけるすべての作業を完了した。

III区は8月6日からは仮囲工事を開始した。調査区内の障害物の撤去作業、基準杭測量などを行った後、8月21日から重機掘削を開始した。場内が狭いため調査区を2期に分けて発掘することとし、9月18日に南西側の調査を終了させた。その後、埋戻して反転掘削を行い北東側の調査を行い、10月18日に必要な発掘作業を終了した。埋戻し作業の後、10月24日にIII区におけるすべての作業を完了した。

なお、10月20日には現地において旧石器時代の石器遺物集中部の調査成果を中心とした現地説明会を実施し、多数の市民の来場を得た(写真3・4)。

現地での発掘調査を終了した後、12月3日から12月28日にかけて、現地で回収した旧石器時代の石



写真3 現地説明会のようす(1)

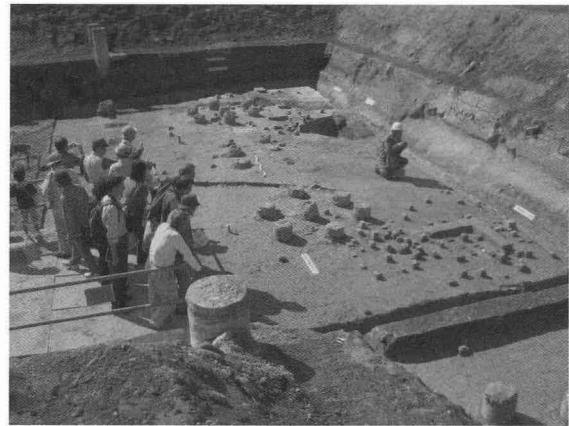


写真4 現地説明会のようす(2)

器遺物集中部の発掘排土の水洗篩別作業を長原調査事務所において実施し、回収した土壤の水洗篩別作業をすべて完了させた。さらに、現地では火山灰分析を実施するために土壤試料のサンプリングを行った。火山灰分析は(株)蒜山地質年代学研究所に委託し、長原調査事務所で試料の選定・採取作業を実施し、採取土壤の火山灰分析作業を行った。

第Ⅱ章 調査の結果

第1節 調査地の層序

調査地一帯は府営住宅建設時の造成により平坦地となっていた。現地表の標高は約7mであった。調査地のI～III区において観察できた地層は以下のとおりである(図8～12、図版1・2・9・13)。今回の調査では、現地表下約3mまでの地層を第0～14層に区分した。時期によっては各調査地で地形が著しく異なり、地層の収斂と肥厚が著しかったが、なるべく統一した地層番号を付してある。また、広域における堆積環境の変化を把握するため、層序の概要をまとめた表2には、本調査地が所在する瓜破北遺跡と同じく大阪市平野区に所在する長原遺跡において確立された標準層序[趙哲済2003]との対応も示した。なお、今回の調査では出土遺物が少なかったため、一部の地層の時期は周辺地の調査結果との対比により判定している。以下、各層の特徴を上位から順に記述する。

第0層：現在の府営住宅建設時の盛土で、層厚は約150cmであった。

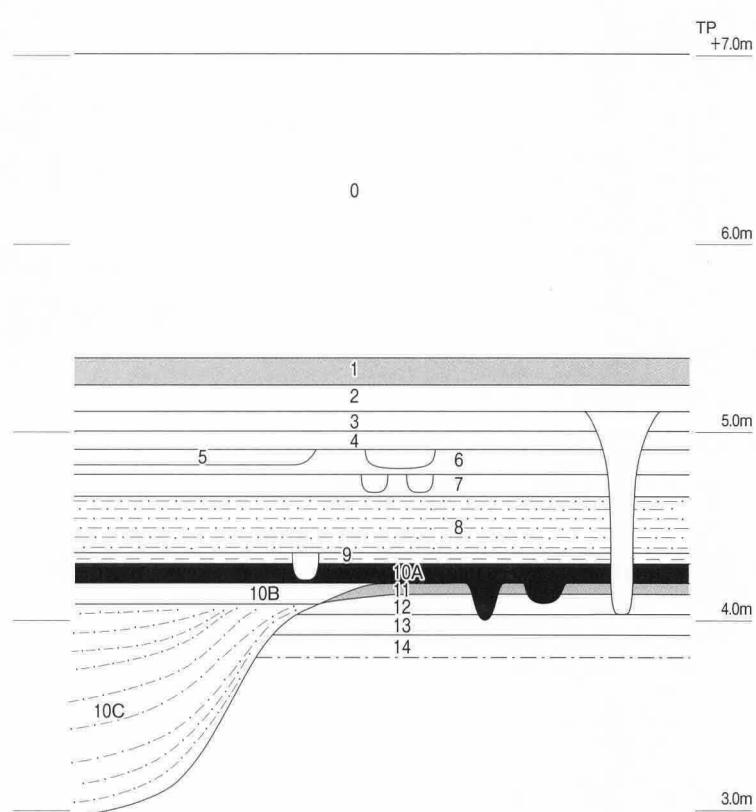


図8 UR07-2 調査地の層序模式図

第1層：灰色(5Y5/1)細礫混り

の細粒砂質シルトの作土層で、層厚は10～20cmであった。造成前の旧表土で、近・現代の作土層である。

第2層：灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂質シルトの作土層で、極細礫が混る。調査区全域で認められた。層厚は15cm程度であった。近世の地層とみられる。I・II区では本層下面から掘込まれた粘土採掘場が認められた。

第3層：暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混りの粘土質シルトの作土層で、層厚は10～20cm程度であった。本層も近世の地層である。III区では上下2層に細分が可能で、下位になると砂・礫の包含量がや

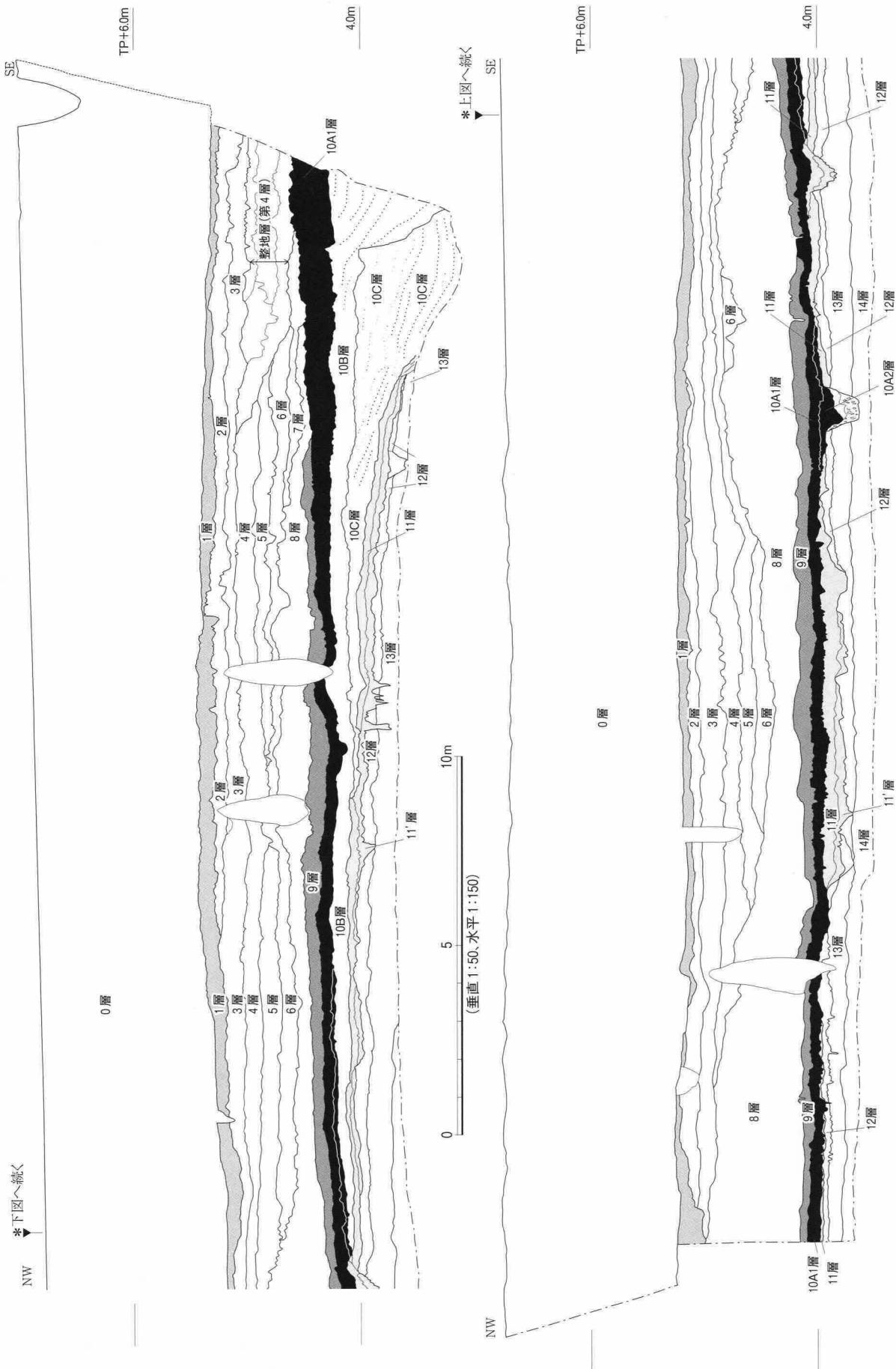
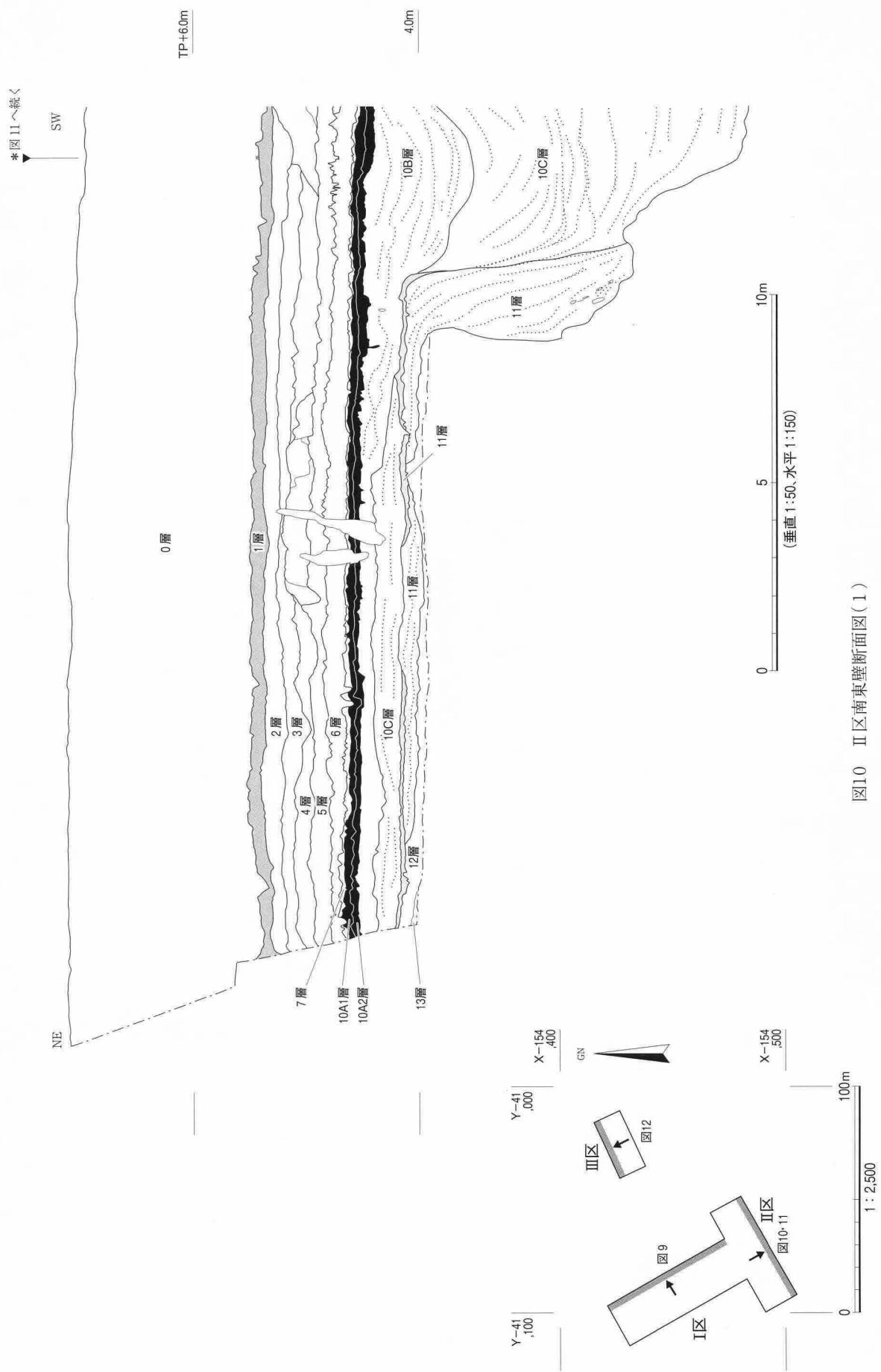


図10 II区南東壁断面図(1)



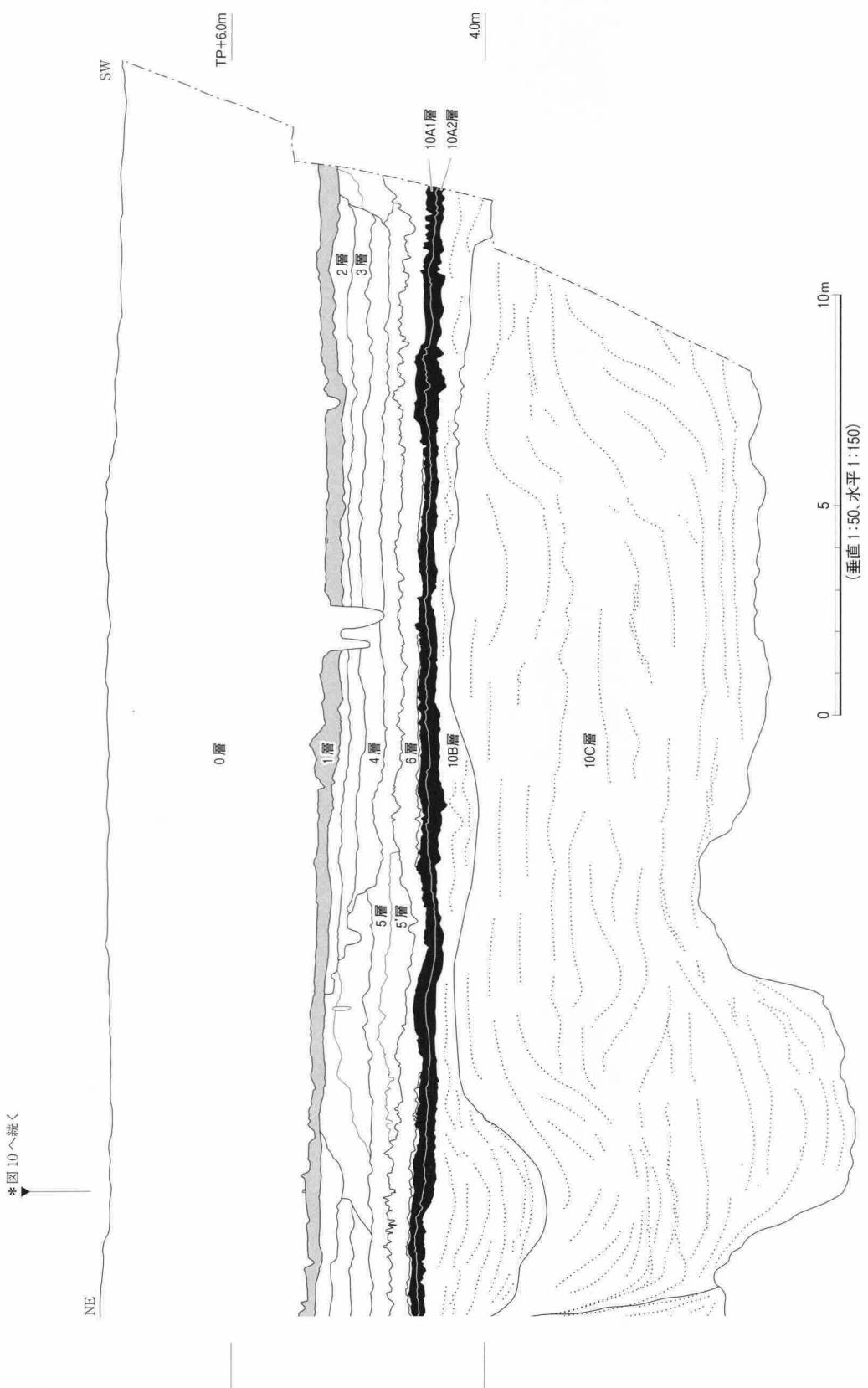


図11 II区南東壁断面図(2)

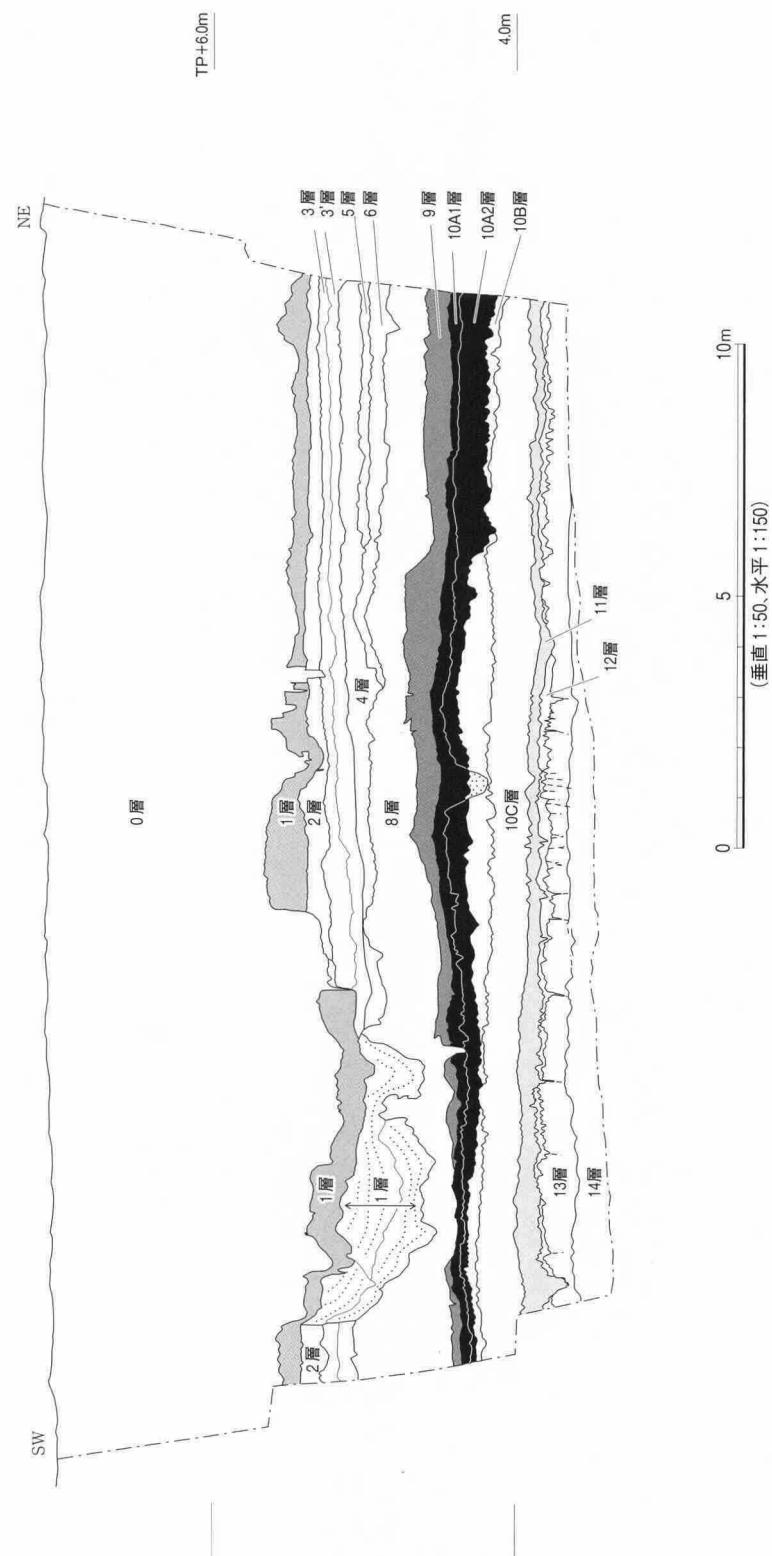


図12 III区北西壁断面図

や増加する状況が認められた(第3'層:図12)。

第4層:灰色(5Y5/1)粘土質シルトの作土層で、層厚は10cm程度であった。少量であるが土師器・須恵器・瓦器・瓦などの細片が出土した。近世の地層とみられる。

Ⅱ区では本層の下部から幅5~8m、高さ20~30cmの盛土(オリーブ灰色細粒砂混りシルト)を断面で確認することができた。平面では十分に確認できなかったが、盛土は南北方向に帯状に延びていた可能性があることから、断面で確認された盛土は幅広の畦道あるいは道路であったと思われる。また、I区の北東壁の南端部では、第4~7層が大きく削込まれて地形が南側へ下降した状況が見られたが、その傾斜面を埋める灰黄色細粒砂・細礫混り粘土質シルトを主体とする整地土が認められた(図9)。

以上のように、第4層の段階ではI区南とⅡ区が中心であるが、道路の設置や窪地の整地など、比較的大がかりな土木工事を行った痕跡を断面で確認することができる。

第5層 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘土質シルトの作土層で、Ⅱ区では安定した堆積が認められるが、I・Ⅲ区では堆積は断続的であった。層厚は10cm程度である。近世の作土とみられる。Ⅱ区の南側では下部が部分的に厚く堆積したところがあり、粘土質が強まる状況が認められた(第5'層:図11)

第6層:暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルトの作土層で、層厚は10~15cm程度であった。第5層と同様に、Ⅱ区では安定した堆積が認められるが、そのほかの地区では断続的である。Ⅱ区では本層上面で東西方向の溝SD2003を検出した。SD2003からは16世紀後半~17世紀初頭頃の遺物が出土している。

第7層:暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混り粘土質シルト層で、層厚は5~10cmであった。第I区の南端と第Ⅱ区で認められたが、堆積は薄く、部分的に上位層の削平により失われていた。瓦器・瓦などがわずかに出土した。Ⅱ区では本層の上面で溝SD2005~2007、溝状に浅く掘込まれたSX2006などの遺構を検出した。

第8層:灰色(5Y4/1)砂・礫層(粗粒砂が主体)で氾濫堆積物である。層厚は20~60cmであった。上位・下位層との層界は明瞭である。I区の北半とⅢ区では厚く堆積するが、I区の南方に向かってしだいに層厚が薄くなり、Ⅱ区では認められなかった。出土数は多くはなかったが、古墳時代から中世前半にかけての遺物が認められた。周辺のUR04-3次調査地では、「第4B層」としてにぶい黄褐~灰色のシルト質粘土~細粒砂からなる層厚5~40cmほどの氾濫性堆積物が確認されている。この地層からは瓦器・中国産磁器など鎌倉時代の遺物が出土しており、長原遺跡標準層序の長原4C層に比定されている。こうした成果を援用するなら、本層の第8層は平安時代から鎌倉時代にかけての時期であるとみられる。

第9層:オリーブ黒色(5Y3/2)シルトまたはシルト質粘土のラミナが顕著な水成層で、層厚は5~10cmであった。I区では本層上面で、SD1002と踏込み跡を検出した。土師器・須恵器の細片がわずかに認められたが、大半が古墳時代のものとみられる。

第10A層:黒色(5Y2/1)シルト質粘土層で上部に微細な炭化植物片が含まれる。淘汰も不良で、部分的にラミナも認められるが不連続である。層厚は10~20cmであった。弥生~古墳時代前期の遺物が出土するが、主体は弥生時代後期後葉~古墳時代初頭の土器である。I区では本層下面で本層を埋土

表2 UR07-2次調査地の層序

UR07-2 調査地	層相	層厚 (cm)	特徴	遺構	遺物	時代	長原遺跡 標準層序
第0層	造成土	ab. 150	現代盛土				長原0層
第1層	灰色(5Y5/1)細礫混り細粒砂質シルト	10~20	作土	←土採り穴		近現代	長原1層
第2層	灰黄色(2.5Y6/2)極細礫混り細粒砂質シルト	15	作土	←盛土(道?)	国産陶器		
第3層	暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混り粘土質シルト	10~20	作土	←溝		江戸	長原2層
第4層	灰色(5Y5/1)粘土質シルト	10	作土	←溝			
第5層	オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘土質シルト	10	作土	←溝・踏込み跡	土師器・瓦・羽釜・青磁・銅鏡	室町	長原3層
第6層	暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土質シルト	10~15	作土	←溝・小穴・土壤	瓦器・瓦	鎌倉~室町	長原4A層
第7層	暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混り粘土質シルト	5~10	作土	←石器遺物 集中部LC1301 LC1302	土師器・須恵器・羽釜	平安~鎌倉	長原4C層
第8層	灰色(5Y4/1)砂・礫(粗粒砂主体)	20~60	水成		土師器	奈良	長原6A層
第9層	オリーブ黒色(5Y3/2)シルト/シルト質粘土	5~10	水成		弥生土器(庄内式)・土師器(布留式)・石庖丁・管玉		長原7B層
第10A層	黒色(5Y2/1)シルト質粘土	10~20	古土壤			弥生	長原8層
第10B層	灰色(10Y4/1)粘土質シルト/シルト	10~20	水成				長原9・10層
第10C層	灰オリーブ(5Y4/2)砂・礫(粗粒砂主体)	250	水成		石鏃・搬入礫		長原7A層
第11層	黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト/細粒砂混り粘土質シルト	5~15	古土壤		ナイフ形石器		
第12層	オリーブ灰色(2.5GY5/1)細粒砂混り粘土質シルト	10			ナイフ形石器	旧石器	長原13層
第13A層	灰色(10Y5/1)極細粒砂混りシルト質粘土	5~10					
第13B層	灰色(10Y5/1)シルト質粘土	5~10					長原14層
第14層	黄褐色(2.5Y5/4)シルト質粘土	≥20	水成				

とする溝、土壙などの遺構を多数検出した。これらの遺構の時期は、その多くが弥生時代後期後葉に属するものであり、一部、庄内式期・布留式期のものを含む。なお、本層準は瓜破北遺跡一帯に分布し、「第6z層」と呼称される層準に相当する[趙哲済1983]。

第10A層は下位層とはやや漸移的で不明瞭な層界をもつ。I～III区のすべての地区において、炭化物を包含し、黒色で腐植が進んだ上部の第10A1層と下位層とやや漸移的な層界をもち、色調が黒褐色のシルト質粘土層である第10A2層に細分することができた。それぞれ層厚は5~10cm程度であった。

第10B層：灰色(10Y4/1)粘土質シルト～シルト層で、層厚は10~20cmであった。I区の南半、II・III区で認められた。水成層であり、遺物が認められなかったため、地層の時期は判然としないが、周辺地の地層との比較から縄文時代晚期から弥生時代中期にかけて形成された地層とみられる。

第10C層：灰オリーブ(5Y4/2)砂・礫層(粗粒砂が主体)で、II区で認められた河川NR2009を埋めたシルト質粘土～砂・礫、およびオーバー・フローした氾濫堆積物で構成される。南西から北東方向に流れていた河川である。多量の水流によって下位層が大きく下刻され、河成堆積物の厚さは最大で250cmあった。底部では流木などを含む植物遺体のラミナを数条認めることができた。上部に認められた細かな堆積物はII区全体にオーバー・フローしており、I区にむけて徐々に薄くなり、中央以北では分布していない。III区では第10C層は細かな堆積物を中心とした水成層として堆積していた。

第11層 黒褐色(10YR3/1)粘土質シルトまたは細粒砂混り粘土質シルト層で、層厚は5~15cmであった。下位層との層界は漸移的である。I・III区のみで認められたが、II区では第10C層の河川によつて削平されたものとみられる。本層からは、サヌカイト製の石鏃・剥片、搬入礫など、縄文時代の石器遺物が出土した。また、下面において倒木痕跡を確認した。I区北西側の標高が高い場所では、本

層上面で乾裂が観察できた。

第11層がやや厚く堆積するI区中央以南では、粘土質シルトが優勢な上部の黒褐色粘土質シルトと下位層が漸移的な層界をもち、細粒砂がやや多い下部の灰色細粒砂混り粘土質シルトに細分できる(第11'層:図9)。

第12層 オリーブ灰色(2.5GY5/1)細粒砂混り粘土質シルト層で層厚は10cm程度であった。調査区の全域で堆積が認められた。旧石器包含層で第12層から第13層にかけて、I区の西北部で石器遺物集中部LC1301・1302を2箇所確認することができた。出土した旧石器の年代を検討するために行った火山灰分析の結果は第Ⅲ章に掲載している。それによれば、本層では横大路火山灰に由来する火山ガラスと阪手火山灰に由来する角閃石とが混淆した状態で含まれていた。上位の上層と層界が漸移的に移行する部分が第12A層、下位が第12B層に細分される。

第13層 灰色(10Y5/1)極細粒砂混りシルト質粘土またはシルト質粘土層で、層厚は10~20cm程度であった。極細粒砂が優勢な第13A層と粘土が優勢な第13B層に細分される。火山灰分析では、本層の上部(第13A層上部)に始良Tn火山灰の濃集層準がある可能性が高いことが分かった。本層も旧石器包含層である。

第14層: 黄褐色(2.5Y5/4)シルト質粘土層で、層厚は20cm以上であった。

第2節 I 区の調査成果(旧石器時代)

1) 石器遺物集中部LC1301・1302

i) 石器調査の概要(図13・14、表3・4、原色図版1、図版3・4)

今回報告対象とする調査地の中で、石器遺物の検出を目的とした調査を実施したのはI区の全域である。I区では旧石器包含層である第12～13層がほぼ連続して認められ、地層の特徴も類似していた。I区における石器調査は第11層上面から開始した。その結果、I区西北部で石器遺物集中部LC1301・1302を検出した(図13：以下、石器遺物集中部を省略)。概要是以下のとおりである。

本調査地では旧石器が出土した段丘構成層上面の標高はTP+4.0m(第12層上面)で、北東に向かってわずかに下降するものの、その傾斜は緩やかで全体的にほぼ平坦な地形であった。I区の西北部では、第10層を掘下げて第11層上面を精査した過程で、何点かの旧石器とみられる石器遺物が出土していたため、北半を中心に第11層上面から石器調査の体制をとった。ただし、第11層の堆積は全体的にごく薄く、ところによっては上位層に起因する擾乱や削平により堆積が認められない場所もあった。石器遺物集中部が見つかった西北部一帯は、第11層自体の堆積が薄く、場所によってはモザイク状にしか残されておらず、上位層により第12層上面まで削平を受けていた(図13)。また、LC1302の西側の一部は、第10層から掘込まれた遺構によって第13層下部まで削平されていた。さらにLC1301・1302が検出された場所には、以前に建てられていた府営住宅棟のコンクリート基礎杭が数本単位で複数箇所に打設されていたため、杭とその周囲は攪乱を受けており、本来この地点にも分布したであろう石器遺物は失われているものとみられた。

このような問題もあったが、全体的に見るとLC1301・1302の主要部分は上記の擾乱・削平を被つておらず、良好に遺存していた。LC1301については北側へ石器群の拡がりが予測されたため、調査予定地内の北側部分を可能な範囲で拡張して石器群の探査に努めた。

石器遺物の検出作業用具は、主として草刈鎌(手ガリ)を用いた。出土した石器遺物は、三次元の座標値を測定して分布図を作成するとともに、石器遺物の最大長方向などを記録するために略スケッチを行い、さらに1点ごとに出土状態をデジタルカメラで撮影・記録した。また、本調査地では、第11層の精査を進める過程ですでに下位層から石器遺物の集中出土が予測されていたので、この時点でI区西北部において発掘で生じる排土をすべて回収することとした。排土の回収は以下で示す方法にもとづき、1mの小区画を収集単位とし、地層毎に分けながら回収作業を実施した。西北部では基本的に石器遺物が出土した時点で排土の回収を開始し、複数点出土した場合はその周辺へ対象範囲を拡げていき、最終的にLC1301・1302全域の排土回収を行った。

ii) I区における地区割りと小区画グリッドの設定について(図13)

本報告では遺構平面図はすべて世界測地系に基づいているが、ここでは世界測地系とは異なり、調査区の形状に沿った任意の地区割りにより分布図を作成した。これは微細石器遺物捕集を目的に行つた発掘排土の回収をこの地区割りに基づいて実施していたため、調査区で出土位置を記録した石器遺

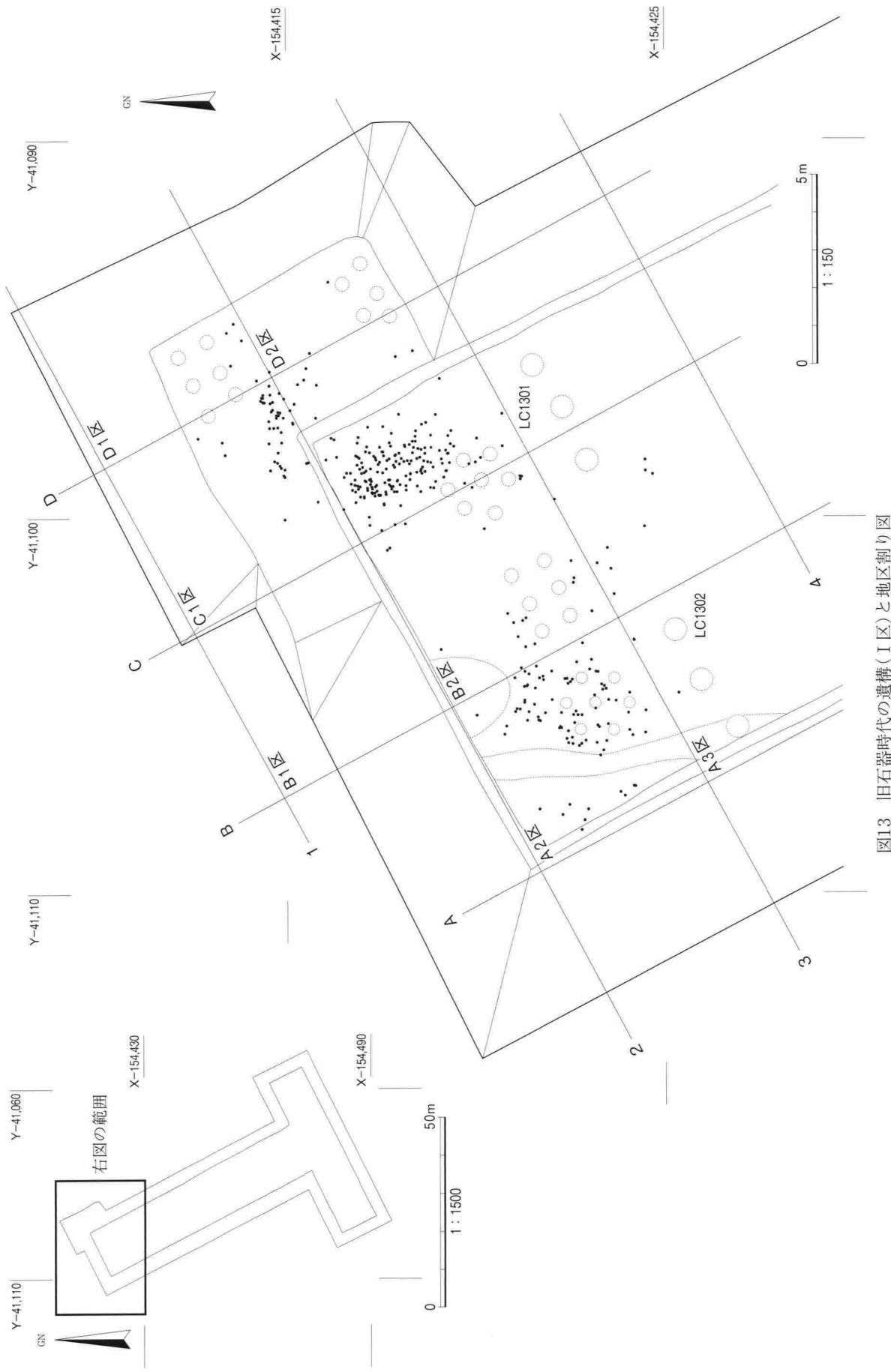


図13 旧石器時代の遺構(Ⅰ区)と地区割り図

物とそれら微細石器遺物の出土位置の関係を検討する上で地区割りの座標軸を一致させておく必要があったからである。

I区では、調査区の形状に合わせてI区の北西端に基準杭A1杭を設定した。基本区画は5m×5mとし、北東(I区の短辺方向)に向かってA・B・C…とアルファベットを、南東(I区の長辺方向)に向かって1・2・3…とアラビア数字を5mごとに振り分けて、それぞれのグリッドの北西杭をその区画名とした(図13)。すなわち、北西杭がB2杭なら、その5m×5m区画はB2区となる。

さらに5m区画の基本グリッドを、発掘排土から水洗篩別によって微細石器遺物を捕集するために、1m×1mの小区画グリッドに分けた。5mグリッドは25の小区画グリッドに細分されることになる。小区画グリッドはカタカナ文字の「ア」～「ノ」までの25文字を使用して区画した。すなわち、東側に向かってア・カ・サ・タ・ナの行で区画し、南側に向かってア・イ・ウ・エ・オの段で区画した。また、各小区画グリッドはそれぞれ固有の位置関係を示すために、5m区画の基本グリッドの名称とあわせて表記した。例えば、B2区の小グリッド・ア区はB2ア区と呼ぶ。

出土した石器遺物はすべてA1杭からの平面座標値を記録し、平面図の作成を行った。また、水洗篩別では微細石器遺物だけでなく、調査時に見逃した大型の石器遺物も回収することができた。そこで水洗篩別で出土した石器遺物にも仮の平面座標値を与えることとした。水洗篩別によって捕集した石器遺物は1mの小区画グリッドの単位で出土位置を記録されているので、その小区画グリッドの中央を仮の出土位置とした。水洗篩別による平面位置の復元は、本来の出土位置と最大で71cm程度の分布上の誤差をもつが、この作業によって出土した石器遺物のほとんどを平面分布図上に図示することができ、集中部の分布形態を把握する際に参考となった。

iii) 石器遺物集中部の認定について(図14、表3、原色図版1、図版3・4)

I区では旧石器時代の遺構としてLC1301・1302を検出した。

I区の西北部では、石器調査の結果、ナイフ形石器を主体とする石器遺物が多数出土しており、また、回収した発掘排土を水洗篩別することにより、多数の微細石器遺物を捕集した。ただし、上述したようにI区では第11層の堆積が薄く、一部では上位層による擾乱も受けていた。

集中部の範囲からは数点ではあるが、旧石器以外に縄文時代の石鏃が出土している。しかし、その分布は旧石器時代の石器遺物集中部のような偏りがあるわけではなく、全体的に散漫に分布していた。石鏃の出土層もいくつかの層準に分かれる傾向があるため、石鏃は相互に共伴せず、複数時期のものが混在した状態とみられる。

こうした状況から判断すると、I区西北部で出土した石器遺物のほぼすべてが旧石器時代のものと考えられ、同一の出土地点に縄文時代の石器遺物集中部が重複している可能性はないと判断した。また、水洗篩別で捕集された微細石器遺物も数量の半分ほどが第13層にあり、その分布範囲も集中部と関係をもつことから、I区で検出したLC1301・1302は单一時期に形成された一括性がある遺構として判断した。

iv) 微細石器遺物の捕集(図15、表4)

I区西北部では旧石器時代の石器遺物として、395点(碎片を除く出土点数。碎片を含めると2,313点)

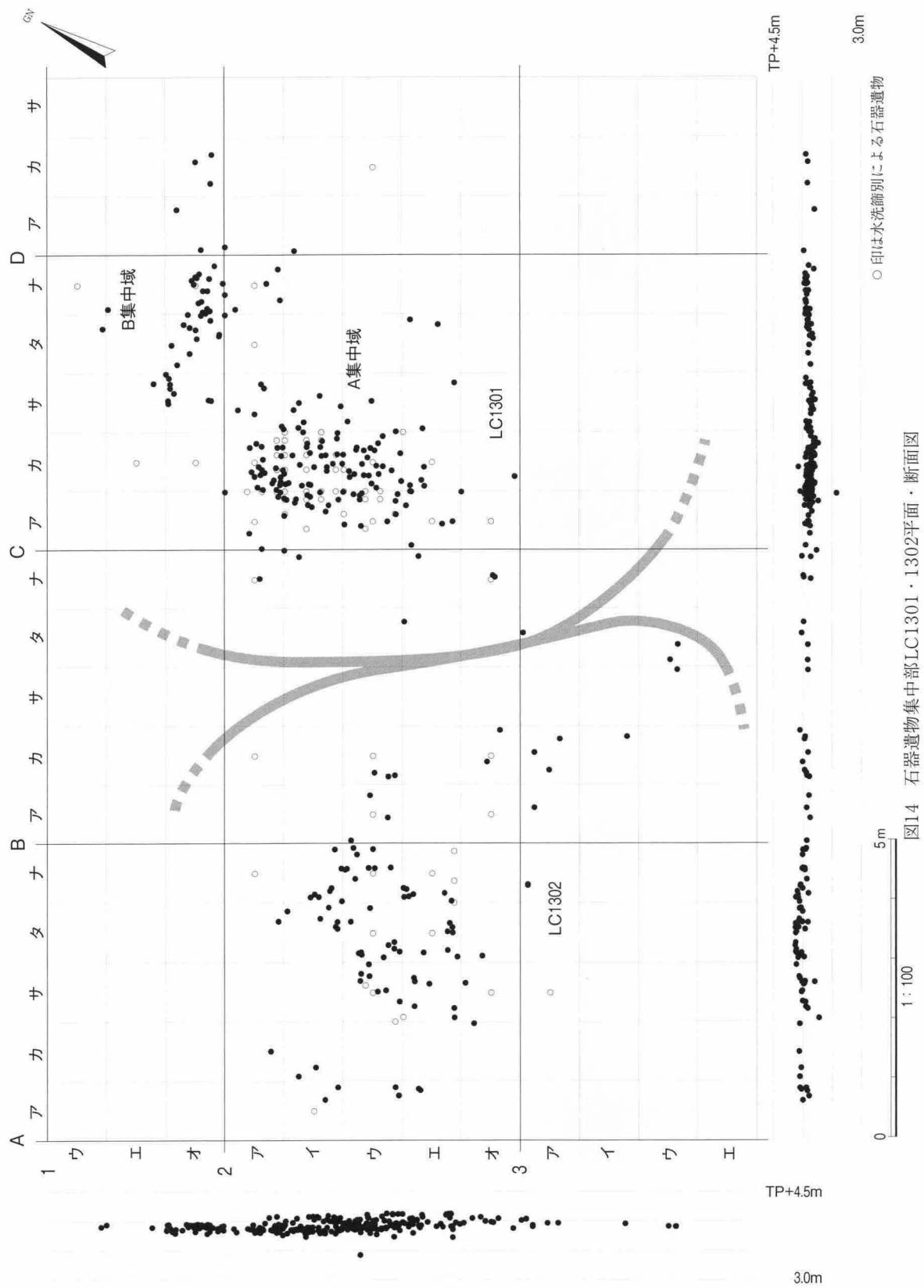


圖14 石器遺物集中部LC1301・1302平面・斷面圖

○印は水洗篩別に上る石器遺物
3.0m

が出土した。これは大部分が発掘調査によって平面座標とTP値を記録した点数である。前述のように、第11層の河川NR2009による侵食を免れた西北部では、第11層から徐々に石器遺物が出土しはじめ、西北部のほぼ全面に分布範囲が拡がることが予測されたために、調査対象範囲の排土をすべて採取することとした。この排土を水洗篩別(最小1mmメッシュ)したところ、2,031点(通常の石器遺物139点、所属不明の碎片14点を含む微細石器遺物1,892点)の旧石器時代の石器遺物を捕集することができた。これらの石器遺物は通常の調査法では検出が困難な微細石器遺物のみならず、調査過程で見逃した大型の石器遺物も含まれていた。こうした調査時の不注意による資料の遺失も石器遺物組成などのデータに大きな影響を与えることになる。瓜破北遺跡における石器調査では、こうしたミスを最小限にするため、できる限り排土の採取を行った。今回は、石器遺物が僅かに出土しはじめた第11層の段階から、ほとんどの範囲で排土回収を計画的に行ったので、石器遺物集中部全体の資料を捕集することができた。もし、遺構の状態が良好であれば、石器遺物集中部の形成に係わったほぼすべての石器遺物をデータ化でき、1つの石器遺物集中部にどれだけの数量・重量の石器遺物が残されたのか、さらにどれだけの石器が製作され、遺棄・廃棄されたのかという問題に対して、正確なデータが提供される。さらに水洗篩別によって捕集された石器遺物についても、1m単位のグリッドで区画して取上げたことにより、その出土位置を一定のレベルまで復元することが可能である。今回は後世の攪乱によって一部の石器遺物が失われた状態にあったが、集中部の主要部分は良好に残されており、一部を欠くものの集中部分析は充分に可能な資料であるといえる。

v) LC1301・1302石器遺物組成(表3)

LC1301・1302から出土した石器遺物については、水洗篩別によって得られた微細石器遺物を含め

表3 UR07-2次調査地出土の石器遺物組成表

遺構名	地層	ナイフ形石器		削器		楔形石器		叩き石		石核		剥片		碎片 (発掘時検出)		総計	
		出土点数	接合後実数	出土点数	接合後実数	出土点数	接合後実数	出土点数	接合後実数	出土点数	接合後実数	出土点数	接合後実数	出土点数	接合後実数	出土点数	接合後実数
LC1301	10層													1	1		1
	12層	3	3	2	2							3	3	83	80	5	96
	12層クラック											1	1	2	1	2	5
	13層	4	4					3	2					94	94	9	110
	13層下部											1	1	78	76		77
LC1301微細石器遺物	※微細石器遺物(水洗篩別による捕集遺物)は碎片に分類													1,267	1,267	1,267	1,267
LC1301合計		7	7	2	2	0	0	3	2	5	5	258	252	1,283	1,283	1,558	1,551
LC1302	10層																0
	11層																1
	12層	3	2									1	1	61	59	3	68
	12層クラック													8	8	1	9
	13層	3	3			1	1					1	1	32	32	6	43
LC1302微細石器遺物	※微細石器遺物(水洗篩別による捕集遺物)は碎片に分類													611	611	611	611
LC1302合計		6	5	0	0	1	1	0	0	4	4	111	109	621	621	743	740
LC1301・1302合計		13	12	2	2	1	1	3	2	9	9	369	361	1,904	1,904	2,301	2,291
所属不明	10層													1	1		1
	11層													1	1		1
	12層													5	5		5
	13層													1	1		1
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0	0	8	8
不明微細石器遺物合計	※微細石器遺物(水洗篩別による捕集遺物)は碎片に分類													14	14	14	14
総計		13	12	2	2	1	1	3	2	9	9	377	369	1,918	1,918	2,323	2,313

第Ⅱ章 調査の結果

て器種分類作業を行った。まず、剥片と碎片の分類基準は単純最大長をもとに行い、1cmに満たない石器遺物を碎片とし、それ以上を剥片とした。また、ナイフ形石器の二次加工時に生じる背部整形剥片(プランティング・チップ)などの存在を考慮して、単純最大長1.0cm以上の石器資料はすべて個別の遺物番号を与えて各種の計測と属性について記載し、併せて平面分布図に反映させることとした。それ以下の大きさの微細石器遺物は小区画グリッドごとに点数を集計した。ただし、調査段階で平面位置を記録できたものは、単純最大長1cm未満の碎片であっても遺物番号を与えてある。

表4 LC1301・1302における微細石器遺物出土一覧表

遺構名	地区	出土層			合計	遺構名	地区	出土層			合計
		12層	13層	13層 下部				12層	13層	13層 下部	
B2-タ		1			1	D1-テ		3			3
B2-ツ		1			1	D2-ア		8	1		9
B2-テ		9			9	D2-イ		5			5
B2-ナ		1	2		3	D2-ウ		2			2
B2-ニ		2	3		5	D2-エ		1			1
B2-ヌ		2	1		3	D2-カ		2			2
B2-ネ		1			1	D2-キ		2	1		3
B2-ノ		10	1		11	D2-サ		2			2
B3-タ		2			2	D2-シ		1	1		2
B3-ツ				1	1	D2-セ		2			2
B3-ナ		4			4	LC1301 合計	561	249	452	5	1,267
B3-ヌ		4			4	遺構名	出土層			合計	
C1-エ		5			5		12層	13層	13層 下部	不明	
C1-オ		1			1	A2-イ	7				7
C1-ク			1		1	A2-ウ	2				2
C1-ケ		1			1	A2-エ	2	1			3
C1-コ		5	7		12	A2-オ	2				2
C1-ス		1			1	A2-キ	5				5
C1-セ		4			4	A2-ク	5	2			7
C1-ゾ		5	7		12	A2-ケ	2	1			3
C1-ツ		1			1	A2-コ	1				1
C1-テ		5			5	A2-シ	2	4	2		8
C1-ト		4	1		5	A2-ス	41		20		61
C1-ヌ		3	1		4	A2-セ	2	2	33		37
C1-ネ		1	4		5	A2-ソ	64	1	18		83
C1-ノ		4	2		6	A2-チ	5		12		17
C2-ア		11	19	5	35	A2-ツ	33	8	15		56
C2-イ		58	8	78	144	A2-テ	19	1	17		37
C2-ウ		13	9	34	56	A2-ト		1	7		8
C2-エ		10		5	15	A2-ニ	14	7	4		25
C2-オ		1			1	A2-ヌ	111	2	10		123
C2-カ		109	15	48	172	A2-ズ	3	5	5		13
C2-キ		81	79	218	378	A2-ノ			8		10
C2-ク		47	12	29	88	A3-イ					1
C2-ケ		14	8		22	A3-サ					4
C2-コ		6	1		7	A3-タ					2
C2-サ		34	17	7	58	A3-ツ	1				1
C2-シ		33	4	19	56	A3-ナ	16				16
C2-ス		6	2		8	A2-ウ	7	6			13
C2-セ				9	A2-エ	12	3			15	
C2-ゾ		4			4	A2-オ	8	1			9
C2-タ		1	8		9	A2-キ	1				1
C2-チ		1			1	A2-ケ	4				4
C2-ツ		2	1		3	A2-コ	1	1			2
C2-テ		1			1	A2-ソ	5	2			7
C2-ト		1			1	A2-セ	3				3
C2-ナ		4	6		10	A2-ツ	1				1
C2-ニ		4	1		5	A2-ア	3				3
C2-ヌ			1		1	A2-オ		1			1
C3-ア		2			2	A2-シ	3				3
C3-イ		1			1	A2-カ	3				3
C3-カ		2			2	A2-キ	1				1
C3-キ		1			1	A2-ク	1		1		2
C3-ク			1		1	A2-ソ	5	2			7
C3-サ		1			1	A2-セ	2	2			4
C3-シ		5			5	A2-ツ	5	2			7
D1-ウ			1		1	A3-ア	3				3
D1-エ		3			3	A3-オ		1			1
D1-オ		6	5		11	A3-サ	3	3			6
D1-ク			1		1	A3-シ	3				3
D1-ケ		3			3	A3-カ	3				3
D1-コ		3	4		7	A3-キ	1				1
D1-ゾ		1			1	A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1		1		2
						A3-ツ	2				2
						A3-サ	3	3			6
						A3-シ	3				3
						A3-カ	3				3
						A3-キ	1				1
						A3-ク	1				

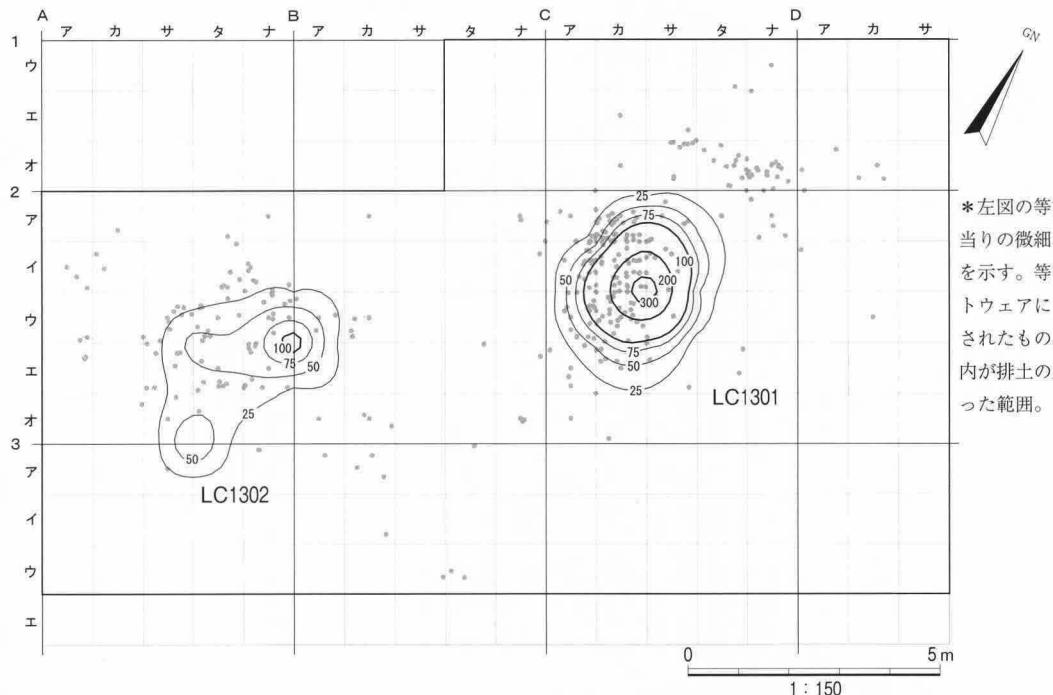


図15 LC1301・1302における微細石器遺物の等密度図

石刃状剥片：長さが幅に対して2倍以上ある剥片。縦長剥片ともいう。

石刃：長さが幅に対して2倍以上あり、両側縁とそれに平行する稜をもつ剥片をいう。

有底横長剥片：剥片の表面末端に石核の平坦な剥離面(通常、素材剥片の主剥離面に相当する)が取込まれたもので、瀬戸内技法を含めた板状剥片を石核素材とする横長剥片剥離技術によって生産されたものである。ほとんどの場合、剥片の形状は横長剥片である。単に「有底剥片」とも呼ぶ場合もある。[平口1987]の分類に準拠する。

碎片：単純最大長が1cm未満の石器遺物をいう。本書では微細石器遺物と同義に扱う。

石器遺物(碎片を除く)の出土層は第12層が176点、第13層が241点で、約6割弱が第13層から出土した。石器遺物の本来の出土層準は第13層上部であったと考えられる。

vi) LC1301・1302における石器遺物の分布(図14・15)

単純最大長1.0cm以上の石器遺物については図14に平面分布・垂直分布を示した。ただし、水洗篩別によって捕集された石器遺物は垂直分布図には投影していない。また平面図においても、水洗篩別資料は仮座標値であるため、白抜きのドットで示してある。

分布を見ると石器遺物はU I区の北西端全域に拡がっているが、その中心は調査区内に収まっており、区外に拡がる状況はみられない。また、平面的に見て2箇所の石器遺物集中部に分かれることは明らかである。調査区の北側を拡張したが、ここからは50点程度の石器遺物が出土した。一部は発掘当初に排水のために掘られたトレッセの側溝によって失われたものと思われる。

分布図からLC1301・1302の2つの石器遺物集中部が設定されるが、LC1301はC2区を中心とする5m×5mほどの範囲に密な分布域をもち、LC1302はA2区を中心とする5m×5mほどの範囲にまばらな分布域をもっている。LC1301の碎片を除く構成遺物点数は268点、LC1302は120点(所属が確定的ではない遺物を1点含む)である。また、LC1301は北側に向かってまばらに分布が拡がって

いる。

次に、単純最大長1.0cm未満の微細石器遺物の分布について検討を加えておく。図15に1m²中の出土点数をもとにした等密度図を作成した。また、表4に示した範囲が発掘排土を回収したグリッドである。

LC1301では、微細石器遺物の分布の中心はLC1301内のC2キ区であり、この小グリッドからは378点が出土した。微細石器遺物はこの周囲のC2イ・ウ・カ・ク区で極端に多く見つかっている。LC1301における微細石器遺物の密集部は、剥片以上の石器遺物の分布の中心とほぼ一致しているものの、微細石器遺物の密集部の方が少し東寄りに位置している。これは密集部の位置が、石器製作における製作者の座位を反映しているからで、微細な碎片は製作者の正面真下に集中するのに対し、剥片などは製作者の前方へ放射状に散布するため、剥片以上の遺物分布と微細石器遺物の密集部にずれを生じるのである。

LC1302では、微細石器遺物の分布はやや散漫な傾向をみせる。83点が出土したA2ソ区を中心と周囲のA2ス・セ・ツ・テ区で30~50点程度が出土している地点と123点が出土したA2ヌ区のごく狭い範囲の2箇所の密集部が認められた。これらの密集部もLC1302の剥片以上の遺物分布とはずれが生じている。これも上述した理由によるものであろう。

一方、LC1301の北側に当るC1ト・ノ区の剥片類の集中箇所には注意が必要である。この集中部分もLC1301に含めているが、ここでは石器遺物の部分的な集中が認められるものの、微細石器遺物はほとんど出土しなかった(ただし、C1のオ段のラインは側溝の掘下げで失われている部分がある)。本調査地は北側へ緩やかに下降する地形面であることから、微細石器遺物を伴わないC1ト・ノ区の部分的な遺物集中は、水流などでLC1301の中核部分から一部が二次的に移動した可能性がある。

こうしたことから、LC1301については、C2キ区を中心とする集中部本体をLC1301A集中域、C1ト・ノ区を中心とする地点をLC1301B集中域として細分しておく。

いずれにせよ、微細石器遺物の密集部を伴うLC1301・1302は、ナイフ形石器、削器をはじめ石核・剥片などの石器遺物がまとまって出土していることから、両者とも石器製作が行われた場所であるとみなしうる。

2)ナイフ形石器・削器

i)ナイフ形石器の分布(図16・17、表5、原色図版2、図版18)

LC1301・1302からはナイフ形石器12点(接合後の実数)が出土した。すべてサヌカイト製である。本石器群におけるナイフ形石器の特徴は、横長剥片素材と石刃・石刃状剥片を素材としたものが両方認められることと小型品が主体であることである。さらに特筆されることは、石核の平坦な底面を取り込んだ有底横長剥片を素材とする1側縁加工がわずかしか認められないことである。この形態のナイフ形石器は、瀬戸内技法による国府型ナイフ形石器に代表されるもので、近畿地方では後期旧石器時代後半を通して普遍的に認められる形態である。しかし、以下で詳述するように、LC1301・1302石器群においては、ナイフ形石器の素材剥片が生産可能な横長剥片剥離技術の特徴をもった剥片・石核

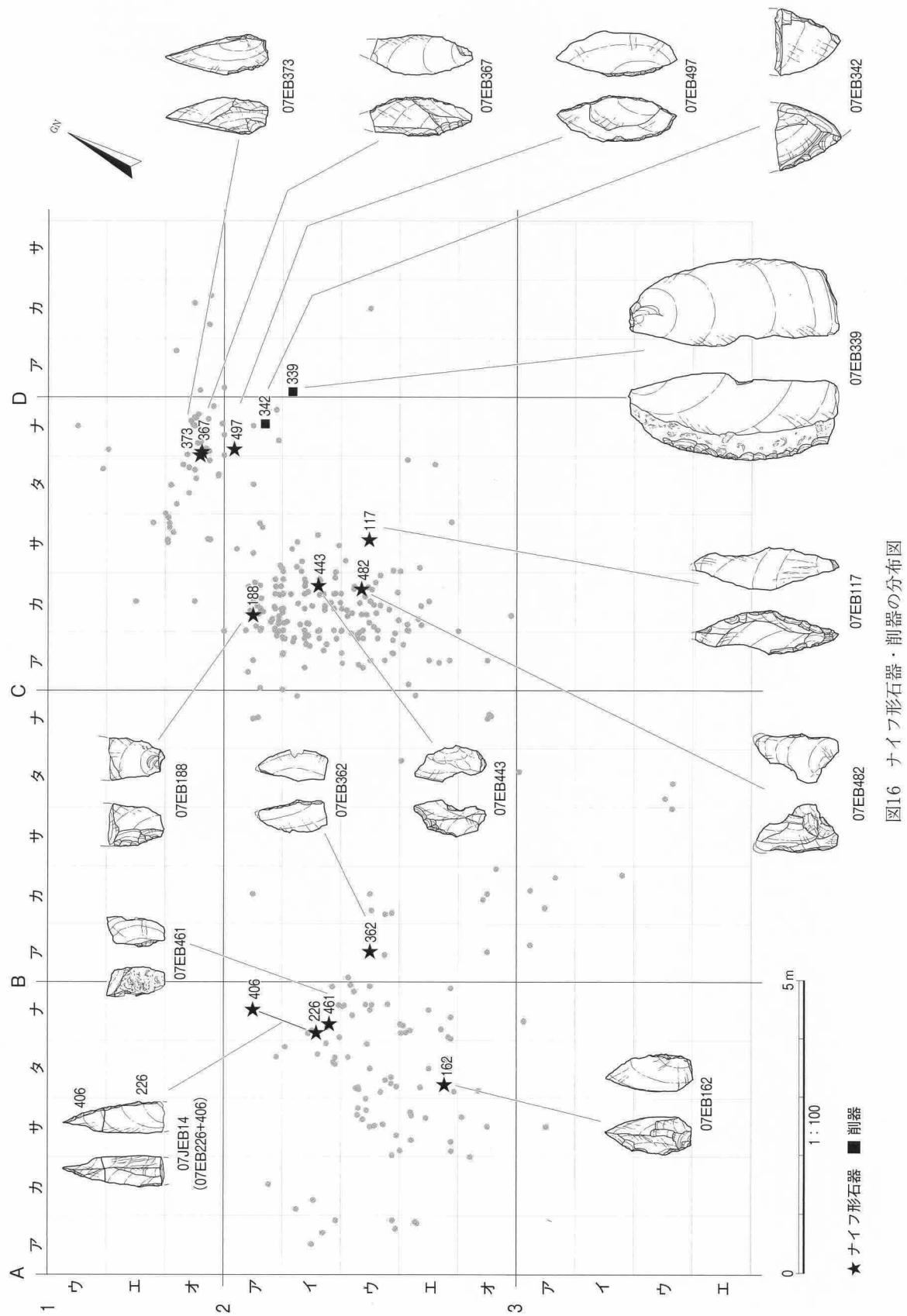


図16 ナイフ形石器・削器の分布図

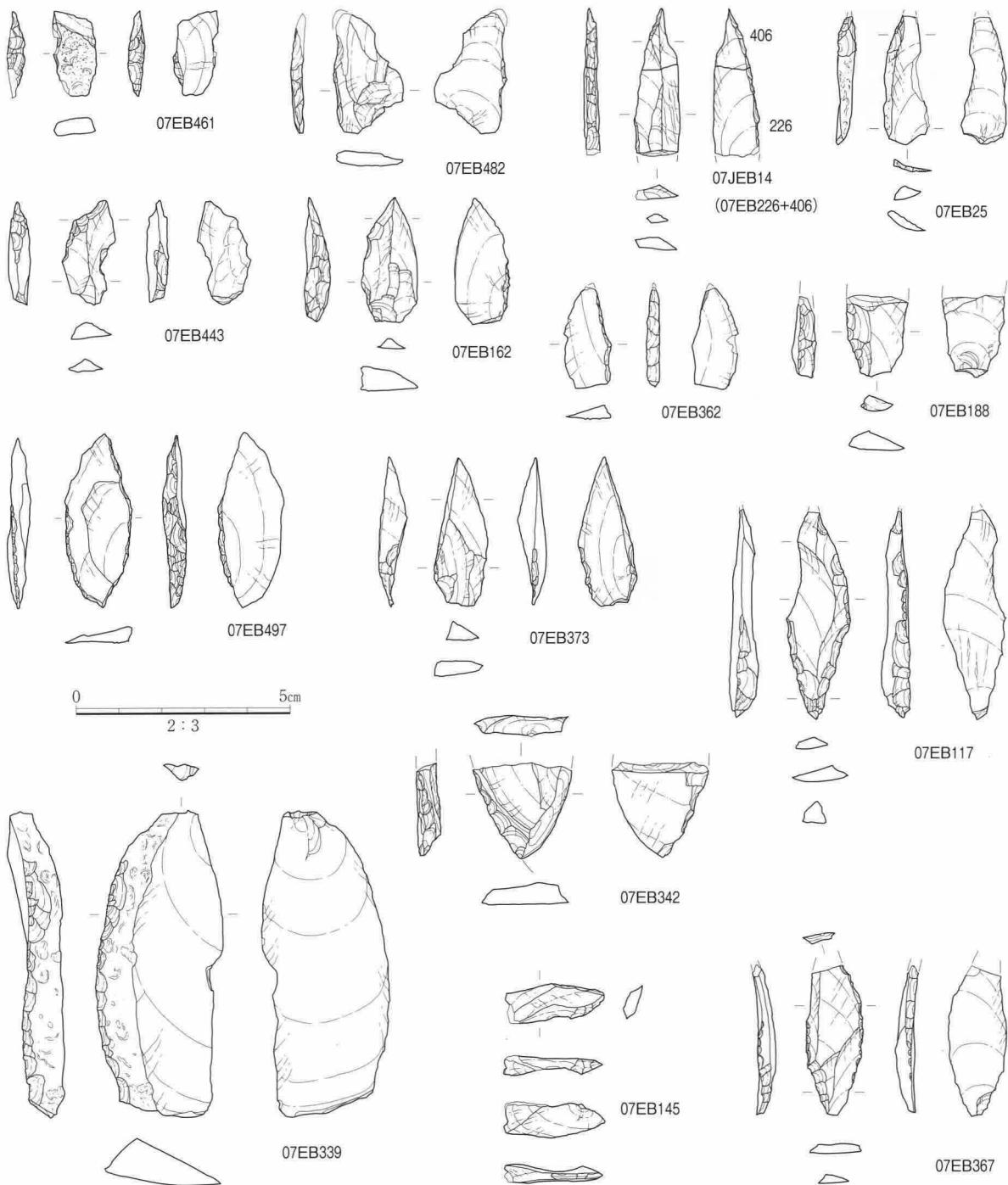


図17 LC1301・1302出土のナイフ形石器・削器実測図

はごく僅かしか出土していない。

図16はナイフ形石器の分布図である。LC1301から出土したナイフ形石器は07EB117・188・367・373・443・482・497の7点、LC1302では07EB162・362・461・07JEB14(226+406)の4点である。そのほかB1区のLC1302北側部分に当る場所で、第10層下面を精査中に第13層に貼付いた状態で07EB25のナイフ形石器が出土した(25は分布図には示していない)。

ナイフ形石器はLC1301が7点、LC1302が4点で、集中部の規模に応じた数量が出土している。どちらの集中部にも石刃・石刃状剥片、横長剥片を素材とした小型ナイフ形石器が出土しており、ナイ

フ形石器の形態や製作技法などで2つの集中部の間に違いは認められない。両者に接合関係はないものの、同じ集団によって残された集中部と考えてよい。

以下、各集中部から出土したナイフ形石器について記載しておく。

ii) LC1301出土のナイフ形石器(図17、表5、原色図版2、図版18)

07EB117はC2ス区の第12層から出土した。石刃状剥片を素材とする2側縁加工で左刃のナイフ形石器である。素材剥片はやや幅広の石刃状剥片で、表面には剥片の主剥離面と同じ方向の剥離痕が複数認められる。表面基部側は両側縁に急斜な角度で整形剥離が施され、基部は尖鋭に仕上げられている。また、表面右側縁は、ほぼ先端まで側縁全体に刃潰し加工が施されている。先端部をわずかに折損する。長さ4.85cm、幅1.52cm、厚さ0.51cm、重量3.3gである。

07EB188はC2カ区の第12層から出土した。先端側を折損しているが、石刃または石刃状剥片を素材とする1側縁加工で右刃のナイフ形石器である。基部には素材剥片の平坦打面がそのまま残されており、表面左側縁に裏面側からやや浅い角度で整形剥離が施されている。先端部の形状は不明である。長さ1.91cm、幅1.55cm、厚さ0.48cm、重量1.4gである。

07EB367はC1ノ区の第12層から出土した。石刃状剥片を素材とする2側縁加工で左刃のナイフ形石器である。素材剥片は薄手で主剥離面側にわずかに内湾する。打面は点状か線状であったとみられ、表面左側縁の整形剥離により除去されているが、基部の整形加工はほとんど行われていない。全体の平面形は表面左側縁の基部側と右側縁先端側に細かく浅形の整形剥離を加えることで整えられている。また表面右側縁の基部側にも細部調整が施されているが、不連続で部分的なものに留まっている。先端部を折損する。長さ3.51cm、幅1.43cm、厚さ0.37cm、重量2.0gである。

07EB373はC1ト区の第13層から出土した。横長剥片を素材とする基部加工のナイフ形石器である。剥片素材の石核から石核底面を取込んだ有底横長剥片を素材とするが、こうした剥片に対応する石核はLC1301・1302からは出土していない。また通常、こうした形態の有底横長剥片は打面側を背部として整形剥離を行い、1側縁加工に仕上げられるが、このナイフ形石器は素材剥片の尖鋭な部分をそのまま先端として利用し、両側縁の基部はわずかな加工に留まる。また、基部側の整形剥離も変則的で、表面側から行われている。横長剥片を素材としているが、整形方法は石刃・石刃状剥片素材のナイフ形石器と共通している。長さ3.58cm、幅1.29cm、厚さ0.52cm、重量2.1gで、完形である。

07EB443はC2キ区の第13層から出土した。横長剥片を素材とする切出形のナイフ形石器である。近畿地方でみられるナイフ形石器の形態としては希有なもので、素材剥片の打面部に当る表面右側縁は、ノッチ状の整形剥離がほぼ直角に施されている。表面左側縁は先端側に急斜な整形剥離を施すが、下半は未加工で、基部の加工も部分的である。長さ2.44cm、幅1.21cm、厚さ0.42cm、重量1.2gで、完形である。

07EB482はC2ク区の第13層から出土した。短形剥片を素材とする1側縁加工で右刃のナイフ形石器である。表面左側縁に極厚形の整形加工が施されている。加工はこの部分のみで、そのほかの部位は未加工のまま残されている。表面左側縁の先端部を新欠により損じている。長さ2.85cm、幅1.68cm、厚さ0.36cm、重量1.5gである。

表5 ナイフ形石器観察表

遺物番号	地 区	地層	遺構	素材 剥片	形態	刃部	整形 方法	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		備 考
07EB 25	I 区	B2区	13層	LC1302	石刃	部分 加工	右刃 裏→表	3.02 *	1.09	0.44	1.20	先端部 欠損	打面部を残す。基部の加工はなし。
07EB 117	I 区	C2ス	12層	LC1301	石刃状 剥片	2側縁 加工	左刃 裏→表	4.85 *	1.52	0.51	3.30	ほぼ 完形	先端部をわずかに欠損。基部が長く 尖銳。
07EB 162	I 区	A2テ	12層	LC1302	有底横 長剥片	1側縁 加工	右刃 裏→表	2.91	1.38	0.58	1.90	完形	表面左側縁の基部に部分的な対向調整。
07EB 188	I 区	C2カ	12層	LC1301	石刃状 剥片	1側縁 加工	右刃 裏→表	1.91 *	1.55	0.48	1.40	先端部 欠損	先端側1/2を欠損。打面を残す。
07EB 362	I 区	B2ウ	13層	LC1302	横長 剥片	1側縁 加工	左刃 表→裏	2.32 *	1.05	0.34	0.80	両端 欠損	基部・先端部を欠損。極小型。
07EB 367	I 区	C1ノ	12層	LC1301	石刃状 剥片	2側縁 加工	左刃 裏→表	3.51 *	1.43	0.37	2.00	先端部 欠損	形態的には茂呂型と同じ。
07EB 373	I 区	C1ト	13層	LC1301	有底横 長剥片	基部 加工	右刃 表→裏	3.58	1.29	0.52	2.10	完形	有底横長剥片を利用するが変則的な 形態。
07EB 443	I 区	C2キ	13層	LC1301	横長 剥片	切出形	右刃 裏→表	2.44	1.21	0.42	1.20	完形	表面右側縁はノッチ状に加工。
07EB 461	I 区	A2ニ	13層	LC1302	横長 剥片	切出形	平刃 錯向 剥離	2.05	1.03 *	0.36	0.80	左側縁 欠損	台形石器に類似した形態。
07EB 482	I 区	C2ク	13層	LC1301	短形 剥片	1側縁 加工	右刃 裏→表	2.85 *	1.68	0.36	1.50	先端部 欠損	素材の形態を大きく変えない整形加 工。
07EB 497	I 区	C2ナ	13層	LC1301	横長 剥片	2側縁 加工	左刃 対向 調整	4.12	1.55	0.46	2.50	完形	表面左側縁の下半部に薄形・浅形の 細部調整。
07EB JEB14A	I 区	—	—	LC1302	石刃	1側縁 加工	右刃 裏→表	3.40 *	1.09	0.36	1.30	基部 欠損	基部側226(A2ニ区・12層)と先端側 406(A2ナ区・12層)が接合。

* 石材はすべてサヌカイト。計測値の* 印は欠損を表す

07EB497はC2ナ区の第13層から出土した。横長剥片を素材とする2側縁加工で左刃のナイフ形石器である。素材剥片は薄手で、石核底面を取込んだ有底横長剥片とは異なる。ただし、ナイフ形石器の形態や背部加工の手法は近畿地方によくみられるものである。素材剥片の打面側を主剥離面側から整形剥離を行い背部が形成されている。その後、表裏両面からの対向調整により仕上げられている。先端部と表面左側縁の基部側には極浅形で細かな細部調整が側縁に沿って施されている。長さ4.12cm、幅1.55cm、厚さ0.46cm、重量2.5gで、完形である。

iii) LC1302出土のナイフ形石器(図17、表5、原色図版2、図版18)

07EB162はA2テ区の第12層から出土した。横長剥片を素材とする1側縁加工で右刃のナイフ形石器である。剥片素材の石核から石核底面を取込んだ有底横長剥片が素材となっているが、打面側に主剥離面側から施される背部の整形剥離は基部側が中心で先端まで及んでいない。表面基部には基部側から薄形の調整剥離が加えられている。器厚を減じるための加工であると思われる。長さ2.91cm、幅1.38cm、厚さ0.58cm、重量1.9gで、完形である。

07EB362はB2ウ区の第13層から出土したが、水洗篩別作業によって捕集されたものである。横長剥片を素材とする極小型のナイフ形石器である。1側縁加工で左刃である。薄く小型の剥片を素材とし、打面側に背面から主剥離面側に向かって極厚形の整形剥離を施して背部を形成している。基部を折損し、先端部もわずかに新欠で損じている。長さ2.32cm、幅1.05cm、厚さ0.34cm、重量0.8gである。

07EB461はA2ニ区の第13層から出土した。横長剥片を素材とした切出形のナイフ形石器である。表面には大きく礫面を残す。両側縁に極厚形の整形剥離を施しており、表面右側縁は表面側から、左側縁は裏面側から剥離が行われている。基部は未加工である。後期旧石器時代前半期に認められる台形石器の可能性もある。表面左側縁を新欠により少し損じている。長さ2.05cm、幅1.03cm、厚さ0.36cm、重量0.8gである。

07JEB14は07EB226+406の2点で構成される接合資料である。07EB226(基部側)はA2ニ区の第12層から、406(先端側)はA2ナ区の第12層からそれぞれ出土した。406は水洗篩別によって捕集されたものである。石刃を素材とする1側縁加工で右刃のナイフ形石器である。基部側を折損する。表面左側縁に整形剥離が施されているが、先端側は表面側から、基部側は裏面側からそれぞれ厚形の整形剥離が施されている。先端部は細く尖銳になるように細かな調整剥離が行われているが、この仕上げ過程で折損したものとみられる。長さ3.40cm、幅1.09cm、厚さ0.36cm、重量1.3gである。

07EB25はB2区のLC1302の北側において出土した。第10層下面を精査中に下位層であった第13層へ貼付いた状態で出土したものである。本来はLC1302に属するものと思われる。07EB25は石刃を素材とする部分加工のナイフ形石器である。先端部を折損し、表面右側縁を新欠により損じている。素材剥片の打面はそのまま残されて、打面部を基部としている。表面左側縁に礫面を残し、この側縁へ厚形の部分的で不連続な整形剥離を施している。先端は折損しているが、この部分にはやや丁寧な加工が行われていたようである。長さ3.02cm、幅1.09cm、厚さ0.44cm、重量1.2gである。

そのほか、ナイフ形石器に係わる石器遺物として背部整形剥片がある。LC1302から2点(07EB145・398)出土している。図17には07EB145を掲載しておく。ナイフ形石器の整形加工時に剥離されたものである。長さ0.83cm、幅1.38cm、厚さ0.32cm、重量1.9gである。

iv) 削器とその分布(図16・17、図版18)

削器は2点が出土した。07EB339・342の2点で、接合関係をもたない個別資料である。いずれもLC1301から出土したが、集中部の中心付近ではなく、北側のC1区にあるLC1301B集中域である。また、この2点の削器以外には明確な細部調整や微細剥離痕を有する剥片類は出土していない。石器組成としては単調な石器群である。

07EB339は石刃を素材とする削器である。素材剥片の打面がそのまま残され、表面左側縁にも大きく礫面を残す。この左側縁に浅形かつ薄形の細部調整が連続して丁寧に施されている。末端側を新欠でわずかに損じている。長さ7.19cm、幅3.02cm、厚さ0.88cm、重量21.8gである。

07EB342は横長剥片を素材とする削器である。長さ・幅ともに大きく折損しており、本来の形状は不明である。もとの素材剥片は大型剥片であったようで、主剥離面側はほぼ平坦な剥離面である。この縁辺部に浅形かつ薄形の細部調整が主剥離面側から施されている。長さ2.19cm、幅2.45cm、厚さ0.51cm、重さ2.5gである。

3) 石核・楔形石器・叩き石

i) 石核と楔形石器の分布(図18・19、図版18・19)

石核は9点が出土した。楔形石器は07EB7の1点のみである。石核はいずれもLC1301・1302のいずれかに属するが、そのうち3点は第10層下面を精査中に第11~13層に貼付いた状態で出土したもので、正確な平面位置は不明である。楔形石器の07EB7も同様で、第13層に貼付いた状態で出土したが、水流により少し磨耗しており、原位置から二次移動している可能性がある。接合関係をもたない個別資料の石核は5点で、残りの4点は剥片類と接合関係をもつ。

LC1301からは07EB23・122・136・345・564の5点、LC1302からは07EB4・161・495の3点が出土した。また、出土位置からLC1302に属する可能性があるのが07EB81である。

層位別では第11層出土が07EB81、第12層出土が07EB23・122・136・161・345、第13層出土が07EB4・495・564である。なお、564は第13層下部の最終確認面の土壤の水洗・篩別により出土した。接合資料に属する石核は07EB23(接合資料07JEB1)・07EB161(接合資料07JEB7)・07EB495(接合資料07JEB8)、07EB564(接合資料07JEB21)の4点である。

楔形石器07EB7については、正確な出土位置が不明であり、集中部への帰属も判定できなかった。

ii) 石核・楔形石器・打面再生剥片(図18・19、表6、図版18・19)

07EB122はC2シ区において第13層の層準で認められた第12層クラックから出土した。LC1301に属する。剥片素材の石核である。素材剥片の主剥離面側には、打面側から石核面に沿った平坦な剥離痕が複数認められる。剥離された剥片は横長あるいは短形剥片である。この剥離に先行して、主剥離面側から打面部を取込むように剥片剥離が行われている。この際、有底の横長剥片が剥離されたとみられるが、この剥離のみで連続的には行われていない。近畿地方の後期旧石器時代後半には、瀬戸内技法に代表されるように、剥片素材の石核を打面側から石核底面を取込むように剥離を進行させる技術が普遍的であるが、この石核は一部でそうした剥離が認められるものの、主要な剥離は石核面に沿って剥離を行う平坦剥離によるもので、剥離技術が異なっている。長さ2.52cm、幅5.99cm、厚さ0.98cm、重量19.2gである。

07EB136はC2ク区の第12層から出土した剥片素材の石核である。LC1301に属する。上述した07EB122と同じで、素材剥片の主剥離面側には、打面側から石核面に沿った平坦な剥離痕が複数認められる。136も石核底面を取込んで有底の横長剥片を剥離するような技術ではなく、平坦剥離によって横長あるいは短形剥片の剥離を目的としており、瀬戸内技法に代表される有底の横長剥片剥離技術とは剥離技術が異なっている。長さ3.29cm、幅5.67cm、厚さ1.18cm、重量22.4gである。

07EB345はC1ト区の第12層から出土した剥片素材の石核である。LC1301に属する。石核の表裏

表6 LC1301・1302出土の石核観察表

遺物番号	地区		地層	遺構	接合番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	内 容
07EB 23	I 区	C2区	12層	LC1301	07JEB 1	6.05	1.24	4.52	37.7	剥片素材。備讃瀬戸型石刃技法による石刃核である。
07EB 122	I 区	C2シ	12層 クラック	LC1301		2.52	5.99	0.98	19.2	剥片素材。横長剥片剥離技術による。平坦剥離を行っている。
07EB 136	I 区	C2ク	12層	LC1301		3.29	5.67	1.18	22.4	剥片素材。横長剥片剥離技術による。平坦剥離を行っている。
07EB 345	I 区	C1ト	12層	LC1301		2.54	5.02	0.98	11.6	剥片素材。横長剥片剥離技術による。交互・並列剥離を行っている。
07EB 564	I 区	C2キ	13層 下部	LC1301	07JEB 21	9.12	5.16	2.52	113.6	剥片素材。大型剥片の主剥離面基部(打面)側で剥離を行っている。
07EB 4	I 区	B2区	13層	LC1302		4.18	4.89	3.44	53.1	90° 単位で打面転位を頻繁に行なった石核。短形・横長剥片を剥離している。
07EB 81	I 区	A2～ 3区	11層	LC1302		5.48	7.29	1.50	53.0	大型の剥片を剥離した残核である。
07EB 161	I 区	A2テ	12層	LC1302	07JEB 7	5.27	3.58	2.82	57.1	広義の石刃技法による石刃核である。石核調整は行われない。
07EB 495	I 区	A2ネ	13層 下部	LC1302	07JEB 8	5.19	5.22	2.74	95.7	広義の石刃技法による石刃核である。石核調整は行われない。

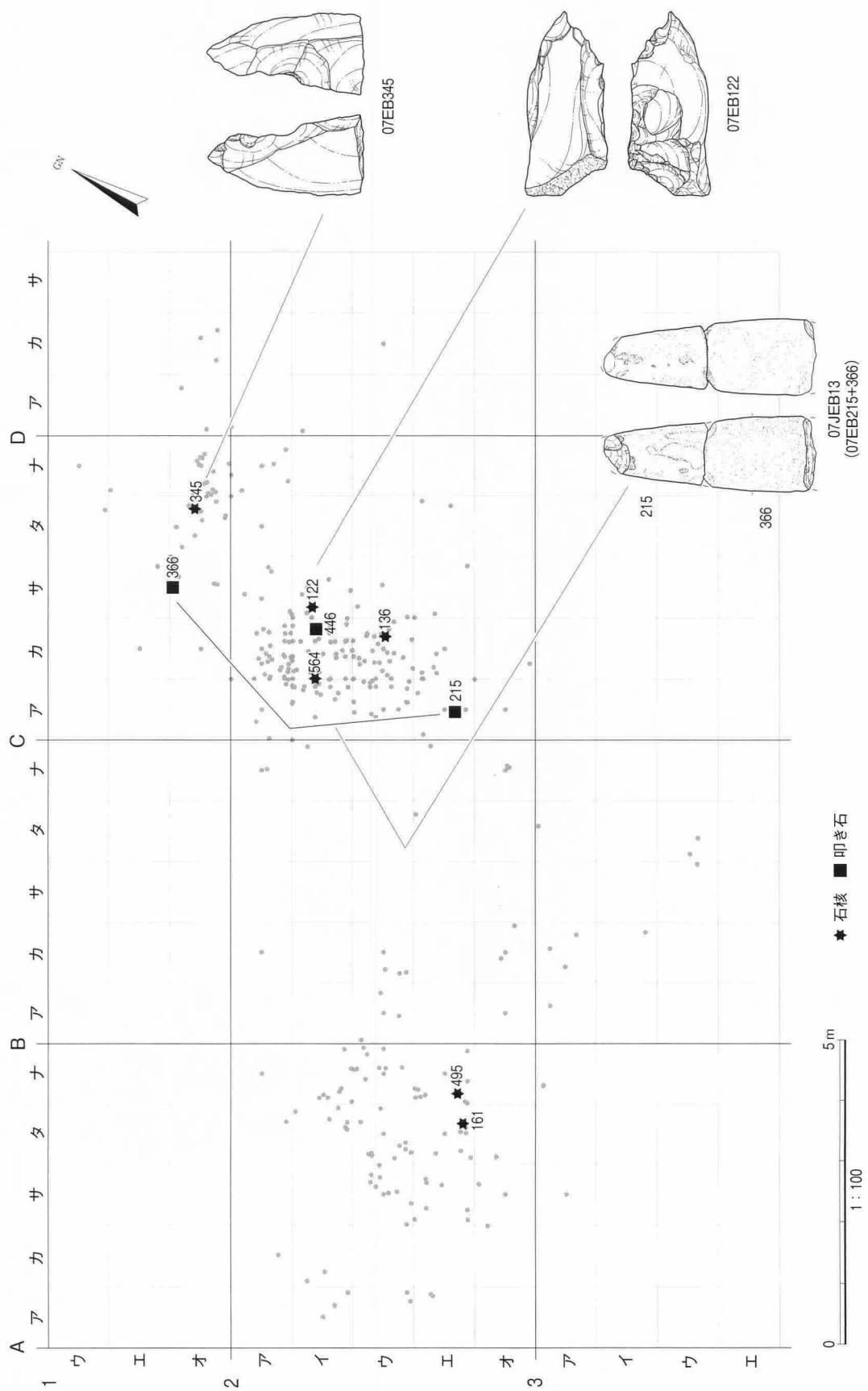


図18 石核・楔形石器・叩き石の分布図

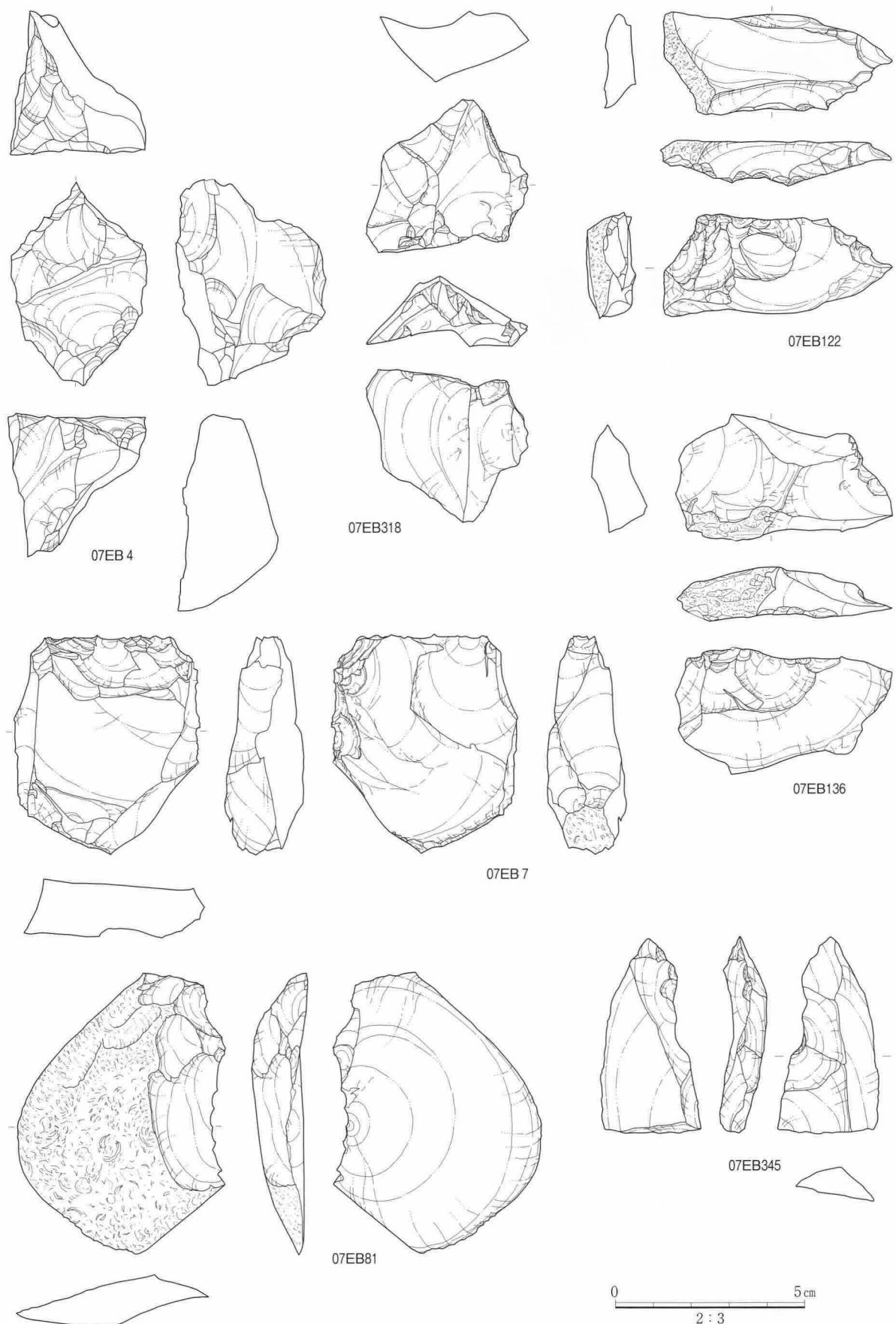


図19 LC1301・1302出土の石核・楔形石器実測図

5cm
0 2 : 3

07JEB13
(07EB215+366)

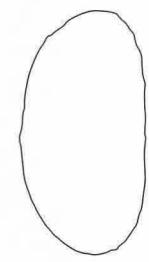
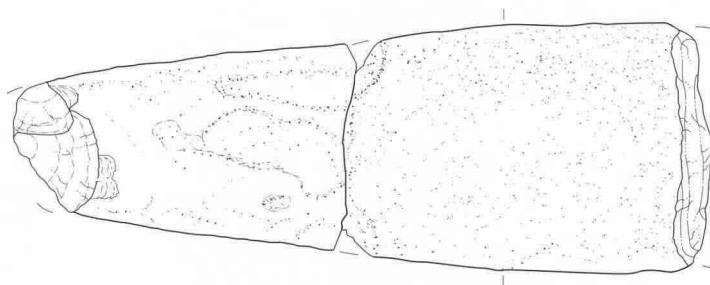
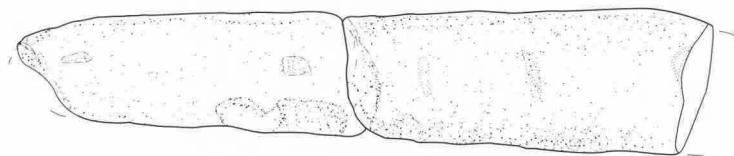
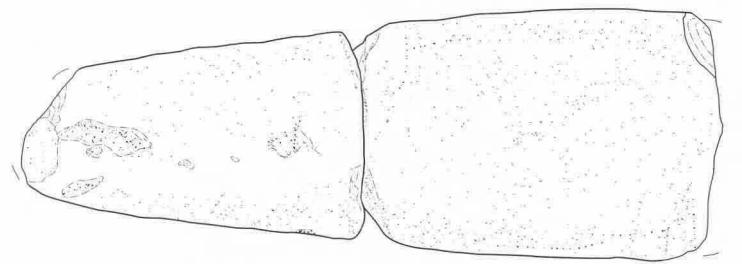
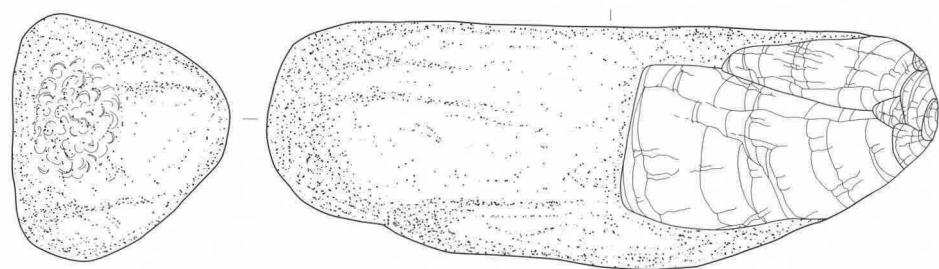
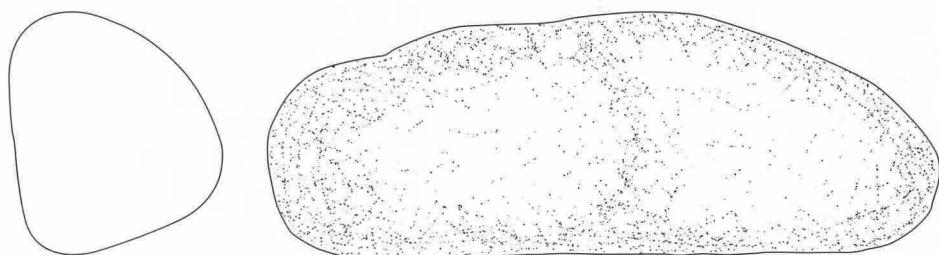


図20 LC1301・1302出土の叩き石実測図

07EB446



両面を打面と作業面を入れ替える交互剥離により剥片が剥離されている。剥離された剥片は数枚程度である。長さ2.54cm、幅5.02cm、厚さ0.98cm、重量11.6gである。

07EB4はB2区において、第10層下面を精査した際、第13層へ貼付いた状態で出土した。打面と作業面を90°単位で入れ替えながら剥離を進行させるもので、いわゆるサイコロ状石核である。おもに短形剥片が剥離されている。近畿地方では、このような石核は後期旧石器時代前半の石器群に普遍的にみられる剥離技術であるが、後半にはほとんど認められなくなる。この石核は、07EB122・136と合わせて、LC1301・1302石器群の時期や技術基盤を検討する上で指標となりうる。長さ4.18cm、幅4.89cm、厚さ3.44cm、重量53.1gである。

07EB81はA2-3区において第11層から出土した石核である。LC1302の周辺で出土した。原礫から大型の板状を剥離した残核とみられる。この石核に接合する大型剥片は出土していないが、LC1302には大型の板状剥片が複数出土している。本資料もLC1302で行われた板状剥片の剥離に係わるものと思われる。長さ5.48cm、幅7.29cm、厚さ1.50cm、重量53.0gである。

07EB7はB2区において第10層下面を精査した際、第13層に貼付いた状態で出土した。表面の風化が水流による磨耗でわずかに光沢を帯びるようになっている。楔形石器としたが、もとは石核で、その後に両極打法が行われた可能性もある。上下端、裏面左側縁に挟み打ちの際に生じた剥離痕が認められる。小口に当る側面は、剪断面とみられ縦長の削片が剥離されたようである。もとは石核であったと仮定するなら、剪断面は板状剥片の小口を作業面とするいわゆる「備讃瀬戸型石刃技法」[佐藤良二1987]の剥離作業面となりうる。いずれにせよ、楔形石器としては十分に剥離が進行しない状態で遺棄されている。長さ5.78cm、幅4.92cm、厚さ1.70cm、重量62.7gである。

そのほか、石核に係わるものとして、石刃技法にみられる打面再生剥片がある。LC1301から3点(07EB318・503・526)、LC1302から2点(07EB167・173)が出土した。そのうち07EB318を図示しておく(図19)。318はC2ア区で第13層から出土した。石刃核の打面と作業面の角度がほぼ直角になつたため、石核側面から打面再生剥片が剥離されたものとみられる。長さ4.31cm、幅3.98cm、厚さ1.24cm、重量20.8gである。

接合資料に属する石核については後述する。出土した石核から推定されるLC1301・1302石器群の技術基盤は、近畿地方で普遍的といえる交互・並列剥離を主体とする横長剥片剥離技術とは様相が異なっている。後述するが、板状剥片の小口を作業面とする「備讃瀬戸型石刃技法」や平坦剥離を多用する横長剥片石核、90°単位の転位を繰り返すサイコロ状石核などの存在を考慮すれば、後期旧石器時代前半との関係が深い石器群といえるかもしれない。

iii)叩き石とその分布(図18・20、図版23)

叩き石は2点が出土した。07EB446と07JEB13(07EB215+366)で、うち2点は接合資料である。いずれも砂岩製である。平面分布をみるとすべてLC1301から出土している。07JEB13のうち07EB215はLC1301A集中域の中心で出土しており、もう一方の07EB366はLC1301B集中域から出土した。07EB446はLC1301の中心から南側へ外れたところで出土した。

07JEB13は砂岩製の叩き石である。LC1301に属する。07EB215(先端側) +366(基部側)の2点の

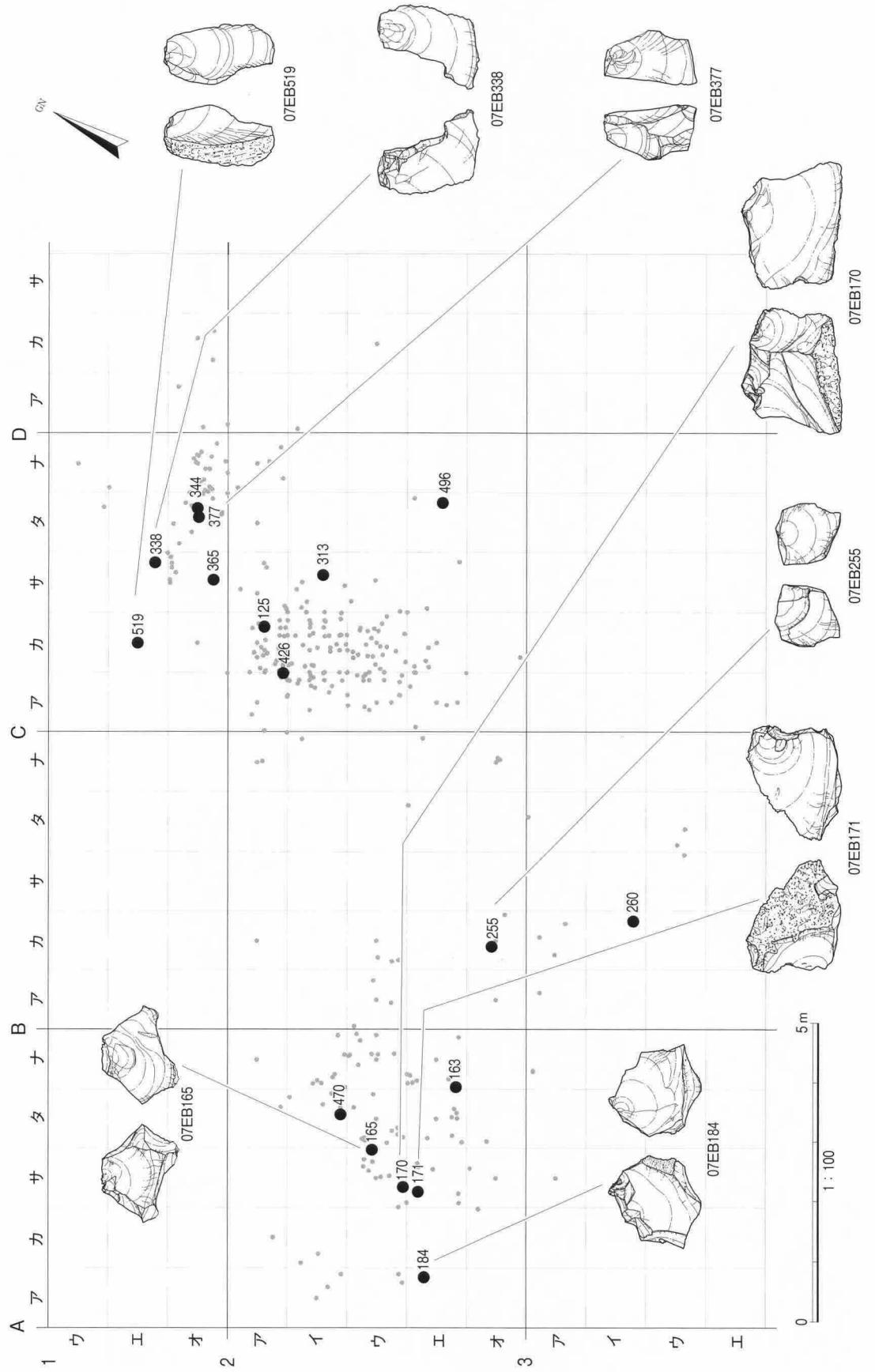


図21 大型剥片の分布図

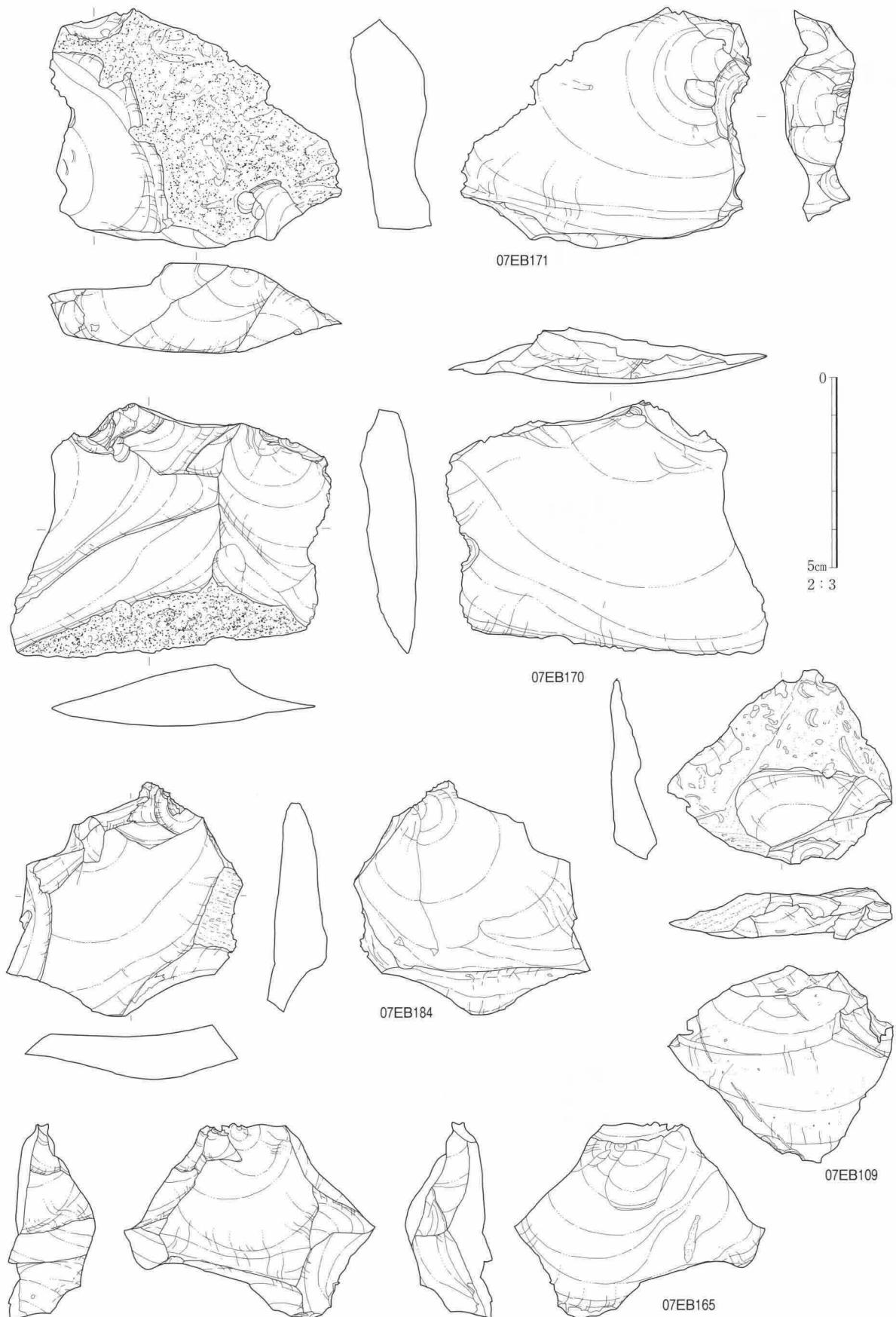


図22 LC1301・1302出土の大型剥片実測図(1)

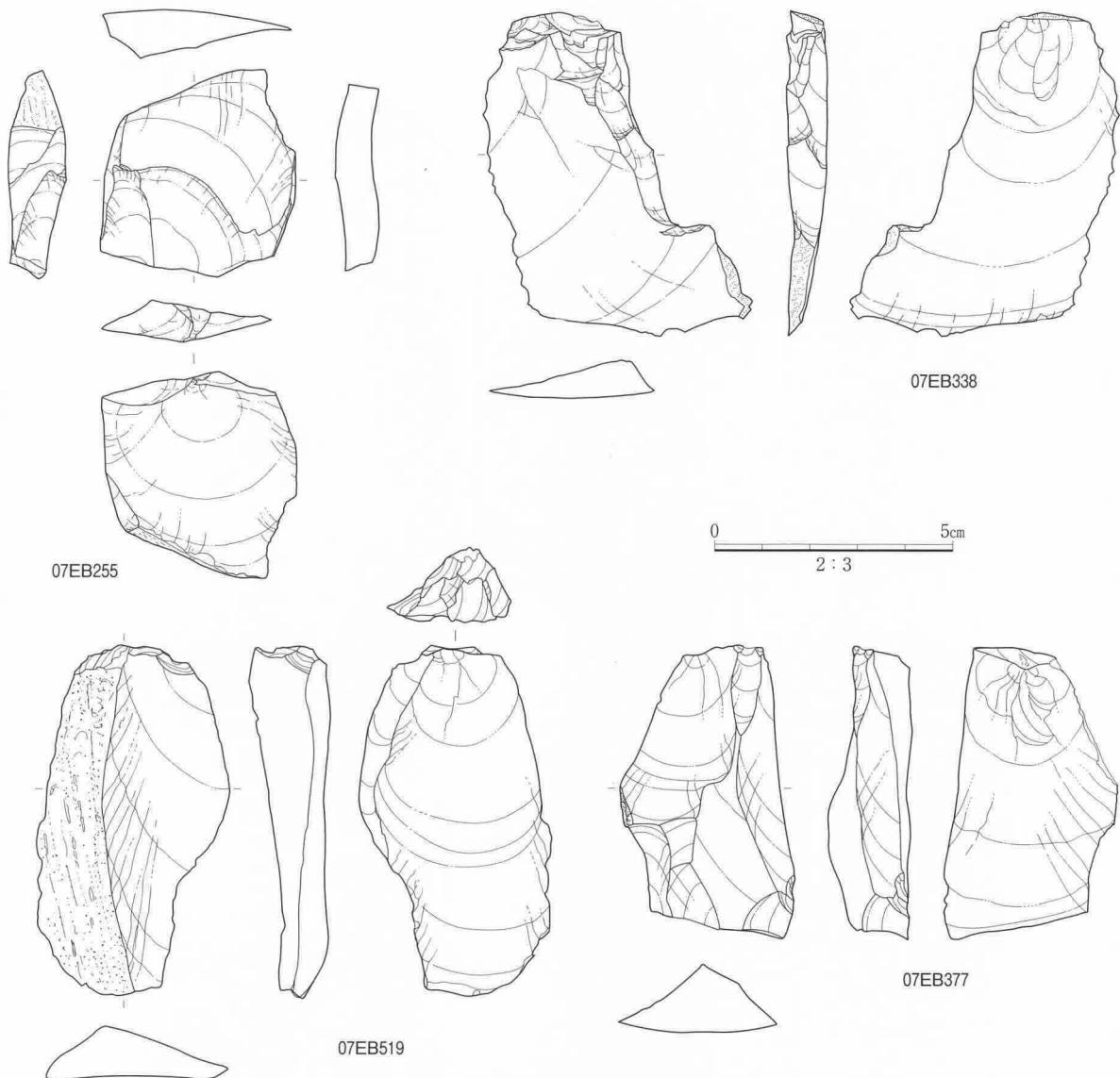


図23 LC1301・1302出土の大型剥片実測図(2)

接合資料である。07EB215がC2エ区で第13層、366がC1ソ区で第13層から出土した。やや扁平な橢円形で細長い河原石を利用している。上下両端も折損しているため、本来の形状は不明であるが、左右対称の整った形状であることから、研磨などの加工が施された可能性がある。長さ14.05cm、幅4.91cm、厚さ2.78cm、重量255.2gである。

07EB446は砂岩製の叩き石である。扁平な円礫を利用している。上下両端に敲打痕が残る。下端には敲打によって生じた剥離痕が複数面認められる。長さ13.58cm、幅4.92cm、厚さ4.0cm、重量356.0gである。

4) 剥片

i) 剥片の分布(図21~29、図版19~21)

剥片は369点が出土した(表7)。LC1301が252点、LC1302が109点である。全般的にみると両者は数量以外に大きな違いは認められないが、特に大型の剥片については分布に特徴がある(図21)。

表7 出土剥片の分類表

剥片の分類	LC1301	LC1302	所属不明	合計
石 刃	3	2		5
石刃状剥片	30	19	2	51
短形剥片	63	29	2	94
横長剥片	90	32	2	124
背部整形剥片		2		2
打面再生剥片	3	2		5
形態不明	63	23	2	88
剥片 合計	252	109	8	369

LC1302では本石器群で認められる板状剥片のほとんどが出土した。石核の素材となりうるやや横長の厚みのある剥片である。一方、LC1301から出土した大型剥片には、板状剥片が含まれないものの、石刃状剥片・短形剥片の形態であるものが目立つ。このことは両者の石器遺物集中部の形成過程や生産物が反映されているようである。すなわち、板状剥片

が多いLC1302では石器や石核の素材に利用するために板状剥片が持ち込まれたか、この場所で剥離されたものと思われる。一方、LC1301では、接合資料を中心に石刃技法関連資料が多数出土していることから、大型剥片を含めて石刃状剥片や短形剥片の比率が多いものと思われる。いずれにせよ、規模が大きいLC1301では剥片剥離作業が積極的に行われ、LC1302では搬入品と初期工程を主とする作業が行われたようである。

ii) 大型剥片(図22・23、図版19~21)

07EB109は2区において第10A1層下面の遺構であるSD1004の壁面に第13層に貼付いて出土したものである。溝内を二次移動をしている可能性があるが、出土位置はほぼ原位置に近いと判断した。出土位置はLC1302に近い。表面側に礫面を大きく残す大型の剥片である。長さ4.79cm、幅5.19cm、厚さ1.22cm、重量30.9gである。

07EB165はA 2 ス区で第12層から出土した。LC1302に属する。分厚い板状剥片である。長さ5.15cm、幅6.63cm、厚さ2.07cm、重量61.3gである。

07EB170も A 2 ス区で第13層から出土した。LC1302に属する。末端部に礫面を残す板状剥片で、剥離された原礫も大型であったとみられる。長さ6.68cm、幅8.82cm、厚さ1.67cm、重量89.8gである。

07EB171はA 2 セ区で第12層から出土した。LC1302に属する。表面に礫面を大きく残した板状剥片である。長さ6.70cm、幅7.49cm、厚さ2.24cm、重量99.9gである。

07EB184はA 2 エ区で第12層から出土した。LC1302に属する。表面右側縁に礫面をわずかに残す。長さ6.45cm、幅5.61cm、厚さ1.66cm、重量55.4gである。

07EB255はB 2 コ区で第12層から出土した。LC1302に属する。やや小振りな板状剥片である。長さ4.44cm、幅3.96cm、厚さ1.06cm、重量17.7gである。

07EB338はC 1 セ区で第13層から出土した。LC1301に属する。大型の短形剥片で長さ6.95cm、幅5.39cm、厚さ0.72cm、重量22.7gである。

07EB377はC 1 ト区で第13層から出土した。LC1301に属する。大型の短形剥片で長さ6.29cm、幅3.69cm、厚さ1.62cm、重量31.7gである。

07EB519はC 1 ケ区で第13層から出土した。LC1301に属する。大型の短形剥片で長さ7.52cm、幅4.08cm、厚さ1.21cm、重量35.0gである。

iii) 石刃・石刃状剥片(図24~26、図版20)

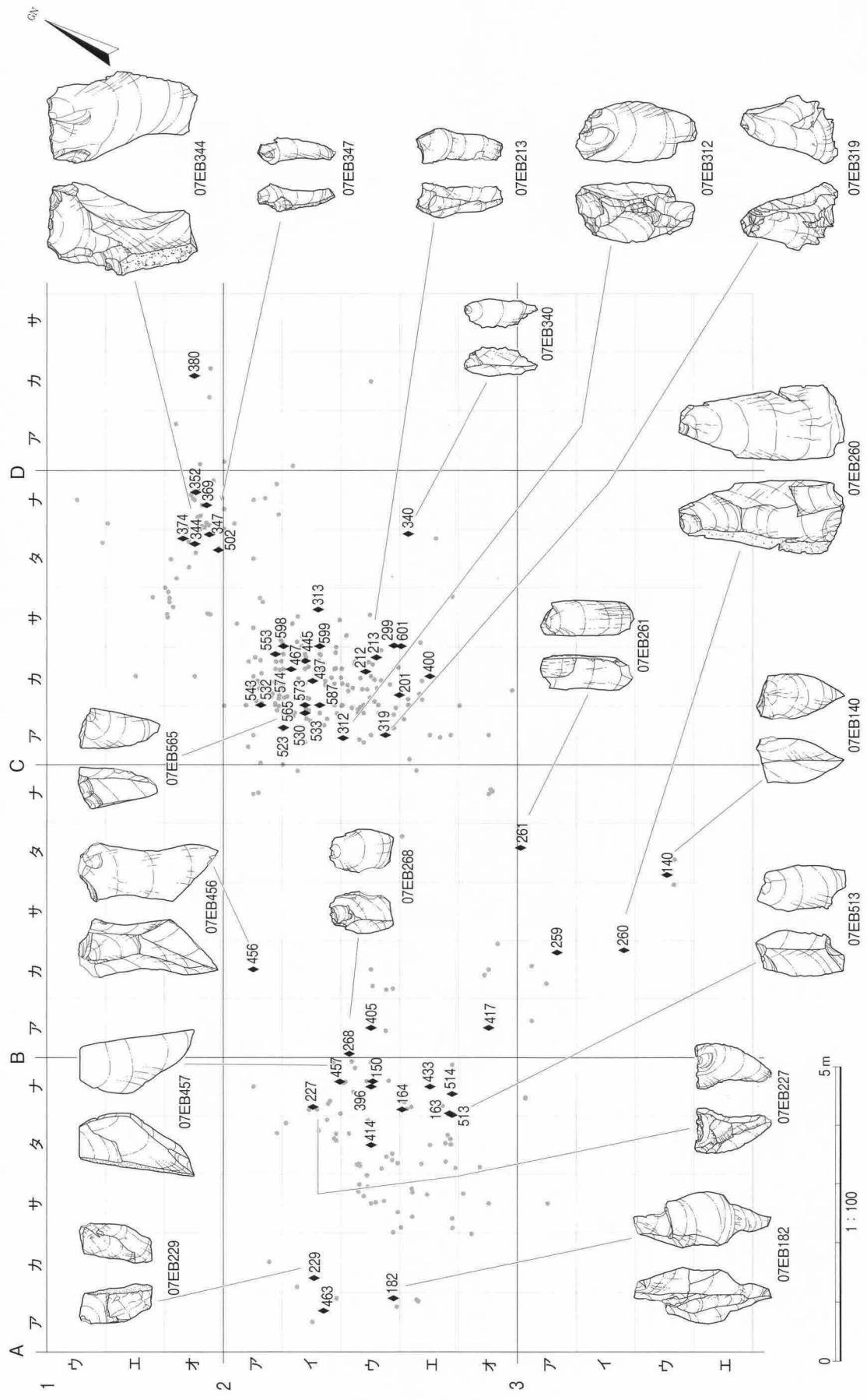


図24 石刃・石刃状剥片の分布図

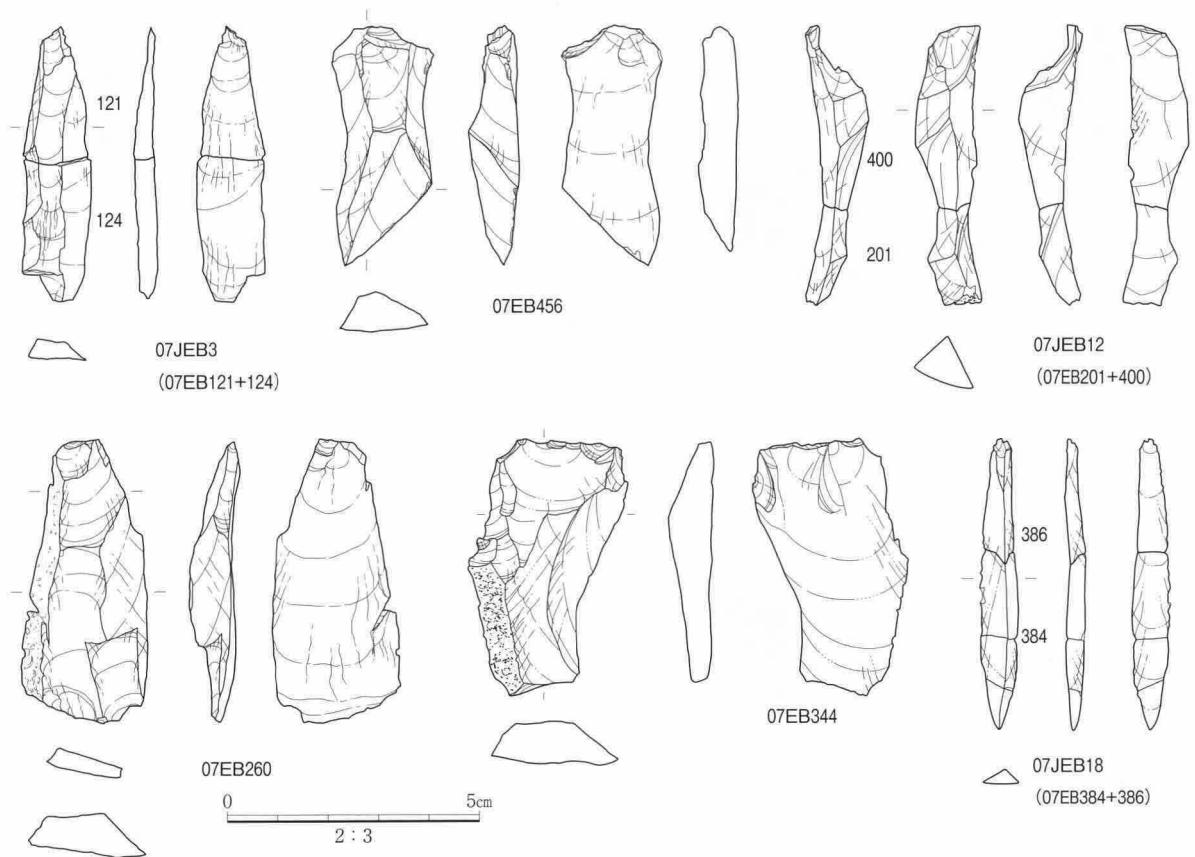


図25 LC1301・1302出土の石刃・石刃状剥片実測図(1)

石刃・石刃状剥片はLC1301・1302から石刃5点、石刃状剥片51点(所属不明の2点を含む。いずれも接合後の実数)が出土した。LC1301が石刃3点、石刃状剥片30点、LC1302が石刃2点、石刃状剥片19点である。やはり剥片剥離作業が活発に行われたLC1301の方が数量が多い。平面分布の傾向についてはLC1301・1302ともに偏りはみられない。

07JEB3(図25、原色図版2、図版21)は石刃で折れ面どうしの接合資料である。07EB121(基部側)+124(末端側)で構成される。いずれもC2シ区で第12層から出土した。LC1301に属する。長さ5.42cm、幅1.52cm、厚さ0.46cm、重量3.6gで、完形である。

07JEB12(図25、原色図版2、図版21)は石刃で折れ面どうしの接合資料である。07EB201(末端側)+400(基部側)で構成される。201はC2ク区、400はC2ケ区でいずれも第12層から出土した。LC1301に属する。長さ5.41cm、幅1.45cm、厚さ0.82cm、重量4.3gで、完形である。

07JEB18(図25、図版21)は石刃で折れ面どうしの接合資料である。07EB384(末端側)+386(基部側)で構成される。出土時に末端側384はさらに折損した状態で出土した(ただし番号は両片とも384としている)。07EB384はD2ク区、386はC1ノ区でいずれも第12層から出土した。LC1301に属する。長さ5.8cm、幅0.74cm、厚さ0.36cm、重量1.3gで、完形である。

07EB260(図25、原色図版2、図版20)は石刃である。B3キ区で第12層から出土した。LC1302に属する。やや幅広であるが、表面に打面側と末端側からの剥離痕が認められる。両設打面の石刃核から剥離されたものであろう。長さ5.68cm、幅2.59cm、厚さ0.84cm、重量10.6gで、完形である。

07EB456(図25、原色図版2、図版20)は石刃である。表面の稜線はほぼ側縁に沿っており、剥離

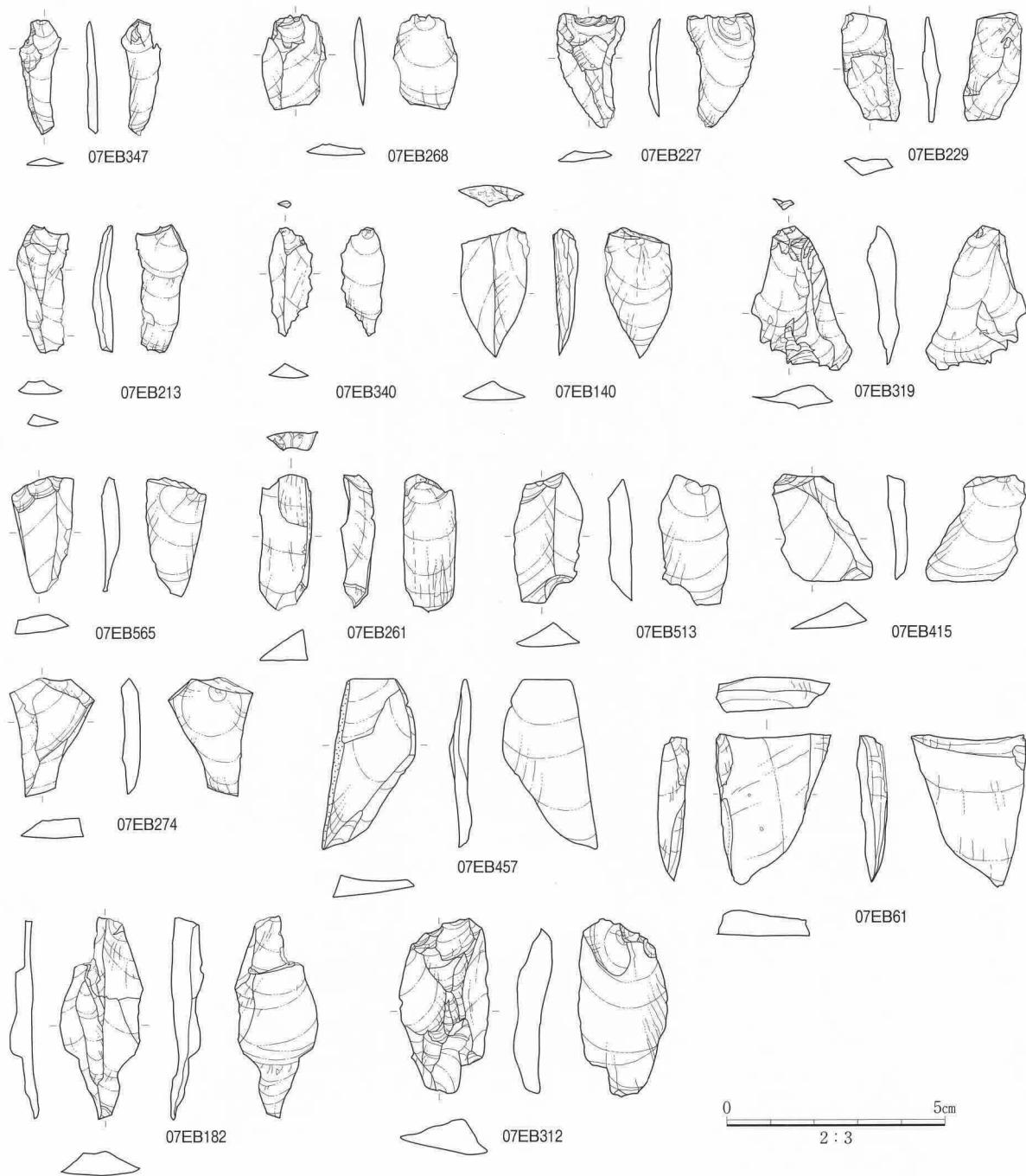


図26 LC1301・1302出土の石刃・石刃状剥片実測図(2)

痕はすべて打面側からである。B2カ区で第12層から出土した。LC1302に属する。長さ4.76cm、幅1.93cm、厚さ1.01cm、重量8.6gである。打面部を新欠によりわずかに損じている。

07EB344(図25、図版20)は石刃状剥片である。C1ト区で第13層から出土した。石刃核から剥離されたものとみられるが、石核調整がほとんど行われないため、幅広の剥片となったようである。末端はステップ・フラクチャーを起こしている。長さ5.33cm、幅2.62cm、厚さ0.86cm、重量12.1gで、完形である。

図26は、LC1301・1302から出土した石刃状剥片である。ただし、07EB274・415は石刃核から剥

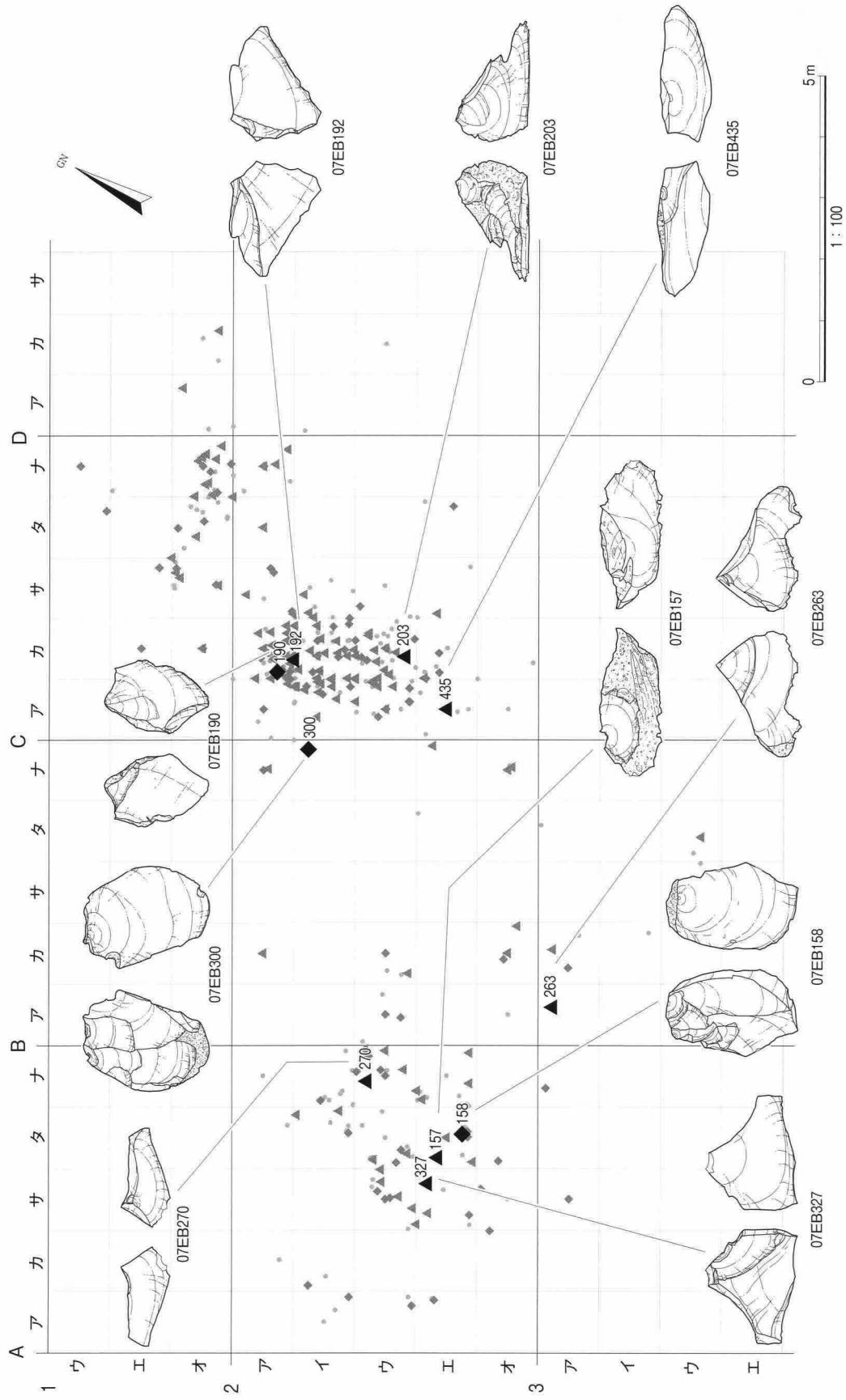


図27 横長剥片・短形剥片の分布図

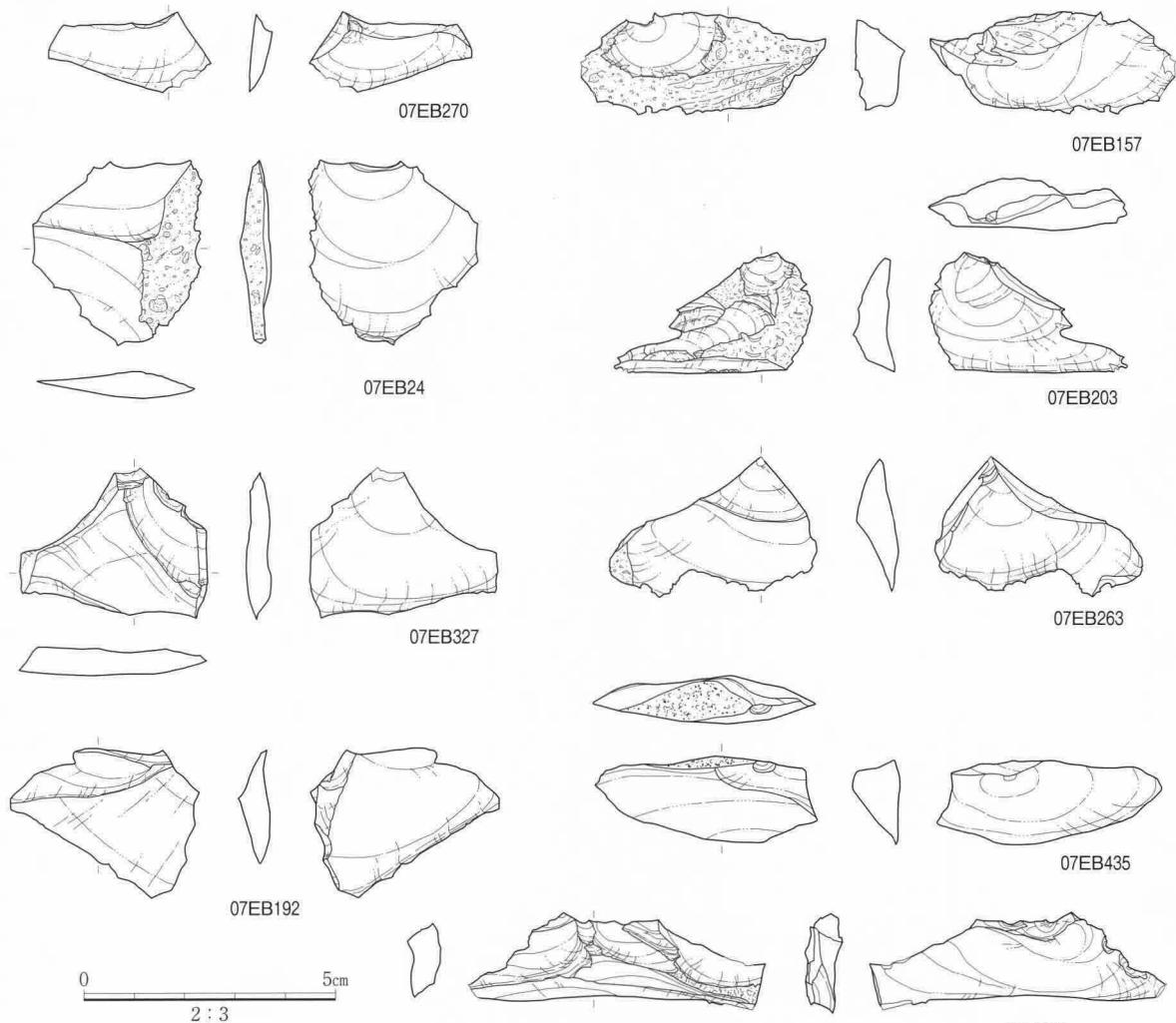


図28 LC1301・1302出土の横長剥片実測図

離されたものとみられるが、大きさから短形剥片に分類している。LC1301・1302で出土する石刃・石刃状剥片の特徴にはいくつかあるが、1つはいわゆる「備讃瀬戸型石刃技法」にみられるような板状剥片の小口面を石核作業面として狭長な石刃を剥離するタイプである。07JEB 3・JEB12・JEB18などが該当する。もう1つは石核調整をほとんど施さないまま石刃剥離を行うタイプで、この石核からは整った石刃も剥離されるが、多くは幅広の石刃状剥片や短形剥片が剥離される。出土した石刃状剥片は後者の石核から剥離されたものが大半である。また、打面再生も後者のタイプの石核に対して行われている。前者の「備讃瀬戸型石刃技法」に対して、後者はあくまでも広義の石刃技法であり、剥離される石刃は形態の整った規格的なものではなく、単なる縦長指向の剥片である。

石刃状剥片07EB213・312・319・340・347・565はLC1301から、07EB140・182・227・229・261・268・457・513はLC1302から出土した。07EB61はLC1301・1302からやや南へ離れた地点で第11層から出土した。剥片類の詳細については第IV章の出土旧石器一覧表を参考にされたい。

iv) 横長剥片・短形剥片(図27~29、図版21)

横長剥片・短形剥片の分布についてもLC1301・1302間で数量以外に大きな違いはない。ただし、横長剥片に関しては、近畿地方の後期旧石器時代に普遍的に認められる有底横長剥片はほとん

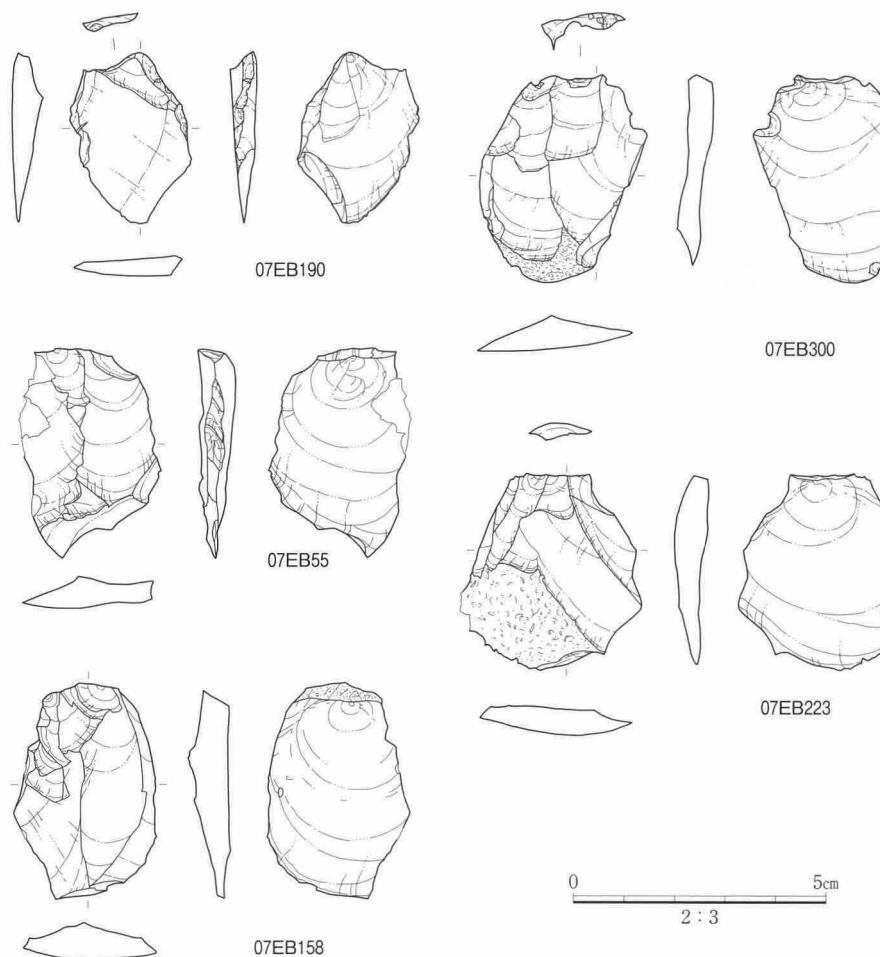


図29 LC1301・1302出土の短形剥片実測図

ど認められない。有底横長剥片は、LC1301から07EB203・388・431・435が、LC1302から07EB263・270・452が、C2区で第11層から07EB95が出土した程度である。図28に掲載したものが集中部で見つかった代表的な横長剥片であるが、有底横長剥片として07EB95・203・263・270・435を示してある。

目的的な剥片として系統的な工程で石核から剥離されたものは認められず、偶然剥離されたような印象がぬぐえない。

石器群の中で有底横長剥片を剥離した石核は07EB122・345だけである。こうしたことから、LC1301・1302では交互・並列剥離技術による有底横長剥片の剥離はほとんど行われなかつたとみられる。

短形剥片についても横長剥片と同様で、LC1301・1302間で分布の上の偏りなどは認められなかつた。この石器群では、打面再生以外に石核調整をほとんど施さない石核から石刃・石刃状剥片を剥離しているが、この石核から剥離される剥片は幅広となる場合が多く、石刃・石刃状剥片のみならず同時に短形剥片も剥離されている。図29に示した短形剥片もこうした石核から剥離されたものとみられる。07EB190・300はLC1301から、07EB158・223はLC1302から、07EB55はA2区から出土した。

5)接合資料

接合資料は20組で合計86点が接合した。接合資料の説明に当っては、文中では剥離の順序に従い、資料の間に矢印(→)を使用して新旧関係の順序を示す。ただし、単純に剥離の新旧を示すのみで、両者の間に接合の空隙となっている未検出の資料が存在する場合も両者間を矢印(→)のみで繋いでいる。



図30 接合資料07JEB 1・7・8の分布図

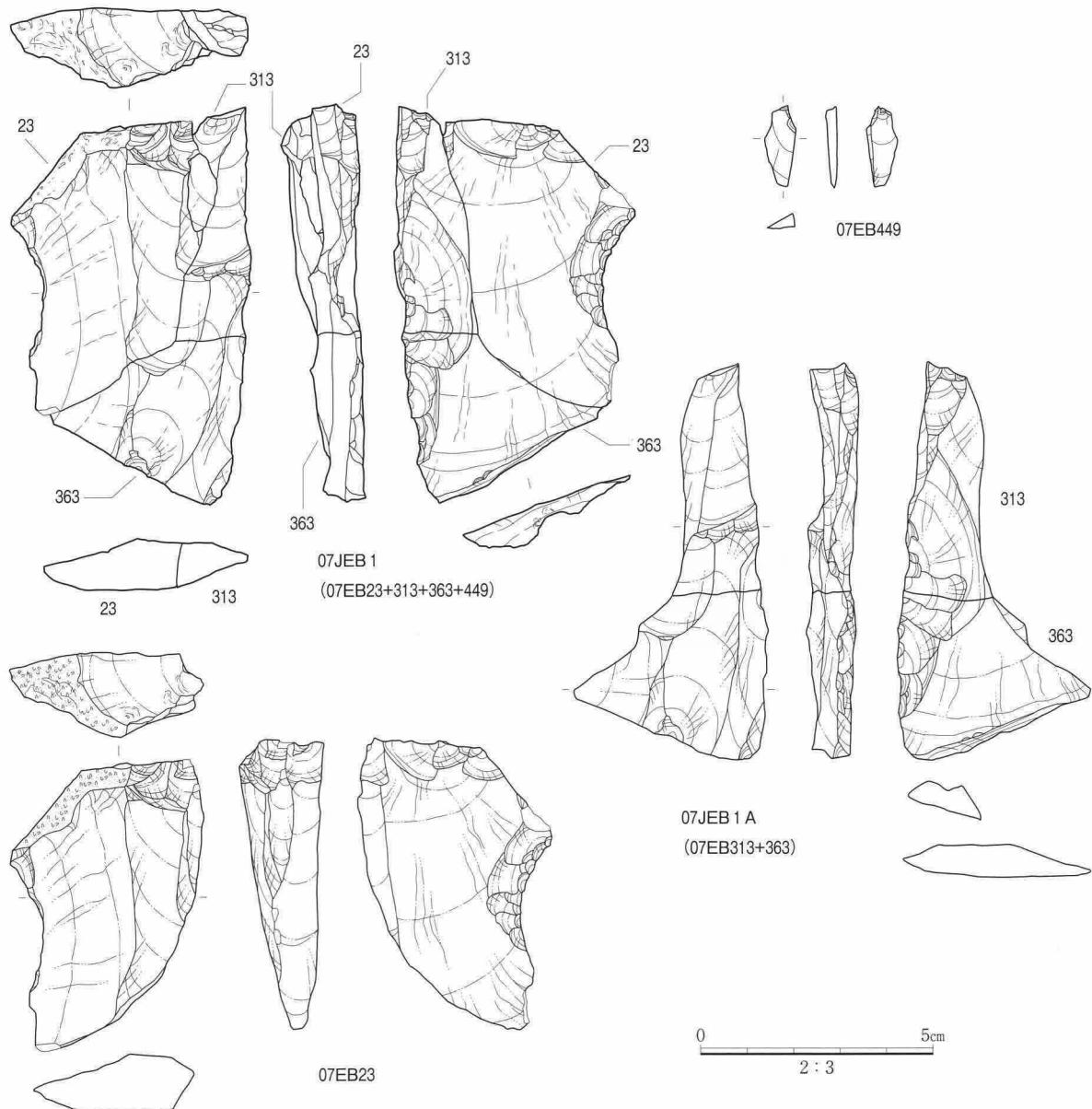


図31 接合資料07JEB 1 実測図

る。剥片などの折れ面接合の場合はプラス(+)、同時割れや同時破碎の場合はイコール(=)で表現する。

i) 石刃技法の接合資料(剥片 + 石核 : 07JEB1・7・8)

接合資料07JEB 1 (JBE 1 A (313+363)→449→23) (図30・31、原色図版2、図版21)

石核1点と剥片2点(接合点数3点)で構成される接合資料である。すべてLC1301から出土した。板状の大型剥片を利用し、その小口面を剥離作業面とした備讃瀬戸型石刃技法[佐藤1987]による石核である。剥離作業面は側縁から若干の石核調整が行われている。これは石刃の剥離に先行して稜線を直線状に整えておくためである。この後、板状剥片の短辺側の小口を打面に石刃の剥離が行われている。石刃の剥離は数回行われたが、剥離作業面は小口面から側方へ拡がっている。この際には石核調整も行われず、剥離された石刃も幅広になっている。また、途中で打面を180°転位して両設打面としている。剥離が進行するにつれて、ヒンジ・フラクチャーが頻発するようになったようで、小口面に沿つ

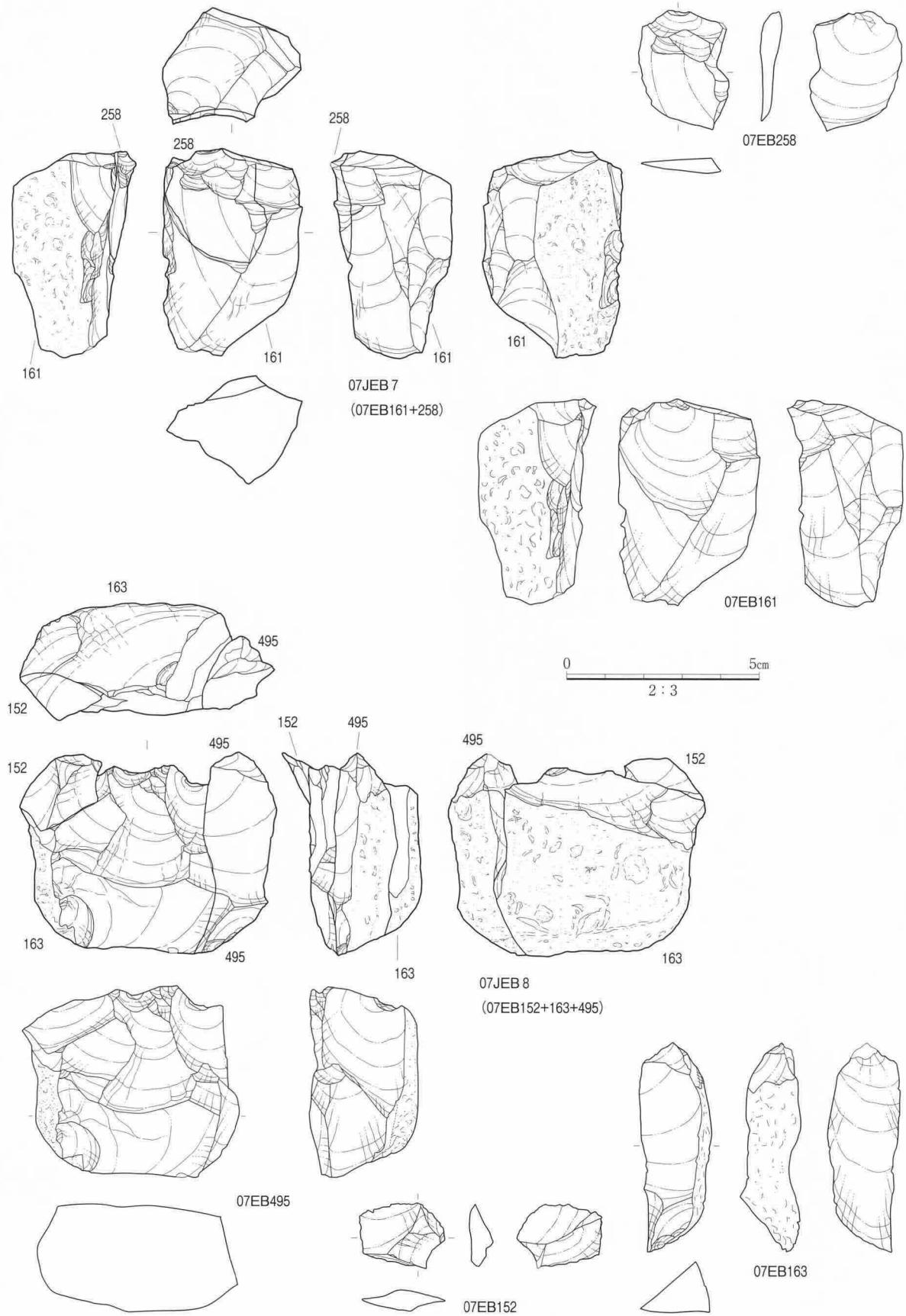


図32 接合資料07JEB 7・8実測図

た厚手の石刃を剥離することで剥離作業面の再生を試みており、この剥離が石刃状剥片07JEB1A (07EB313+363)の剥離であった。ところがこの剥離は失敗して、07JEB1Aは大きくウートラ・パッセを起こしている。この後、打面縁の調整が行われ、その過程で小型の短形剥片07EB449が剥離されている。最終的にこれ以上の剥離は行われず、石刃核07EB23は遺棄されている。

接合資料07JEB7(258→161) (図30・32、図版19)

石核1点と剥片1点で構成される接合資料である。LC1302から出土した。石刃核07EB161は原礫の分割片を石核としたものである。石刃の剥離に先行する石核調整はほとんど行われていない。もとの分割片の平坦な剥離面を打面としており、石刃が数回剥離されている。この石刃は未検出である。石核の状態からみて、石刃の末端はヒンジ・フラクチャーやウートラ・パッセを起こしたものと思われる。この後、打面に剥離が加えられているが、剥離作業面を側方へ移動させるための調整剥離とみられる。次に短形剥片07EB258が剥離され、石核07EB161はそのまま遺棄されている。

接合資料07JEB8(152→163→495) (図30・32、図版22)

石核1点と剥片2点で構成される接合資料である。LC1302から出土した。厳密には石刃技法の石核ではないが、剥離技術はほかの石核と同一であるので石刃核として説明しておく。石刃核07EB495は原礫の分割片を石核としたものである。剥離作業面と打面は分割片の広い平坦な剥離面がそのまま利用されている。剥片剥離に先行する石核調整は行われていない。最初に数枚の剥片が剥離されている。これは剥離作業面を整えるための剥離であったかもしれない。この段階で横長剥片07EB152が剥離されている。次に剥離作業面は側方へ移動し、石刃状剥片07EB163が剥離されている。この部分から連続的に石刃・石刃状剥片の剥離を試みたようであるが、続けて行われた剥離は強いヒンジ・フラクチャーを起こしてしまい、石核07EB495はそのまま遺棄されている。

ii) 石刃技法の接合資料(剥片+剥片: 07JEB16・17・19)

接合資料07JEB16(369→503=425→385→444) (図33・34、図版21)

剥片5点で構成される接合資料である。すべてLC1301から出土した。石核は未検出であるが、ほかの例と同様、原礫の分割片をそのまま利用したものであろう。最初に剥離作業面に稜線を形成する細長い剥離が数回行われ、次に石刃状剥片07EB369が剥離されている。この段階で、剥離作業面と打面の角度が直角近くになったため、打撃角度の調整を目的とした剥離が作業面側から打面に対し行われた。すなわち、打面再生剥片07EB503が剥離された。この際、この剥片の末端部分に潜在割れがあり、同時に横長剥片07EB425も剥離している。新しくなった打面からは、短形剥片07EB385・444が剥離された。これ以上の剥離も行われたとみられるが、未検出であり詳細は不明である。

接合資料07JEB17(374→380) (図33・35、図版21)

剥片2点で構成される接合資料である。LC1301から出土した。石核は未検出であり、残された剥片からは詳細は窺えない。石刃状剥片07EB374が先行して、同じ打面からごく短い剥片が剥離されている。続いて07EB374が剥離されているが、この剥片は石刃の稜線を整えるための調整剥片であったかもしれない。次に石刃状剥片07EB380が剥離されているが、これ以外の剥片は未検出であるため、詳細は不明である。

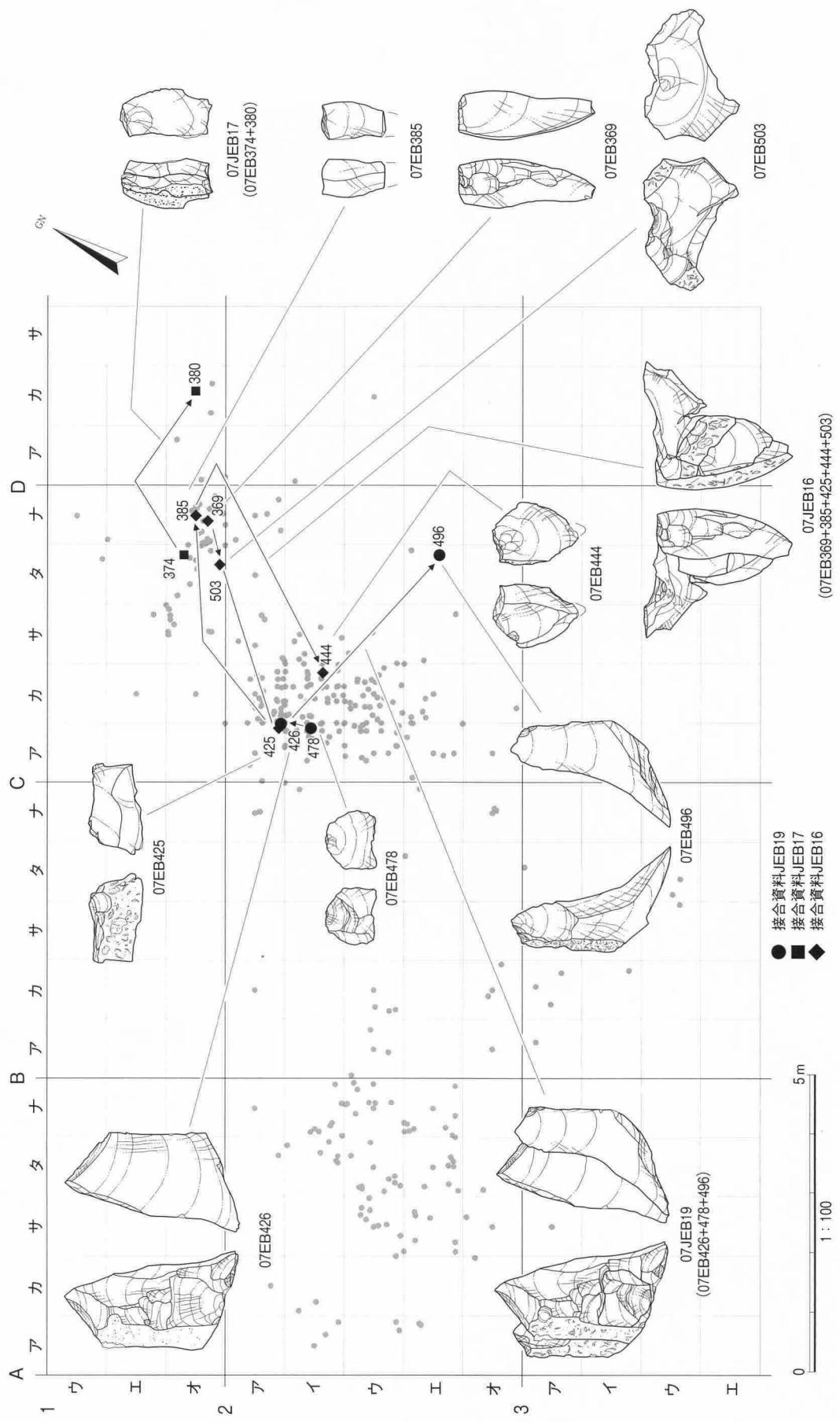


図33 接合資料07JEB16・17・19の分布図

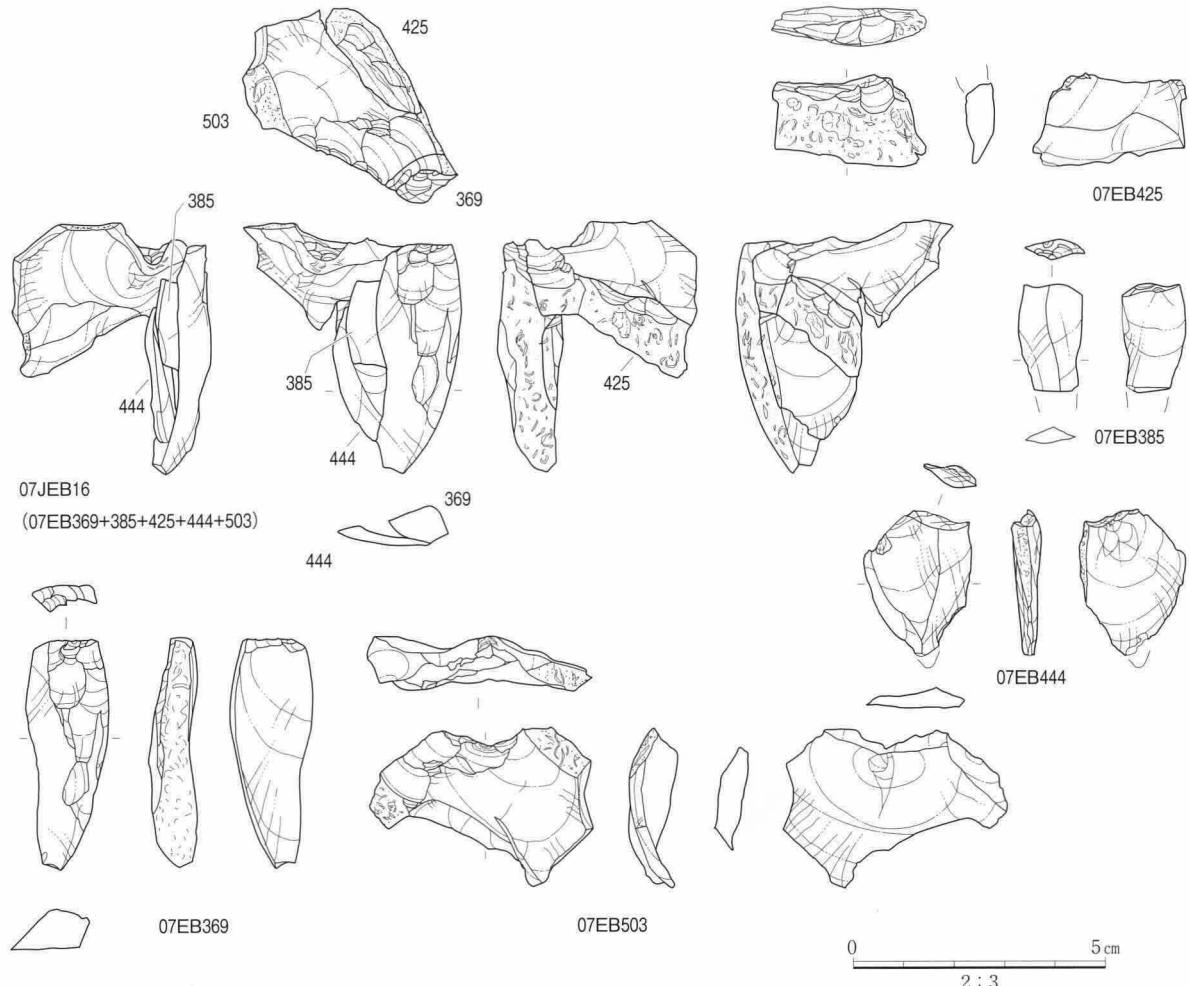


図34 接合資料07JEB16実測図

接合資料07JEB19(478→426→496) (図33・35、図版21)

剥片3点の接合資料である。すべてLC1301から出土した。石核は未検出である。石核は原礫を分割した厚手の剥片あるいは残核を利用したものとみられる。最初に打面調整が施され、薄い小さな剥離が打面に行われた後、その打面から数枚の石刃状剥片や横長剥片07EB478が剥離されている。この後、打面が180°転位している。転位した打面からは短形剥片07EB426・496が剥離されたが、ほかにも石刃または石刃状剥片が剥離されたようである。07EB426・496は打面側を折損しているため、転位した打面の状況については不明である。

iii) 短形剥片の接合資料(剥片+剥片: 07JEB 9)

接合資料07JEB 9 (556→316→576→427→447→JEB 9 A (193+198)→532→546→348→506→JEB 9 B (401+465)→489=524→428) (図36~38、図版22)

剥片14点(接合点数16点)で構成される接合資料である。すべてLC1301から出土した。石核は未検出である。連続して短形剥片・横長剥片が剥離されているが、これらに先行して石刃状剥片が剥離されている。ほかの接合資料と同様、石核調整をほとんど行わず石刃状剥片や短形剥片・横長剥片が剥離されたものと思われる。原礫を分割した際の残核を石核に用いている。剥片剥離に先行して打面に若干の剥離を加えて調整をしている。その後数回の剥離により、石刃状剥片を剥離している。こ

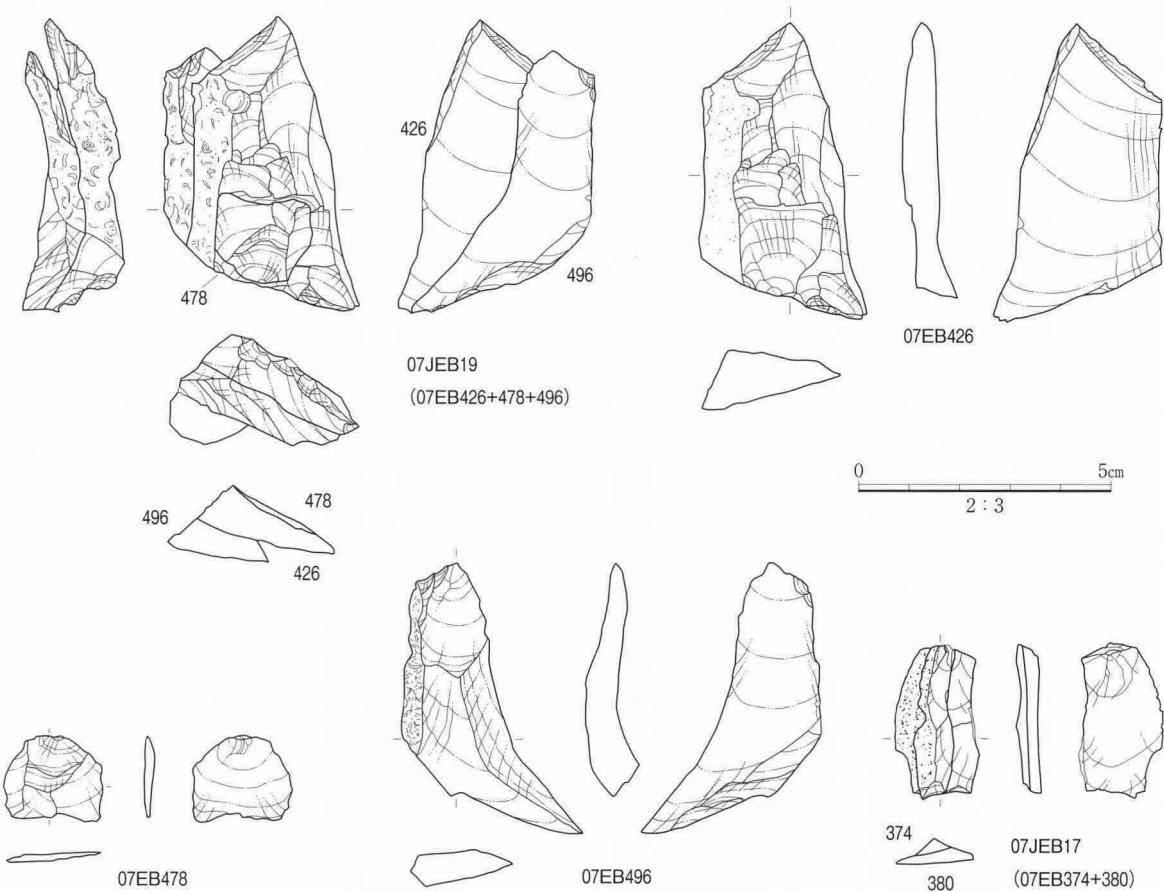


図35 接合資料07JEB17・19実測図

これらの石刃状剥片は未検出であるが、背面の大半に礫面を残したものと思われる。次に、打面を側方に90°転移をしている。この打面から、接合資料を構成する剥片群が剥離されている。最初に短形剥片07EB556が剥離されている。続いて剥片を連続的に剥離している。横長剥片07EB316、短形剥片07EB576・427をはじめ、複数の剥片が剥離されている。07EB427の剥離はウートラ・パッセを起こしている。次に、これらの剥片を剥離した作業面を打面に入れ替えて、数枚の剥離が剥離されている。短形剥片07EB427はこの段階で剥離されたものである。この後、再びもとの打面から剥片剥離が続けられている。横長剥片JEB 9 A (07EB193+198)、石刃状剥片07EB532、短形剥片07EB546、横長剥片07EB348、剥片07EB506、短形剥片JEB 9 B (07EB401+465)・489、横長剥片07EB428が剥離されている。なお、07EB489の剥離時には潜在割れを起こしていた剥片07EB524が同時破碎している。剥離は連続して行われたものの、不定形な剥片が多く、目的的な剥片の取得には至らなかつたようである。

iv) その他の接合資料

接合資料07JEB 2 (236→JEB 2 A (94+207)→134) (図39・40、図版22)

剥片3点(接合点数4点)で構成される接合資料である。07EB236はLC1302、それ以外はLC1301に属する。横長剥片07EB236、横長剥片07JEB 2 A (94+207)、横長剥片07EB134の順で剥離される。原礫を分割した石核から剥離されたもので、各剥片の背面には礫面が大きく残されている。打面は礫が分割された際に生じた平坦な剥離面で、同打面から連続して剥離が進められている。

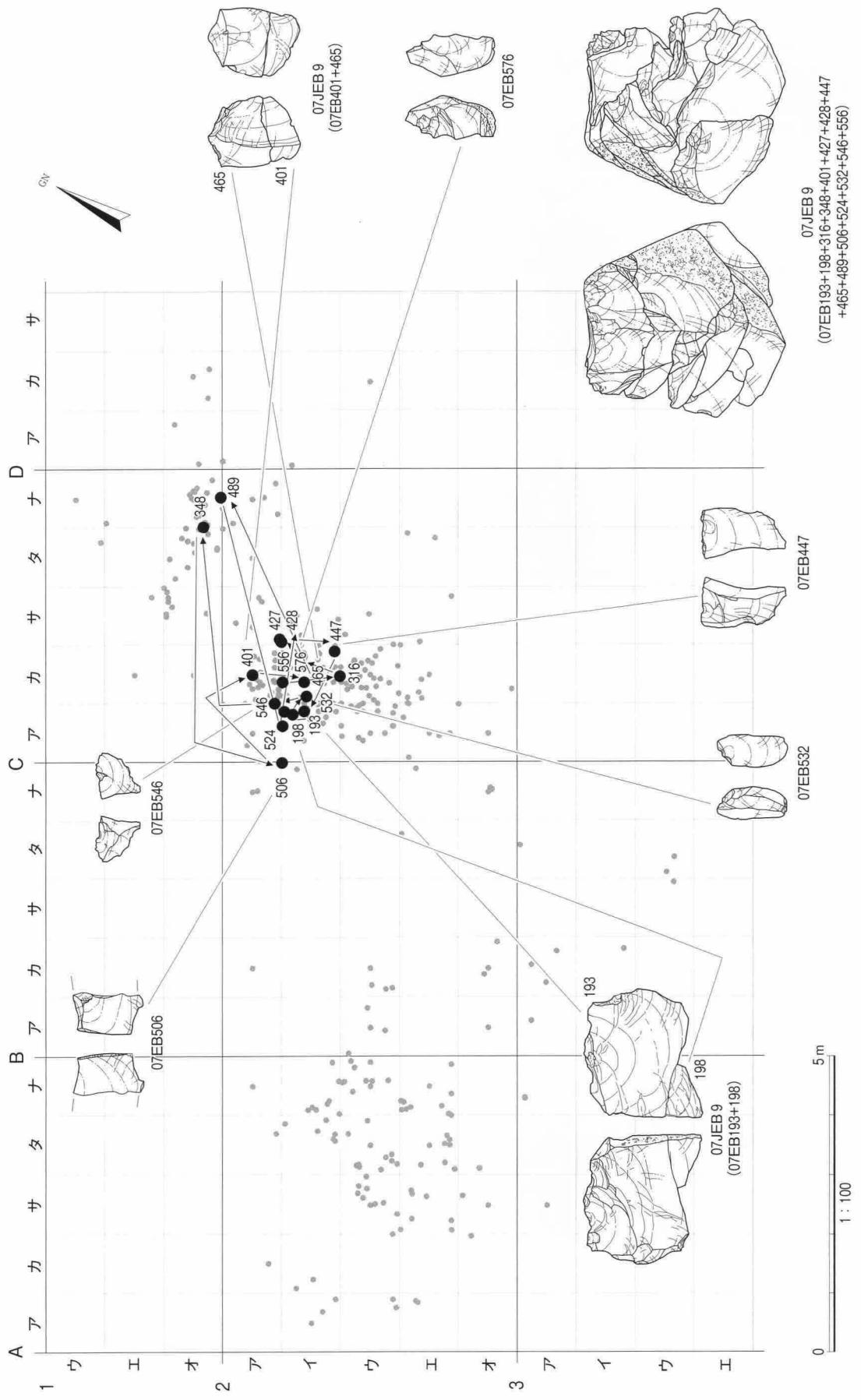


図36 接合資料07JEB9の分布図

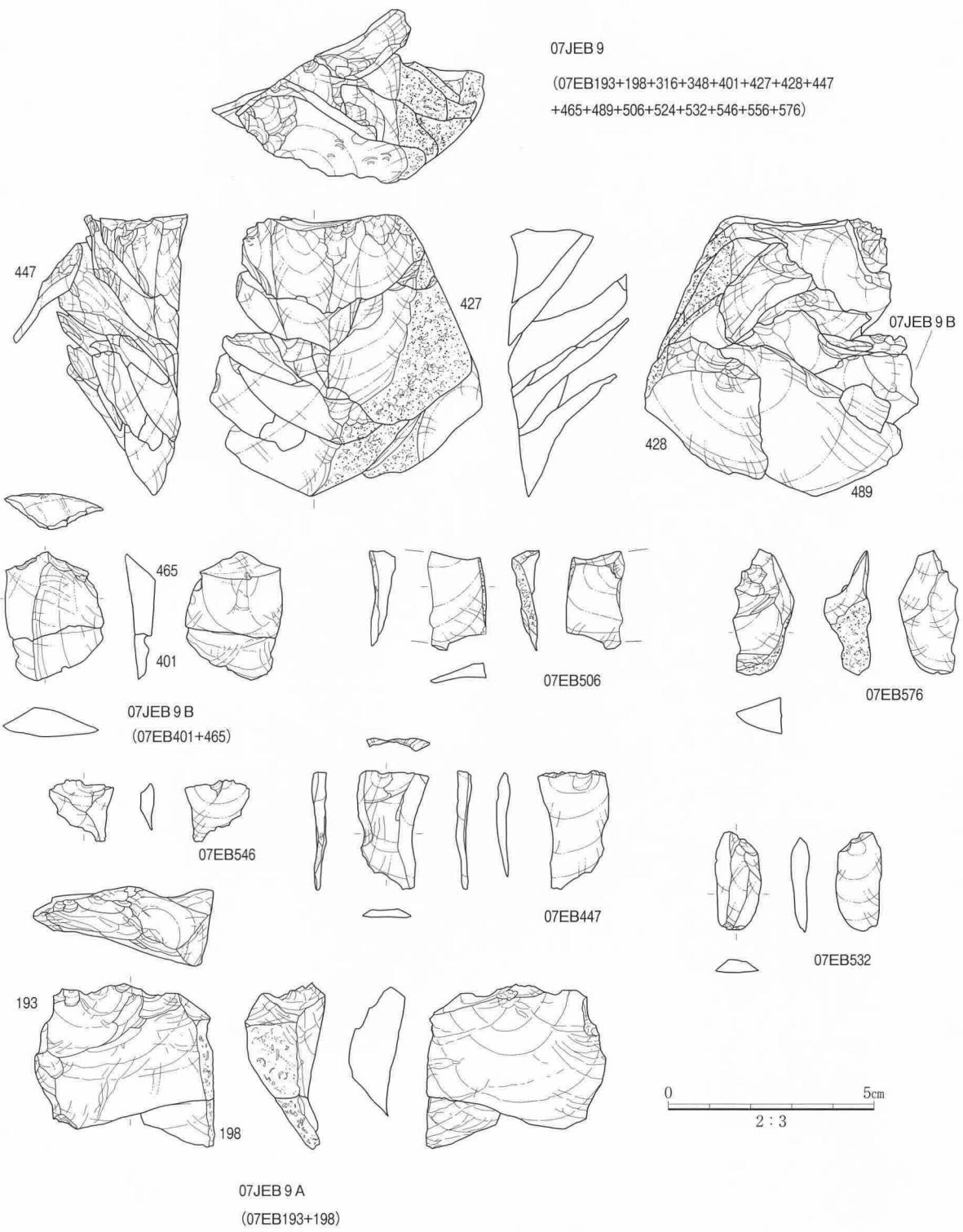


図37 接合資料07JEB 9 実測図(1)

接合資料07JEB 4 (146=150) (図39・40、図版22)

剥片2点で構成される接合資料である。LC1302に属する。潜在割れを起こしていた横長剥片07EB146と石刃状剥片07EB150が剥離される際に同時割れを起こしたものである。

接合資料07JEB 6 (233→JEB 6 A (159+160+174) =180) (図39・40、図版21)

2点の剥片(接合点数4点)で構成される接合資料である。LC1302に属する。短形剥片07EB233・

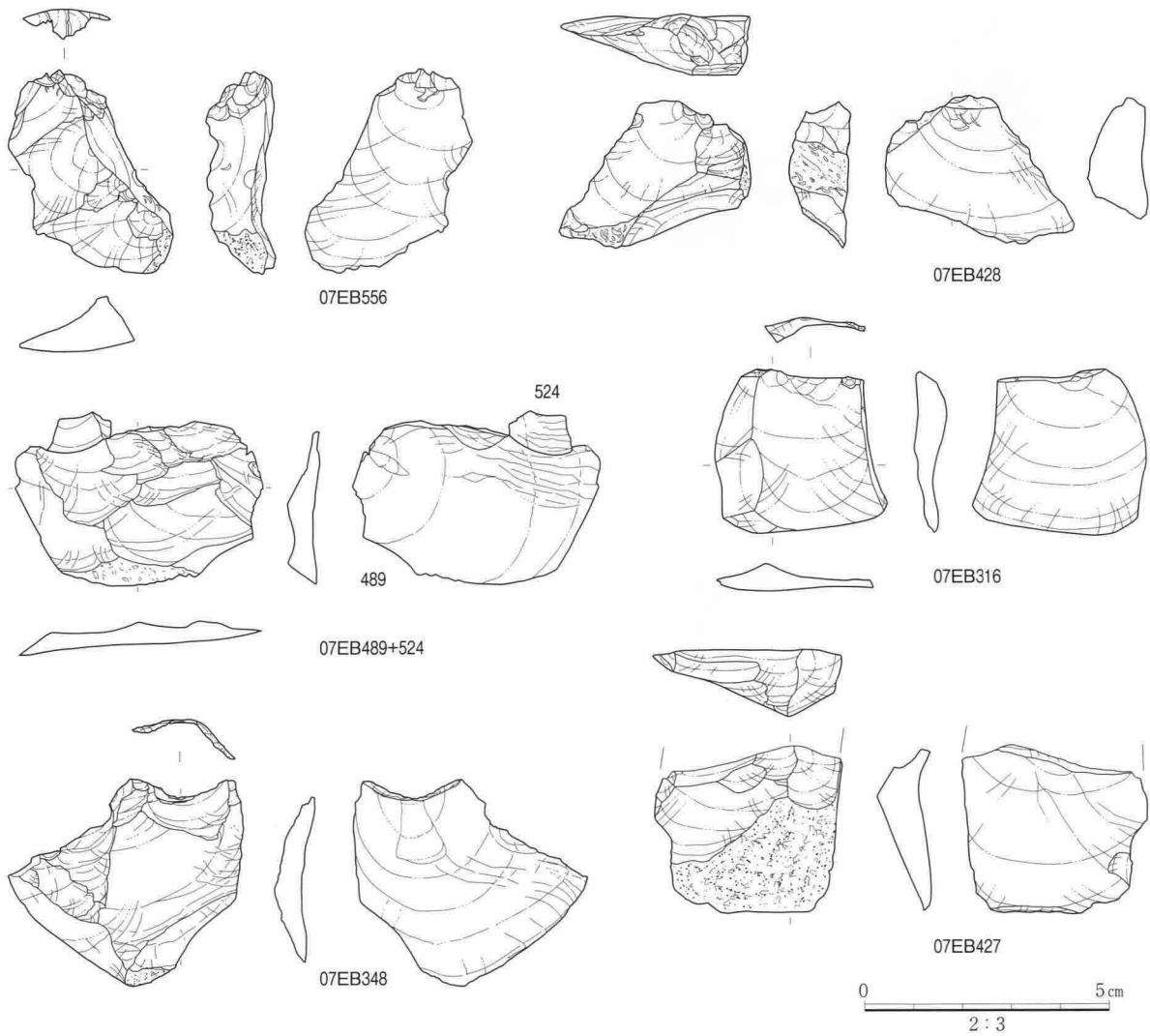


図38 接合資料07JEB 9 実測図(2)

短形剥片JEB 6 A (159+160+174)、横長剥片07EB180の順で剥離されるが、180は07JEB 6 Aと同時破碎を起こしたものである。原礫を分割した石核から石核調整を施すことなく剥離された剥片で、いずれも背面に礫面を残している。

接合資料07JEB10(480=JEB10A (194+293)→365=JEB10B (412+499)) (図39・40、図版23)

4点の剥片(接合点数6点)で構成される接合資料である。LC1301に属する。短形剥片07EB480と短形剥片JEB10A (194+293)が同時割れ、続いて大型の横長剥片07EB365が剥離された際、潜在割れによりJEB10B (412+499)も同時に剥がれている。剥片剥離の初期段階の剥片とみられ、剥片の背面の大半が礫面である。

接合資料07JEB22(138→189) (図39・40、図版22)

2点の剥片で構成される接合資料である。LC1301に属する。07EB138、189の順で剥離されている。折損部位が大きく、との剥片形状は不明である。

接合資料07JEB11(JEB11A (479+493)→199) (図39・41、図版22)

2点の剥片(接合点数3点)で構成される接合資料である。LC1301に属する。横長剥片07JEB11A

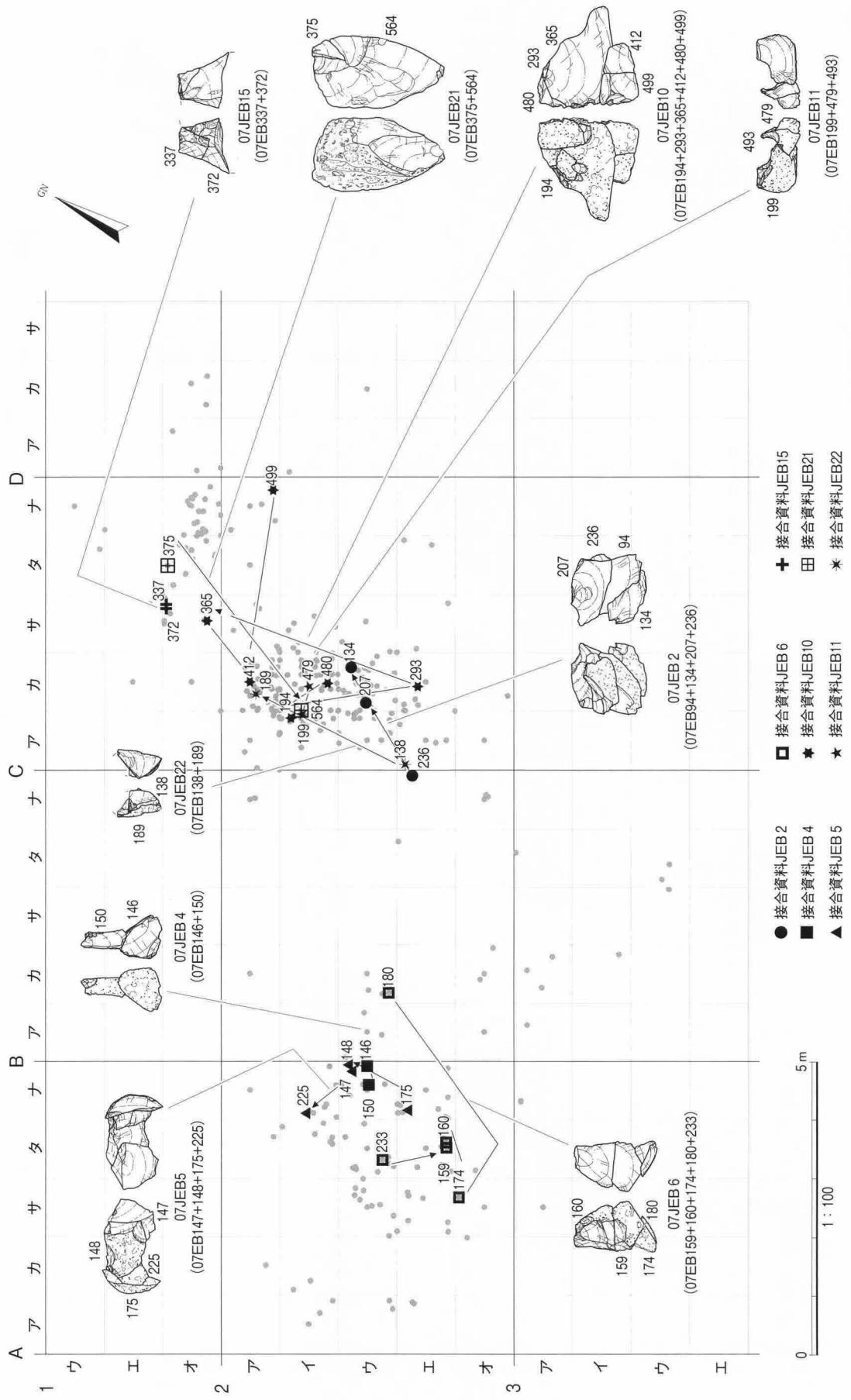


図39 その他の接合資料の分布図

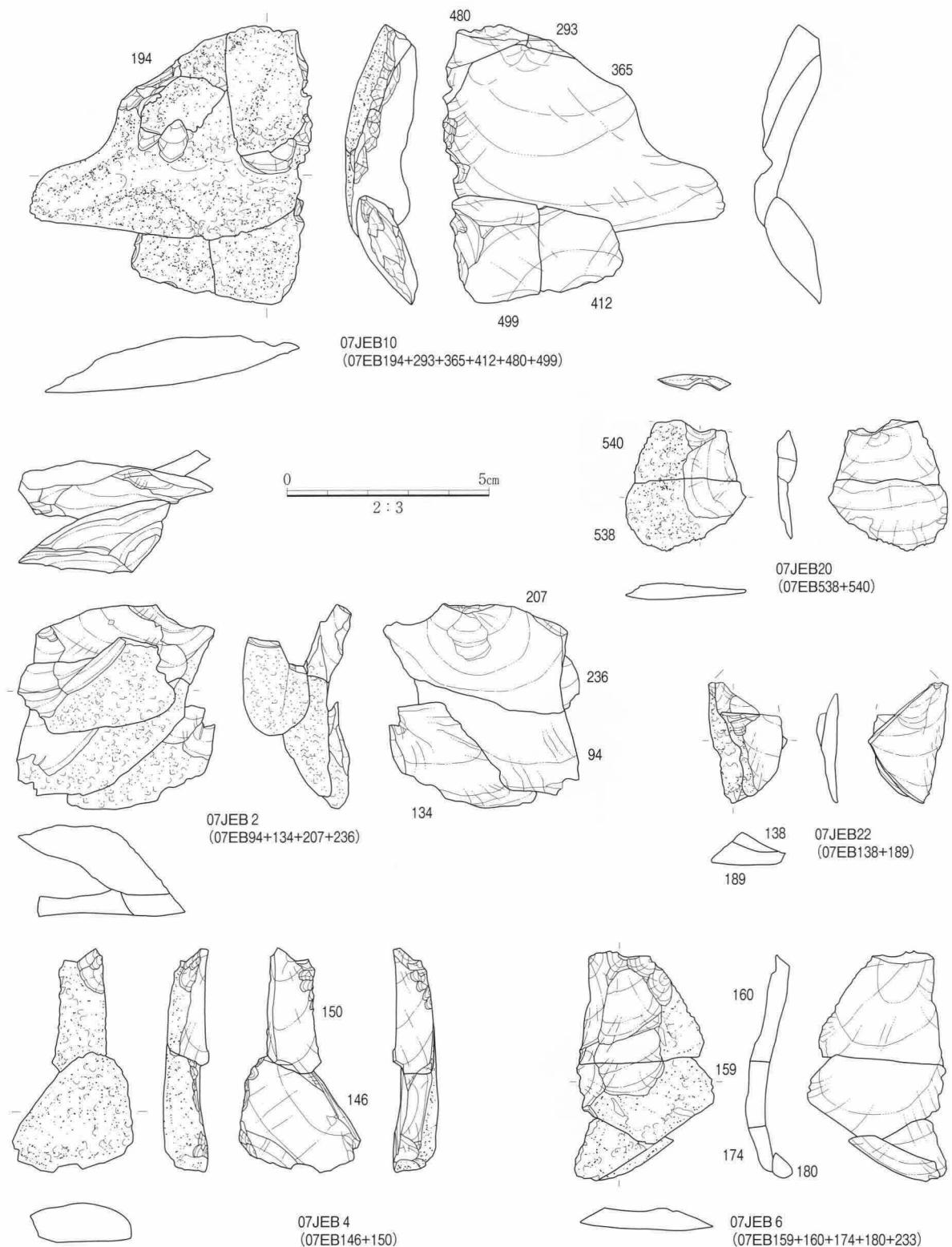


図40 接合資料07JEB 2・4・6・10・20・22実測図

(479+493)、横長剥片07EB199の順で剥離されている。剥片背面の大半に礫面が残されており、ほかの資料と同じように原礫を分割した石核から初期段階に剥離された剥片とみられる。

接合資料07JEB 5 (175→148→147→225) (図39・41、図版22)

4点の剥片で構成される接合資料である。LC1302に属する。剥片07EB175、横長剥片07EB148、

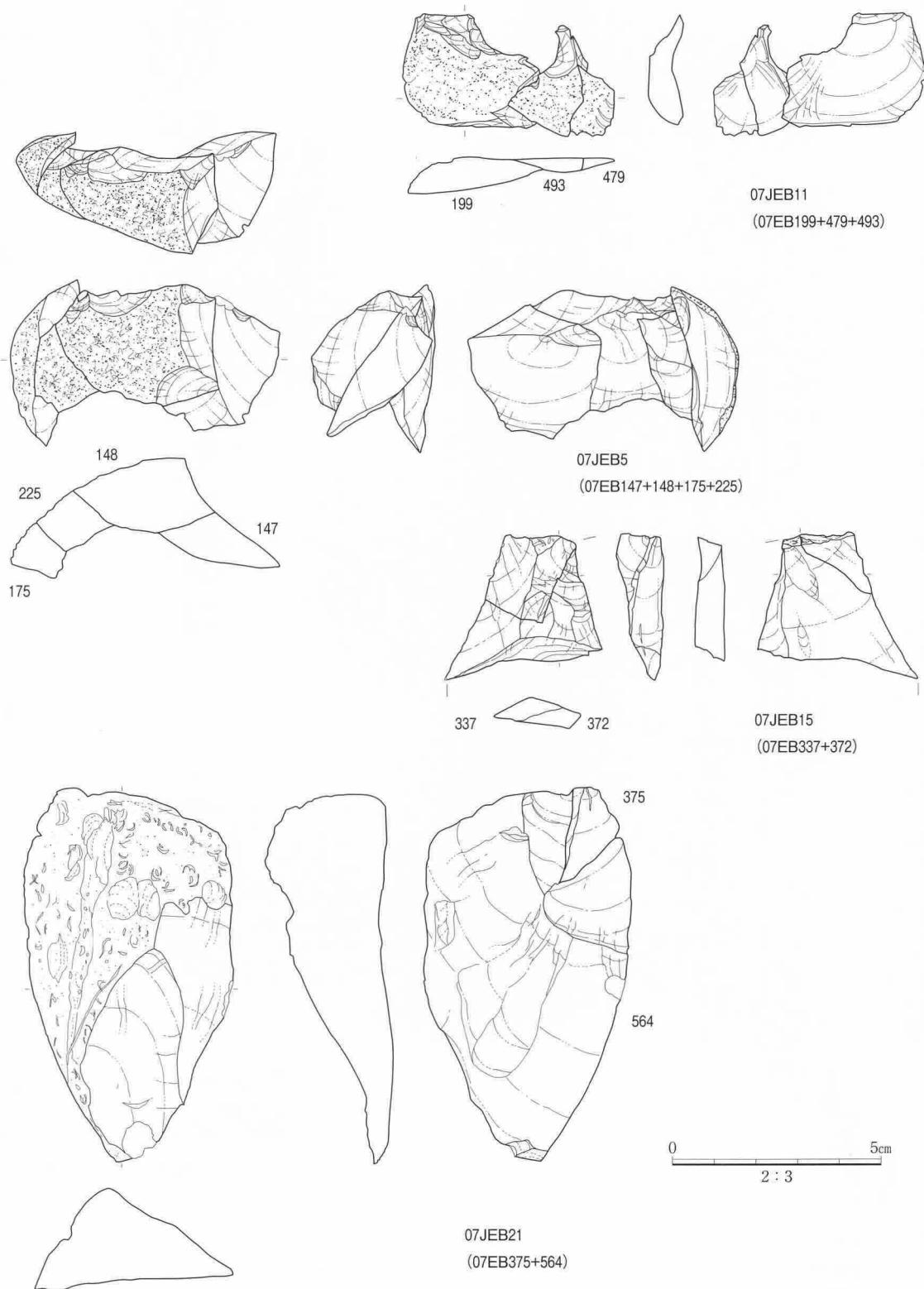


図41 接合資料07JEB5・11・15・21実測図

短形剥片07EB147、短形剥片07EB225の順で剥離される。分割した礫片を石核としており、石核調整を行わずやや厚手の剥片を連続して剥離している。各剥片とも背面などに礫面を残しており、石核から初期段階に剥離された剥片である。

接合資料07EB15(337=372) (図39・41、図版22)

剥片 2 点で構成される接合資料である。LC1301に属する。短形剥片07EB372の剥離時に短形剥片07EB337が同じ打点から同時割れを起こしたものである。

接合資料07JEB20(538+540) (図39・40、図版22)

剥片の折れ面接合である。

接合資料07JEB21(375→564) (図39・41、図版23)

石核 1 点と剥片 1 点で構成される接合資料である。LC1301に属する。石核07EB564から短形剥片07EB375が剥離されている。石核07EB564は原礫から剥離された分厚い剥片で、主剥離面側を剥離作業面として利用している。打面側から数回の剥離が行われている。

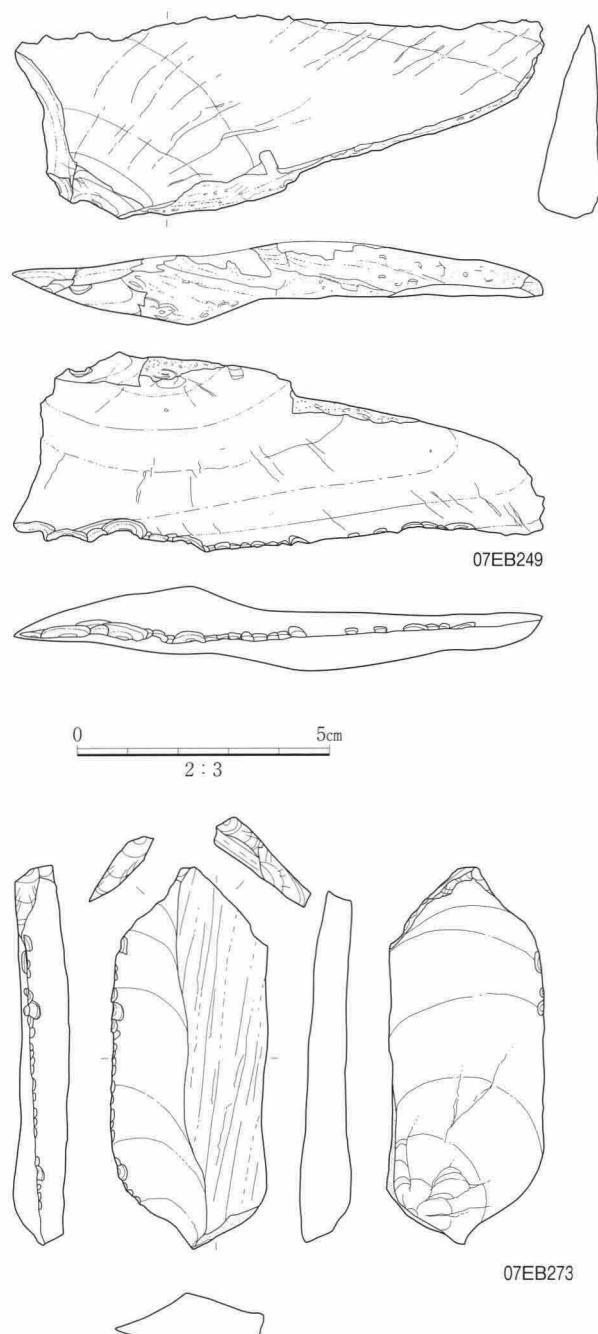


図42 I 区中央部出土の削器・彫器実測図

6) I 区中央部の石器遺物分布の概要

I 区中央部では第11層がやや厚く堆積した場所があり、下位層の第12層を下方浸食していたため、縄文時代の石器遺物と旧石器時代の遺物が混在した状況で出土した。石器遺物は多くが第11、12層とそこから派生したクラック中から出土した。第11層からは石鏃 8 点、剥片 1 点、礫 15 点が出土し、第12層からは削器 1 点、彫器 1 点、剥片 9 点、碎片 1 点が出土した。石鏃 1 点・彫器 1 点がチャート製である以外は、礫を除きすべてサヌカイト製である。礫はチャート 4 点、花崗岩 1 点、花崗斑岩 1 点、砂岩 5 点で構成される。

全体としてまばらに石器遺物が散布する状況が認められた。ほかに集中部とその周辺を含めて、部分的な水洗篩別を行い、C10ア区を中心に248点の微細石器遺物(B9ノ区87点、C10ア区105点、C10ウ区43点、C10キ区13点)が捕集された。すべて第12層から出土したものである。もとはごく小規模な石器遺物集中部があったかも知れないが、後世の擾乱により明確な遺構として石器遺物集中部を認定することはできなかった。

I 区中央部からは旧石器時代の石器としてサヌカイト製削器とチャート製彫器が出土し

た。出土層準はいずれも第12層であり、LC1301・1302との共伴は不明である。

07EB273(図42、図版23)は石刃を素材としたチャート製の彫器である。石刃を素材とする。礫面打面であり、打面はそのまま残されている。表面には主剥離面と同方向の剥離痕が1面認められ、右半分は節理面で剥離している。また、表面左側縁は微細な剥離痕が連続して認められ、刃部として利用されたものであろう。彫刀面は末端側に設けられ、左右から樋状剥離が1回ずつ行われている。長さ7.63cm、幅3.28cm、厚さ0.89cm、重量29.5gで、完形である。

07EB249(図42、図版23)は横長剥片を素材とした横型削器である。表面は素材剥片の平坦な剥離面で構成される。礫面打面である。背部は打面側の礫面をそのまま利用し、末端の縁部を直線的に表面側から主剥離面側に向かって微細な細部調整が直線的に施されている。第12層出土であるため旧石器としたが、旧石器時代にはあまり見られない形態の削器である。縄文時代の石器がクラックなどの影響で下位層に混入したものかもしれない。長さ3.87cm、幅10.50cm、厚さ1.22cm、重量41.5gで、ほぼ完形である。

第3節 I 区の調査成果(縄文時代以降)

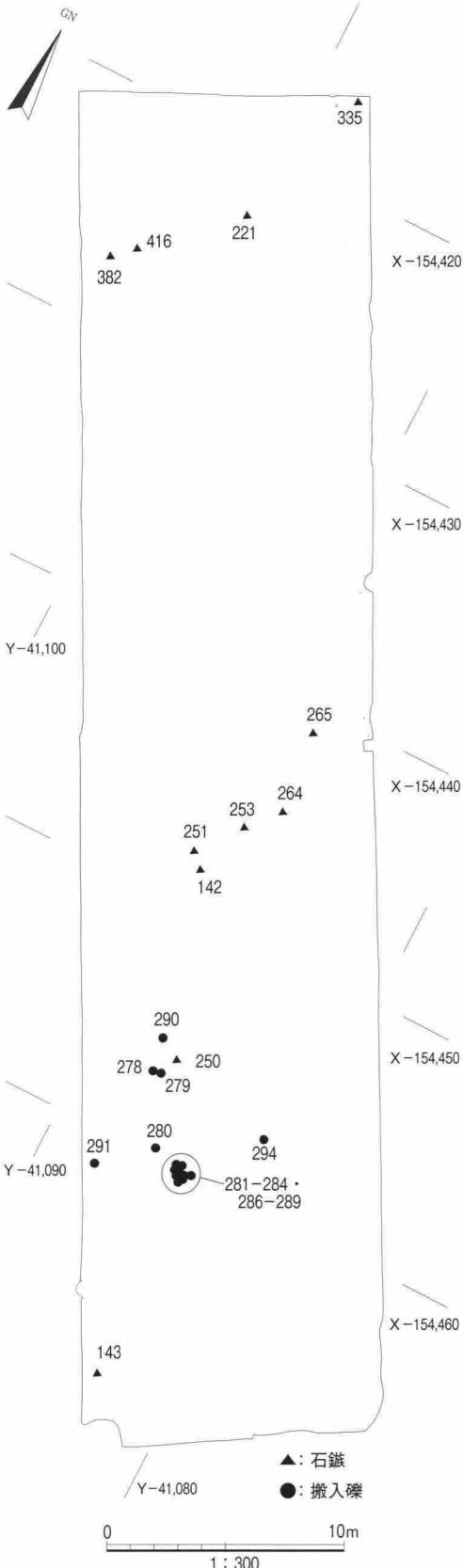


図43 I 区出土の縄文時代の石器遺物分布図

1) 縄文時代の石器遺物

i) 石器遺物の出土状況(図43)

I 区では、おもに中央部において縄文時代の石鎌を中心とした石器遺物が出土した。ただし、中央部では旧石器時代の石器類も出土しており、石鎌の分布も広い範囲に散漫に出土していたことから、複数時期のものが混在した状態であったと考えられる。また、中央部では第11層からの搬入品とみられる小礫が出土した。

中央部で出土した礫は、大きなもので拳大程度である。B10工区を中心に15点の礫が出土した(表8)。石材はチャート、花崗岩、花崗斑岩、砂岩である。集石構造を形成していた可能性があるが、礫の構成点数が少なく、極小の礫もあるため判然としない。また、周辺には旧石器も出土しているため、旧石器時代の所産であった可能性も残る。

石鎌は中央部と旧石器時代のLC1301・1302の周辺から見つかったが、分布は広範囲であった。風化の度合も各遺物で異なっている。上述したように、複数時期の石鎌が混在しており、何らかの構造に伴ったものではないとみられる。

ii) I 区西北部出土の石鎌

西北部において、第11層から7点の石鎌が出土した。すべてサヌカイト製である。以下、出土した石鎌について記載するが、石鎌の記載法については[菅1995]の用例に従う。なお、石鎌のうち07EB397については、逆刺部分とみられる極小の破片であるため、実測図の掲載を省略する。

07EB221(図44、図版17)は凹基無茎式石鎌である。B2テ区から出土した。作用部側縁は直線状に調整され、基部の抉りはごく浅いものとなっている。逆刺端部を尖らせるように仕上げている。表裏のうち片面はやや斜度のある深形の細部調整が丁寧に施されているが、

表8 I区出土の搬入礫一覧表

遺物番号	地区	グリッド	地層	種類	石材	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
07EB 272	I 区	B10 オ	11層	搬入礫	砂岩	7.10	2.19	1.88	42.4
07EB 278	I 区	A9 ノ	11層	搬入礫	砂岩	5.80	4.10	3.32	107.9
07EB 279	I 区	A9 ノ	11層	搬入礫	花崗斑岩	7.25	4.15	2.13	74.9
07EB 280	I 区	A10 ヌ	11層	搬入礫	チャート	5.25	3.95	3.18	77.8
07EB 281	I 区	B10 エ	11層	搬入礫	花崗岩	4.15	2.39	1.50	17.8
07EB 282	I 区	B10 エ	11層	搬入礫	チャート	3.75	3.67	2.82	54.7
07EB 283	I 区	B10 エ	11層	搬入礫	チャート	3.10	2.80	2.45	33.3
07EB 284	I 区	B10 エ	11層	搬入礫	砂岩	3.89	3.10	3.52	40.9
07EB 286	I 区	B10 エ	11層	搬入礫	花崗岩	3.25	1.98	2.22	18.4
07EB 287	I 区	B10 エ	11層	搬入礫	花崗岩	3.45	3.30	1.72	22.8
07EB 288	I 区	B10 エ	11層	搬入礫	花崗岩	3.05	2.00	1.95	14.6
07EB 289	I 区	B10 エ	11層	搬入礫	砂岩	3.35	2.72	2.36	29.7
07EB 290	I 区	A9 ヌ	11層	搬入礫	チャート	6.32	3.33	3.10	75.0
07EB 291	I 区	A10 ケ	11層	搬入礫	花崗岩	2.85	1.98	1.50	13.7
07EB 294	I 区	B10 ツ	11層	搬入礫	砂岩	3.65	2.00	1.80	11.2

他方は平らな素材面がそのまま残され、周縁に浅形の調整が加えられただけである。切先角は46°である。長さ2.08cm、幅1.55cm、厚さ0.26cm、重量0.7gである。

07EB302(図44、図版17)は細長の凹基無茎式石鏃である。A3ア区から出土した。第10層下面の遺構SD1004の壁面に貼付いており、第11層から出土した。作用部側縁を直線的に調整し、基部にやや浅い弧状の抉りを加えている。表裏のうち片面は薄形かつ深形の細部調整が丁寧に施され、素材剥片の平らな面を利用した他方は、側縁から浅形の調整剥離が集中して施されている。片方の逆刺の折れは新欠によるものである。切先角は38°である。長さ2.38cm、幅1.63cm、厚さ0.28cm、重量0.7gである。

07EB335(図44、図版17)は細長の凹基無茎式石鏃である。C1セ区から出土した。作用部側縁が緩やかなS字を呈する形態で、基部の抉りは深く弧状に調整され、逆刺はやや長めに仕上げられている。表裏両面にやや斜度がある深形の細部調整が両側縁から丁寧に施されている。切先角は45°である。長さ2.48cm、幅1.73cm、厚さ0.43cm、重量1.1gである。

07EB382(図44、図版17)

は石鏃の未成品とみられる。A2ソ区から出土した。表裏両面に素材面を大きく残している。現状の切先角は58°である。作用部側縁の下半をわずかに新欠で損じている。長さ2.39cm、幅1.48cm、厚さ0.32cm、重量1.0gである。

07EB390(図44、図版17)

は石鏃の逆刺部分であり、

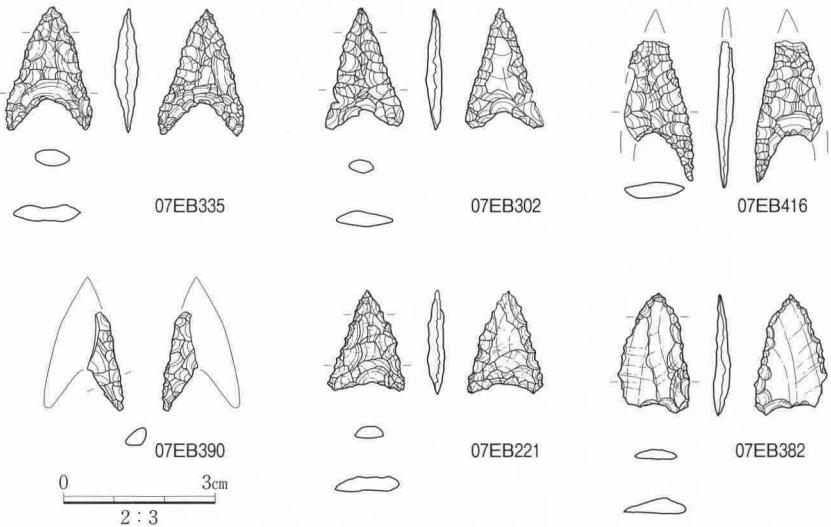


図44 I区西北部出土の石鏃実測図

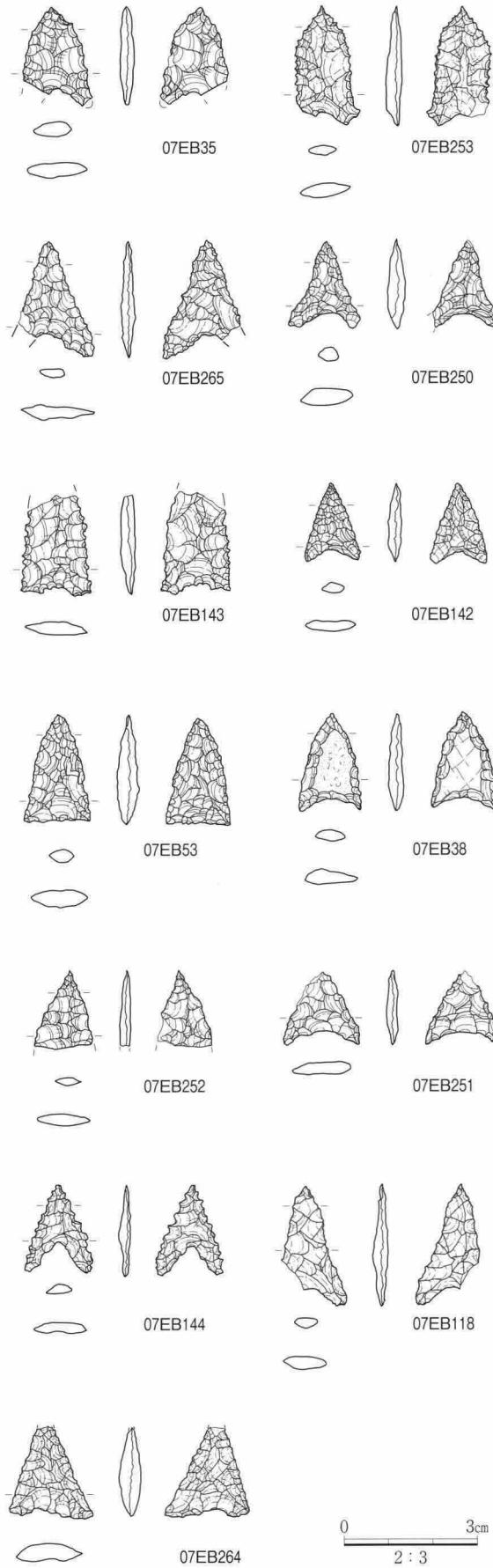


図45 I区中央部出土の石鏃実測図

との形態は不明である。C1ス区から出土した。長さ1.91cm、幅0.93cm、厚さ0.32cm、重量0.4gである。

07EB416(図44、図版17)は凹基無茎式石鏃である。A2ト区から出土した。切先部と作用部側縁から逆刺にかけての片側を大きく欠損する。側縁は緩やかに外湾しており、基部に抉りを入れる逆刺を長く先鋒な形状に仕上げている。表裏両面には薄形かつ深形の細部調整が施され、特に側縁は細かく丁寧な調整を連続的に施すことによって鋸歯縁となっている。推定される切先角は36°である。長さ2.81cm、幅1.39cm、厚さ0.36cm、重量1.0gである。

iii) I区中央部出土の石鏃(図45、図版17)

中央部では第11層から13点の石鏃が出土した。広範囲で散漫に分布しており、特定の時期や遺構に伴うものではないとみられる。07EB53がチャート製で、それ以外はすべてサヌカイト製である。

07EB35(図45、図版17)は幅広の凹基無茎式石鏃である。C8区から出土した。作用部側縁が緩やかなカーブとなるように調整が加えられている。薄手の剥片を素材としており、表裏両面にはやや大まかに薄形・深形の細部調整が施されている。また、側縁は鋸歯状に仕上げられている。逆刺の片方を折損する。切先角は50°である。長さ2.25cm、幅1.53cm、厚さ0.32cm、重量0.8gである。

07EB38(図45、図版17)は凹基無茎式石鏃である。7区から出土した。作用部側縁は緩やかに外湾しており、浅形の細かな調整剥離が周縁のみに施されている。中央に素材面を大きく残す。基部には浅い抉りを入れ、逆刺が鋭く尖るように仕上げている。切先角は49°である。長さ2.19cm、幅1.43cm、厚さ0.31cm、重量0.8gである。

07EB53(図45、図版17)はチャート製の細長で基部が平坦な平基無茎式石鏃である。C8区から

出土した。作用側縁は直線的に仕上げられ、形態は縦長の二等辺三角形をなす。表裏両面の側縁・基部からやや斜度のある深形の細部調整が施されている。切先角は40°である。長さ2.51cm、幅1.45cm、厚さ0.46cm、重量1.4gである。

07EB118(図45、図版17)は細長の凹基無茎式石鏸である。南端に近い11区から出土した。作用側縁が緩やかなS字をなすように仕上げられている。基部は弧状に抉りを入れ逆刺の先端は少し丸みをもつように加工されている。表裏両面には丁寧な浅形かつ深形の細部調整が連続して均等に施されている。逆刺の片方を新欠により大きく損じている。切先角は40°である。長さ2.80cm、幅1.45cm、厚さ0.26cm、重量0.7gである。

07EB142(図45、図版17)は細長の凹基無茎式石鏸である。B12イ区から出土した。作用部側縁は直線的で、基部の抉りも浅く両方の逆刺を尖らせるように仕上げている。表裏両面とも薄形かつ深形の細部調整が丁寧に施されている。切先角は38°である。長さ1.81cm、幅1.31cm、厚さ0.28cm、重量0.4gである。

07EB143(図45、図版17)は凹基無茎式石鏸である。A12ソ区から出土した。折れと新欠により作用部上半を損じている。平らな基部の中央にごく浅い抉りを加えており、逆刺端部は平坦に仕上げられている。表裏両面とも薄形かつ深形の細部調整が施され、側縁の一部は鋸歯縁になっている。長さ2.21cm、幅1.58cm、厚さ0.31cm、重量1.1gである。

07EB144(図45、図版17)は細長の凹基無茎式石鏸である。A12テ区から出土した。非常に薄い剥片を素材としており、作用部側縁を直線的かつ鋸歯縁となるように丁寧に調整が加えられている。基部の抉りは深く逆刺の端部は丸みをもたせている。表裏両面の細部調整は周縁部のみに及んでおり、中央には素材面が残っている。切先角は44°である。長さ2.01cm、幅1.59cm、厚さ0.24cm、重量0.4gである。

07EB250(図45、図版17)は細長の凹基無茎式石鏸である。B9エ区から出土した。やや厚みのある剥片を素材としている。作用部側縁は緩やかなS字を描くように調整が加えられ、基部の抉りも大きく弧状に加工されている。逆刺端部はやや長く丸みをもたせて仕上げている。表裏両面には斜度のある深形の細部調整が施されている。切先角は35°である。長さ1.95cm、幅1.58cm、厚さ0.41cm、重量0.7gである。

07EB251(図45、図版17)は幅広の凹基無茎式石鏸である。B8カ区から出土した。作用部側縁はわずかに外湾するように調整され、基部は浅い弧状の抉りが加えられている。逆刺は先鋭である。表裏両面に丁寧な細部調整が施されている。切先部を新欠で損じている。切先角は60°である。長さ1.68cm、幅1.80cm、厚さ0.28cm、重量0.5gである。

07EB252(図45、図版17)は先端部のみで基部側を折損する。B8カ区から出土した。基部形態は不明である。表裏両面ともややおおまかな細部調整で、左右側縁も非対称であることから、最終的な調整段階で折損した可能性が高い。切先角は51°と大きい。長さ1.81cm、幅1.30cm、厚さ0.24cm、重量0.5gである。

07EB253(図45、図版17)は幅広の凹基無茎式石鏸である。B7テ区から出土した。作用部側縁のうち切先部に屈曲をもち、外湾するように調整が加えられている。いわゆる五角形鏸で、縄文時代晩期

前半の滋賀里式期に特徴的に認められる形態である。側縁は鋸歯縁に仕上げられ、表裏両面とも細かく丁寧な細部調整が施されている。新欠により片方の逆刺を損じている。切先角は69°である。長さ2.70cm、幅1.48cm、厚さ0.36cm、重量1.1gである。

07EB264(図45、図版17)は凹基無茎式石鏃である。B7ネ区から出土した。新欠により切先部を損じている。作用部側縁は直線的であり、基部の抉りが浅く左右非対称となっている。斜度のある深形の細部調整が表裏両面に施されている。推定される切先角は45°である。長さ2.11cm、幅1.98cm、厚さ0.48cm、重量1.3gである。

07EB265(図45、図版17)は細長の凹基無茎式石鏃である。C7カ区から出土した。薄い剥片を素材としており、作用部側縁は緩やかなS字を呈するように仕上げられている。基部の抉りは弧状に調整されているが、逆刺部分は直線的でやや尖らせるように加工している。表裏両面とも薄形かつ深形の細部調整が丁寧に施されている。逆刺の片方を新欠により損じている。切先角は38°である。長さ2.69cm、幅1.77cm、厚さ0.28cm、重量0.9gである。

2)弥生～古墳時代の遺構と遺物

i) 第10A1層下面の遺構(図46～54、図版5・6・15・16・23)

I区において、調査区の北半部を中心に第10層下面で溝・土壙・小穴・不整形な落込みなどの遺構を検出した。埋土はおもにオリーブ黒色粘土質シルトまたはシルト質粘土である。遺構は第10A1層

の層中または下部から掘込まれたものと思われる。遺構から出土した遺物は多くはないが、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の土器を共伴していた。したがって、個々の遺構にはある程度の時期幅をもっている。この第10層は瓜破北遺跡一帯に分布する「第6z層」と呼称される層準に相当する[趙1983]。以下、I区の遺構を南東側と北西側に分けて詳細を述べる。

ii) I区南東側の遺構(図46・47・49、図版6)

南東側では溝SD1009～1011・1016・1017・1018を検出した。北西側とは異なり、土壙や小穴などはほとんど認められなかった。また、これらの遺構からは弥生土器・土師器などの土器細片が出土したのみで、個々の遺構の時期を判定す

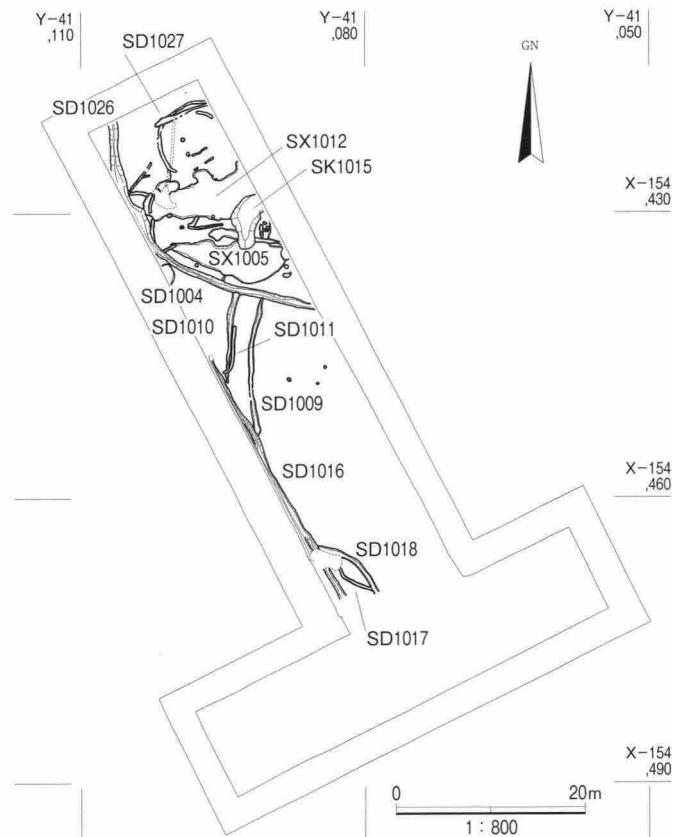


図46 弥生～古墳時代の遺構平面図(I区)

ることはできなかった。ほかの遺跡と同様、第10層の年代として示されている弥生時代後期後半～古墳時代初頭の遺構と考えられる。

SD1009はI区のほぼ中央で南北方向に延びる幅0.5m、深さ0.1m程度の溝である。北側はSD1004に連結しており、南側はSD1016に切られて途中で失われている。埋土は灰色の細粒砂と極細粒砂が混る粘土質シルトである。

SD1010はI区のほぼ中央でSD1009に並行する南北方向の溝である。幅0.5～0.7m、深さ0.1m程度である。北側はSD1004に連結しており、南側は削平により途中で失われている。埋土は上部がオリーブ黒色、下部が灰色の砂混り粘土質シルトである。

SD1011はI区のほぼ中央でSD1009・1010に並行する南北方向の溝である。南側は途中で西側へ屈曲している。削平により部分的にしか残っていない。幅0.3m、深さ0.05mである。

SD1016はI区の長辺に沿って、北西～南東方向に認められた溝である。溝の堀込みはしっかりとおり導水路として利用された可能性が高い。幅0.60m、深さ0.15mで、南側のII区へと続いている。埋土は3層に分層され、下部は黄褐色極細粒砂混りシルト質粘土または粘土質シルトである。

SD1017はI区の南東端で検出された。ほぼ東西方に延びる溝である。幅0.3m、深さ0.05mで、埋土は灰黄褐色細粒砂混り粘土質シルトを主とする。

SD1018もI区の南東端で検出された。東西方向に延びる溝で、やや弧状に内湾する。幅0.5m、深さ0.05mである。埋土は灰黄褐色細粒砂質シルトを主とする。

iii) I区北西側の遺構と遺物(図46～51)

北西側は溝・土壙・小穴などの以下に示す遺構が集中して認められた。なお、以下に示す遺構以外にもいくつか落込みを確認したが、極浅いものについては遺構名を与えることなく示すに留めた。

溝は SD1004・1006・1019・1021～1027・1033・

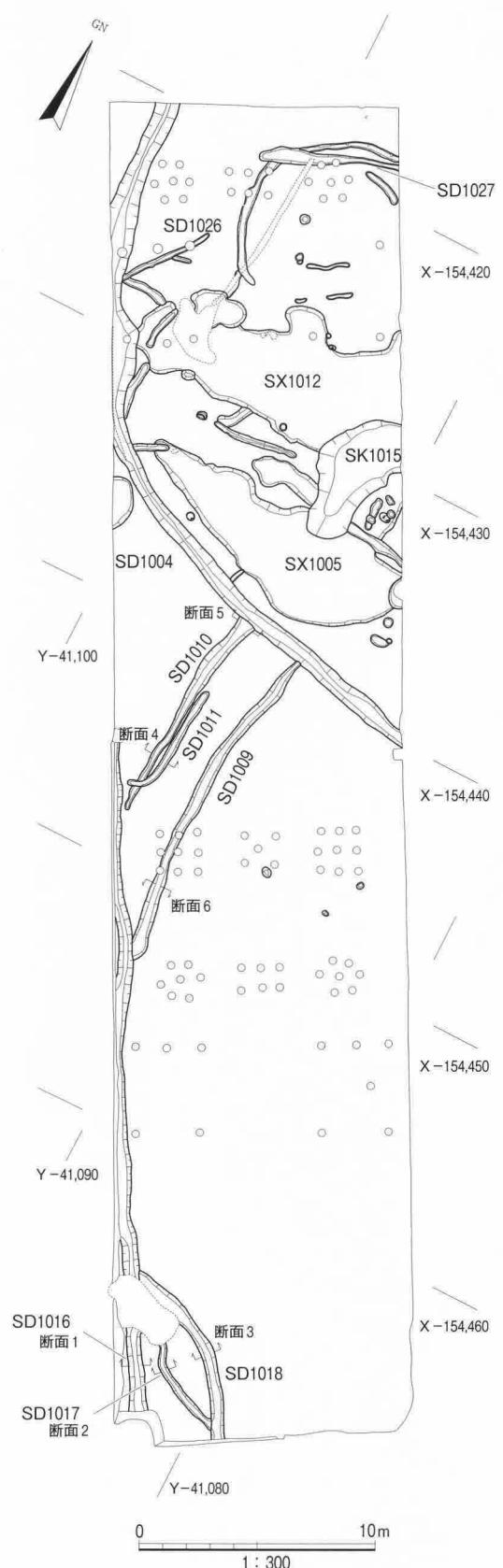


図47 第10A1層下面の遺構平面図(I区)

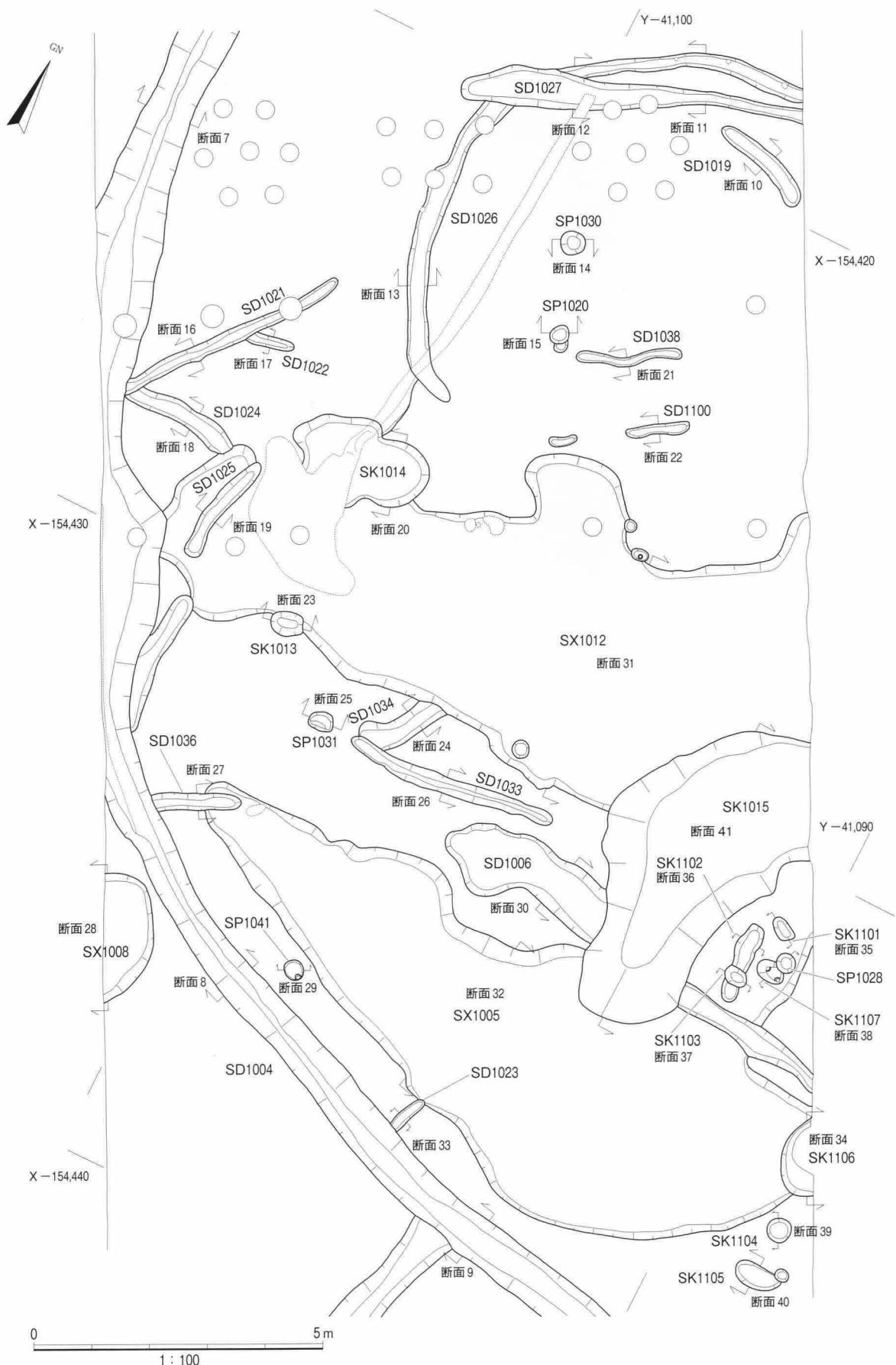


図48 第10A1層下面の遺構平面図(西北部)

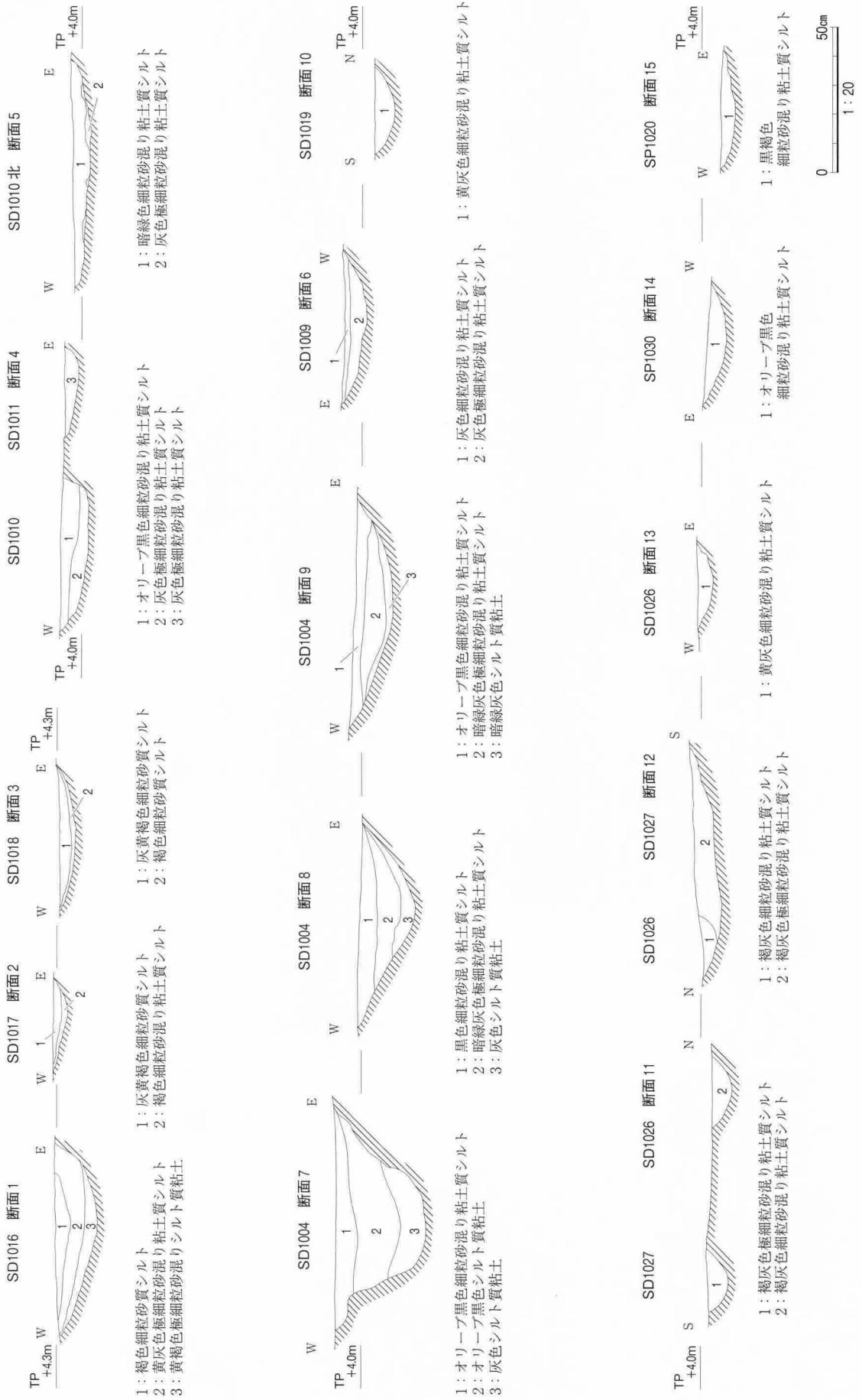


図49 遺構断面図(1)

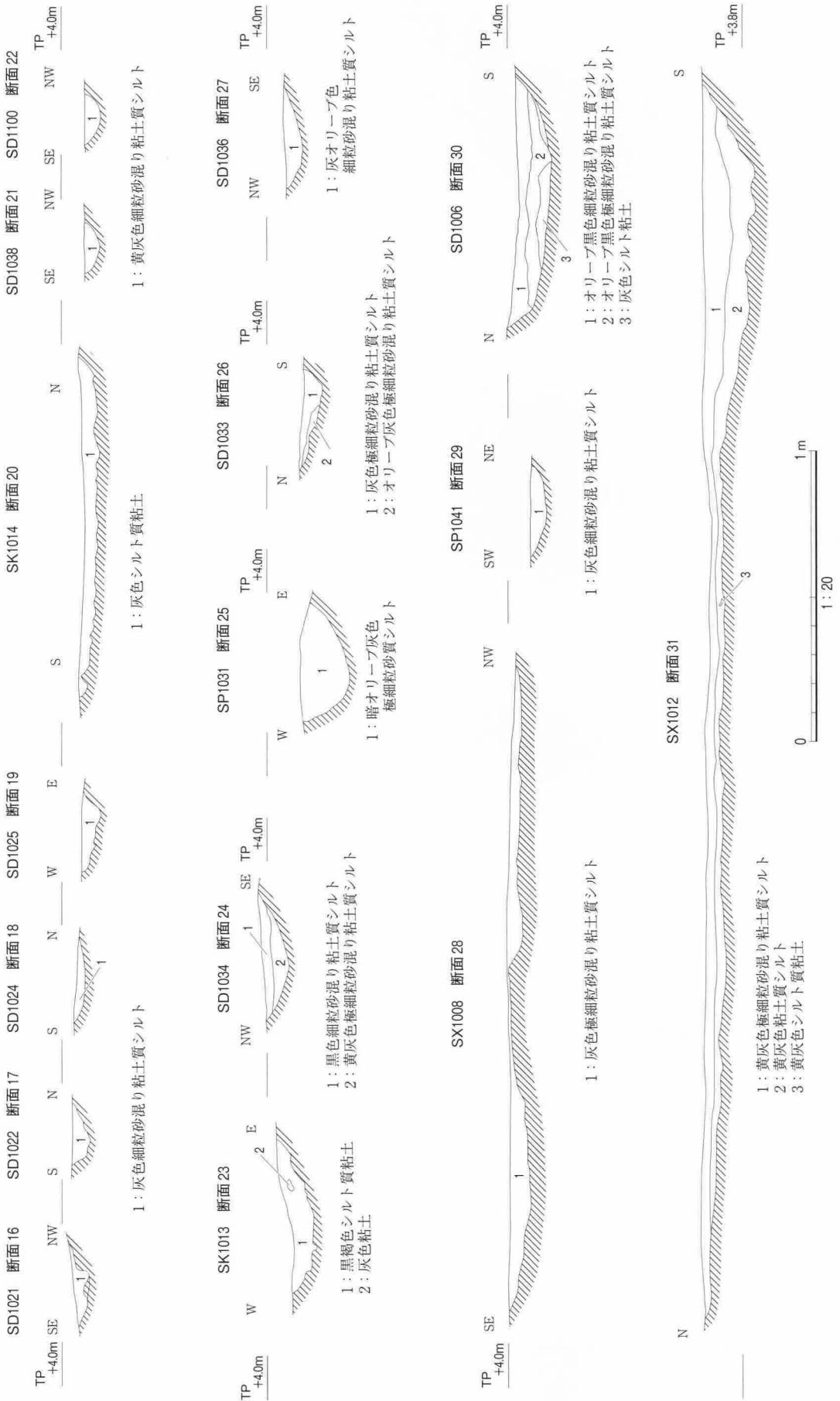


図50 遺構断面図(2)

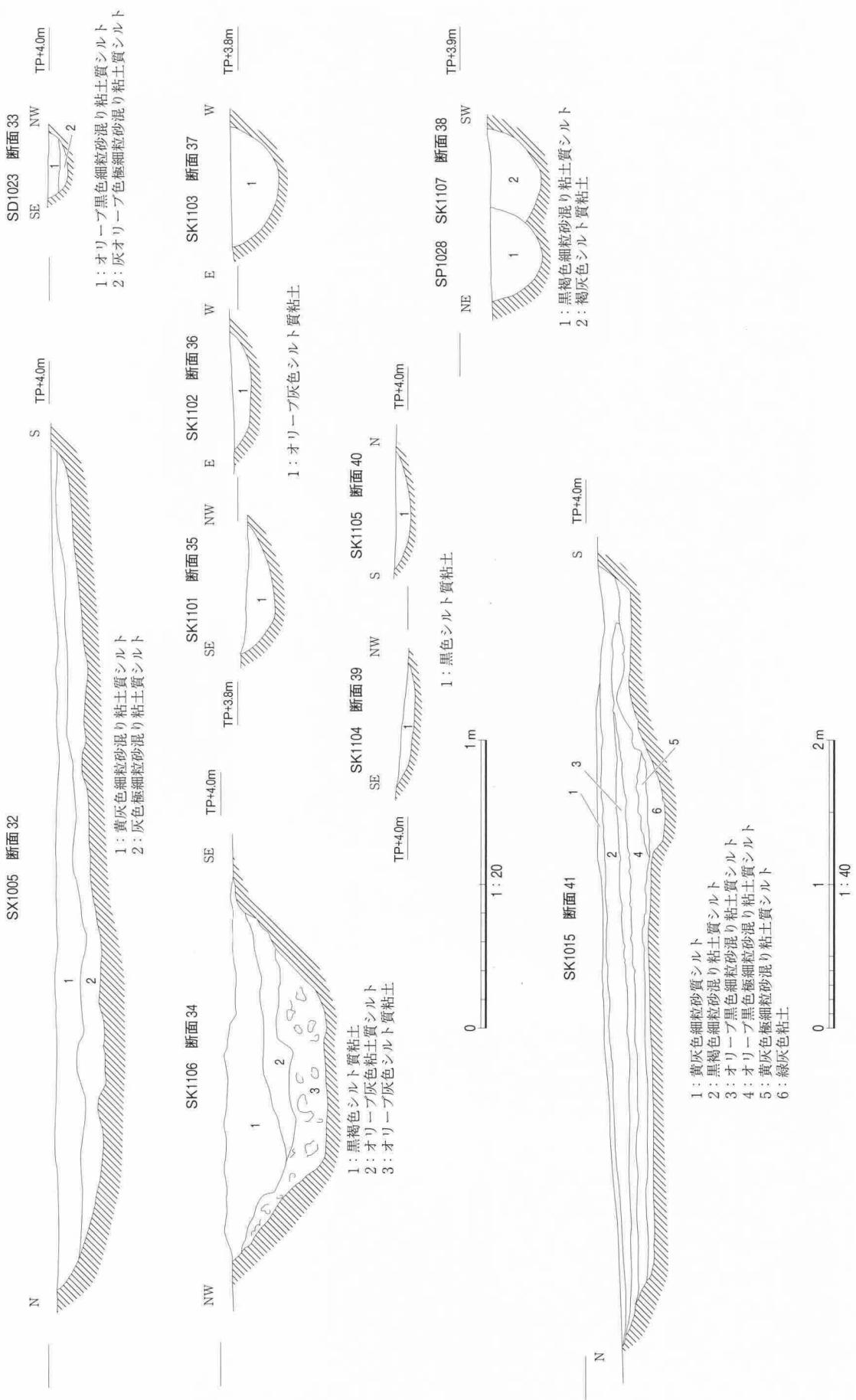


図51 遺構断面図(3)

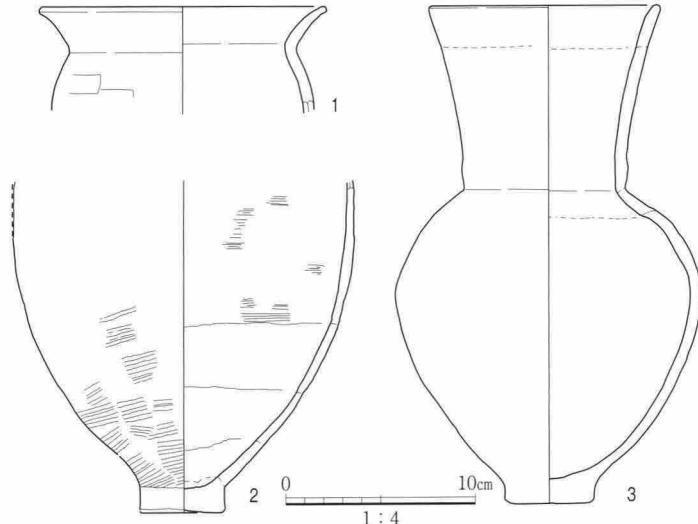


図52 SK1015出土の土器実測図

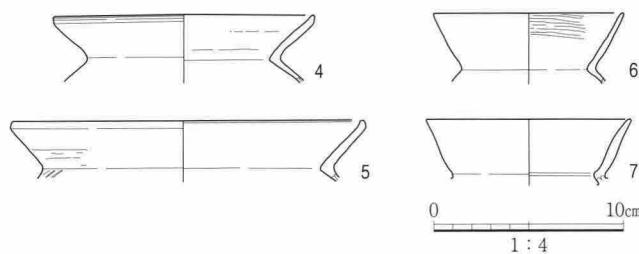


図53 SD1026・SX1005・1012出土の土器実測図

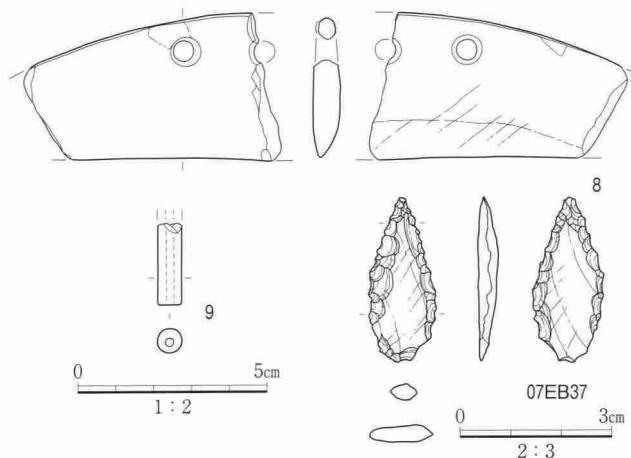


図54 第10層出土の石器・石製品実測図

中央部ではSD1033・1034・1036、SK1013・SP1031・1041、SX1008が認められた。溝群は西北部と同様、鋤溝の可能性がある。土壙・小穴は深さ0.1~0.2m程度である。遺構埋土は褐灰色または灰色味の強い砂混り粘土質シルトが主体である。

東南部ではSD1006・1023、SK1015・1101~1107が認められた。SD1006は東西方向に延びる溝で、幅0.9m、深さ0.1mである。西側は削平により失われている。SK1015は不整形な土壙で、南北6.0m、東西3.0m、深さ0.3mである。土壙内からは弥生土器甕1・2、長頸壺3が出土した(図52、図版15)。甕1は口縁部のみ残存する。口縁部はわずかに外反し、端部に面をもつ。肩部は少し張出している。

1034・1036・1038・1100、土壙はSK1013~1015・1101~1107、小穴はSP1020・1030・1031・1041、さらに不整形な土壙や落込みとしてSX1005・1008・1012などが認められた。以下、ブロックごとに述べる。

北部では弧状に湾曲するSD1026をはじめ、SD1019・1027・1038・1100の部分的に遺存した溝と小穴SP1020・1030、土壙SK1014などを検出した。弧状に巡るSD1026・1100は竪穴建物の側壁溝の可能性がある。この場合、SP1020・1030は竪穴建物の柱穴の可能性があるが、深さは0.05mと極浅いものであった。SD1026からは土師器甕5(図53、図版15)が出土した。口縁部のみ残存する。口縁端部が内側にわずかに肥厚する。胎土は精良である。布留式期のものであろう。

西北部ではSD1021・1022・1024・1025などを検出した。SD1021・1025が南北方向に延びる溝で、SD1022・1024はそれらにはほぼ直交する。いずれも大部分は削平を受けており、本来の形状は不明である。深さは数cm程度と極浅いため、鋤溝であるかもしれない。遺構埋土は褐灰色または灰色の砂混り粘土質シルトが主体である。

甕2は口縁部を欠いている。中型品で最大径は胴部中央にあり、肩部は緩やかに屈曲する。外面にタタキメが残る。いずれも畿内第V様式後半のものとみられる。長頸壺3は胴部と頸部の境界は明瞭で頸部はわずかに外反しながら直線状に延びている。最大径は胴部上半にある。磨耗が著しく調整は不明である。畿内第V様式後半のものとみられる。SK1106は径1.5m、深さ0.3mで円形土壙とみられる。埋土の下部には地山のブロックが含まれていた。

そのほか、不整形な落込みとしてSX1005・1012が認められた。埋土上部にはラミナが認められることから、自然の落込みであるかもしれない。SX1012からは、土師器甕4、小型丸底壺6が出土した(図53、図版15)。土師器甕4は口縁部のみ残存する。口縁端部が内側にわずかに肥厚する。胎土は精良である。布留式期古段階のものとみられる。小型丸底壺6も口縁部のみ残存する。布留式期のものである。SX1005からは上位の第9層から小型丸底壺7(図53、図版15)の口縁部片が出土したが、SX1012とほぼ同時期のものであり、これらの落込みが古墳時代初頭のものであったことを示している。

iv) 第10層出土の石器遺物

遺構が掘込まれた第10層からは、弥生土器・土師器細片とともに以下の石器遺物が出土した(図54、図版15~17)。

8は緑色片岩製の石庖丁である。I区中央南半の第10層下部から出土した。両端を折損し、全体の1/2程度を欠く。背部は丁寧に研磨されており、明瞭な面をもつ。2孔が認められる。残存値は長さ6.60cm、幅3.74cm、厚さ0.70cm、重量30.2gである。

9は緑色凝灰岩製の管玉である。I区中央北半の第10層から出土した。片側をわずかに欠損する。長さ2.65cm、外径0.66cm、内径0.14cm、重量1.3gである。

07EB37は細長の凸基無茎式石鎌である。風化が浅く若干水流による磨耗を受けている。薄手の剥片を素材としており、やや斜度がある浅形の細部調整が両側縁に施されている。表裏両面とも大きく素材面を残す。基部はほぼ未調整のままである。切先角は37°である。長さ3.32cm、幅1.38cm、厚さ0.36cm、重量1.8gである。

3) 平安~江戸時代の遺構と遺物

i) 第9層上面の遺構(図55・56、図版7)

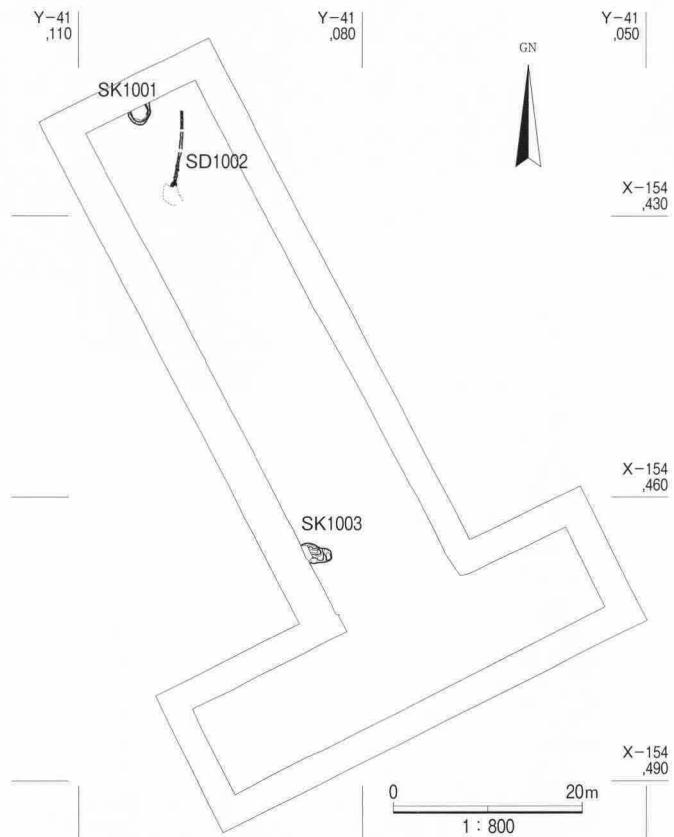


図55 平安~江戸時代の遺構平面図(I区)

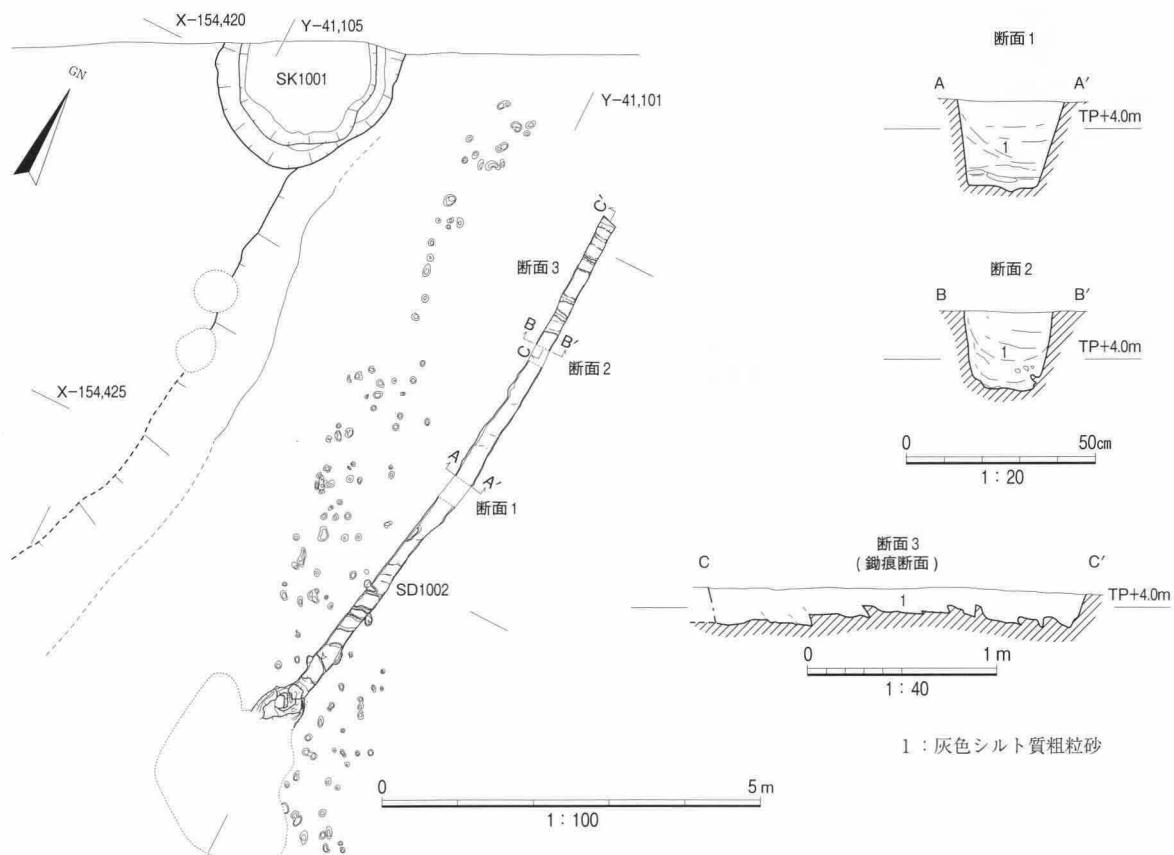


図56 I 区 SD1002平面・断面図

I 区の大半は第8層の平安時代の洪水砂と考えられる水成層が認められた。I 区北西端において、この水成層に覆われた第9層上面で溝SD1002を検出した(図55・56)。埋土は第8層と同じ灰色シルト質粗粒砂である。遺物は出土していないが、洪水砂が直接溝を埋めているので、第8層と同じ時期に比定することができる。

SD1002が見つかったのは、南北方向の自然地形による緩やかで極浅い窪みがある場所で、溝がある場所はちょうどその底付近に当る。溝は長さ8.0m、幅0.2m、深さ0.2mで、ほぼ南北方向に延びていた。南側は攪乱により失われていたが、長さは最大10m程度で部分的に掘られたものとみられる。溝の底面は鋤痕跡が明瞭に認められた。底面の鋤痕跡を観察すると、ほぼ南から北に向かって掘られたことがわかる。また、溝幅はほぼこの鋤痕跡と同じである。周辺には動物の足跡は認められたが、ヒトのものは見られなかった。したがって、SD1002は足跡が残らない程度に地面が乾燥してい

た段階に掘られたと考えられる。

窪みの底に位置することから、SD1002は導水路として利用されたものであろう。ただし、道具の加工痕跡が明瞭に残っていることから、完成途上であった可能性が高い。

ii) 第8層出土の遺物(図57、

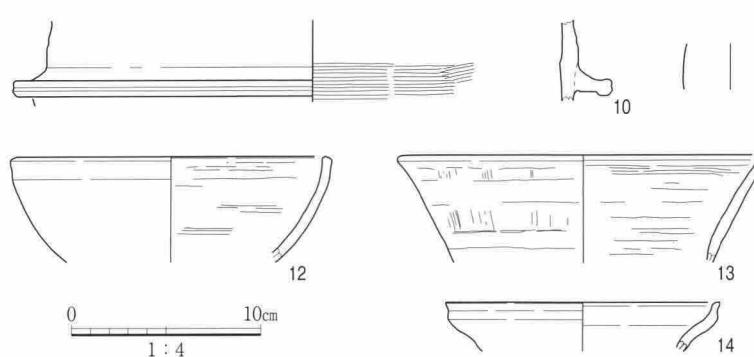


図57 第8層出土土器実測図

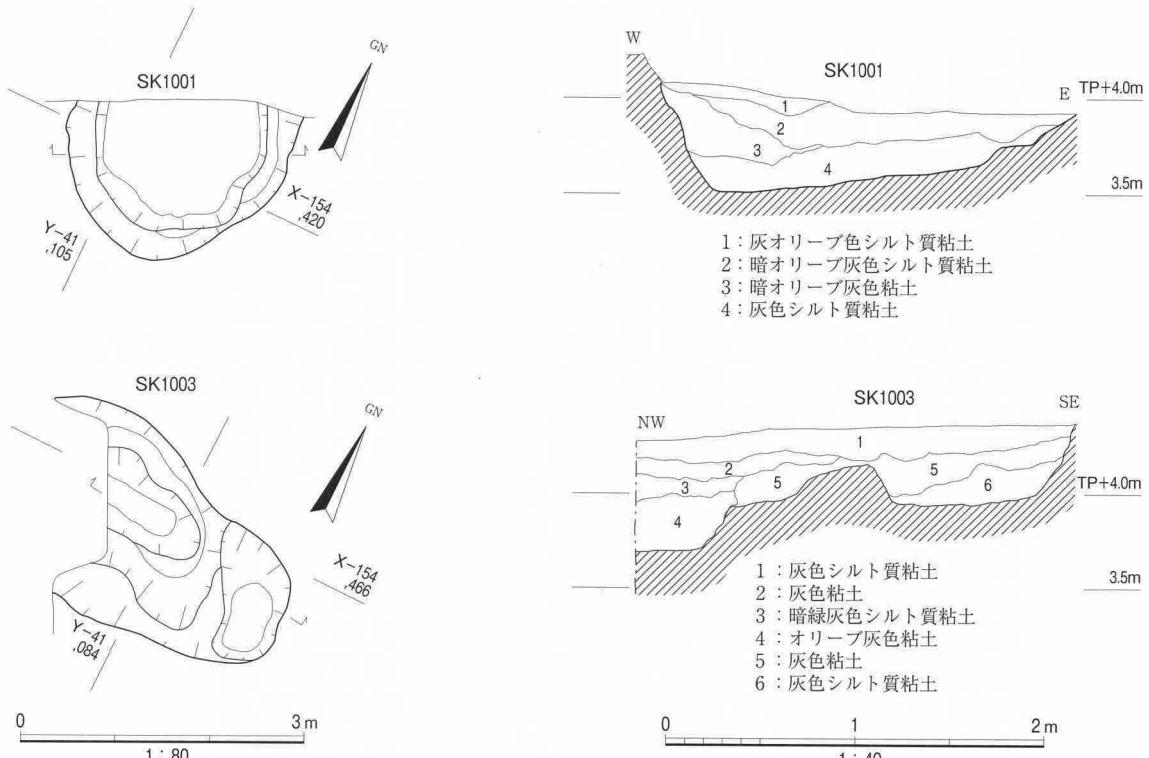


図58 I 区SK1001・1003平面・断面図

図版15・16)

第8層の洪水砂層からはごくわずかな遺物が出土したのみである。実測図が掲載可能な遺物を図57に示した。10は土師器羽釜である。端部が肥厚した短い鍔をもち、口縁部はやや内傾しながら短く立上がるタイプで、鍔部の内面に横位のハケメが認められる。平安時代のものとみられる。11は製塩土器である。体部は筒形でにぶい橙色を呈し、胎土にはわずかに長石を含む。古墳時代のものである。12は土師器鉢である。13は土師器壺である。口縁部のみ残存する。ほぼ直線的に伸びる口縁部を有し、口縁端部は内側に巻き込まれて少し肥厚する。内面はヨコミガキ、外面にはハケメが認められる。布留式期中段階のものとみられる。

14は土師器広口壺である。口縁部のみ残存する。二重口縁で口縁端部をわずかに外反させている。庄内式期のものとみられる。

iii) 粘土採掘場(図58、図版8)

I区の北西端と南東端でそれぞれ粘土採掘場とみられる土壙SK1001・1003を検出した。それぞれ粘土層が堆積する地山層まで掘削していた。埋土の中には地山の粘土偽礫が含まれていた。両者とも検出面は第9層上面であるが、遺構が掘込まれた面は上位にある。調査区の北西壁面にSK1001の掘形が一部認められ、その状況から近世の作土層である第3層上面から地山層まで掘込んでいると判断できた。SK1003も同様で、こちらも第3層上面から地山層まで掘込まれていた。土壙の掘込み面は径5mほどであったとみられる。両者とも遺物は出土しなかった。

第4節 II区の調査成果

1) 縄文時代の遺構と遺物

i) NR2008・2009(図59・60、図版10)

II区のほぼ中央において、第10層以下で縄文時代の河川NR2009を検出した。NR2009は北東に向かって流れる河川である。幅約10mで、深さ3.3mである。第11層の黒色粘土層が河川底部に向かって落込んでいることから、この河川が縄文時代にはすでに存在していたことがわかる。この河川からは遺物がほとんど出土しなかったが、近隣で行われた発掘調査において縄文時代の河川が見つかっている。本調査地から西南西方向へ約400m離れたUR04-3次調査地では縄文時代晚期の河川NR801が検出されている。幅約8mで北東方向に流れている。この河川の下流部が本調査地に当るが、周辺は台地縁部で北西側に下降する傾斜面があるため、斜面方向と直交する位置関係にあるNR2009とNR801が同一の河川であるかどうかは不明である。瓜破台地上には複数の小河川が存在していたと考えられ、NR2009が地層の関係から縄文時代の河川であることは間違いない。NR2009は第10A1層下面遺構の存在から弥生時代後期には埋没している。したがって、河川の存続時期はUR04-3次調査地のNR809とほぼ同じであると推定される。河川の底部からは流木が出土した。コナラ亜属の流木で、NR801にも同じ樹種が確認されている[大阪市文化財協会2006]。

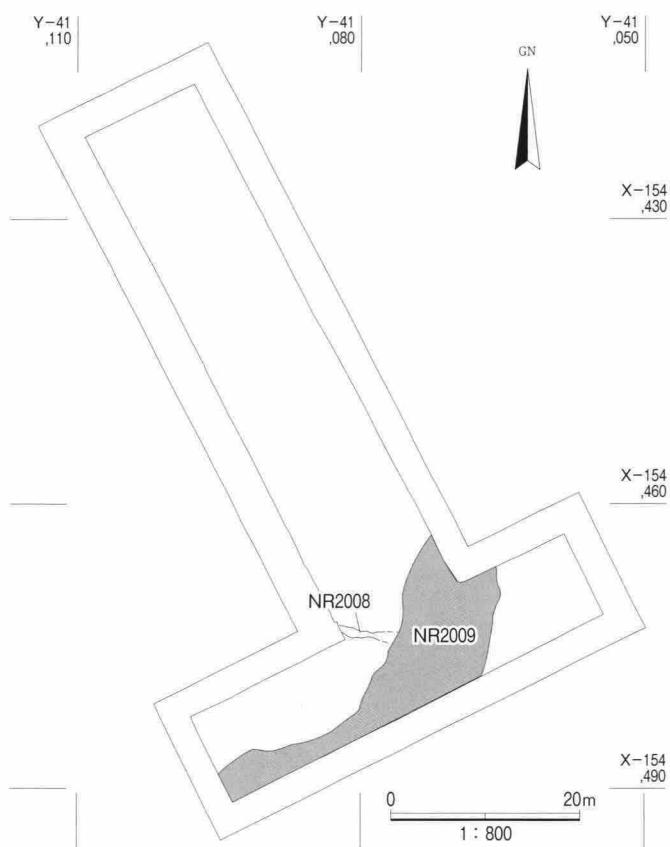


図59 縄文時代の河川平面図(II区)

なお、II区中央において、このNR2009に流れ込む直交方向の流路NR2008を西側の岸辺部分で検出した。幅約1.0m、深さ約0.4mで、第10B層の水成層で充填されていた。遺物は出土しなかった。人為による遺構ではなく、河川に流れ込む自然流路の1つであったとみられる。

ii) 縄文時代の石器遺物(図61、図版17・23)

II区の西北部のNR2009西岸と東南部の東岸に当る場所で第11層からサヌカイト製遺物が出土した。縄文時代のものとみられるが、ほとんどが剥片や石核であるため、帰属時期は不明である。07EB II 36・26・28・29はII区北西のNR2009西岸において、07EB II 35は南東の東岸において第11層から出土した。

以下各石器遺物について記載する。

07EB II 36は石鏃である。II区北西のNR2009西岸において第11層から出土した。新欠により下半部を大きく失い、切先部のみ残存している。表裏両面に非常に丁寧な細部調整を施し、細かな調整によって側縁を鋸歯縁に仕上げている。切先角は39°である。長さ1.76cm、幅1.18cm、厚さ0.30cm、重量0.4gである。

07EB II 26は石核である。拳大よりやや大きめの原礫を分割したもので、さらに打面側から2分割するよう折損している。長さ7.62cm、幅7.51、厚さ3.05cm、重量249.4gである。

07EB II 28は石核である。やや風化が浅い。小振りな原石を複数に分割した1片を石核に用いている。分割面を作業面として、周縁より剥離が行われている。長さ4.54cm、幅3.76cm、厚さ2.46cm、重量40.9gである。

07EB II 29は石核である。07EB II 28と同様、風化が浅く、ほかの資料とは時期は異なるのかもしれない。07EB II 28とは石核の形成や剥離方法が共通しており、同一母岩の可能性がある。長さ2.88cm、幅3.86cm、厚さ1.86cm、重量25.1gである。

07EB II 35は石核である。板状剥片の分割片を用いており、素材剥片の平坦な剥離面を打面として剥離が行われている。長さ2.32cm、幅3.42cm、厚さ1.39cm、重量8.7gである。

07EB II 39はNR2009の第10C層から出土した。有底横長剥片である。平坦打面で打面調整は行われていない。水流により磨耗している。長さ2.92cm、幅5.22cm、厚さ1.08cm、重量18.6gである。

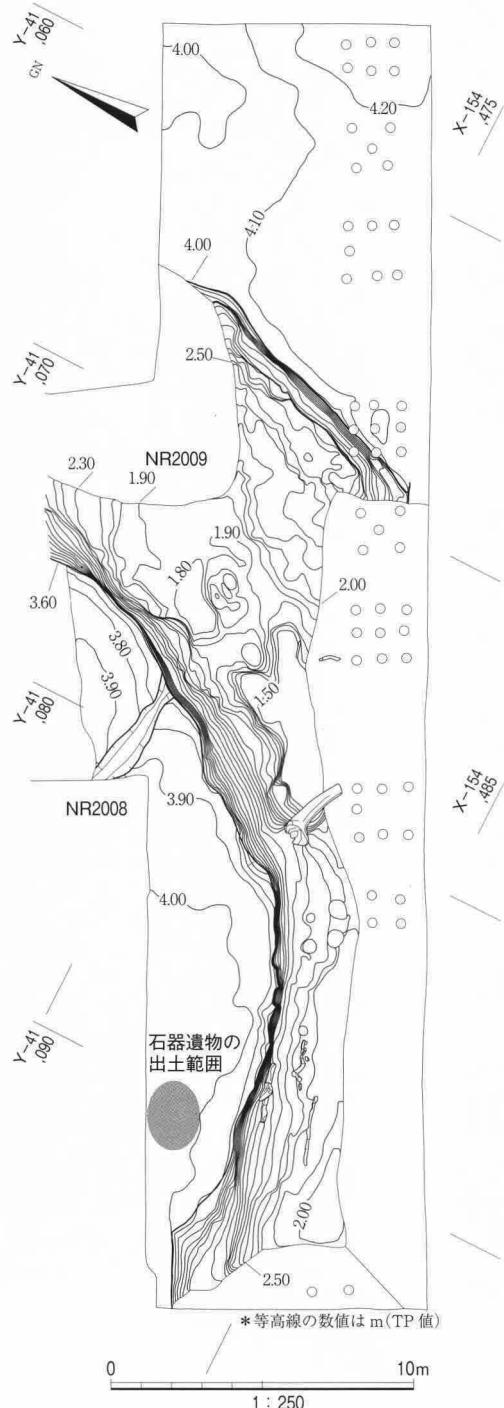


図60 NR2009の等高線図

2) 弥生時代～中世の遺構と遺物

i) 第10層下面の遺構(図62・64)

II区中央において南東-北西方向の溝SD2007を検出した。I区において同一面で検出されたSD1016へ続くものである。幅0.6m、深さ0.1mである。埋土はオリーブ黒色細粒砂質シルト～粘土質シルトを主体とする。遺物は出土しなかった。

ii) 第7層上面の遺構

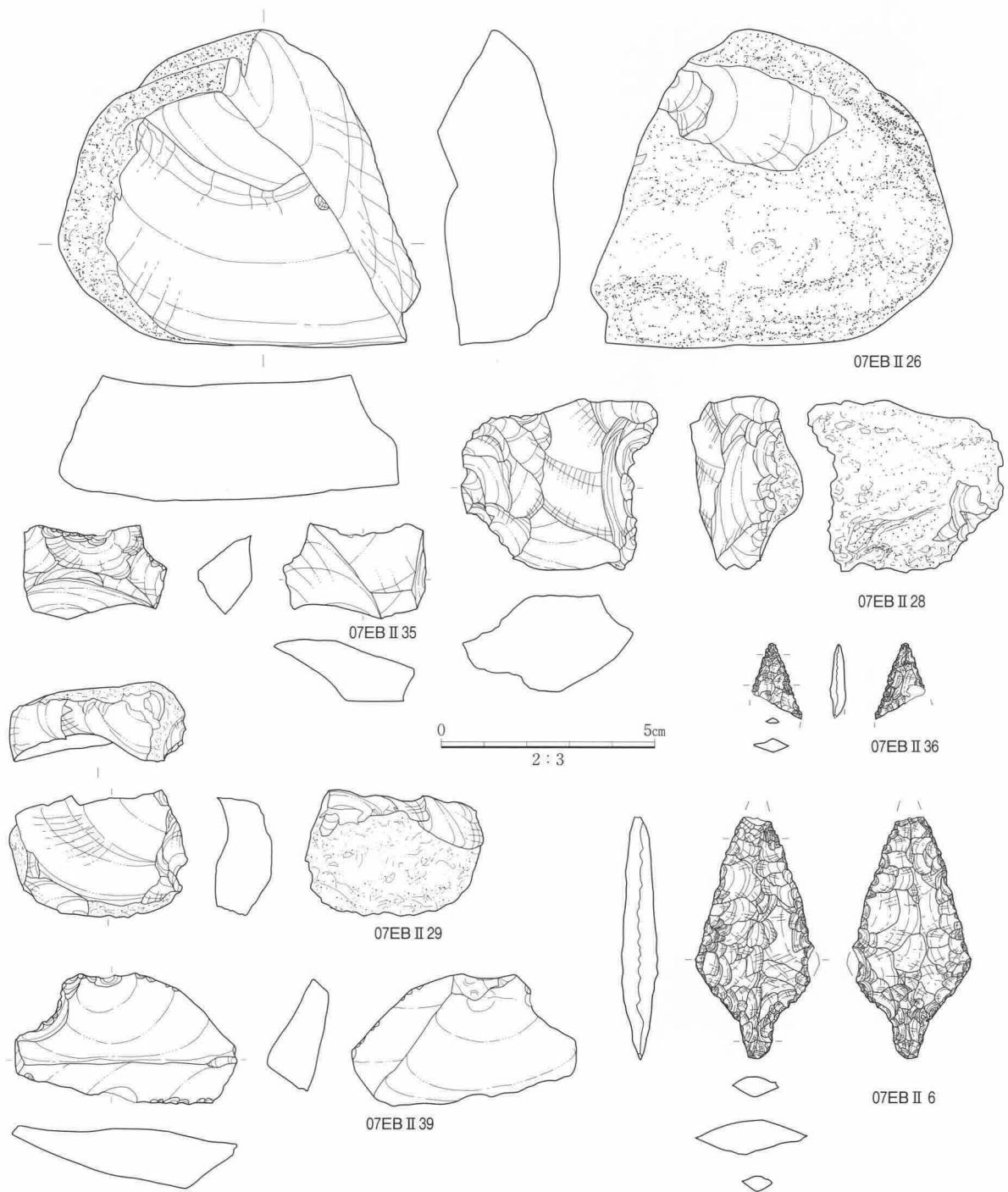


図61 II区出土の石器遺物実測図

II区南東において東西方向の溝SD2004、南北方向の溝状遺構SX2006、南西－北東方向の溝SD2005を検出した。SD2004はほぼ正方位の東西溝で、長さ18mほどが残っていた。幅0.4～0.6m、深さ0.05mである。埋土は黒褐色シルト質細粒砂を主体とする。SD2005は幅0.5m、深さ0.05m以下で、遺存状況は良好ではなかった。調査区内で8mほどが認められた。SX2006は南北方向の溝状に延びた長方形の土壙である。幅1.1～1.5m、深さ0.05mで、埋土は黒褐色極細粒砂質シルトと暗灰黄色シルト質極細粒砂を主体とする。畠立の耕作痕または畠間溝の可能性がある。いずれも遺物は出土しなかつた。周辺地との地層対比から、中世の遺構と考えられる。

iii) 弥生時代の石鏸(図70、図版17)

第7層からは石鏸07EB II 6が出土した。07EB II 6は有茎式石鏸である。作用部と基部の境が大きく外側に張出した大型幅広のもので、表裏両面に丁寧な細部調整が施され、断面形は均等なレンズ形を呈している。畿内第IV様式に多く認められる大型石鏸である。先端部を少し折損する。推定される切先角は40°で、長さ5.64cm、幅2.75cm、厚さ0.79cm、重量9.9gである。

3) 近世の遺構と遺物

i) 第6層上面の遺構(図63、図版12)

II区西南において東西方向の溝SD2003を検出した。SD2003は正方位で東西方向の溝である。幅2.5m、深さは上位層の削平を受けているため0.05m程度である。規模が大きく正方位の溝であることから、坪境などのような土地の区画を兼ねた溝であったとみられる。埋土は灰黄褐色シルト混り中粒砂で、瓦・土師器・須恵器・瓦器などの遺物を多く含む。調査区外へと続いている。I区へと続いているが、I区内では府営住宅の攪乱などで明確に確認できなかった。

SD2003から出土した遺物のうち代表的なものは図67・68、図版16に示した。15は青磁鉢底部である。見込みに花弁文様を陰刻する。見込み部分は露胎である。16は泉州湊焼の甕口縁部である。16世紀後半のものであろう。17は白磁鉢底部である。外面は高台畳付外側を含めて露胎である。18は丸瓦、19は平瓦である。18の凹面には布目痕が残る。

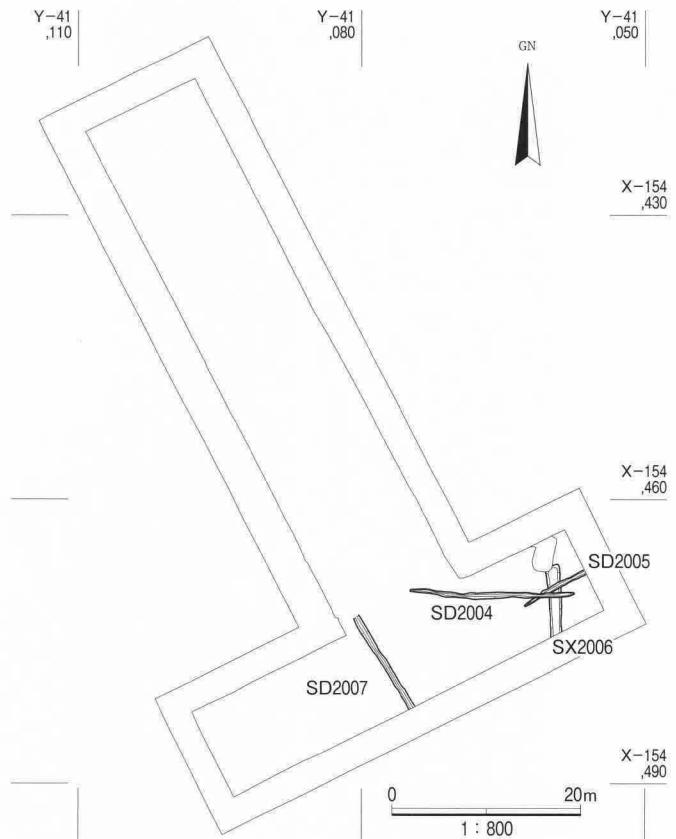


図62 弥生時代～中世の遺構平面図(II区)

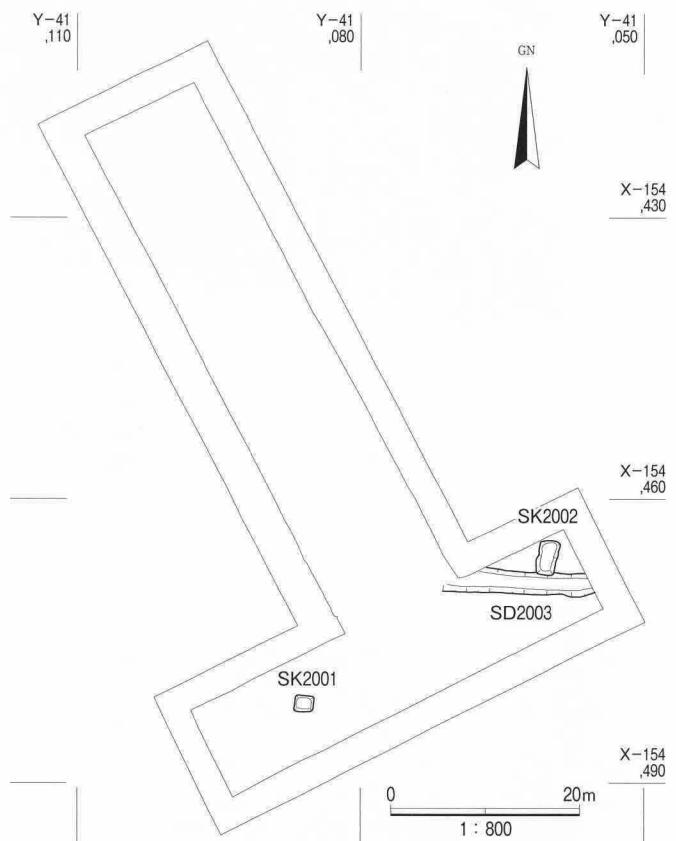


図63 近世の遺構平面図(II区)

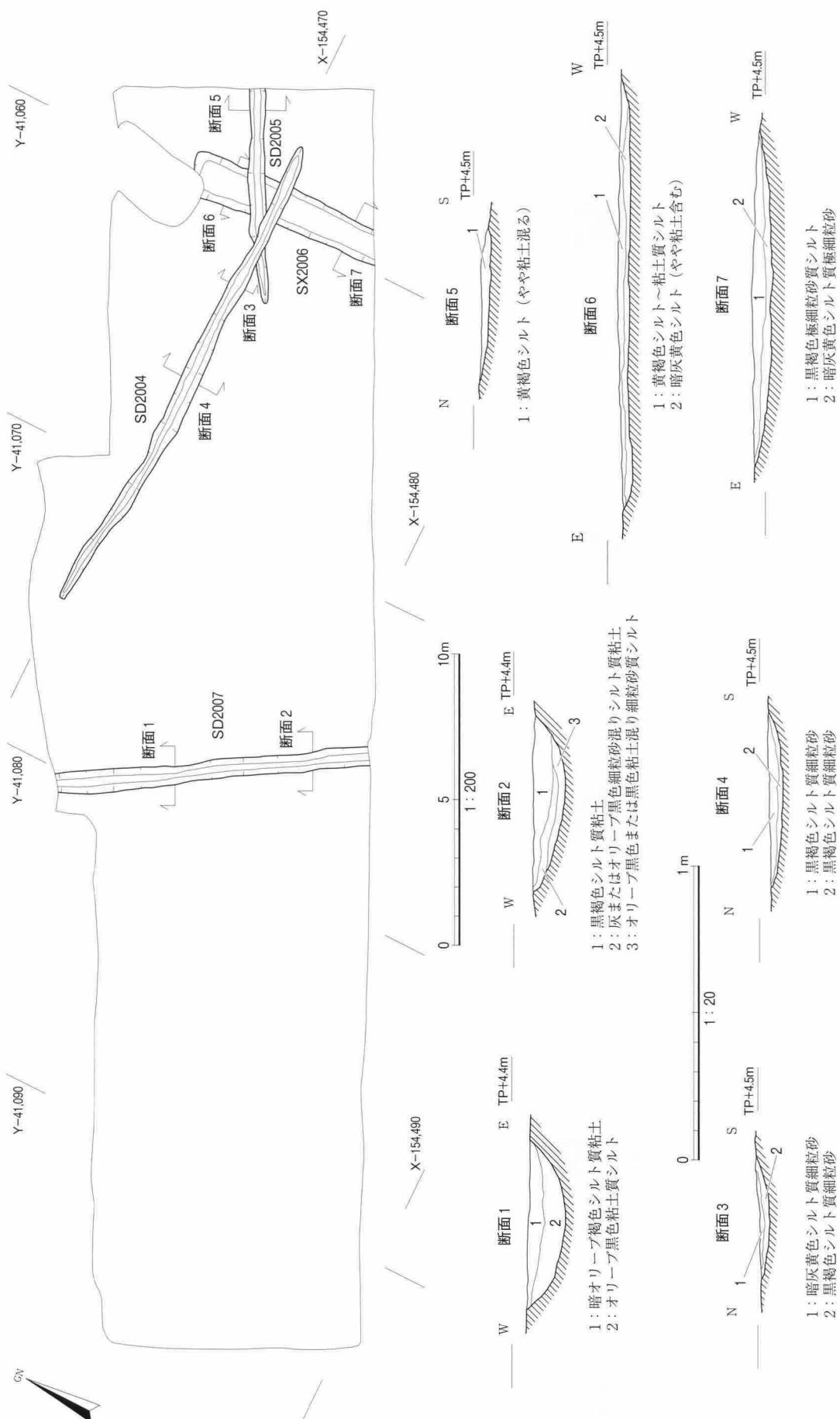


図64 SD2004・2005・2007・SX2006平面・断面図

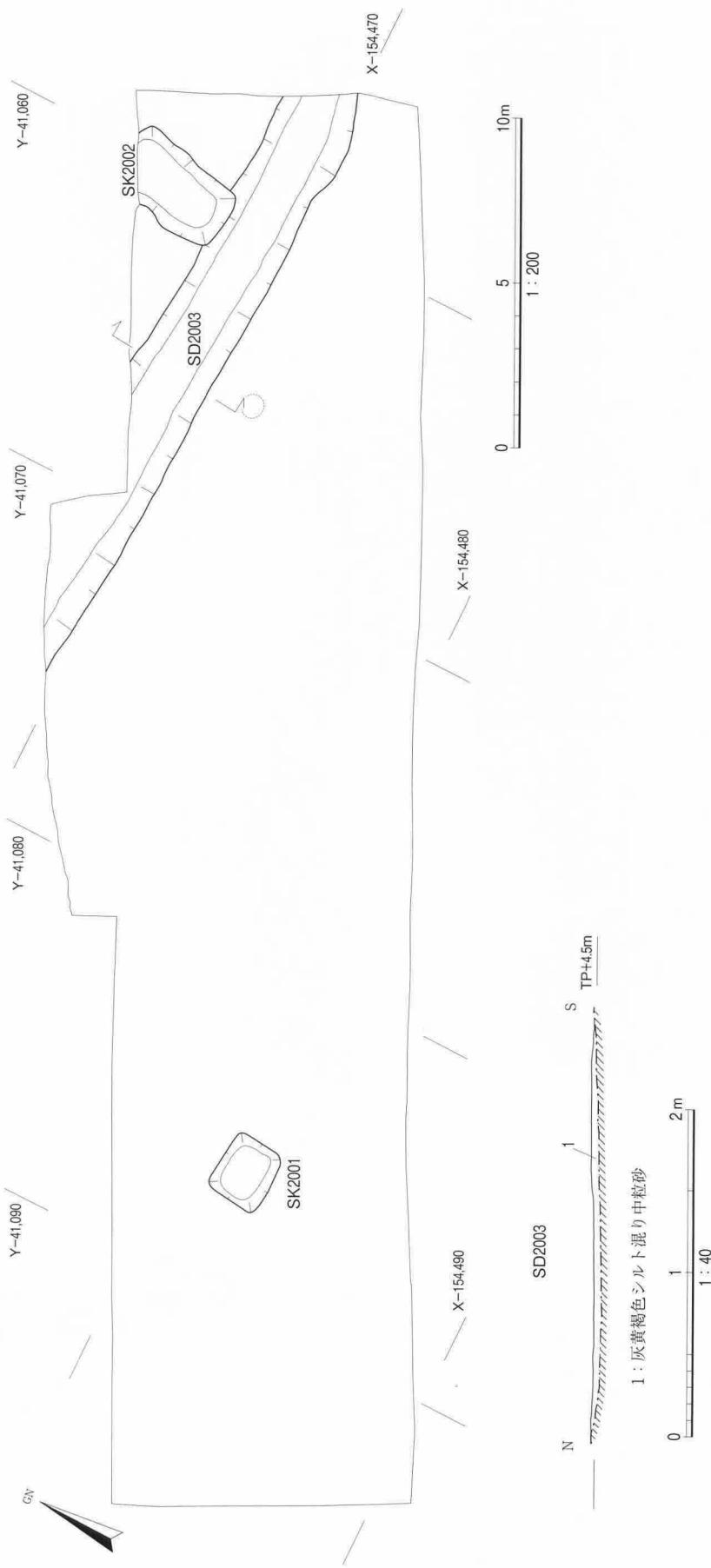


図65 第3層および第7層上面の遺構平面・断面図

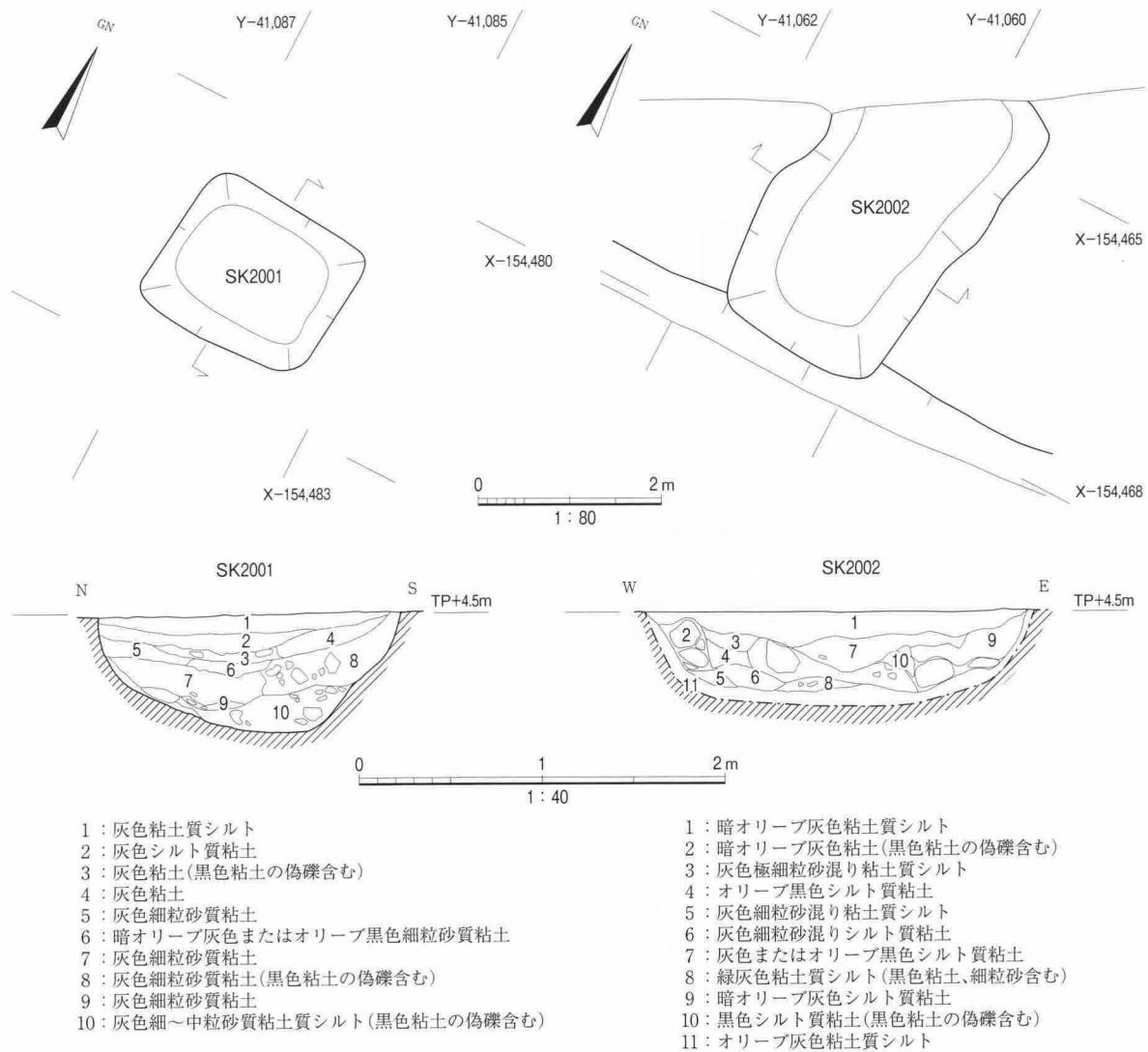


図66 SK2001・2002平面・断面図

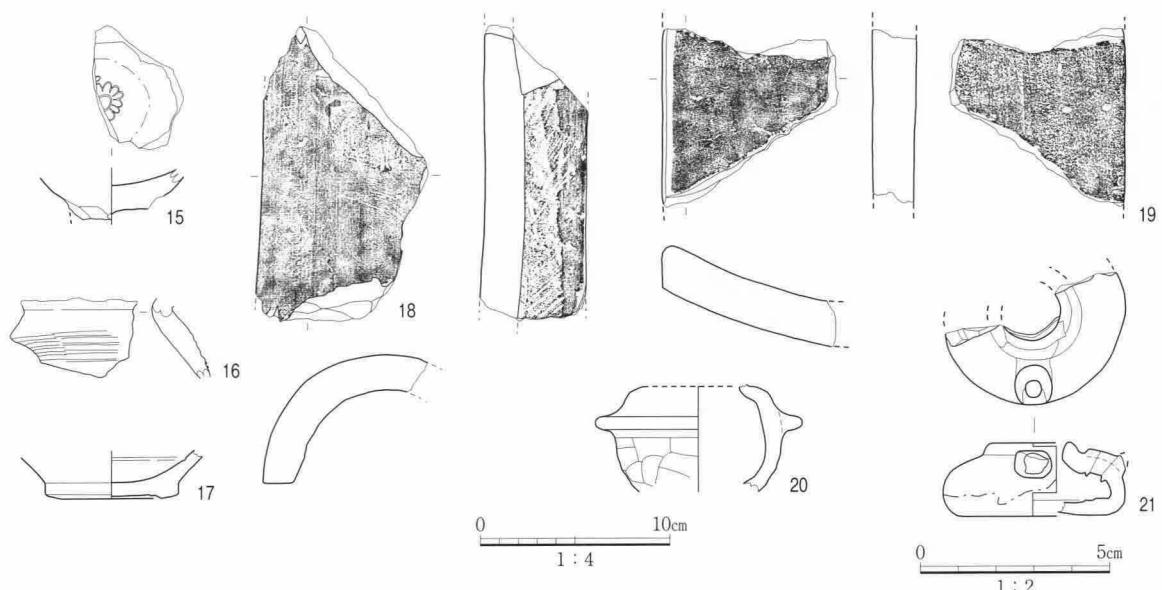


図67 SD2003出土の遺物実測図

凸面は丁寧にナデ・ミガキ調整が施されている。19も凹面にナデ・ミガキ調整が施されている。20はミニチュア羽釜である。21は瀬戸美濃焼の水滴である。22は北宋錢の「祥符元寶」である。

SD2003には中世後期の遺物が多いが、16世紀後半～17世紀初頭のものが含まれており、溝の年代もこの時期と考えられる。

ii) 第3層上面の遺構(図65・66)

II区の北東と南西において、粘土採掘場とみられる土壙SK2001・2002を検出した。SK2001は南北1.9m、東西2.0m、深さ0.7mで、埋土には地山の偽礫が多数含まれる。SK2002は南北3.9m、東西2.0m、深さ0.5mで、SK2001と同様、埋土には地山の偽礫が含まれる。

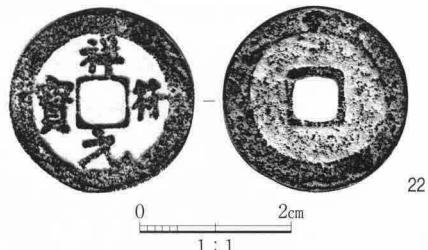


図68 SD2003出土の北宋錢

第5節 III区の調査成果

1) 遺構と遺物

i) 第10層下面の遺構(図69、図版14)

III区の中央から東北部にかけて、第10層下面でSD3001・3003・3004、SX3002とSD3001周辺の小穴群を検出した。SD3001はIII区の中央を南北方向に延びる溝で調査区外へと続いている。幅1.0m、深さ0.17mで、埋土は2層に分かれる。上層は第10層が充填したもので、細粒砂混り粘土質シルトであるが、下層は粗粒砂で激しい水流があったことがわかる。水流があったにも係わらず、溝が蛇行していることから、自然流路の可能性もある。まわりの小穴は径がごく小さなものが多く、上位層から

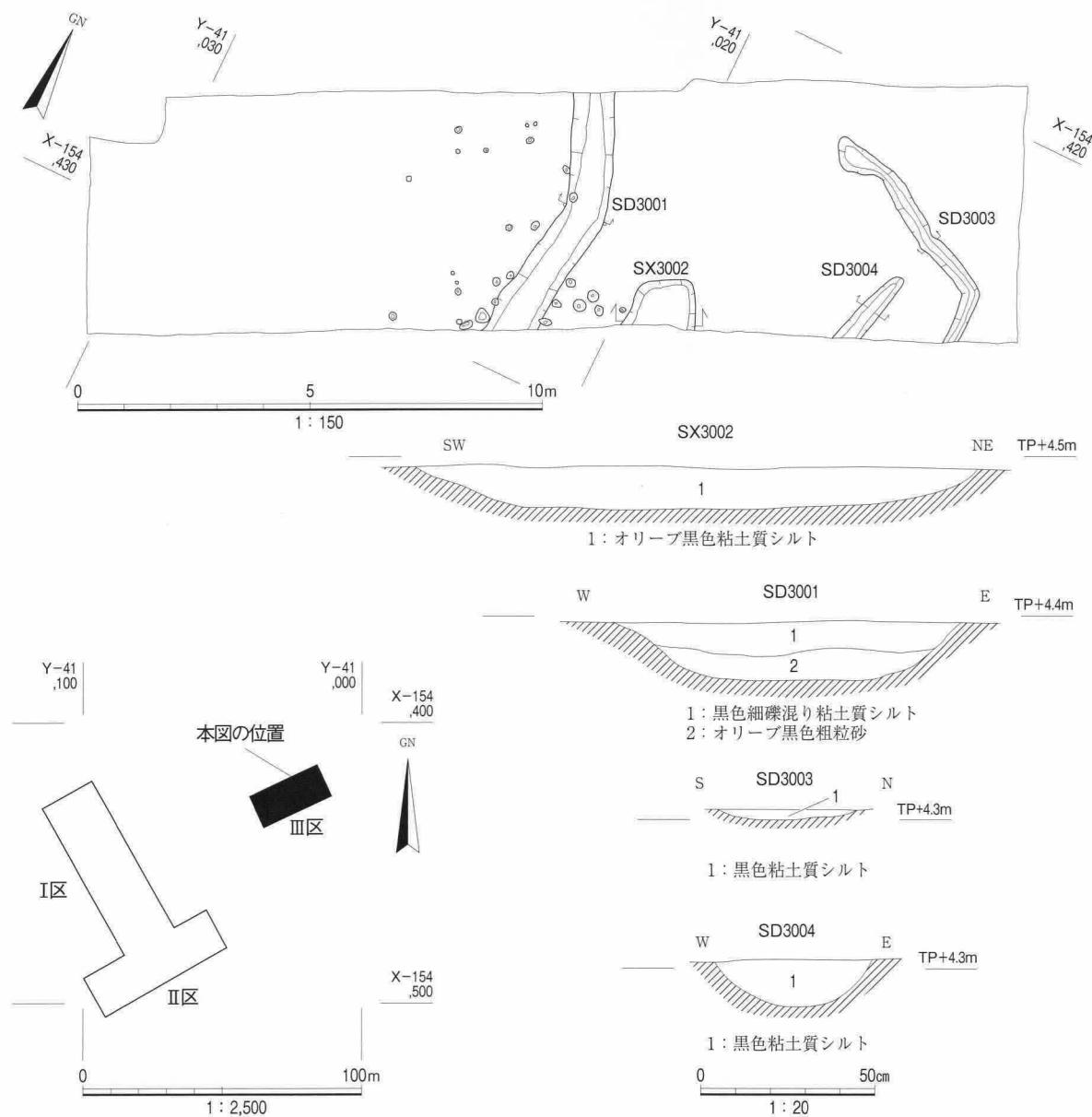


図69 繩文～弥生時代の遺構平面・断面図(III区)

打込まれた杭跡とみられる。SD3003・3004は部分的に遺存し、形状と幅が一定でない溝で、SD3003は深さ0.03m、SD3004は0.15mである。いずれもの溝からも遺物は出土しなかった。SX3002は不整形な土壙で、南北1m以上、東西1.6m、深さ0.12mである。埋土は第10層であるオリーブ黒色粘土質シルトが充填していた。遺物は認められなかった。これらの遺構はI・II区の状況から判断して、弥生時代後期後半～古墳時代初頭のものと推定される。

ii) 出土遺物(図70、図版17)

III区からの遺物は極めて少ない。第7層の作土から瓦器椀片、第11層からサヌカイト製石鏃が出土した以外は、磨滅した土器細片しか出土しなかった。

23は和泉型瓦器椀の高台部分である。見込みのヘラミガミの隙間も大きく、高台の形骸化が進んでいる。13世紀中葉のものであろう。

07EBⅢ 6はサヌカイト製の凹基無茎式石鏃である。作用部側縁は直線的に調整され、基部にやや浅めの抉りを入れて逆刺端部を丸く仕上げている。表裏両面の細部調整は薄形かつ深形で丁寧に施されている。切先角は43°である。2.31cm、幅1.79cm、厚さ0.36cm、重量1.0gで、完形である。

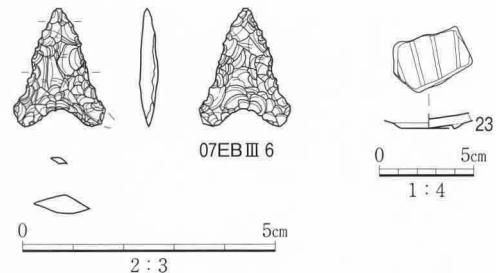


図70 III区出土の遺物実測図

第Ⅲ章 火山灰分析

草野高志・曾根原崇文(株式会社蒜山地質年代学研究所)

1) 目的

瓜破北遺跡(UR07-2次調査)において発見された旧石器群の年代を特定する手がかりとして、土柱試料から始良Tn火山灰などの広域火山灰を抽出し、その濃集層準を確定する。

2) 試料採取位置および層相記載

瓜破北遺跡(平野区瓜破2丁目)は大阪盆地の東部、段丘地形を示す河内台地の北端に位置している(図71)。瓜破北遺跡の平面図を図72に示し、採取された土柱試料のスケッチと標高を図73に示す。

火山灰分析に用いた土柱はNo.3・No.8・No.9の3つで、それぞれから15試料・15試料・10試料の計40試料を採取した。

各土柱の層相記載は以下のとおりである。なお、土壤試料の色調判定には新版標準土色帖[小山正忠・竹原秀雄2007]を用いた。図76・78・80には土柱試料の写真と試料採取位置を明示し、本文の記載と合わせて層相の特徴を明記した。

i) No.3 土柱(図76)

第11層：暗灰黄色(2.5Y4/2)極細粒砂質シルト層；厚さ2.4cm。有機質。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界は明瞭。

第12A層：黄褐色(2.5Y5/3)シルト層；厚さ2.9cm。
植物片を含む。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界は比較的明瞭。

第12B層：黄褐色(2.5Y5/4～5/3)シルト層；厚さ3.9cm。植物片を含む。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界はやや不明瞭。

第13A層：黄褐色(2.5Y5/4～5/3)シルト層；厚さ3.3cm。植物片を少量含む。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界は不明瞭。

第13B層：黄褐色(2.5Y5/4～5/3)シルト層；厚さ3.9cm。植物片を少量含む。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界はやや不明瞭。

第14層：黄褐色(2.5Y5/4)粘土層；厚さ18.6cm。上の3層よりやや明るい。肉眼では塊状・無構造で植物片を

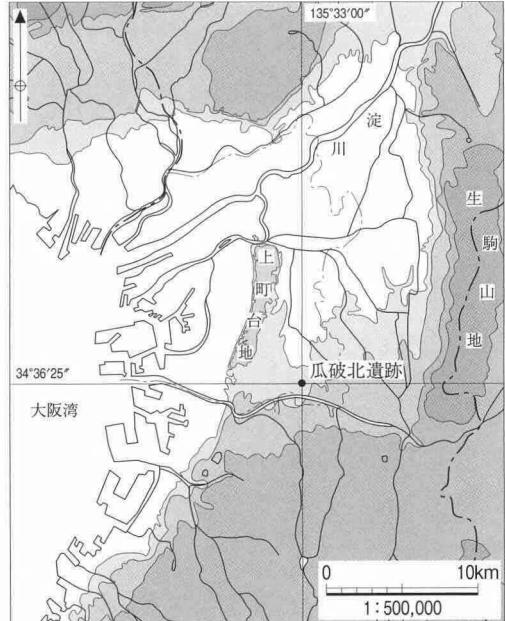


図71 瓜破北遺跡(UR07-2次)の位置図

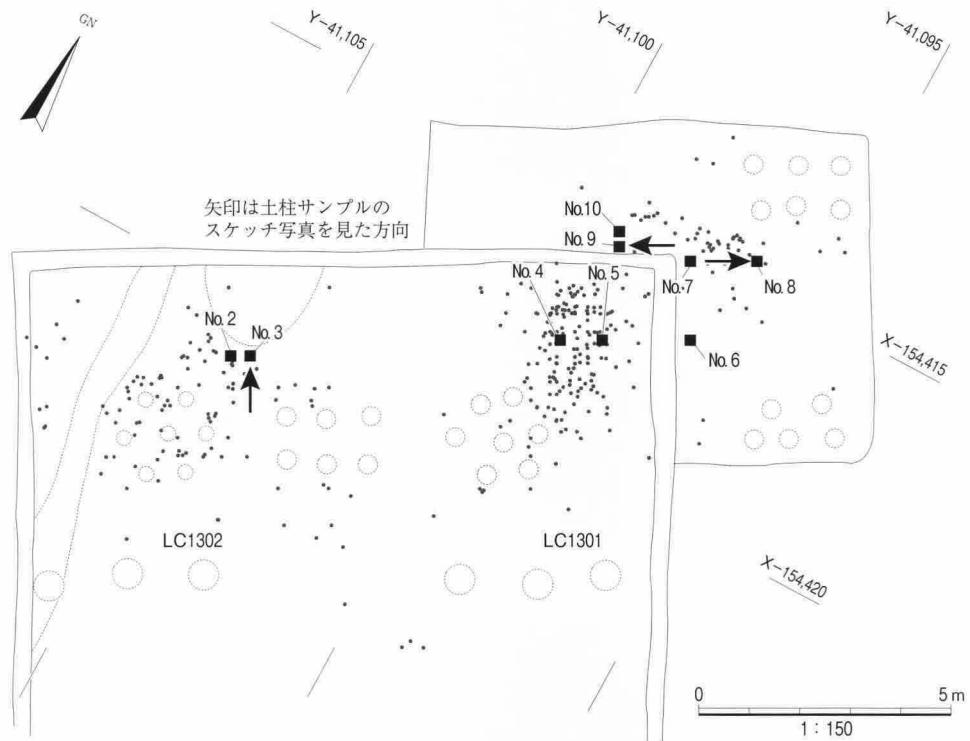


図72 石器の出土状況と土柱試料の位置図

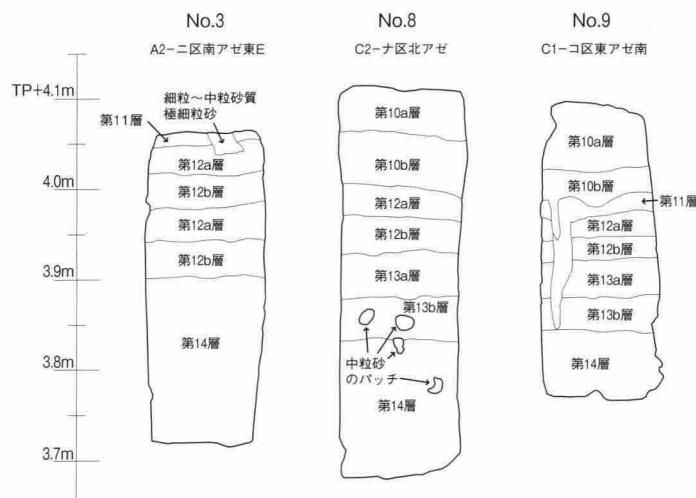


図73 土柱試料のスケッチ

を欠く。

第12A層：オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト層；厚さ3.3cm。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界は比較的明瞭。

第12B層：オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト層；厚さ3.8cm。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界はやや不明瞭。

第13A層：オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト層；厚さ4.7cm。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界は不明瞭。

第13B層：オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト層；厚さ4.5cm。中粒砂からなるパッチ(径1.5～2 cm)を

微量に含む。

ii) No. 8 土柱(図78)

第10A層：黒色(5Y2/1)シルト層；厚さ5.5cm。径約1 mmの石英・長石粒子を含む。有機質。植物片を少量含む。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界は比較的明瞭。

第10B層：オリーブ黒色(5Y3/1)極細粒砂質シルト層；厚さ5.9cm。有機質。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界はきわめて明瞭。第11層

含む。植物片を少量含む。下位層との境界はやや不明瞭。

第14層：オリーブ色(5Y5/4)粘土層；厚さ13.5cm。中粒砂からなるパッチ(径1.5cm)を含む。

iii) No.9 土柱(図80)

第10A層：オリーブ黒色(5Y3/1)シルト層；厚さ8.0cm。有機質。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界は不明瞭。

第10B層：灰色(5Y4/1)シルト層；厚さ2.7cm。極細粒砂を微量に含む。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界は明瞭。

第11層：灰オリーブ色(5Y4/2)シルト層；厚さ1.8cm。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界は比較的明瞭。

第12A層：暗オリーブ色(5Y4/4)極細粒砂質シルト層；厚さ2.5cm。肉眼では塊状・無構造で植物片を含む。下位層との境界はやや明瞭。

第12B層：黄褐色(2.5Y5/4)シルト層；厚さ2.7cm。植物片を含む。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界はやや不明瞭。

第13A層：黄褐色(2.5Y5/4)シルト層；厚さ3.8cm。植物片を少量含む。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界は不明瞭。

第13B層：黄褐色(2.5Y5/4)シルト層；厚さ4.0cm。極細粒砂を微量に含む。植物片を少量含む。肉眼では塊状・無構造で下位層との境界はやや不明瞭。

第14層：黄褐色(2.5Y5/6)粘土層；厚さ7.5cm。還元部は青灰色(5B6/1)。肉眼では塊状・無構造に見える。

3) 試料処理と測定

試料処理と分析は[大阪文化財協会2000]、[吉川周作1976]、[吉川周作ほか1986]を参考にして行った。以下にその詳細を示す。

i) 試料処理

火山灰分析における試料処理は以下の手順で行った。

(1) 採取した火山灰試料を50°C以下で乾燥させる。

(2) 乾燥した火山灰試料を秤量後、水洗し超音波洗浄機を併用しながら1.0φ間隔で篩別する。篩別した火山灰試料を乾燥し、各粒度階を秤量することで粒度分析とする。

(3) (2)の試料処理を行って篩別された3.0~4.0φの極細粒砂サイズの試料を、各種火山灰分析に用いるため3試料に縮分する。

(4) (3)の処理を行った火山灰試料の1つをグリコールフタレート(マウント剤)で封入し、全鉱物組成分析用プレパラートを作成する。

(5) (4)で作成されたプレパラートの鏡下観察で火碎物濃集層であると判断された15試料については、(3)の処理を行った火山灰試料の1つからSPT(ポリタンクスチン酸ナトリウム)を用いて調整した比重2.5~2.6の重液によって火山ガラス粒子や軽鉱物を分離する。分離した火山

ガラスを2つに縮分し、1つは屈折率測定用試料とし、もう1つをグリコールフタレートで封入し、火山ガラス形態分類用プレパラートを作成する。

(6) (4)で作成されたプレパラートの鏡下観察で火碎物濃集層であると判断された15試料については、(3)の処理を行った火山灰試料の1つからSPTを用いて調整した比重2.8の重液によって重鉱物を分離し、グリコールフタレートで封入したものを重鉱物組成分析用試料とする。

ii)鉱物組成分析

試料処理(3)で作成されたプレパラートを偏光顕微鏡により観察し、新鮮な鉱物についてのみ火山ガラス(Gl)、長石(Fs)、石英(Qz)および重鉱物(HM)を総計200粒子以上同定・計測して各粒子の個数比(粒数%)を算出する。

鉱物組成分析中に風化変質した鉱物・岩片も計測しておき、新鮮な鉱物と風化変質した鉱物・岩片の割合をダイアグラムに図示する。

iii)火山ガラス形態分類

火山灰層準、あるいは鉱物組成分析で火山ガラスなどの火碎物が濃集する試料であると判断された15試料に関して、試料処理(5)で作成したプレパラートを用いて火山ガラスを総計200粒子以上同定し、その形態を[吉川1976]の基準に従って扁平型(H)、中間型(C)、多孔質型(T)に区分する。これらの火山ガラス形態区分に属さないガラスについては、そのほか(O)として記載する。

iv)火山ガラス屈折率測定

火山灰層準、あるいは鉱物組成分析で火山ガラスなどの火碎物が濃集する試料であると判断された15試料に関しては、試料処理(5)で抽出した火山ガラス20粒子以上を用いて、温度変化法により屈折率測定を行う。温度変化法とは、試料に当る光の波長を一定にして、浸液の温度を変化させて屈折率を測定する方法である。この測定には温度変化型測定装置“MAIOT”(Measuring Actual Immersion Oil Temperature)を使用する。顕微鏡ステージ上に設置した加温板に、浸液と試料および熱電対とを密封したごく薄いカプセル(2枚のガラス板を重ねたもの)を載せる。加温板の温度を制御して、ほぼ一定の温度変化速度で、浸液および試料の温度を室温~60℃の範囲で変化させる。このようすを、位相差状態の顕微鏡で観察する。この画像を観察しながら、ガラスの輪郭が消失する温度を記録する。屈折率は、あらかじめ作成した各浸液の温度と屈折率との一次式から変換される。

v)重鉱物組成分析

火山灰層準、あるいは鉱物組成分析で火山ガラスなどの火碎物が濃集する試料であると判断された15試料に関して、試料処理(6)で作成したプレパラートを偏光顕微鏡で観察し、角閃石(Am)、斜方輝石(Opx)、単斜輝石(Cpx)、黒雲母(Bi)、ジルコン(Zr)、燐灰石(Ap)および不透明鉱物(Opq)を、新鮮・風化を区別しながら総計200個同定して各粒子の個数比(粒数%)を算出する。

4)分析結果

採取した40試料すべてについて粒度分析・全鉱物組成分析を行った。粒度組成に関して礫・砂・泥の比率を図74に、砂サイズ以上の比率を粒径頻度分布図(ヒストグラム)および累積粒径曲線図として

図77・79・81に示した。全鉱物組成分析結果を表9に粒数%として示し、新鮮な火山ガラス・長石・石英・重鉱物の量比と、新鮮な鉱物と風化鉱物および岩片の量比を図75に示した。

火山ガラスの形態分類と屈折率測定および重鉱物組成分析は、層相記載、火山ガラスの含有量など火碎物の含有状況などから判断し、No.3 土柱試料から3-1・3-2・3-5・3-9・3-12の5試料を、No.8 土柱試料から8-2・8-6・8-7・8-12・8-15の5試料を、そしてNo.9 土柱試料から9-2・9-4・9-6・9-8・9-10試料の5試料を選んで測定した。各土柱の第11～14層の各層準から代表となる試料を選んでいるが、No.3 土柱の第14層は明らかに火碎物に乏しいと判断し測定は避けた。

i) No.3 土柱(図76)

(1) No.3-1(第11層)

試料は86.9%の泥と13.1%の砂で構成され、礫は含まれていない(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は47%の新鮮鉱物と41%の風化鉱物、13%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は22%、長石が18%、重鉱物は6%である(図75、表9)。測定値としてカウントされていないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラス

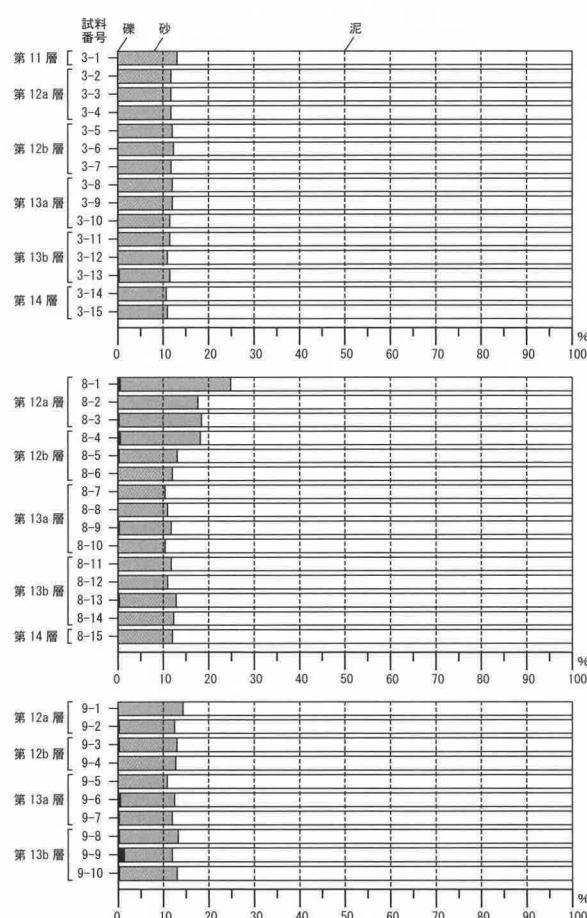


図74 磯・砂・泥の割合

表9 全鉱物組成結果

全鉱物組成(%)										
試料番号	層準	GI無色 新鮮	GI褐色 新鮮	FI 新鮮	FI 風化	Qz 新鮮	Qz 風化	HM 新鮮	HM 風化	LF
3-1	第11層	22	*	18	35	0	2	6	5	13
3-2	第12a層	27	*	23	34	0	2	6	2	5
3-3	第12a層	26	*	13	55	0	0	3	1	2
3-4	第12a層	28	*	15	48	0	0	6	2	2
3-5	第12b層	30	*	12	44	0	0	3	5	7
3-6	第12b層	18	*	19	52	0	0	7	0	3
3-7	第12b層	17	*	18	61	0	0	2	1	1
3-8	第13a層	13	+	11	65	+	0	5	2	4
3-9	第13a層	26	*	16	53	0	0	0	2	2
3-10	第13a層	15	+	10	68	0	1	1	0	3
3-11	第13b層	8	0	11	75	0	2	0	2	1
3-12	第13b層	5	*	15	77	0	1	0	1	2
3-13	第13b層	7	0	17	74	0	*	0	2	0
3-14	第14層	4	0	16	70	2	4	0	3	0
3-15	第14層	3	0	20	60	4	10	0	1	0
8-1	第12a層	24	1	10	59	0	0	4	1	1
8-2	第12a層	12	+	19	60	*	0	3	5	1
8-3	第12a層	25	1	16	51	+	0	5	0	1
8-4	第12b層	19	1	15	55	+	+	6	3	1
8-5	第12b層	22	1	19	49	0	0	7	2	0
8-6	第12b層	29	*	6	59	0	0	2	3	1
8-7	第13a層	24	*	12	58	0	3	1	2	0
8-8	第13a層	11	1	15	66	1	0	4	3	0
8-9	第13a層	9	*	5	76	+	+	6	2	0
8-10	第13a層	8	0	10	80	1	1	1	0	0
8-11	第13b層	7	*	10	78	0	1	1	1	1
8-12	第13b層	21	0	6	54	0	15	0	1	3
8-13	第13b層	7	*	9	78	1	+	1	1	0
8-14	第13b層	4	0	15	75	1	1	1	2	1
8-15	第14層	2	0	6	69	*	16	0	1	5
9-1	第12a層	27	*	14	47	1	0	9	1	0
9-2	第12a層	47	1	14	28	0	2	3	4	1
9-3	第12b層	28	+	15	46	0	0	8	2	1
9-4	第12b層	38	*	14	34	2	1	3	7	1
9-5	第13a層	31	+	18	38	0	0	9	3	1
9-6	第13a層	35	*	11	40	4	1	2	8	0
9-7	第13a層	35	*	7	45	3	+	6	2	0
9-8	第13b層	18	+	10	65	0	0	3	4	0
9-9	第13b層	14	0	11	67	+	2	2	2	1
9-10	第13b層	12	0	8	73	0	*	3	3	1

GI: 火山ガラス, FI: 長石, Qz: 石英, HM: 重鉱物, LF: 岩片
+: 1%未満, *: 未測定であるがプレパラート中で観察される

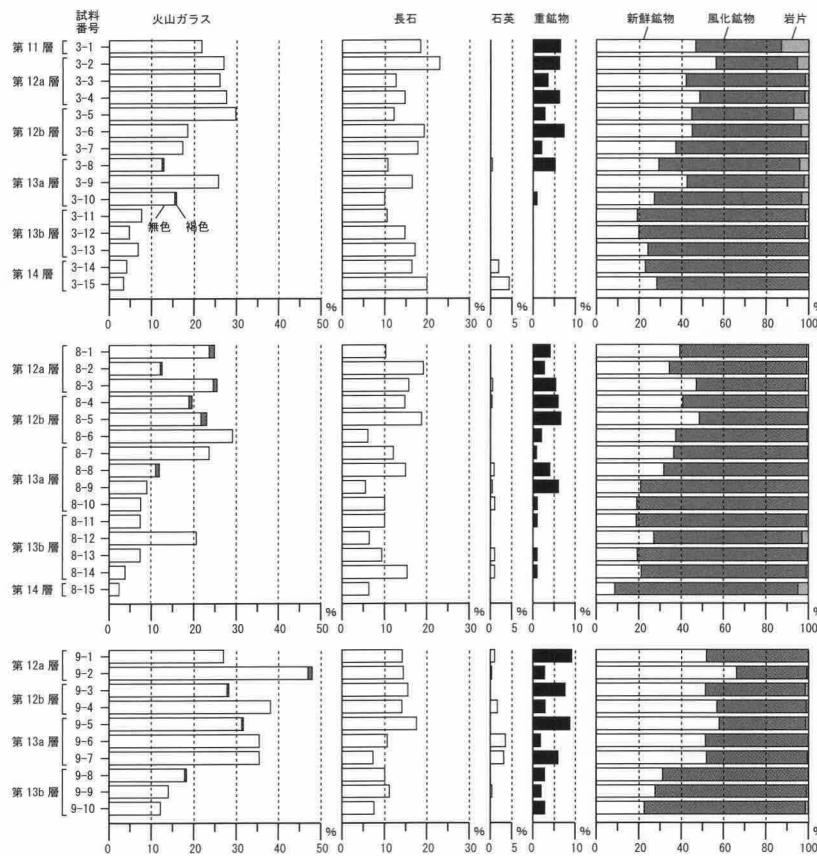


図75 全鉱物組成結果

火山ガラス・長石・石英・重鉱物は新鮮な鉱物の割合を示している

も認められる(表9)。

火山ガラスは扁平型(Ha; 21%、Hb; 44%)、中間型(Ca; 32%、Cb; 2%)、多孔質型(Ta; 1%)の形態に分類される(図82)。褐色火山ガラスはすべて扁平型(Ha)を示す。火山ガラスの約80%は $n=1.499-1.501$ (モード値; 1.500)の屈折率を示し、約20%が $n=1.503-1.504$ の屈折率を示す(図83)。測定値としてカウントされてはいないが、試料には $n=1.508-1.510$ の比較的高い屈折率の領域を示す無色透明の火山ガラスと褐色火山ガラスが極少量含まれている。

重鉱物は79%の角閃石を主体とし、17%の不透明鉱物と少量の斜方輝石(3%)を伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(4%)および酸化角閃石(1%)が認められる。また、測定値としてカウントされてはいないが、プレパラート中には微量の単斜輝石とジルコンが認められる(表12)。

(2) No.3-2(第12A層)

試料はおもに88.3%の泥と11.7%の砂で構成され、礫は含まれていない(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は56%の新鮮鉱物と38%の風化鉱物、5%の岩片で構成される。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める火山ガラスの割合は27%、長石が23%、重鉱物は6%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

火山ガラスは扁平型(Ha; 31%、Hb; 37%)、中間型(Ca; 32%、Cb; 1%)の形態に分類される(図82)。褐色火山ガラスは扁平型(Ha)を示す。火山ガラスは $n=1.499-1.504$ の範囲の屈折率を示す(図83)。火山ガラスの約75%は $n=1.499-1.501$ (モード値; 1.500)の屈折率を示し、約25%は $n=1.503-1.504$ (モード値; 1.504)の屈折率を示す。測定値としてカウントされてはいないが、試料には $n=1.508-1.511$ の比較的高い屈折率の領域を示す無色透明の火山ガラスと褐色火山ガラスが極少量

含まれている。

重鉱物は67%の角閃石を主体とし、31%の不透明鉱物と少量の斜方輝石(1%)を伴う(図84)。角閃石の中には普通角閃石のほか、少量のカミングトン閃石(1%)が認められる。また、分析値としてカウントされていないが、プレパラート中には微量の単斜輝石とジルコンが含まれている(表12)。

(3) No.3-3(第12A層)

試料はおもに88.2%の泥と11.7%の砂、及び0.1%の礫で構成されている(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は42%の新鮮鉱物と56%の風化鉱物、2%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める火山ガラスの割合は26%、長石が13%、重鉱物は3%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

(4) No.3-4(第12A層)

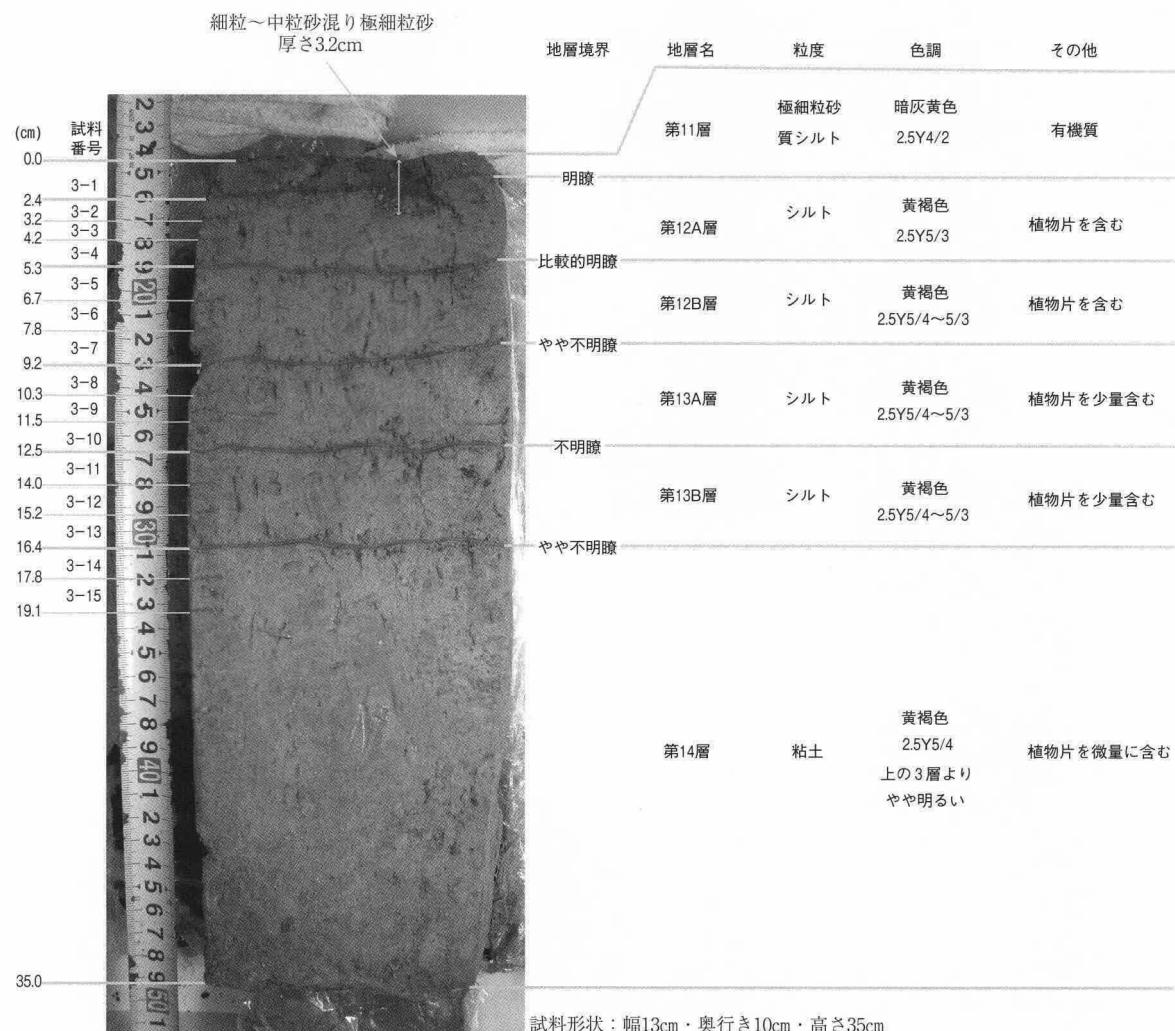


図76 土柱試料(UR07-2次 No.3)の火山灰分析試料採取位置と層相の特徴

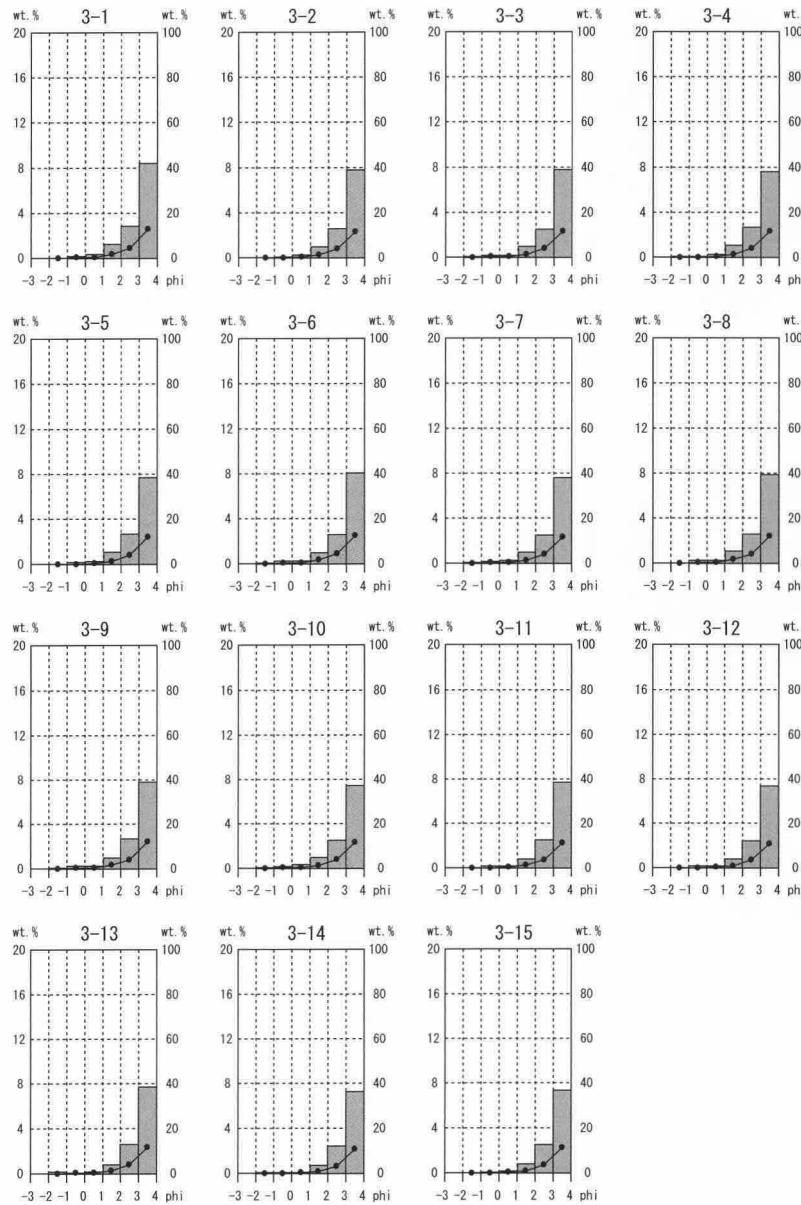


図77 土柱試料No.3における極細粒砂以上の粒径頻度分布
グラフ(ヒストグラム)と累積粒径曲線図

粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は45%の新鮮鉱物と48%の風化鉱物、7%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は30%、長石が12%、重鉱物は3%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

火山ガラスは扁平型(Ha: 27%、Hb: 41%)、中間型(Ca: 32%)の形態に分類される(図82)。多孔質型の火山ガラスは認められない。褐色火山ガラスは扁平型(Ha)を示す。火山ガラスは $n=1.499-1.504$ の範囲の屈折率を示す(図83)。火山ガラスの屈折率は $n=1.499-1.501$ (モード値: 1.500)の領域(全体の約80%)と、 $n=1.503-1.504$ の領域(全体の約20%)とに明瞭に区分される。測定値としてカウントされてはいないが、試料には $n=1.508-1.511$ の比較的高い屈折率の領域を示す無色透明の

試料はおもに88.2%の泥と11.8%の砂、0.1%の礫で構成されている(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は49%の新鮮鉱物と50%の風化鉱物、2%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は28%、長石が15%、重鉱物は6%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

(5) No.3-5(第12B層)

試料は88.0%の泥と11.9%の砂で構成され、礫は含まれていない(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗

火山ガラスと褐色火山ガラスが極少量含まれている。

重鉱物は84%の角閃石を主体とし、13%の不透明鉱物と少量の斜方輝石(3%)を伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(2%)および酸化角閃石(2%)が認められる。また、分析値としてカウントされていないが、プレパラート中には微量の単斜輝石やジルコンも認められる(表12)。

(6) No.3-6(第12B層)

試料はおもに87.6%の泥と12.3%の砂、および0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は45%の新鮮鉱物と52%の風化鉱物、3%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は18%、長石が19%、重鉱物は7%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

(7) No.3-7(第12B層)

試料はおもに88.3%の泥と11.6%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は37%の新鮮鉱物と62%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は17%、長石が18%、重鉱物は2%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

(8) No.3-8(第13A層)

試料はおもに87.9%の泥と12.1%の砂で構成され、礫は含まれていない(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は29%の新鮮鉱物と66%の風化鉱物、4%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は13%、長石が11%、重鉱物は5%である。微量の褐色火山ガラスと石英も認められる(表9)。

(9) No.3-9(第13A層)

試料はおもに87.9%の泥と12.0%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は43%の新鮮鉱物と55%の風化鉱物、2%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は26%、長石が16%、重鉱物は2%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表

9)。

火山ガラスは扁平型(Ha; 17%、Hb; 41%)、中間型(Ca; 38%、Cb; 4%)の形態に分類される(図82)。褐色火山ガラスは扁平型(Ha)を示す(図84)。火山ガラスは $n=1.499-1.508$ の範囲の屈折率を示す。屈折率は $n=1.499-1.502$ (モード値; 1.501)の領域(全体の約95%)と、 $n=1.509$ の領域(全体の約5%)に明瞭に区分される。

重鉱物は69%の角閃石を主体とし、26%の不透明鉱物と少量の斜方輝石(2%)、単斜輝石(1%)およびジルコン(2%)を伴う。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(2%)が認められる(図84)。

(10) No.3-10(第13A層)

試料はおもに88.5%の泥と11.5%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は27%の新鮮鉱物と70%の風化鉱物、3%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は15%、長石が10%、重鉱物は1%である。プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

(11) No.3-11(第13B層)

試料はおもに88.6%の泥と11.4%の砂で構成され、礫は含まれていない(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は19%の新鮮鉱物と79%の風化鉱物、1%の岩片で構成される。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は8%、長石が11%である。微量の風化した石英と重鉱物も認められる(表9)。

(12) No.3-12(第13B層)

試料はおもに89.1%の泥と10.9%の砂で構成され、礫は含まれていない(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は20%の新鮮鉱物と78%の風化鉱物、2%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は5%、長石が15%である。石英や重鉱物は微量で風化している(表9)。

火山ガラスは扁平型(Ha; 30%、Hb; 43%)、中間型(Ca; 27%)の形態に分類される(図82)。測定値としてカウントされていないが、プレパラートには褐色火山ガラスも認められる(表9)。火山ガラスは $n=1.499-1.501$ の範囲の屈折率を示す。

重鉱物は55%の角閃石、41%の不透明鉱物と微量の風化した単斜輝石(2%)およびジルコン(2%)を伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、微量のカミングトン閃石(1%)が認められる。また、分析値としてカウントされていないが、プレパラート中には微量の風化した斜方輝石が認められる(表

12)。

(13) No.3-13(第13B層)

試料はおもに88.5%の泥と11.3%の砂、0.2%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は24%の新鮮鉱物と76%の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は7%、長石が17%である。

(14) No.3-14(第14層)

試料はおもに89.4%の泥と10.6%の砂で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は23%の新鮮鉱物と77%の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は4%、長石が16%、石英が2%で、新鮮な重鉱物は認められない。

(15) No.3-15(第14層)

試料はおもに89.0%の泥と11.0%の砂で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図77)。

細粒砂サイズの試料は28%の新鮮鉱物と73%の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は3%、長石が20%、石英が4%である。

ii) No.8 土柱

(16) No.8-1(第12A層)

試料はおもに75.1%の泥と24.3%の砂、0.6%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は39%の新鮮鉱物と60%の風化鉱物、1%の岩片で構成される。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明火山ガラスの割合は24%、褐色火山ガラスが1%、長石が10%、重鉱物は4%である(図75)。

(17) No.8-2(第12A層)

試料はおもに82.3%の泥と17.6%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は34%の新鮮鉱物と65%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明火山ガラスの割合は12%、褐色火山ガラスが1%未満、長石が19%、重鉱物は3%である。

火山ガラスは扁平型(Ha:34%、Hb:48%)、中間型(Ca:18%)の形態に分類される(図82)。褐色火山ガラスはすべて扁平型(Ha)を示す。火山ガラスはn=1.499-1.504の範囲の屈折率を示す(図83)。

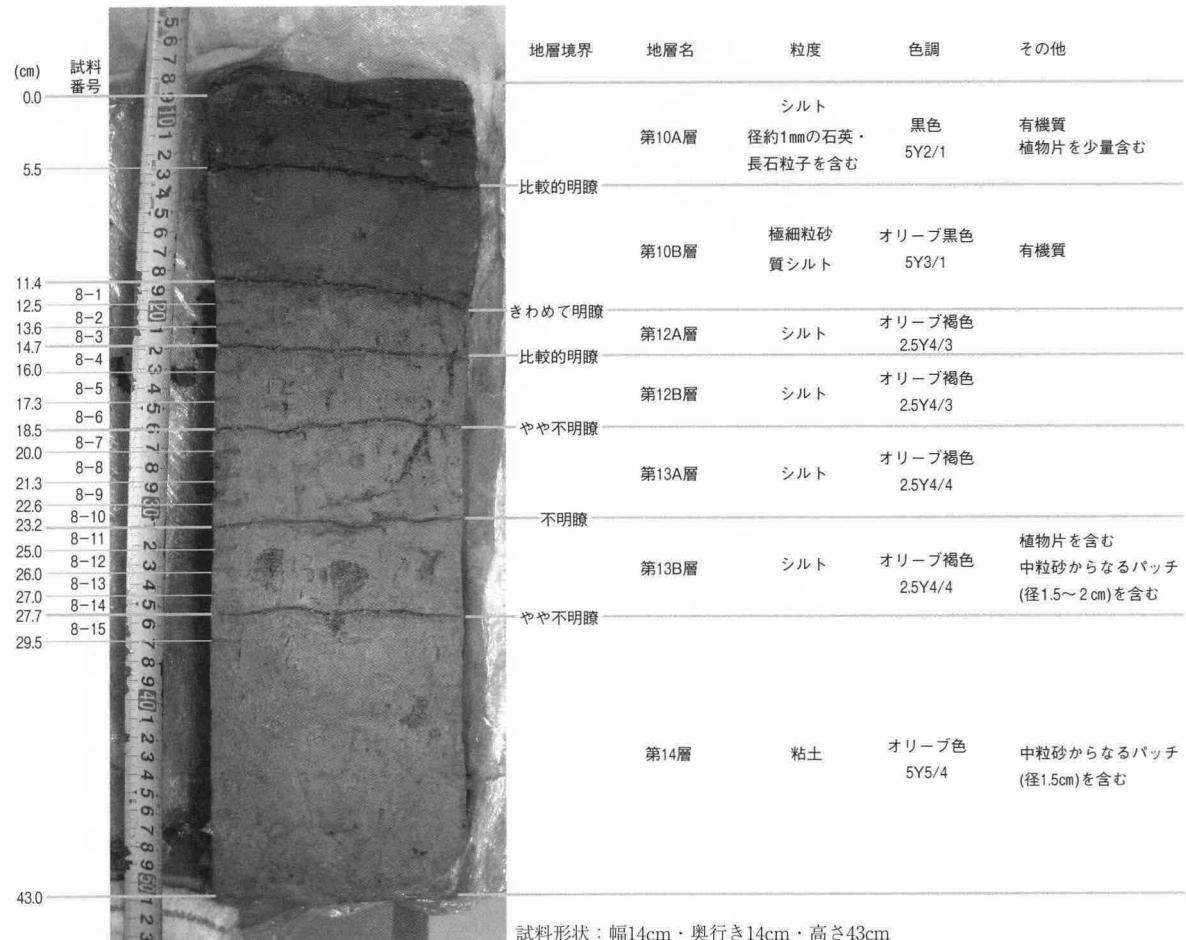


図78 土柱試料(UR07-2次 No.8)の火山灰分析試料採取位置と層相の特徴

屈折率は $n=1.499-1.501$ (モード値: 1.500)の比較的低い領域(全体の約80%)と、 $n=1.503$ の値を示すもの(全体の約20%)とに明瞭に区分される。測定値としてカウントされてはいないが、試料には $n=1.509-1.511$ の比較的高い屈折率の領域を示す無色透明の火山ガラスと褐色火山ガラスが極少量含まれている。

重鉱物は81%の角閃石を主体とし、18%の不透明鉱物と1%の斜方輝石を伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(5%)が認められる。また、分析値としてカウントされていないが、プレパラート中には微量の単斜輝石やジルコンが認められる(表12)。

(18) No.8-3(第12A層)

試料はおもに81.5%の泥と18.2%の砂、0.3%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は47%の新鮮鉱物と52%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明火山ガラスの割合は25%、褐色ガラスは1%、長石が16%、石英が1%未満、重鉱物は5%である。

(19) No.8-4(第12B層)

試料はおもに81.8%の泥と17.6%の砂、0.7%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は41%の新鮮鉱物と58%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は19%、褐色火山ガラスが1%、長石が15%、石英が1%未満、重鉱物は6%である。

(20) No.8-5(第12B層)

試料はおもに86.8%の泥と12.9%の砂、0.3%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は41%の新鮮鉱物と58%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は22%、褐色火山ガラスが1%、長石が19%、重鉱物は7%である。

(21) No.8-6(第12B層)

試料はおもに87.9%の泥と12.0%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は37%の新鮮鉱物と62%の風化鉱物、および1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は29%、長石が6%、重鉱物は2%

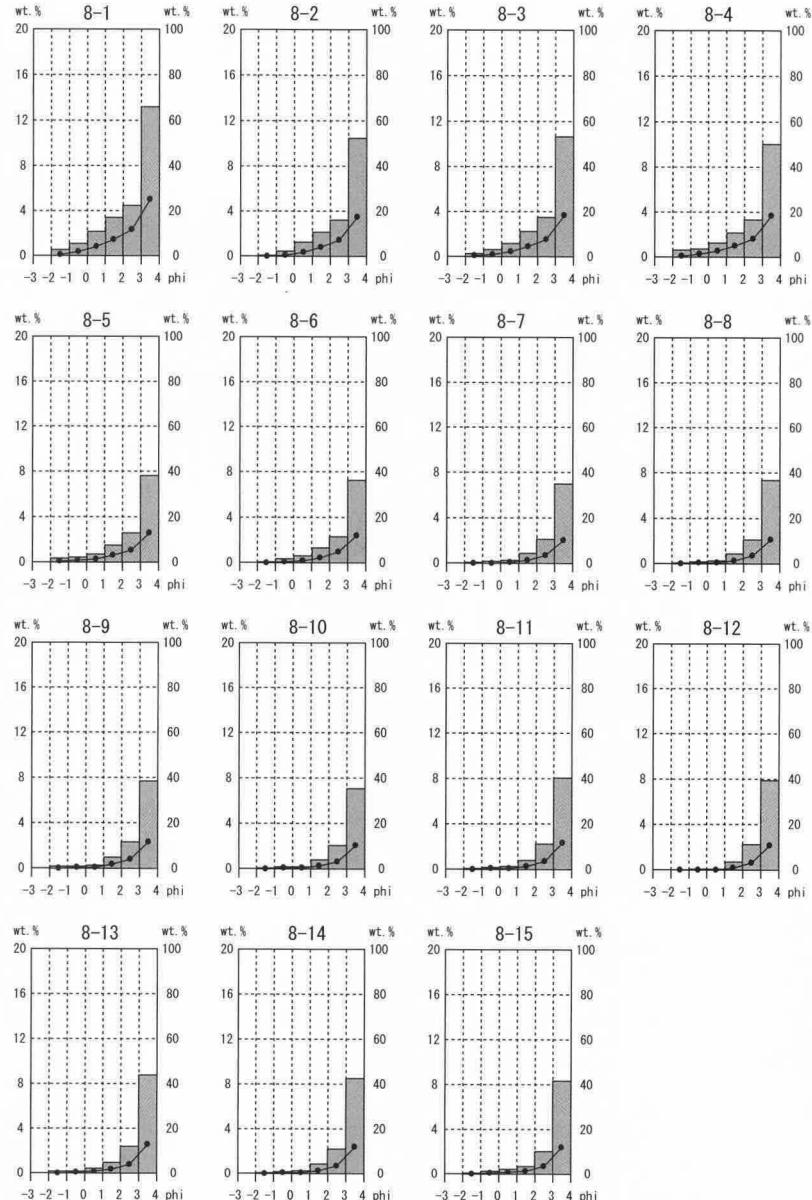


図79 土柱試料No.8における極細粒砂以上の粒径頻度分布

グラフ(ヒストグラム)と累積粒径曲線図

である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

火山ガラスは扁平型(Ha; 22%、Hb; 48%)、中間型(Ca; 29%、Cb; 1%)の形態に分類される(図82)。褐色火山ガラスはすべて扁平型(Ha)を示す。

火山ガラスは $n=1.499-1.505$ の範囲の屈折率を示す(図83)。屈折率は $n=1.499-1.501$ (モード値; 1.500)の領域(全体の約85%)と、 $n=1.504-1.505$ の領域(全体の約15%)に明瞭に区分される。測定値としてカウントされてはいないが、試料には $n=1.509-1.511$ の比較的高い屈折率の領域を示す無色透明の火山ガラスと褐色火山ガラスが極少量含まれている。

重鉱物は80%の角閃石を主体とし、18%の不透明鉱物と2%の斜方輝石を伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(4%)が認められる。また、分析値としてカウントされてはいないが、プレパラート中には微量の単斜輝石とジルコンが認められる。

(22) No.8-7(第13A層)

試料はおもに89.5%の泥と10.5%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は36%の新鮮鉱物と63%の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は24%、長石が12%、重鉱物は1%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

火山ガラスは扁平型(Ha; 23%、Hb; 44%)、中間型(Ca; 32%)の形態に分類される(図82)。褐色火山ガラスはすべて扁平型(Ha)を示す。火山ガラスは $n=1.499-1.510$ の範囲の屈折率を示す(図83)。屈折率は $n=1.499-1.501$ (モード値; 1.500)の比較的低い領域(全体の約85%)と、 $n=1.504-1.505$ の中位の領域(全体の約10%)、さらに $n=1.510$ の比較的高い値を示すもの(全体の約5%)に明瞭に区分される。微量に含まれる褐色火山ガラスは $n=1.510$ の屈折率を示す。

重鉱物は83%の角閃石を主体とし、16%の不透明鉱物と2%の斜方輝石を伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(4%)が認められる。また、分析値としてカウントされてはいないが、プレパラート中には微量の単斜輝石とジルコンが認められる(表12)。

(23) No.8-8(第13A層)

試料はおもに89.1%の泥と10.8%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は32%の新鮮鉱物と68%の風化鉱物、3%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明火山ガラスの割合は11%、褐色火山ガラスが1%、長石が15%、石英が1%、重鉱物は4%である。

(24) No.8-9(第13A層)

試料はおもに88.3%の泥と11.5%の砂、0.2%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布

は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は21%の新鮮鉱物と79%の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は9%、長石が5%、石英が1%未満、重鉱物は6%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

(25) No.8-10(第13A層)

試料はおもに89.6%の泥と10.3%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は19%の新鮮鉱物と81%の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は8%、長石が10%、石英が1%、重鉱物は1%である。

(26) No.8-11(第13B層)

試料はおもに88.4%の泥と11.6%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は19%の新鮮鉱物と80%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は7%、長石が10%、重鉱物は1%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

(27) No.8-12(第13B層)

試料はおもに89.0%の泥と11.0%の砂で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サ
イズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は27%の新鮮鉱物と70%の風化鉱物、3%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は21%、長石が6%である。

火山ガラスは扁平型(Ha; 21%、Hb; 43%)、中間型(Ca; 35%、Cb; 1%)の形態に分類される(図82)。褐色火山ガラスは認められない。火山ガラスはn=1.499-501(モード値; 1.500)の範囲の屈折率を示す。測定値としてカウントされてはいないが、試料にはn=1.508-1.510の比較的高い屈折率の領域を示す火山ガラスが極少量含まれている。

重鉱物は82%の角閃石を主体とし、17%の不透明鉱物と1%のジルコンを伴う(図84)。角閃石には重鉱物の78%と大部分を占める普通角閃石と、少量のカミングトン閃石(1%)および酸化角閃石(3%)が認められる。また、分析値としてカウントされていないが、プレパラート中には微量の单斜輝石や黒雲母も認められる(表12)。

(28) No.8-13(第13B層)

試料はおもに87.0%の泥と12.8%の砂、0.2%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布

は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は19%の新鮮鉱物と80%の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は7%、長石が9%、石英が1%、重鉱物は1%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

(29) No.8-14(第13B層)

試料はおもに87.8%の泥と12.1%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は21%の新鮮鉱物と78%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は4%、長石が15%、石英が1%、重鉱物は1%である。

(30) No.8-15(第14層)

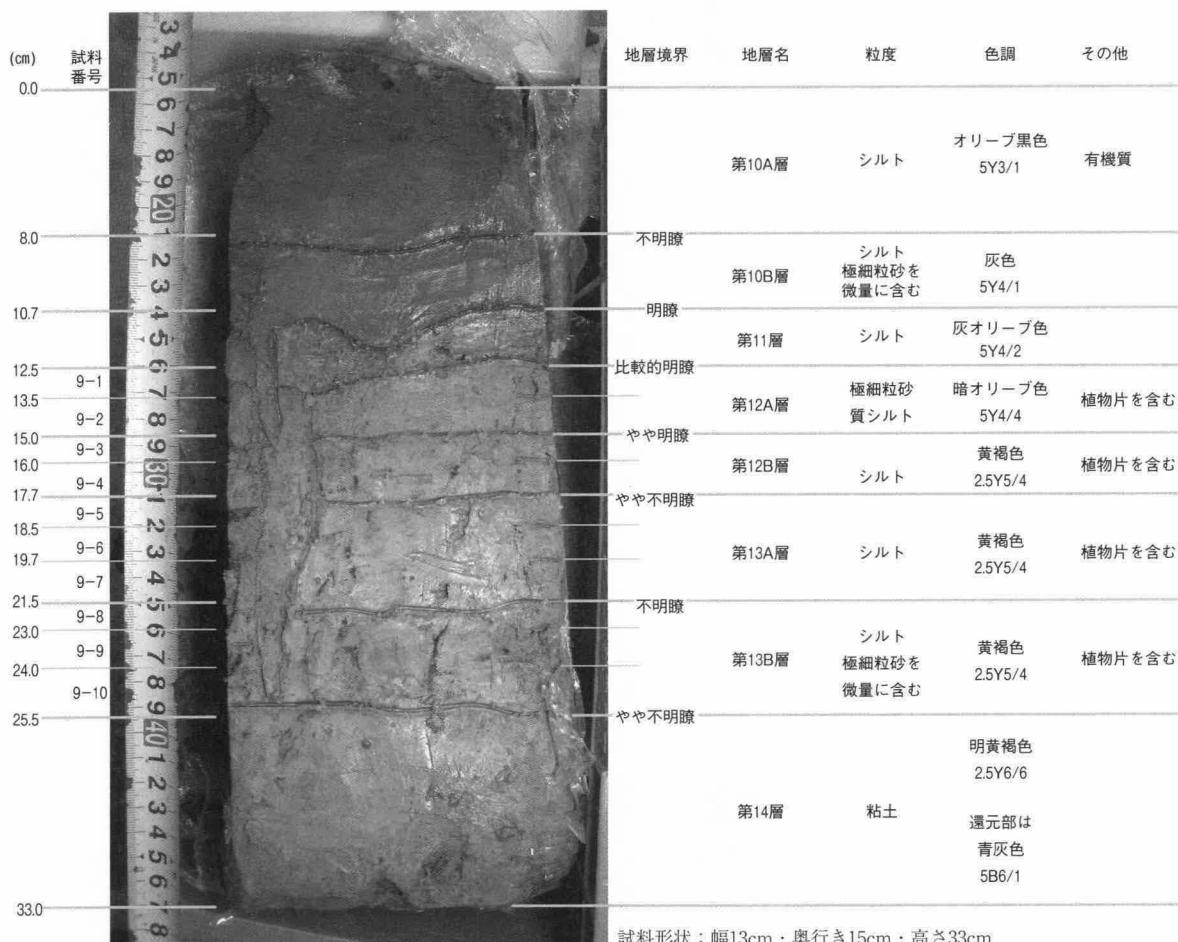


図80 土柱試料(UR07-2 次 No. 9)の火山灰分析試料採取位置と層相の特徴

試料はおもに 88.1 % の泥と 11.9 % の砂、0.1 % の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図79)。

細粒砂サイズの試料は 9 % の新鮮鉱物と 86 % の風化鉱物、5 % の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は 2 %、長石が 6 %

である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の石英も認められる(表9)。

火山ガラスは扁平型(Ha; 23 %、Hb; 46 %)、中間型(Ca; 31 %)の形態に分類される(図82)。褐色火山ガラスは認められない。火山ガラスは $n=1.499-1.501$ (モード値; 1.500)の範囲の屈折率を示す。測定値としてカウントされてはいないが、火山ガラスには $n=1.508-1.510$ の比較的高屈折率の領域を示すものも極少量含まれている。

重鉱物は 73 % の角閃石を主体とし、23 % の不透明鉱物と 4 % の斜方輝石、2 % のジルコンを伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(2 %)が認められる。

iii) No. 9 土柱

(31) No.9-1(第12A層)

試料はおもに 85.7 % の泥と 14.2 % の砂、0.1 % の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図81)。

細粒砂サイズの試料は 52 % の新鮮鉱物と 48 % の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、

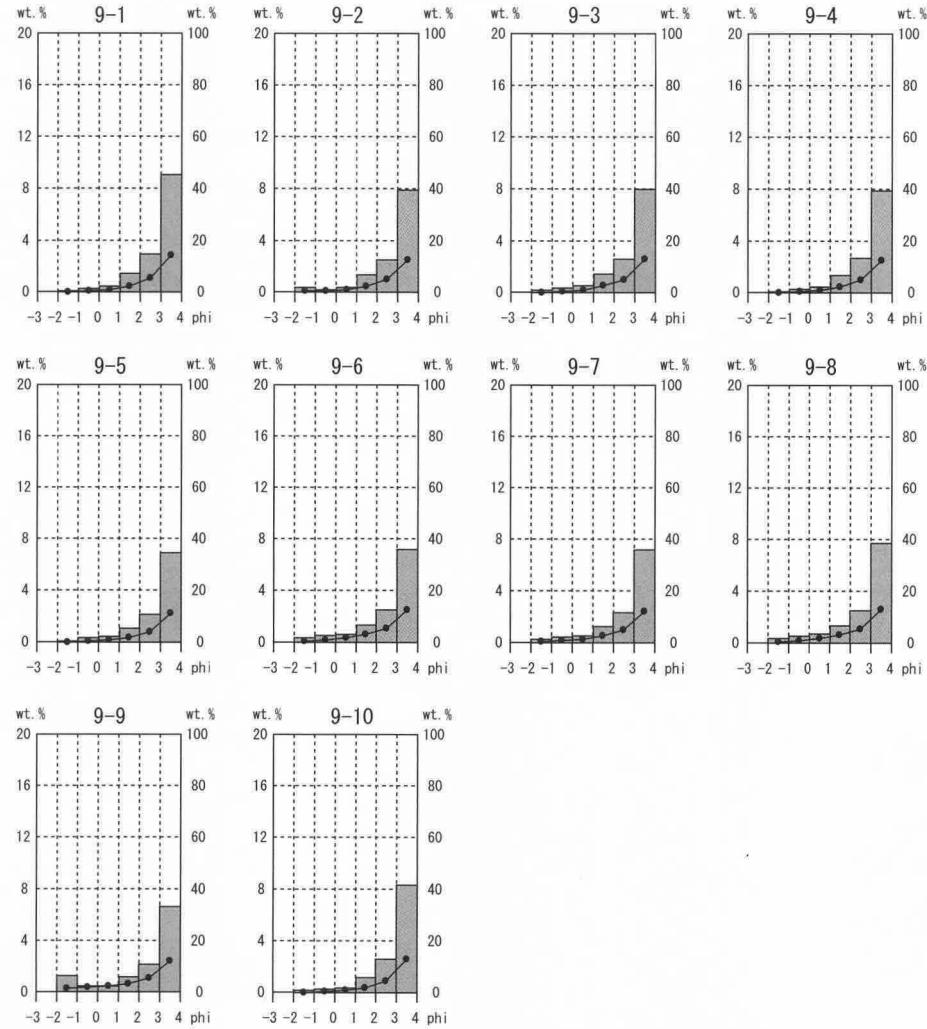


図81 土柱試料No.9における極細粒砂以上の粒径頻度分布
グラフ(ヒストグラム)と累積粒径曲線図

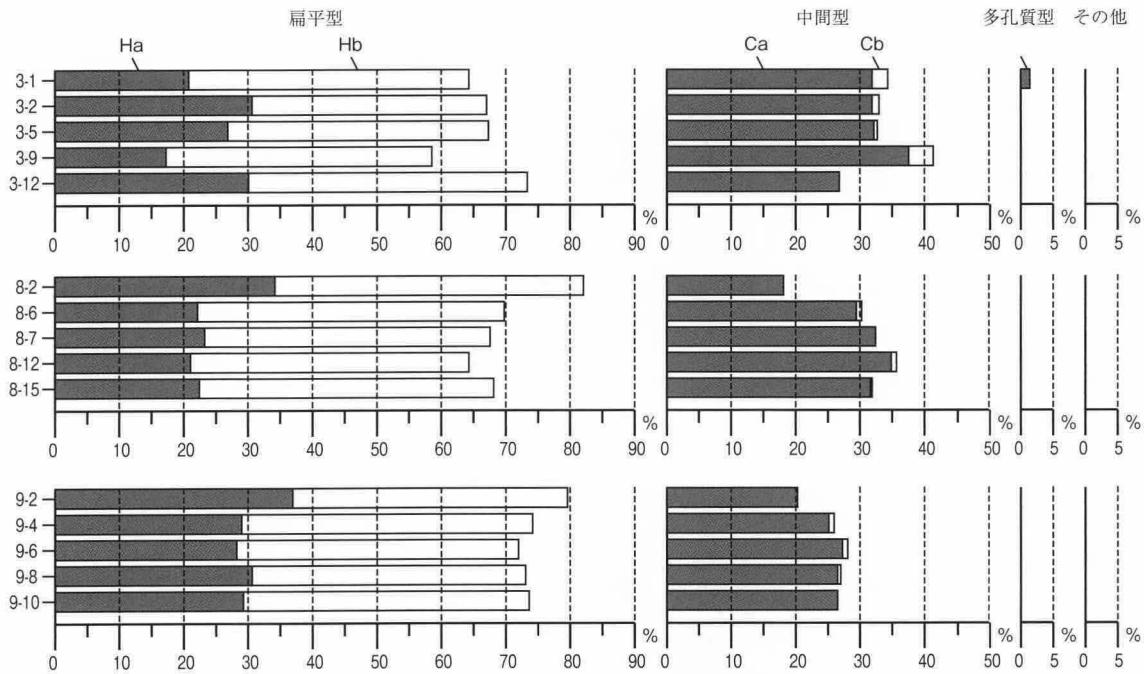


図82 火山ガラスの形態分類結果図

試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は27%、長石が14%、石英が1%、重鉱物は9%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

(32) No.9-2(第12A層)

試料はおもに87.4%の泥と12.2%の砂、0.3%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図81)。

細粒砂サイズの試料は66%の新鮮鉱物と33%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は47%、褐色火山ガラスが1%、長石が14%、重鉱物は3%である。

火山ガラスは扁平型(Ha; 37%、Hb; 43%)、中間型(Ca; 20%)の形態に分類される(図82)。褐色

表10 火山ガラスの形態分類結果

火山ガラスの形態分類(%)

試料番号	層準	扁平型		中間型		多孔質型		その他	
		Ha	Hb	Ca	Cb	Ta	Tb	Oth	
3-1	第11層	21	44	32	2	1	0	0	0
3-2	第12a層	31	37	32	1	0	0	0	0
3-5	第12b層	27	41	32	*	0	0	0	0
3-9	第13a層	17	41	38	4	0	0	0	0
3-12	第13b層	30	43	27	0	0	0	0	0
8-2	第12a層	34	48	18	0	0	0	0	0
8-6	第12b層	22	48	29	1	0	0	0	0
8-7	第13a層	23	44	32	0	0	0	0	0
8-12	第13b層	21	43	35	1	0	0	0	0
8-15	第14層	23	46	31	*	0	0	0	0
9-2	第12a層	37	43	20	0	0	0	0	0
9-4	第12b層	29	45	25	1	0	0	0	0
9-6	第13a層	28	44	27	1	0	0	0	0
9-8	第13b層	31	42	26	0	0	0	0	0
9-10	第13b層	29	44	26	0	0	0	0	0

火山ガラスはすべて扁平型(Ha)を示す。火山ガラスはn=1.499-1.503の範囲の屈折率を示す(図83)。屈折率はn=1.499-1.501(モード値: 1.500)の領域(全体の約80%)と、n=1.503の値を示すもの(全体の約20%)に区分される。測定値としてカウントされてはいないが、試料にはn=1.509-1.511の比較的高い屈折率の領域を示す無色透明の火山ガラスと褐色火山ガラスが極少量含まれている。

重鉱物は93%の角閃石を主体とし、8%の不透明鉱物を伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングト

ン閃石(8%)および酸化角閃石(1%)が認められる。また、分析値としてカウントされていないが、プレパラート中には微量の斜方輝石、単斜輝石とジルコンが認められる(表12)。

表11 火山ガラス屈折率測定結果

上端は試料番号を示す

表12 重鉱物組成結果

重鉱物組成(%)																		
試料番号	層準	Ho 新鮮	Ho 風化	Cum 新鮮	Cum 風化	oxHo 新鮮	oxHo 風化	Opx 新鮮	Opx 風化	Cpx 新鮮	Cpx 風化	Bi 新鮮	Bi 風化	Zi 新鮮	Zi 風化	Ap 新鮮	Ap 風化	Opx
3-1	第11層	40	34	3	1	1	+	1	2	0	*	0	0	+	0	0	0	17
3-2	第12a層	29	37	1	+	0	0	1	+	+	0	0	0	0	+	0	0	31
3-5	第12b層	39	41	0	2	1	1	0	3	0	*	0	0	0	0	0	0	13
3-9	第13a層	33	34	2	0	0	*	0	2	0	1	0	0	1	1	0	0	26
3-12	第13b層	20	35	0	1	0	0	0	*	0	2	0	0	1	1	0	0	41
8-2	第12a層	16	60	3	2	+	+	+	1	0	*	0	0	*	*	0	0	18
8-6	第12b層	23	53	3	1	*	*	1	1	0	*	0	0	*	0	0	0	18
8-7	第13a層	12	67	2	2	0	0	0	2	0	*	0	*	*	*	0	0	16
8-12	第13b層	49	29	1	0	3	0	0	*	0	*	0	0	1	*	0	0	17
8-15	第14層	58	12	1	1	0	0	2	2	0	0	0	0	2	*	0	0	23
9-2	第12a層	9	75	4	4	1	*	*	*	0	*	0	0	*	*	0	0	8
9-4	第12b層	24	59	2	2	1	1	0	1	0	1	0	0	*	0	0	0	8
9-6	第13a層	11	70	2	4	1	0	0	1	0	0	0	0	*	1	0	0	10
9-8	第13b層	23	61	4	1	0	2	0	3	0	*	0	0	0	0	0	0	7
9-10	第13c層	50	26	2	2	1	*	0	2	0	2	0	0	1	0	1	0	13

Ho: 普通角閃石, Cum: カミングトン閃石, oxHo: 酸化角閃石, Opx: 斜方輝石, Cpx: 単斜輝石, Bi: 黒雲母, Zi: ジルコン, Ap: リン灰岩, Ptl: 不透明鉱物
+: 1%未満; -: 未測定であるがプレラバート中で観察される

粒度分布は極めて細かいもので、平均粒径は約0.05mmである（図1）。

細粒砂サイズの試料は51%の新鮮鉱物と47%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は28%、褐色火山ガラスが1%未満、長石が15%、重鉱物は8%である。

(34) N_O 9-4(第12B層)

試料はおもに87.3%の泥と12.7%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図81)。

細粒砂サイズの試料は57%の新鮮鉱物と42%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は38%、長石が14%、石英が2%、重鉱物は3%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

火山ガラスは扁平型(Ha; 29%、Hb; 45%)、中間型(Ca; 25%、Cb; 1%)の形態に分類される(図82)。褐色火山ガラスはすべて扁平型(Ha)を示す。火山ガラスは $n=1.499-1.504$ の範囲の屈折率を示す。

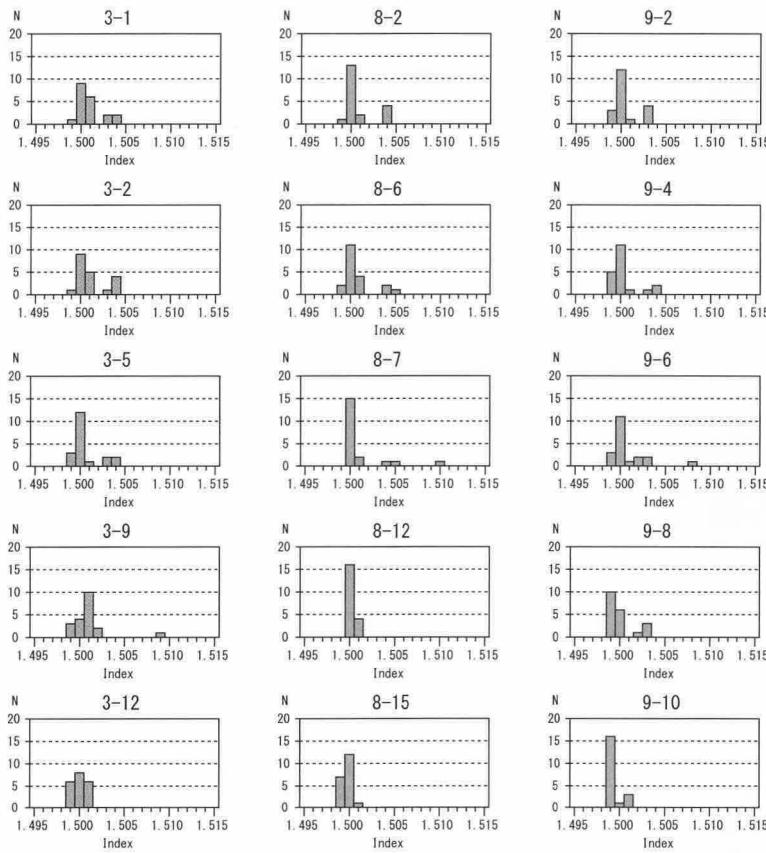


図83 火山ガラス屈折率ヒストグラム

す(図83)。屈折率は $n=1.499-1.500$ (モード値；1.500)の領域(全体の約85%)と、 $n=1.503-1.504$ の領域(全体の約15%)に明瞭に区分される。測定値としてカウントされてはいないが、試料には $n=1.509-1.511$ の比較的高い屈折率の領域を示す無色透明の火山ガラスと褐色火山ガラスが極少量含まれている。

重鉱物は89%の角閃石を主体とし、8%の不透明鉱物と1%の斜方輝石および1%の単斜輝石を伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(4%)および酸化角閃石(1%)が認められる。また、分析値としてカウントされ

ていないが、プレパラート中には微量のジルコンも認められる(表12)。

(35) No.9-5(第13A層)

試料はおもに89.0%の泥と10.9%の砂、0.1%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図81)。

細粒砂サイズの試料は58%の新鮮鉱物と41%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は31%、褐色火山ガラスが1%未満、長石が18%、重鉱物は9%である。

(36) No.9-6(第13A層)

試料はおもに87.4%の泥と12.2%の砂、0.4%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図81)。

細粒砂サイズの試料は51%の新鮮鉱物と49%の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は35%、長石が11%、石英が4%、重鉱物は2%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる(表9)。

火山ガラスは扁平型(Ha；28%、Hb；44%)、中間型(Ca；27%、Cb；1%)の形態に分類される(図

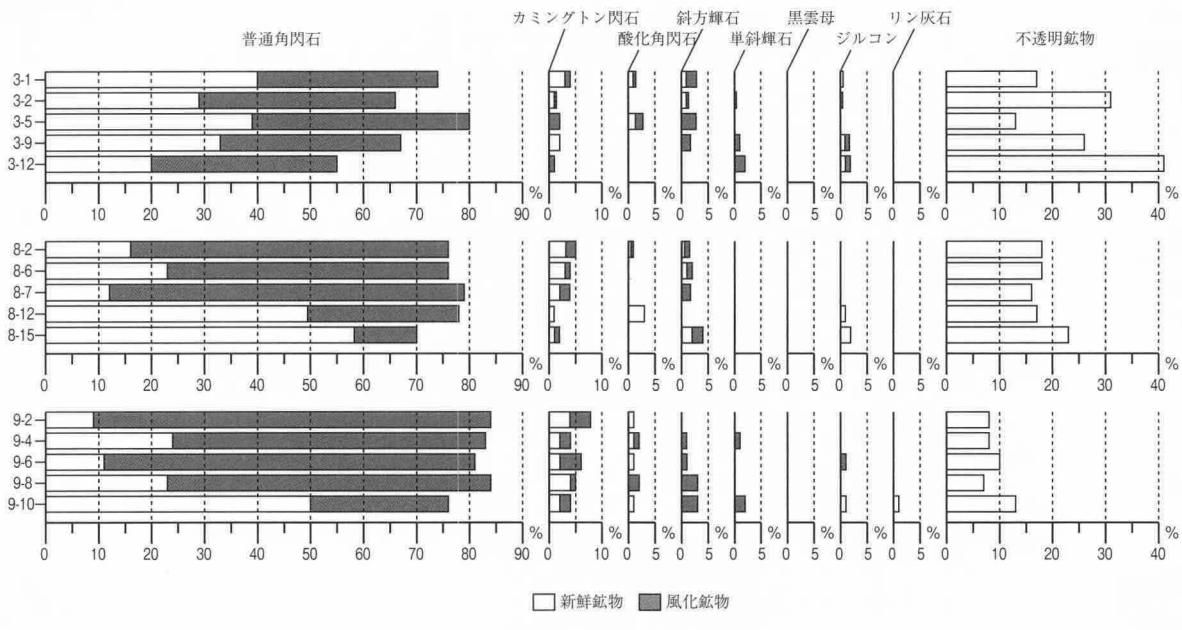


図84 重鉱物組成分析結果図

82)。褐色火山ガラスはすべて扁平型(Ha)を示す。火山ガラスは $n=1.499-1.508$ の範囲の屈折率を示す(図83)。屈折率は $n=1.499-1.503$ (モード値; 1.500)の領域(全体の約95%)と、 $n=1.508$ の比較的高い値を示すもの(全体の約5%)に区分される。

重鉱物は88%の角閃石を主体とし、10%の不透明鉱物と1%の斜方輝石および1%のジルコンを伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(6%)および酸化角閃石(1%)が認められる。

(37) No.9-7(第13A層)

試料はおもに88.0%の泥と11.7%の砂、0.3%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図81)。

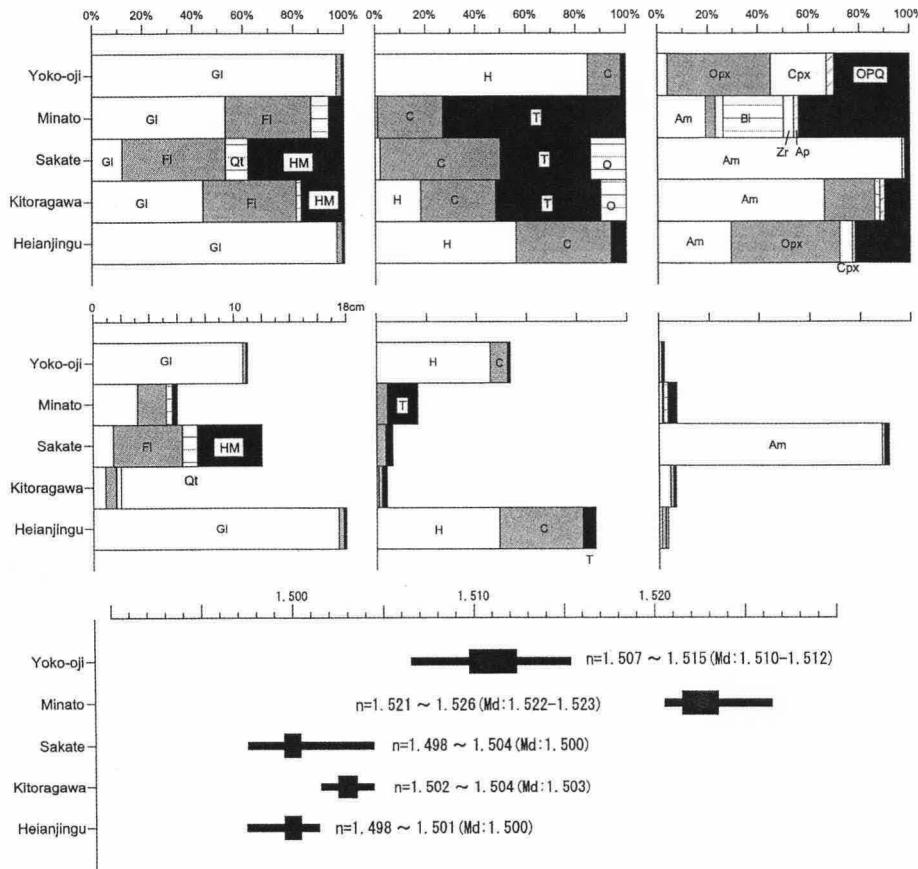
細粒砂サイズの試料は52%の新鮮鉱物と48%の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は35%、長石が7%、石英が3%、重鉱物は6%である。測定値として示されてはいないが、プレパラートには少量の褐色火山ガラスも認められる。

(38) No.9-8(第13B層)

試料はおもに86.8%の泥と12.8%の砂、0.4%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図81)。

細粒砂サイズの試料は31%の新鮮鉱物と69%の風化鉱物で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は18%、褐色火山ガラスが1%未満、長石が10%、重鉱物は3%である。

火山ガラスは扁平型(Ha; 31%、Hb; 42%)、中間型(Ca; 26%)の形態に分類される(図82)。褐色



上段は百分率表示で、中段は層厚比に基づく降灰量に近似な相対比。下段は火山ガラスの屈折率を示している。
 Yoko-oji;横大路火山灰、Minato;港火山灰、Sakate;阪手火山灰、Kitoragawa;鬼虎川火山灰、Heianjingū;平安神宮火山灰、GI;火山ガラス、Fl;長石、Qt;石英、HM;重鉱物、H;扁平型、C;中間型、T;多孔質型、Am;角閃石類、Opx;斜方輝石、Cpx;単斜輝石、Bi;黒雲母、Zr;ジルコン、Ap;アパタイト、OPQ;不透明鉱物

図85 大阪平野中央部の上部更新統～完新統における主要5火山灰層の標準的な岩石記載的性質([趙哲済2007]の原図を使用)

重鉱物は91%の角閃石を主体とし、7%の不透明鉱物と3%の斜方輝石を伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(5%)および酸化角閃石(2%)が認められる。また、分析値としてカウントされていないが、プレパラート中には微量の単斜輝石が認められる(表12)。

(39) No.9-9(第13B層)

試料はおもに87.9%の泥と10.8%の砂、1.3%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図81)。

細粒砂サイズの試料は28%の新鮮鉱物と71%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は14%、長石が11%、石英が1%未満、重鉱物は2%である。

(40) No.9-10(第13B層)

火山ガラスはすべて扁平型(Ha)を示す。火山ガラスは $n=1.499-1.503$ の範囲の屈折率を示す(図83)。屈折率は $n=1.499-1.500$ (モード値;1.499)の領域(全体の約80%)と、 $n=1.502-1.503$ (モード値;1.503)を示すもの(全体の約20%)とに区分される。測定値としてカウントされてはいないが、試料には $n=1.508-1.511$ の比較的高い屈折率の領域を示す無色透明の火山ガラスと褐色火山ガラスが極少量含まれている。

試料はおもに87.1%の泥と12.8%の砂、0.2%の礫で構成される(図74)。砂サイズ以上の粒度分布は極細粒砂サイズにモードを示し、粗粒側に向かってその量比が減少する負の歪みを示している(図81)。

細粒砂サイズの試料は23%の新鮮鉱物と76%の風化鉱物、1%の岩片で構成される(図75)。新鮮な鉱物の内、試料全体に占める無色透明の火山ガラスの割合は12%、長石が8%、重鉱物は3%である。

火山ガラスは扁平型(Ha; 29%、Hb; 44%)、中間型(Ca; 26%)の形態に分類される(図82)。褐色火山ガラスは認められない。火山ガラスは $n=1.498-1.501$ (モード値; 1.499)の範囲の屈折率を示す(図83)。

重鉱物は81%の角閃石を主体とし、少量の不透明鉱物(13%)、斜方輝石(3%)、単斜輝石(2%)、ジルコン(1%)およびアパタイト(1%)を伴う(図84)。角閃石には普通角閃石のほかに、少量のカミングトン閃石(4%)および酸化角閃石(1%)が認められる。

5) 考察

大阪平野を含む近畿中央部の上部更新統～完新統には、主要な5枚の火山灰層が分布することが知られている。それらは下位から順に平安神宮火山灰層、鬼虎川火山灰層、阪手火山灰層、港火山灰層そして横大路火山灰層と名づけられている[吉川ほか1986]。平安神宮火山灰層は29,240年前の始良カルデラの噴火によって供給された始良Tn火山灰層に対比されている[吉川ほか1986、吉川周作・井内美郎1991]。鬼虎川火山灰層は28,500年前の大山ホーキ火山灰層に対比できる可能性があるとされている[大阪府教育委員会1989]。阪手火山灰層は17,200年前の三瓶浮布火山灰に対比されている[吉川ほか1986、吉川・井内1991、町田洋・新井房夫2003]。港火山灰層は10,738年前の鬱陵隱岐火山灰層に対比されている[町田洋ほか1981、吉川ほか1984]。横大路火山灰層は鬼界アカホヤ火山灰層と同定されており、その形成年代は7,325年前と見積もられている[吉川ほか1986、吉川・井内1991]。[趙哲済2007]は、瓜破遺跡の発掘の際に火山灰を対比するため、[吉川ほか1986]をもとに大阪平野中央部から奈良盆地に分布する上部更新統～完新統の主要な火山灰層に関する岩石記載的性質をまとめた(図85)。本章では、図85を参考に今回の分析結果を比較検討し、火山灰の対比を試みた。

i) No. 3 土柱試料の対比

火山ガラス形態分類・屈折率測定および重鉱物組成分析を行った3-12・3-9・3-5・3-2・3-1の全試料で、平安神宮火山灰層に相当するとみられる $n=1.499-1.501$ (モード値; 1.500-1.501)の屈折率を示す無色透明な扁平型を主体とした火山ガラスが含まれている。新鮮鉱物の比率、火山ガラスの含有量およびほかの屈折率をもつ火山ガラスの混入量から考えて、3-9が平安神宮火山灰濃集層準である可能性が高い。

3-5・3-2・3-1には $n=1.503-1.504$ の屈折率を示す火山ガラスも少量混るようになる。3-5・3-2・3-1は土柱試料の中でも角閃石を主体とした重鉱物に富み、山陰型の火山を起源とする火山灰が混入している可能性が高いと考えられる。3-1で微量の多孔質火山ガラスが認められるものの、3試料ともほぼ扁平型および中間型火山ガラスから構成されることを考慮に入れると、鬼虎川火山灰が混入し

ている可能性が高いと考えられる。3-5・3-2・3-1は平安神宮火山灰層と鬼虎川火山灰層の2次堆積物であると判断される。

また、3-9には $n=1.508$ の屈折率を示す微量の火山ガラスが含まれている。3-9だけでなく、3-12～3-1の全鉱物分析用プレパラート中に微量の褐色を呈する高屈折率の火山ガラスが認められるため、No.3土柱の比較的深部にわたって横大路火山灰が混入していると考えられる。横大路火山灰層堆積後の生物擾乱により拡散したと考えられ、明確に濃集層準を特定することは困難である。

ii) No.8土柱試料の対比

火山ガラス形態分類・屈折率測定および重鉱物組成分析まで行った8-15・8-12・8-7・8-6・8-2の全試料で、平安神宮火山灰層に相当すると見られる $n=1.499\sim1.501$ (モード値；1.500)の屈折率を示す無色透明な扁平型を主体とした火山ガラスを含んでいる。8-12に少量含まれる重鉱物中に斜方輝石や単斜輝石は認められないものの、新鮮鉱物の比率、火山ガラスの含有量およびほかの屈折率をもつ火山ガラスの混入量から考えて、平安神宮火山灰の濃集層準である可能性が高い。

8-7・8-6・8-2には $n=1.504\sim1.505$ の屈折率を示す火山ガラスも少量混るようになる。3試料とも扁平型および中間型火山ガラスから構成されることから、鬼虎川火山灰が混入している可能性が高いと考えられる。堆積相および分析結果から明確に濃集層準を特定することは困難である。8-7・8-6・8-2は平安神宮火山灰層と鬼虎川火山灰層の2次堆積物と判断される。

また、8-7には $n=1.510$ の高屈折率を示す微量の火山ガラスが含まれている。8-7だけでなく、8-13～8-1の全鉱物分析用プレパラートに微量の褐色を呈する高屈折率を示す火山ガラスが認められる。No.3土柱と同じくNo.8土柱でも生物擾乱により比較的深部にわたって横大路火山灰が拡散したと考えられる。

iii) No.9土柱試料の対比

9-10・9-8・9-6・9-4・9-2の全試料で、平安神宮火山灰層に相当するとみられる $n=1.498\sim1.501$ (モード値；1.409-1.500)の屈折率を示す無色透明な扁平型を主体とした火山ガラスが含まれている。新鮮鉱物の比率、火山ガラスの含有量およびほかの屈折率をもつ火山ガラスの混入量から考えて、9-6・9-4・9-2に平安神宮火山灰が多く混入していると判断されるが、濃集層準を断定するのは困難である。

9-8・9-6・9-4・9-2には $n=1.502\sim1.504$ の屈折率を示す火山ガラスも少量混るようになる。4試料とも扁平型および中間型火山ガラスから構成されることから、鬼虎川火山灰が混入している可能性が高いと考えられる。特に9-4・9-2ではほかの試料と比べて相対的に長石の量が多くなるため、鬼虎川火山灰の濃集層準の可能性があるが、断定は困難である。そのため9-6・9-4・9-2は平安神宮火山灰層と鬼虎川火山灰層の混合した2次堆積物と判断される。

9-6には $n=1.508$ の高屈折率を示す微量の火山ガラスが含まれている。9-6だけでなく、9-8～9-1の全鉱物分析用プレパラートに微量の褐色を呈する高屈折率を示す火山ガラスが認められる。No.3、No.8土柱と同じくNo.9土柱でも生物擾乱により比較的深部にわたって横大路火山灰が拡散したと考えられる。

6)まとめ

以上の結果は次のようにまとめられる。

i) No.3 土柱

- ・第13A層(3-9)は29,240年前の姶良Tn火山灰に相当する平安神宮火山灰濃集層準であると判断される。
- ・第12b層(3-5)・第12a層(3-2)・第11層(3-1)は、平安神宮火山灰層と28,500年前の大山ホーキ火山灰に相当する鬼虎川火山灰の混合した2次堆積物であると考えられる。
- ・第13B層(3-12)～第11層(3-1)にかけて、7,325年前の鬼界アカホヤ火山灰に相当する横大路火山灰が植物の根などの生物擾乱により分散している可能性が高い。

ii) No.8 土柱

- ・第13B層(8-12)は平安神宮火山灰濃集層準であると判断される。
- ・第13a層(8-7)・第12b層(8-6)・第12A層(8-2)は、平安神宮火山灰層と鬼虎川火山灰の混合した二次堆積物であると考えられる。
- ・第13B層(8-13)～第12A層(8-1)にかけて、横大路火山灰が植物の根などの生物擾乱により分散している可能性が高い。

iii) No.9 土柱

- ・平安神宮火山灰濃集層準を特定することは困難である。
- ・第13a層(9-6)・第12b層(9-4)・第12A層(9-2)は、平安神宮火山灰層と鬼虎川火山灰の混合した2次堆積物であると考えられる。
- ・第13B層(9-8)～第12A層(9-1)にかけて、横大路火山灰が植物の根などの生物擾乱により分散している可能性が高い。

第IV章 まとめ

1) LC1301・1302出土石器群の特徴

i) 石器群の概要

I 区において検出された石器遺物集中部LC1301・1302からは、ナイフ形石器12点(接合後の実数である。実際の遺物点数は13点になる。以下点数のみ記す)、削器2点、楔形石器1点、石核9点、剥片369点(遺物点数377点)、叩き石2点(遺物点数は3点)、碎片1,918点(発掘時出土数26点、水洗篩別による微細石器遺物数1,892点)の合計2,313点が出土した。石材はすべてサヌカイト製である。LC1301は268点(遺物点数275点。いずれも微細石器遺物を除く)、LC1302は120点(遺物点数122点。いずれも微細石器遺物を除く)の石器・剥片・石核類で構成され、出土状況や石器群の内容からみて、同一集団によって残された集中部であると判断された。しかし、遺物組成は単調であり、細部調整や使用痕と判断される微細剥離痕を有する剥片類がまったく認められなかったことから、ごく短期間のうちに形成された集中部と考えられる。

石器組成の中心であるナイフ形石器は、小型品が主体となっている。石刃・石刃状剥片素材、横長剥片素材の双方が認められた。ただし、横長剥片素材のナイフ形石器には、国府型ナイフ形石器などに代表される瀬戸内技法関連資料は含まれていない。また、後期旧石器時代後半に近畿地方で普遍的に認められる有底横長剥片を素材とする1側縁加工のナイフ形石器もごく僅かである。その一方で、横長剥片素材の小型ナイフ形石器には、切出形を呈するものや台形石器に類似するものが認められた。石刃・石刃状剥片素材のナイフ形石器には小型品が多く、基部加工と2側縁加工のものが存在する。

剥片剥離技術は、ナイフ形石器の素材から見ると石刃技法と横長剥片剥離技術の双方が見られるが、有底横長剥片を剥離する交互・並列剥離を示す剥片素材の石核はほとんど認められない。石刃技法の一部は板状の剥片を素材とし、短辺の小口を打面とするいわゆる「備讃瀬戸型石刃技法」によるものである。近畿地方においては後期旧石器時代前半・後半を通して認められるものである。一方で、横長剥片剥離技術を示す石核は僅かしか出土しなかった。

こうした特徴は、これまで近畿地方で知られて

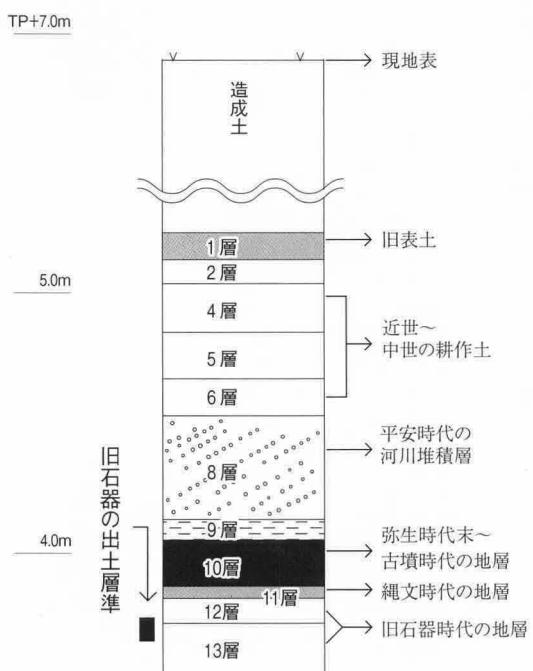


図86 旧石器の出土層準

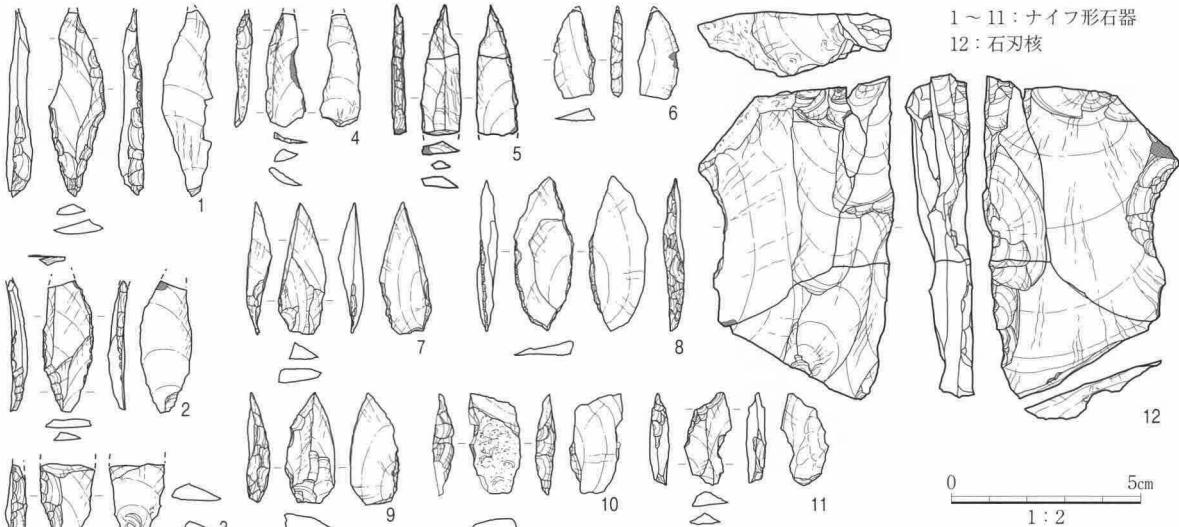


図87 UR07-2次調査地出土主要石器遺物

いる後期旧石器時代後半期のナイフ形石器群とは異なる部分が大きく、この石器群が従来の編年観の中では捉えがたい側面を持っていることを示している。

ii) 石器群の出土層位

石器群は第12層から第13層にかけて出土した。第12層からは1,141点(石器・剥片・石核類165点、微細石器遺物976点)、第13層からは1,148点(石器・剥片・石核類226点、微細石器遺物922点)が出土しており、ほぼ半数は第13層からである。

第III章で行った火山灰分析では、土柱サンプルNo.3で始良Tn火山灰(平安神宮火山灰)の濃集層準が第13層上部にあると判断された。一方、北側で採取した土柱サンプルNo.8・9では、No.8は始良Tn火山灰の濃集層準が第13B層になり、No.9では濃集層準を特定することはできなかった。また、北側サンプル地点は条件が悪く、始良Tn火山灰は擾乱を受けてほかの火山灰と混在、あるいは二次堆積という状況がみられた。この場所はLC1301の北側に当るところで、LC1301の中核部分とは別に、一部の石器遺物が集中して出土した。しかしながら、発掘排土の回収による微細石器遺物の水洗篩別作業を実施したところ、本来、集中部と密接に関係する微細石器遺物が、この場所ではほとんど出土しなかった。つまり、水流などによって遺物が二次移動した可能性がある。

LC1301北側におけるサンプルNo.8・9土柱の火山灰分析では、土壤の擾乱が著しく、No.9では始良Tn火山灰が二次堆積であるという結論を導き出したが、石器群と微細石器遺物の出土状況に関する検討においても、この場所の遺物が二次的に移動している可能性を指摘できる。一方で、始良Tn火山灰層の濃集層準が第13層上部と判断されたサンプルNo.3土柱の分析結果は重要である。LC1301・1302石器群のほぼ半数が第13層から出土しており、この石器群の本来の出土層準が第13層にあることは間違いないと思われる。したがって、サンプルNo.3の濃集層準を重視するなら、この石器群はAT火山灰の降灰期かそれ以前のものである可能性が高いと思われる。

iii) ナイフ形石器の特徴

ナイフ形石器は石刃・石刃状剥片素材、横長剥片素材の双方が認められる。いずれも小型品が主体である。横長剥片素材のナイフ形石器には、有底で1側縁加工のナイフ形石器がほとんど認められな

かった。横長剥片素材の1側縁加工には07EB362・497があるが、極小型あるいは薄手の剥片を利用しておらず、有底横長剥片を素材としていない。一方、07EB373(図87：7)のように有底横長剥片とみなしうるもののが存在するが、二次加工は基部整形であった。通常、こうした素材は打面部を主剥離面側から背部整形をした1側縁加工のナイフ形石器に仕上げられる場合が多いのであるが、こうした典型的ともいえるパターンが定まっていないように思われる。言いかえるなら、瀬戸内技法がまだ成立していない段階であり、素材の用い方と二次加工の関係が固定化していない印象を受ける。

石刃・石刃状剥片素材のものは小型であることが第一の特徴である。もう1つは、07EB117・367に見られるように、いわゆる「茂呂型」類似の2側縁加工のナイフ形石器が存在することである。また、07EB117(図87：1)のように基部を長く先鋒にした形態は、中国山地では始良Tn火山灰層直上に認められるものである。

切出形・台形状をしたナイフ形石器の存在も注目に値する。07EB461(図87：10)は後期旧石器時代前半期の台形石器とみなしうるものである。また、07EB443(図87：11)のような形態は、後期旧石器時代後半期のナイフ形石器群には見られないものである。

以上のようなナイフ形石器の特徴は、LC1301・1302石器群が後期旧石器時代後半期の石器群とは異なる様相を有することを示している。

iv) 剥片剥離技術の特徴

本石器群において認められる剥片剥離技術は、石刃技法と横長剥片剥離技術、サイコロ状石核にみられるような、打面点を頻繁に繰返す剥片剥離技術である。

石刃技法は「備讃瀬戸型石刃技法」が認められる。接合資料07JEB1(図87：12)に見られるように両設打面であること、さらに小口面から側面にかけて剥離作業面を展開させていることが特徴として挙げられる。その他、接合資料07JEB7・8・19(図32・35)のように礫核を利用した石刃技法も認められる。ただし、いずれも石核調整をほとんど行わないため、石刃の生産性は低く、石刃状剥片あるいは短形剥片が不規則に剥離されている。また、接合資料07JEB16(図34)のような打面再生を行う事例もある。ほかにも石刃技法の打面再生剥片は出土していることから、石核調整は行わないものの、打面の補正と再生は頻繁に行なったようである。これは前述したように石刃の生産性の低さに起因している。

横長剥片石核はいくつか認められたが、有底横長剥片を連続的に剥離するような石核は認められなかった。その可能性があるのは石核07EB345(図19)のみである。ほかにも剥片素材の石核には07EB122・136(図19)があるが、これらは素材剥片の剥離面に沿って平坦剥離を行っており、石核底面を取込むような剥離方法ではない。平坦剥離を多用する横長剥離技術が認められる石器群には、始良Tn火山灰層下位で出土した長原遺跡90-62次調査地例(図88：13～16)がある。こうした特徴も後期旧石器時代前半期のものである。

このほか、石核07EB4(図19)にみられる打面転位を頻繁に行なう石核がある。ほぼ90°単位で打面と作業面を入れ換ながら剥離を進行させるもので、最終形態は多面のサイコロ状の石核となる。こうした剥離技術の後期旧石器時代前半の台形石器群に伴うものである。



13~18:長原遺跡90-62次調査地[大阪市文化財協会2008]、19~25:七日市遺跡第II文化層[兵庫県教育委員会1990]、
26~31:七日市遺跡第III文化層[兵庫県教育委員会1990]、32~37:七日市遺跡第IV文化層[兵庫県教育委員会2004]、
38~45:板井寺ヶ谷遺跡下位文化層[兵庫県教育委員会1991]、46~49:法華寺南遺跡[奈良文化財研究所2003]

図88 近畿地方における始良Tn火山灰降灰以前の石器群

以上のことから、剥片剥離技術においても、LC1301・1302石器群は後期旧石器時代前半期の特徴を有する石器群であるといえる。

v) LC1301・1302石器群の編年的位置づけ

LC1301・1302石器群は、第13層上部に本来の出土層準を有する石器群である。火山灰分析では、サンプルNo.3土柱において、第13層上部に始良Tn火山灰の濃集層準があると判断された。一方、

No.8では土壤が擾乱した可能性があるが、第13B層に濃集層準があるとされた。いずれも純粋な火山灰層の直下ではないため、始良Tn火山灰の濃集層準と石器群の上下関係はただちに確定できないが、より良好な状態で得られたサンプルNo.3の結果を参考にするなら、本石器群の始良Tn火山灰の降灰期またはそれ以前である可能性が高い。上述した石器群の特徴は、後期旧石器時代の中でもより古い様相を有している。したがって、総合的に解釈するなら、本石器群は始良Tn火山灰下位層準のものであると考えられる。

近畿地方においては、始良Tn火山灰の下位で、本石器群と類似した特徴をもつ事例として、奈良県法華寺南遺跡[奈良文化財研究所2003]（図88：46～49）、兵庫県板井寺ヶ谷遺跡下位文化層[兵庫県教育委員会1991]（図88：38～45）、七日市遺跡第IV文化層[兵庫県教育委員会2004]（図88：32～37）などがある。法華寺南遺跡は石刀技法と小型の石刀製ナイフ形石器が出土しており、板井寺ヶ谷・七日市遺跡では瀬戸内技法成立直前とみられる横長剥片素材のナイフ形石器と台形石器群が共伴している。これらの石器群は後期旧石器時代前半の中でも後半段階に位置づけられており、LC1301・1302石器群もこの段階のものと捉えておきたい。

2) 繩文時代以降の調査成果

縩文時代ではⅡ区で自然河川NR2009が認められたが、遺構の確認には至らなかった。しかし、石鏃などの石器遺物が少なからず出土したことは、この場所が縩文人の活動域に含まれることを示している。周辺の調査地では縩文時代の石器遺物集中部も見つかっており、河川に近い本調査地のような場所は、居住空間に近接している可能性が高い。今後も引き続き、周辺地の綿密な調査が必要であろう。

I区では、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の遺構・遺物が出土した。溝・土壙が中心で、集落跡そのものではなかったが、堅穴建物の可能性がある弧状の小溝も見つかっていることから、近接して集落があった可能性が高い。瓜破北遺跡ではもっとも遺構・遺物が集中する時期であり、大規模な集落の存在が指摘されていることから、今回はそうした集落域の範囲を推定する上で有効な資料を提供することができた。

中世から近世にかけて、Ⅱ区で正方位の東西溝を検出した。削平を受けており、溝の遺存状況は良好ではなかったが、この溝が土地境界などを示す区画溝であった可能性が高い。古代～中世の遺構・遺物については、瓜破北遺跡では検出事例が多くはない。今後とも調査事例の増加に努める必要がある。

(絹川)

表13 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(1)

調査記号	遺物番号	地区	グリッド	縦分抽出	地層	遺構	X座標 (世界測地系)	Y座標 (世界測地系)	標高	器種	石材	剥片分類	接合番号	長さ (cm) *印欠損	幅 (cm) *印欠損
07EB	4	I 区	B2区		13層	LC1302	—	—	—	石核	サヌカイト	—		4.18	4.89
07EB	7	I 区	B2区		13層	LC1302	—	—	—	楔形石器	サヌカイト	—		5.78	4.92
07EB	24	I 区	2E		10層	—	—	—	4.011	剥片	サヌカイト	横長剥片		3.51	3.74
07EB	25	I 区	B2区		13層	LC1302	—	—	4.087	ナイフ形石器	サヌカイト	石刃		3.02 *	1.09
07EB	26	I 区	C2-ケ		10層	LC1301	-154421.616	-41102.655	4.042	剥片	サヌカイト	短形剥片		2.67 *	1.78
07EB	55	I 区	A2区		13層	—	—	—	3.974	剥片	サヌカイト	短形剥片		4.12 *	2.59 *
07EB	61	I 区	4区		11層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		3.48 *	2.64 *
07EB	81	I 区	A2~3区		11層	LC1302	—	—	4.129	石核	サヌカイト	—		5.48	7.29
07EB	91	I 区	2区東		12層	溝壁面	—	—	3.874	剥片	サヌカイト	不明		2.24 *	1.43 *
07EB	92	I 区	2区東		12層	溝壁面	—	—	3.866	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		3.18 *	1.50
07EB	93	I 区	2区東		12層	溝壁面	—	—	3.849	剥片	サヌカイト	短形剥片		2.06 *	1.43 *
07EB	95	I 区	C2区		12層crk	溝壁面	—	—	3.871	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.67	5.78
07EB	98	I 区	2区西		11層	—	—	—	4.073	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.49 *	0.80
07EB	109	I 区	2区西		10層	溝壁面	—	—	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		4.79 *	5.19
07EB	117	I 区	C2-ズ		12層	LC1301	-154420.318	-41101.596	3.888	ナイフ形石器	サヌカイト	石刃状剥片		4.85 *	1.52
07EB	120	I 区	C2-シ		12層	LC1301	-154419.212	-41102.332	3.854	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.78	2.92 *
07EB	122	I 区	C2-シ		12層crk	LC1301	-154419.460	-41102.441	3.879	石核	サヌカイト	—		2.52	5.99
07EB	123	I 区	C2-シ		12層	LC1301	-154419.423	-41102.567	3.866	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.24	1.90
07EB	125	I 区	C2-カ		12層	LC1301	-154419.016	-41103.131	3.802	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.44	5.24
07EB	126	I 区	C2-カ		12層crk	LC1301	-154418.913	-41103.127	3.805	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	127	I 区	C2-カ		12層crk	LC1301	-154419.382	-41103.122	3.838	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	128	I 区	C2-カ		12層crk	LC1301	-154419.572	-41103.666	3.927	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.09	1.51
07EB	129	I 区	C2-カ		12層	LC1301	-154419.134	-41103.317	3.851	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.78	1.41
07EB	130	I 区	C2-カ		12層	LC1301	-154419.396	-41103.346	3.907	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	131	I 区	C2-カ		12層	LC1301	-154419.574	-41103.518	3.914	剥片	サヌカイト	不明		1.92 *	1.88 *
07EB	132	I 区	C2-カ		12層	LC1301	-154419.588	-41103.567	3.816	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.39	1.36
07EB	133	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.761	-41102.042	3.857	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	135	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.466	-41102.453	3.854	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.93	1.50
07EB	136	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.746	-41102.320	3.874	石核	サヌカイト	—		3.29	5.67
07EB	137	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.991	-41102.644	3.852	剥片	サヌカイト	不明		2.00 *	1.36 *
07EB	140	I 区	B3-ツ		13層	LC1302	-154426.825	-41103.210	3.913	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.89 *	1.56
07EB	141	I 区	B3-ツ		13層	LC1302	-154426.822	-41102.919	3.910	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.75	2.44
07EB	145	I 区	A2-ヌ		13層	LC1302	-154423.583	-41108.867	3.967	剥片	サヌカイト	背部整形剥片		0.83	1.38 *
07EB	149	I 区	A2-ヌ		12層crk	LC1302	-154423.901	-41108.687	3.966	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.39	1.29
07EB	151	I 区	A2-ヌ		12層crk	LC1302	-154424.232	-41108.511	3.997	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.52	1.60
07EB	153	I 区	A2-チ		12層crk	LC1302	-154423.560	-41109.818	4.061	剥片(不明)	サヌカイト	—		—	—
07EB	154	I 区	A2-チ		12層crk	LC1302	-154423.857	-41109.817	4.070	剥片(不明)	サヌカイト	—		—	—
07EB	155	I 区	A2-チ		12層crk	LC1302	-154423.604	-41109.587	4.030	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.61	1.62
07EB	156	I 区	A2-チ		12層crk	LC1302	-154423.847	-41109.732	3.911	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	157	I 区	A2-テ		12層	LC1302	-154425.377	-41109.525	4.108	剥片	サヌカイト	横長剥片		2.08	4.74
07EB	158	I 区	A2-テ		12層	LC1302	-154425.575	-41109.024	4.108	剥片	サヌカイト	短形剥片		4.20	2.67
07EB	162	I 区	A2-テ		12層	LC1302	-154425.723	-41109.302	4.117	ナイフ形石器	サヌカイト	横長剥片		2.91	1.38
07EB	164	I 区	A2-テ		12層	LC1302	-154424.658	-41108.849	4.122	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.45	0.70
07EB	165	I 区	A2-ヌ		12層	LC1302	-154424.643	-41110.121	4.112	剥片	サヌカイト	横長剥片		5.15 *	6.63
07EB	166	I 区	A2-ヌ		12層	LC1302	-154424.744	-41110.295	4.063	剥片	サヌカイト	横長剥片		2.65	2.86 *
07EB	167	I 区	A2-ヌ		13層	LC1302	-154424.642	-41110.437	3.961	剥片	サヌカイト	打面再生剥片		1.74	3.92
07EB	168	I 区	A2-ヌ		12層	LC1302	-154424.987	-41110.462	4.021	剥片	サヌカイト	短形剥片		3.64	3.09
07EB	169	I 区	A2-ヌ		13層	LC1302	-154425.102	-41110.380	4.008	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.61	2.62 *
07EB	170	I 区	A2-ヌ		13層	LC1302	-154425.394	-41110.444	3.954	剥片	サヌカイト	横長剥片		6.68	8.82
07EB	171	I 区	A2-セ		12層	LC1302	-154425.653	-41110.401	3.946	剥片	サヌカイト	横長剥片		6.70	7.49
07EB	172	I 区	A2-セ		12層	LC1302	-154425.465	-41110.025	4.012	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	173	I 区	A2-セ		13層	LC1302	-154425.701	-41109.949	3.985	剥片	サヌカイト	打面再生剥片		3.52 *	2.86
07EB	176	I 区	A2-ネ		12層	LC1302	-154424.725	-41108.803	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.76	1.25 *
07EB	177	I 区	A2-ネ		12層	LC1302	-154424.634	-41108.715	—	剥片	サヌカイト	不明		1.00 *	1.56
07EB	178	I 区	A2-ネ		12層	LC1302	-154424.581	-41108.720	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.16	1.42
07EB	179	I 区	A2-セ		13層	LC1302	-154425.465	-41110.025	3.797	剥片	サヌカイト	不明		1.42 *	1.32 *
07EB	181	I 区	B2-ク		12層	LC1302	-154423.488	-41107.151	3.887	剥片	サヌカイト	不明		2.43 *	2.74 *
07EB	182	I 区	A2-ウ		12層	LC1302	-154425.994	-41111.766	3.941	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		4.66 *	1.99
07EB	183	I 区	A2-ウ		12層	LC1302	-154426.107	-41111.865	3.893	剥片	サヌカイト	短形剥片		3.17	3.06
07EB	184	I 区	A2-エ		12層	LC1302	-154426.391	-41111.618	3.923	剥片	サヌカイト	短形剥片		6.45	5.61

表14 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(2)

厚さ (cm) *印欠損	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置				背面の 剥離痕 の方向				縦面の 残存位置				磁の 表面 比率	打面 形態	末端 形態	バルブ の状態	内湾 の 有無	図 番 号	写 真 図 版	備 考						
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV														
3.44	53.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49	18						
1.70	62.70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19	18					
0.58	5.80	完形						○	○			○	25%以上	平坦	フェザー	発達せず	なし	28											
0.44	1.20		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	18					
0.32	1.10	ほぼ完形	基部側	○				○							なし	不明	フェザー	発達せず	なし										
0.62	7.40	ほぼ完形	左側縁		○	○	○								なし	平坦	フェザー	発達	なし	29									
0.74	7.40	部分残存							○						なし	不明	不明		なし	26									
1.50	53.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19	19					
0.32	1.00	打点縦割れ						○							なし	線状	フェザー	発達せず	なし										
0.48	2.20	ほぼ完形	基部側	○				○	○						なし	平坦	フェザー	発達	なし										
0.44	1.00		基部側					○							なし	不明	ヒンジ弱	発達せず	なし										
0.66	5.90	完形						○	○	○		○		25%未満	複面	有底剥片	発達	なし	28	21									
0.36	0.70		末端側		○			○							なし	点状	不明	発達せず	なし										
1.22	30.90	ほぼ完形	末端側		○	○	○					○	○	50%以上	平坦	フェザー	発達せず	なし	22	19									
0.51	3.30	ほぼ完形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	18					
0.42	2.00	ほぼ完形	左側縁					○	○						なし	線状	ヒンジ弱	発達強	なし										
0.98	19.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19	19					
0.45	0.80	完形						○							なし	平坦	フェザー	発達せず	あり										
1.05	8.20	完形						○		○	○	○		50%以上	平坦	ヒンジ強	発達強	なし											
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
0.24	0.30	完形						○							なし	複面	フェザー	発達せず	なし										
0.22	0.20	完形						○							なし	線状	フェザー	発達せず	なし										
	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
0.30	* 1.30	部分残存						○							なし	不明	不明	不明	なし										
0.10	0.30	完形						○							なし	線状	ヒンジ弱	発達せず	なし										
	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
0.15	0.30	完形						○							なし	線状	フェザー	発達せず	なし										
1.18	22.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19	19					
0.62	1.90		末端側					○	○	○	○			25%以上	複面	不明	発達せず	なし											
0.44	1.90	ほぼ完形	基部側	○				○				○		25%未満	縦面	フェザー	発達せず	なし	26	20									
0.88	3.20	完形						○							なし	平坦	ヒンジ強	発達強	なし										
0.32	1.90	ほぼ完形	右側縁	○				○							なし	線状	フェザー	発達せず	なし	17	18								
0.24	0.30	完形						○							なし	平坦	フェザー	発達せず	なし										
0.29	0.60	完形						○		○					なし	平坦	フェザー	発達	なし										
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	現場で紛失?						
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	現場で紛失?						
0.22	0.40	完形						○							なし	線状	フェザー	発達せず	なし										
	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
0.92	8.00	完形						○				○	○	75%以上	平坦	ヒンジ強	発達強	なし	28										
0.72	9.10	完形						○	○						なし	平坦	ステップ	発達せず	なし	29	20								
0.58	1.90	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	18					
0.22	0.30	完形						○							なし	線状	ヒンジ弱	発達せず	なし										
2.07	61.30	ほぼ完形	末端側		○	○	○	○							なし	平坦	アーチ	発達強	なし	22	19								
0.44	4.00	ほぼ完形	左側縁		○	○									なし	線状	ヒンジ強	発達せず	なし										
1.58	10.10	完形						○							なし	平坦	アーチ	発達強	なし										
1.65	13.90	完形						○	○						なし	平坦	フェザー	発達	なし										
0.31	1.50		右側縁	○				○							なし	平坦	フェザー	発達せず	なし										
1.67	89.80	完形						○	○	○	○		○		平坦	フェザー	発達	なし	22	19									
2.24	99.90	完形													50%以上	平坦	アーチ	発達強	なし	22	19								
	0.30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
1.64	15.70		末端側					○							なし	不明	アーチ	発達	なし										
2.01	0.10	左側縁		○	○										なし	点状	フェザー	発達せず	なし										
0.29	0.40		基部側					○							なし	不明	ヒンジ強	不明	なし										
0.31	0.60	完形						○							なし	平坦	ヒンジ強	発達せず	なし										
0.21	0.40	部分残存						○							なし	不明	不明	不明	なし										
0.98	5.80		両端					○	○	○					なし	粉砕	不明	発達せず	なし										
0.50	3.50		基部側	○				○							なし	不明	ヒンジ弱	発達せず	なし	26	20								
1.18	10.90	完形										○	○	○	○	75%以上	縦面	フェザー	発達せず	なし									
1.66	55.40	完形						○	○	○	○				25%未満	縦面	ステップ	発達	なし	22									

表15 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(3)

調査記号	遺物番号	地区	グリッド	篩分抽出	地層	遺構	X座標 (世界測地系)	Y座標 (世界測地系)	標高	器種	石材	剥片分類	接合番号	長さ (cm) *印欠損	幅 (cm) *印欠損
07EB	185	I 区	A2-カ		12層	LC1302	-154423.839	-41112.188	4.061	剥片	サヌカイト	不明		1.56 *	1.38 *
07EB	186	I 区	A2-キ		12層	LC1302	-154424.449	-41112.346	4.049	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.78 *	1.14
07EB	187	I 区	A2-セ		13層	LC1302	-154426.344	-41110.259	3.723	剥片	サヌカイト	不明		1.44 *	2.10 *
07EB	188	I 区	C2-カ		12層	LC1301	-154419.142	-41103.639	3.938	ナイフ形石器	サヌカイト	石刃状剥片		1.91 *	1.55
07EB	190	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.459	-41103.600	3.850	剥片	サヌカイト	短形剥片		3.37	2.41 *
07EB	191	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.519	-41103.322	3.908	剥片	サヌカイト	短形剥片		2.50	1.67
07EB	192	I 区	C2-カ		12層	LC1301	-154419.564	-41103.366	3.932	剥片	サヌカイト	不明		2.56 *	3.62
07EB	195	I 区	C2-イ		12層	LC1301	-154420.236	-41103.656	3.875	剥片	サヌカイト	短形剥片		2.67	2.35
07EB	196	I 区	C2-イ		12層	LC1301	-154420.583	-41103.337	3.877	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.66	0.98
07EB	197	I 区	C2-イ		12層	LC1301	-154420.475	-41103.499	3.893	砂片	サヌカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	200	I 区	C2-イ		12層	LC1301	-154420.162	-41103.655	3.862	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.56	1.24
07EB	202	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154421.156	-41102.166	3.931	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.67 *	1.12
07EB	203	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154421.160	-41102.490	3.927	剥片	サヌカイト	横長剥片		2.16	3.72
07EB	204	I 区	C2-ク		13層	LC1301	-154420.994	-41102.496	3.878	剥片	サヌカイト	横長剥片		2.00	2.14
07EB	205	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.892	-41102.537	3.927	剥片	サヌカイト	不明		0.88 *	1.59 *
07EB	206	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154421.061	-41102.867	3.955	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.68	1.66
07EB	208	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.856	-41102.741	3.853	剥片	サヌカイト	不明		0.96 *	1.22 *
07EB	209	I 区	C2-ク		13層	LC1301	-154420.665	-41102.620	3.806	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.20 *	2.09
07EB	210	I 区	C2-ク		13層	LC1301	-154420.778	-41102.776	3.882	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.68 *	
07EB	211	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.579	-41102.912	3.926	砂片	サヌカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	212	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.695	-41102.481	3.945	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.38 *	1.09 *
07EB	213	I 区	C2-ク		13層	LC1301	-154420.745	-41102.186	3.771	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.86 *	1.20
07EB	214	I 区	C2-エ		12層	LC1301	-154421.643	-41102.905	3.963	剥片	サヌカイト	不明		1.54 *	1.34 *
07EB	216	I 区	B2-ナ		12層	LC1302	-154420.013	-41105.148	3.861	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.63	2.22
07EB	218	I 区	C2-セ		12層	LC1301	-154421.298	-41101.621	3.930	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.90	2.00 *
07EB	219	I 区	C2-セ		12層	LC1301	-154421.421	-41100.680	3.858	剥片	サヌカイト	不明		1.42 *	1.70
07EB	220	I 区	B2-テ		12層	LC1302	-154422.526	-41104.688	3.982	剥片	サヌカイト	不明		2.54 *	2.10 *
07EB	222	I 区	A2-ク		13層	LC1302	-154425.920	-41109.325	3.977	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.54	1.70
07EB	223	I 区	A2-コ		13層	LC1302	-154426.684	-41110.197	4.052	剥片	サヌカイト	短形剥片		3.82	3.54
07EB	224	I 区	A2-タ		12層	LC1302	-154422.953	-41110.180	4.079	剥片	サヌカイト	不明		1.66 *	1.86 *
07EB	227	I 区	A2-ニ		12層	LC1302	-154423.290	-41109.501	4.082	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.56 *	1.54
07EB	228	I 区	A2-ニ		12層	LC1302	-154423.496	-41109.333	4.095	剥片	サヌカイト	不明		0.95 *	1.50
07EB	229	I 区	A2-キ		12層	LC1302	-154424.638	-41112.080	4.028	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.54 *	1.18
07EB	230	I 区	A2-ツ		12層	LC1302	-154424.813	-41109.905	4.082	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.49 *	1.04
07EB	231	I 区	A2-ツ		12層	LC1302	-154425.010	-41109.697	4.122	剥片	サヌカイト	不明		3.06 *	2.00 *
07EB	232	I 区	A2-ツ		12層	LC1302	-154424.907	-41109.694	4.112	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.44	1.52
07EB	234	I 区	A2-ツ		12層	LC1302	-154424.857	-41109.596	4.123	剥片	サヌカイト	不明		1.18 *	0.86 *
07EB	235	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.595	-41103.185	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.03	1.42
07EB	237	I 区	C2-ケ		12層	LC1301	-154421.768	-41102.470	2.946	剥片	サヌカイト	短形剥片		2.20 *	1.34
07EB	238	I 区	C2-ク		13層	LC1301	-154420.666	-41102.316	3.900	剥片	サヌカイト	不明		1.05 *	0.96 *
07EB	239	I 区	C10-ア		12層	中央部	-154455.174	-41086.460	3.864	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.05	1.34
07EB	240	I 区	B10-ニ		12層	中央部	-154456.259	-41086.756	3.879	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.11	1.16
07EB	241	I 区	B10-タ		12層	中央部	-154456.171	-41087.218	3.806	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.15	1.52
07EB	242	I 区	B9-ノ		12層	中央部	-154454.882	-41087.138	3.837	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.82	1.30
07EB	243	I 区	B9-ノ		12層	中央部	-154454.440	-41087.034	3.835	剥片	サヌカイト	短形剥片		0.92 *	1.15
07EB	244	I 区	B9-ノ		12層	中央部	-154454.277	-41087.089	3.888	砂片	サヌカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	245	I 区	B9-ノ		12層	中央部	-154454.121	-41087.124	3.918	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.95	1.36 *
07EB	246	I 区	B9-ノ		12層	中央部	-154455.190	-41087.486	3.929	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.95	1.49
07EB	247	I 区	B9-サ		12層	中央部	—	—	3.989	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.70	1.12
07EB	248	I 区	C9-カ		12層	中央部	—	—	3.995	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.00	1.15
07EB	249	I 区	B8-カ		12層	中央部	—	—	3.974	削器	サヌカイト	横長剥片		3.87 *	10.50
07EB	255	I 区	B2-コ		12層	LC1302	-154424.859	-41106.165	4.002	剥片	サヌカイト	短形剥片		4.44	3.96
07EB	256	I 区	B2-コ		12層	LC1302	-154424.808	-41105.585	4.049	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.85 *	1.72
07EB	257	I 区	B3-カ		12層	LC1302	-154425.857	-41105.810	3.967	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.98 *	1.09
07EB	259	I 区	B3-カ		12層	LC1302	-154425.775	-41105.256	3.969	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.46	0.42 *
07EB	260	I 区	B3-キ		12層	LC1302	-154426.770	-41104.700	3.958	剥片	サヌカイト	石刃		5.68	2.59
07EB	261	I 区	A3-タ		12層	LC1302	-154424.400	-41103.939	4.016	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		3.10	1.17
07EB	262	I 区	B3-ス		12層	LC1302	-154427.010	-41103.306	3.909	砂片	サヌカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	263	I 区	B3-ア		13層	LC1302	-154425.927	-41106.493	3.933	剥片	サヌカイト	横長剥片		2.62	4.05
07EB	266	I 区	A2-ス		13層	LC1302	-154424.601	-41110.323	—	剥片	サヌカイト	不明		1.85 *	0.89 *

表16 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(4)

厚さ (cm) *印欠損	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置		背面の 剥離痕 の方向		縦面の 残存位置			礫の 表面 比率	打面 形態	末端 形態	バルブ の状態	内湾 の 有無	図 番 号	写 真 図 版	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV							
0.52 *	1.50		部分残存					○	○	○	○	全面	不明	不明	不明	なし		
0.32	0.60		末端側		○	○						なし	線状	不明	発達せず	なし		
0.56	2.00		打点縦割れ			○						なし	平坦	アーチ	発達せず	なし		
0.48	1.40		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	18
0.50	3.60		右側縁			○	○					なし	点状	フェザー	発達せず	なし	29	
0.74	2.70	完形					○		○			25%未満	疊面	ステップ	発達せず	なし		
0.56	4.90		末端側			○						なし	疊面	フェザー	発達せず	なし	28	
0.35	1.60	完形					○					なし	平坦	フェザー	発達せず	なし		
0.28	0.40	完形						○	○	○	○	全面	点状	フェザー	発達せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.24	0.10	完形				○			○			25%未満	線状	フェザー	発達せず	なし		
0.17	0.20		基部側			○	○					なし	不明	フェザー	発達せず	なし		
0.74	5.00	完形				○	○	○				25%以上	平坦	有底剥片	発達	内湾強	28	21
0.28	1.20	完形				○						なし	線状	フェザー	発達	なし		
0.36 *	0.40		部分残存			○						なし	不明	不明	不明	なし		
0.26	0.30	完形				○						なし	複面	フェザー	発達せず	なし		
0.19	0.20		部分残存	○		○						なし	不明	不明	不明	なし		
0.18	0.50	ほぼ完形	基部側	○				○	○	○	○	全面	線状	ヒンジ弱	発達せず	なし		
0.68	1.50		打点縦割れ			○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし		
0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.19	0.50		末端側			○						なし	線状	不明	発達せず	なし		
0.32	1.20	ほぼ完形	末端側			○						なし	粉碎	フェザー	発達せず	なし	26	20
0.24	0.60		右側縁	○		○						なし	粉碎	フェザー	発達せず	なし		
0.70	2.00	完形				○						なし	線状	アーチ	発達せず	なし		
0.31	0.50		右側縁	○		○						なし	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし		
0.39	0.80		末端側			○						なし	平坦	不明	発達	あり		
0.70	3.70		基部側	○		○						なし	平坦	アーチ	発達せず	なし		
0.54	1.60	完形				○			○			25%未満	平坦	ステップ	発達せず	なし		
0.62	8.00	完形				○	○		○			25%以上	平坦	フェザー	発達せず	あり	29	
0.43	1.20		部分残存			○						なし	不明	不明	不明	なし		
0.26	0.70	ほぼ完形	末端側	○	○							なし	線状	フェザー	発達せず	なし	26	20
0.15	0.20		両端	○		○		○				なし	不明	不明	不明	なし		
0.52	1.60	ほぼ完形	基部側			○			○			25%以上	線状	ステップ	発達せず	なし	26	
0.26	0.40		末端側			○			○			25%以上	平坦	不明	発達せず	なし		
0.98 *	3.60		部分残存					○	○	○	○	全面	不明	不明	不明	なし		
0.34	0.70	完形				○						なし	平坦	ステップ	発達せず	なし		
0.19	0.30		打点縦割れ			○						なし	不明	フェザー	発達せず	なし		
0.14	0.20	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし		
0.50	1.30		両端			○						なし	粉碎	不明	発達せず	なし		
0.16	0.10		部分残存					○	○	○	○	全面	不明	不明	不明	なし		
0.16	0.20	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし		
0.10	0.20	完形				○						なし	線状	フェザー	発達せず	なし		
0.17	0.40	完形				○	○					なし	線状	フェザー	発達せず	なし		
0.19	0.20	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし		
0.24	0.20		末端側			○		○				25%未満	疊面	フェザー	発達せず	なし		
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.22	0.20	ほぼ完形	左側縁		○	○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし		
0.16	0.30	完形						○	○			25%未満	疊面	ステップ	発達せず	なし		
0.25	0.30	完形				○						なし	点状	ヒンジ弱	発達せず	なし		
0.18	0.30	完形				○	○					なし	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし		
1.22	41.50	ほぼ完形	基部側	○		○		○				25%未満	疊面	フェザー	発達せず	なし	42	23
1.06	17.70	完形				○		○	○			25%未満	複面	アーチ	発達せず	なし	23	21
0.31	0.30		両端	○		○						なし	不明	フェザー	発達せず	なし		
0.46	0.70		基部側	○		○	○					なし	不明	フェザー	発達	なし		
0.32	0.20	ほぼ完形	左側縁		○	○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし		
0.84	10.60	完形				○	○		○			○ 25%未満	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし	25	20
0.74	2.90	完形				○						なし	平坦	ヒンジ強	発達せず	なし	26	20
	0.1g未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
0.81	6.20	完形				○				○		25%未満	平坦	有底剥片	発達	なし	28	
0.70 *	1.00		部分残存			○						なし	不明	不明	発達せず	なし		

表17 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(5)

調査記号	遺物番号	地区	グリッド	篩分抽出	地層	遺構	X座標 (世界測地系)	Y座標 (世界測地系)	標高	器種	石材	剥片分類	接合番号	長さ (cm) *印欠損	幅 (cm) *印欠損
07EB	267	I 区	A3-ナ		12層	LC1302	-154426.432	-41107.718	4.042	剥片	サヌカイト	矩形剥片		1.16 *	1.11 *
07EB	268	I 区	B2-ウ		13層	LC1302	-154423.426	-41108.408	3.931	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.08 *	1.44 *
07EB	269	I 区	A2-ツ		13層	LC1302	-154424.463	-41110.034	4.028	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.05	1.52
07EB	270	I 区	A2-ヌ		13層	LC1302	-154423.785	-41108.955	3.930	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.58	3.14 *
07EB	271	I 区	A2-ト		12層	LC1302	-154426.287	-41109.119	4.072	剥片	サヌカイト	矩形剥片		3.30	2.74
07EB	273	I 区	A8-ツ		12層	中央部	-154450.934	-41096.587	—	器	チャート	石刃状剥片		7.63	3.28
07EB	274	I 区	B2-ウ		13層	LC1302	-154423.799	-41107.778	3.873	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.79 *	1.87
07EB	275	I 区	B2-ウ		13層	LC1302	-154423.358	-41107.577	3.893	剥片	サヌカイト	不明		1.43 *	1.82
07EB	276	I 区	B2-ク		13層	LC1302	-154423.249	-41107.201	3.938	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	292	I 区	B2-ノ		13層	LC1302	-154423.497	-41103.296	3.988	剥片	サヌカイト	不明		2.44 *	1.88 *
07EB	295	I 区	C2-サ		12層	LC1301	-154418.522	-41102.192	3.895	剥片	サヌカイト	矩形剥片		1.29 *	1.04
07EB	296	I 区	C2-サ		12層	LC1301	-154418.599	-41102.232	3.871	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.19	1.16
07EB	297	I 区	C2-サ		13層	LC1301	-154418.657	-41102.696	3.857	剥片	サヌカイト	不明		1.67 *	1.94 *
07EB	298	I 区	C2-ケ		13層	LC1301	-154421.678	-41102.404	3.890	剥片	サヌカイト	不明		1.00 *	1.74
07EB	299	I 区	C2-ズ		12層	LC1301	-154420.920	-41101.871	3.890	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.36 *	0.55
07EB	300	I 区	B2-ニ		13層	LC1301	-154420.435	-41104.515	3.860	剥片	サヌカイト	矩形剥片		4.11	3.24
07EB	301	I 区	C2-コ		13層	LC1301	-154423.055	-41101.628	3.878	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	304	I 区	C2-エ		13層	LC1301	-154422.469	-41102.784	3.911	剥片	サヌカイト	不明		0.72 *	1.44 *
07EB	305	I 区	C2-ク		13層	LC1301	-154420.524	-41102.828	3.854	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.51	1.50
07EB	306	I 区	C2-ウ		12層	LC1301	-154421.560	-41103.116	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		1.20 *	0.76
07EB	307	I 区	C2-イ		13層	LC1301	-154420.479	-41103.615	3.839	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.01	1.51
07EB	308	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.129	-41103.460	3.817	剥片	サヌカイト	矩形剥片		1.65	1.00
07EB	309	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.201	-41103.480	3.852	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	310	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.263	-41103.504	3.848	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.68	1.16 *
07EB	311	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.289	-41103.776	3.837	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	312	I 区	C2-ウ		12層	LC1301	-154420.864	-41103.665	3.912	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		4.00	2.00
07EB	314	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.367	-41103.771	3.834	剥片	サヌカイト	不明		0.86 *	1.28
07EB	315	I 区	C2-ア		12層	LC1301	-154419.501	-41104.534	3.875	碎片	サヌカイト	碎片		単純最大長0.5cm未満	
07EB	317	I 区	C2-キ		12層	LC1301	-154420.307	-41102.624	3.854	剥片	サヌカイト	矩形剥片		1.24 *	1.14
07EB	318	I 区	C2-ア		13層	LC1301	-154419.811	-41104.678	—	剥片	サヌカイト	打面再生剥片		4.31	3.98
07EB	319	I 区	C2-ウ		13層	LC1301	-154421.486	-41103.289	3.892	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		3.62	1.74
07EB	320	I 区	C2-ア		13層	LC1301	-154419.888	-41103.998	3.898	剥片	サヌカイト	不明		2.20 *	1.28 *
07EB	322	I 区	C2-シ		13層	LC1301	-154419.528	-41102.597	3.851	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.30	1.94
07EB	324	I 区	C2-ウ		13層	LC1301	-154421.125	-41103.559	3.871	剥片	サヌカイト	不明		1.85 *	0.48 *
07EB	325	I 区	A2-ツ		12層	LC1302	-154424.231	-41109.276	4.058	剥片	サヌカイト	不明		1.72	1.11 *
07EB	327	I 区	A2-セ		13層	LC1302	-154425.424	-41109.979	4.049	剥片	サヌカイト	横長剥片		2.85 *	3.59
07EB	328	I 区	C2-コ		12層	LC1301	-154422.374	-41102.271	3.949	剥片	サヌカイト	不明		0.55 *	1.04 *
07EB	332	I 区	A2-チ		12層	LC1302	-154423.560	-41109.818	—	剥片(不明)	サヌカイト	—		—	—
07EB	333	I 区	A2-チ	12層crk	LC1302	-154423.857	-41109.817	4.070	剥片(不明)	サヌカイト	—		—	—	—
07EB	336	I 区	C1-ゾ		13層?	LC1301	-154417.089	-41102.817	3.939	剥片	サヌカイト	不明		1.50 *	1.62
07EB	338	I 区	C1-セ		13層	LC1301	-154416.899	-41103.015	3.894	剥片	サヌカイト	矩形剥片		6.95 *	5.39
07EB	339	I 区	D2-イ		12層	LC1301	-154417.992	-41099.935	3.975	削器	サヌカイト	石刃		7.19 *	3.02
07EB	340	I 区	C2-テ		12層	LC1301	-154420.265	-41100.071	3.904	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.45	0.94
07EB	341	I 区	C2-ナ		12層	LC1301	-154418.158	-41100.783	3.947	剥片	サヌカイト	不明		1.55 *	2.51 *
07EB	342	I 区	C2-ナ		12層	LC1301	-154417.825	-41100.639	3.966	削器	サヌカイト	横長剥片		2.19 *	2.45 *
07EB	343	I 区	C2-ナ		12層	LC1301	-154417.445	-41101.431	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.51	1.00 *
07EB	344	I 区	C1-ト		13層	LC1301	-154417.114	-41101.882	3.889	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		5.33	2.62
07EB	345	I 区	C1-ト		12層	LC1301	-154417.007	-41101.892	3.921	石核	サヌカイト	—		2.54	5.02
07EB	346	I 区	C1-ト		12層	LC1301	-154417.013	-41102.777	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.34	1.09
07EB	347	I 区	C1-ト		13層	LC1301	-154417.264	-41101.625	3.915	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.56	0.93
07EB	349	I 区	C1-ノ		12層	LC1301	-154416.880	-41101.710	3.949	剥片	サヌカイト	横長剥片		2.23	3.52
07EB	350	I 区	C1-ノ		12層	LC1301	-154416.951	-41101.454	3.936	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.23	2.12
07EB	351	I 区	C1-ノ		12層	LC1301	-154416.924	-41101.007	3.949	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.70	2.44
07EB	352	I 区	C1-ノ		12層	LC1301	-154416.730	-41101.090	3.937	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.60	1.12
07EB	353	I 区	C1-ノ		12層	LC1301	-154416.736	-41101.210	3.933	剥片	サヌカイト	不明		0.99 *	1.72 *
07EB	354	I 区	C1-ノ		12層	LC1301	-154416.924	-41101.237	3.941	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.16 *	2.14
07EB	355	I 区	C1-ノ		12層	LC1301	-154417.123	-41101.472	3.932	剥片	サヌカイト	不明		1.12 *	0.71 *
07EB	356	I 区	C1-ノ		12層	LC1301	-154416.984	-41101.409	3.938	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.42	2.11
07EB	358	I 区	C1-ツ		12層	LC1301	-154415.709	-41102.581	3.902	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.00	1.87
07EB	359	I 区	C1-ト		12層	LC1301	-154417.208	-41102.283	3.902	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.59	1.08 *

表18 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(6)

厚さ (cm) *印欠損	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置		背面の 剥離痕 の方向		縫面の 残存位置		縫の 表面 比率	打面 形態	末端 形態	バルブ の状態	内湾 の 有無	図 番 号	写 真 図 版	備 考
				I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.22	0.20		部分残存			○	○					なし	不明	不明	不明	なし	
0.32	0.80		両端	○		○						なし	粉碎	不明	発達せず	なし	26 20
0.24	0.40	完形				○						なし	平坦	ステップ	発達せず	なし	
0.50	1.70	ほぼ完形	右側縁	○		○						なし	複面	有底剥片	発達せず	なし	28 21
0.76	6.40	完形				○			○			25%以上	縫面	ヒンジ弱	発達せず	なし	
0.89	29.50	完形				○				○		25%未満	縫面	不明	発達せず	なし	42 23
0.44	2.50		基部側	○		○		○				なし	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし	26
0.62	1.30		基部側	○			○					なし	不明	ステップ	不明	なし	
	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
0.26	1.40		部分残存					○				なし	不明	不明	不明	なし	
0.13	0.20		基部側			○						なし	粉碎	フェザー	発達せず	なし	
0.62	1.60	完形				○		○				なし	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし	
0.24	0.50		部分残存			○						なし	不明	不明	不明	なし	
0.50	0.90		基部側					○	○			25%以上	不明	ヒンジ強	発達せず	なし	
0.20	0.20		基部側	○		○			○			25%以上	不明	ステップ	発達せず	なし	
0.58	8.50	完形				○				○		25%未満	複面	アーチ	発達せず	なし	29 21
	0.1g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
0.26	0.30		部分残存			○	○	○				なし	不明	不明	不明	なし	
0.36	1.00	完形				○						なし	線状	フェザー	発達せず	なし	
0.20	0.10		基部側	○		○						なし	不明	フェザー	不明	なし	
0.22	0.30	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達	なし	
0.12	0.20	完形				○						なし	線状	フェザー	発達せず	なし	
	0.1g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
0.16	0.00	ほぼ完形	左側縁		○	○						なし	線状	ヒンジ弱	発達せず	なし	
	0.1g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
0.84	6.60	完形				○	○	○				なし	線状	アーチ	発達せず	なし	26 20
0.20	0.00		基部側			○	○					なし	不明	フェザー	発達せず	なし	
	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
0.26	0.40		末端側			○	○					なし	平坦	不明	発達せず	なし	
1.24	20.80	完形				○						なし	平坦	アーチ	発達強	内湾強	19 18
0.55	3.10	完形				○	○	○				なし	平坦	フェザー	発達せず	なし	26 20
0.64	1.10		基部側			○				○		25%以上	不明	フェザー	不明	なし	
0.28	0.60	完形				○						なし	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし	
0.25	0.20		部分残存			○						なし	不明	不明	不明	なし	
0.25	0.40		左側縁		○	○						なし	点状	アーチ	発達せず	あり	
0.55	6.10	ほぼ完形	基部側	○		○	○					なし	不明	ヒンジ強	発達せず	なし	28
0.18 *	0.10		部分残存	○		○						なし	不明	不明	不明	なし	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	現場で紛失?	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	現場で紛失?	
0.39	1.00		両端			○	○					なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.72	22.70	ほぼ完形	基部側	○		○						なし	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし	23 20
0.88	21.80	ほぼ完形	末端側	○		○			○			25%以上	平坦	アーチ	発達	あり	17 18
0.36	0.70	完形				○						なし	点状	フェザー	発達せず	なし	26 20
0.50	1.60		部分残存			○						なし	不明	不明	発達せず	なし	
0.51	2.50	-	部分残存			○						なし	不明	不明	不明	なし	17 18
0.15	0.00		右側縁			○						なし	線状	フェザー	発達せず	なし	
0.86	12.10	完形				○	○			○		25%未満	平坦	アーチ	発達せず	なし	25 20
0.98	11.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19 19	
0.15	0.00	完形				○						なし	点状	ヒンジ弱	発達せず	なし	
0.24	0.40	完形				○				○		25%以上	線状	ステップ	発達せず	なし	26 20
0.81	4.90	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし	
0.26	0.70	完形					○	○	○			25%以上	平坦	フェザー	発達せず	あり	
0.38	0.90	完形				○	○	○				なし	線状	フェザー	発達せず	なし	
0.44	1.30	完形				○			○			50%以上	点状	ステップ	発達せず	なし	
0.24	0.50		両端			○							不明	不明	発達せず	なし	
0.48	2.10	ほぼ完形	基部側	○	○				○			25%以上	粉碎	フェザー	発達せず	なし	
0.26	0.20		部分残存			○						なし	不明	ヒンジ弱	発達せず	なし	
0.32	0.90	完形				○						なし	複面	アーチ	発達	なし	
0.20	0.60	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし	
0.29	0.10		左側縁						○	○	○	全面	平坦	ステップ	発達せず	なし	

表19 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(7)

調査記号	遺物番号	地区	グリッド	箇分抽出	地層	遺構	X座標 (世界測地系)	Y座標 (世界測地系)	標高	器種	石材	剥片分類	接合番号	長さ (cm) *印欠損	幅 (cm) *印欠損
07EB	360	I 区	C1-ネ		12層	LC1301	-154415.638	-41102.247	3.941	剥片	サヌカイト	不明		1.62 *	1.74 *
07EB	361	I 区	D1-コ		12層	LC1301	-154415.997	-41099.117	3.938	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.32	1.54
07EB	362	I 区	B2-ウ	○	13層	LC1302	-154423.554	-41107.848	—	ナイフ形石器	サヌカイト	横長剥片		2.32 *	1.05
07EB	364	I 区	拡張区	○	12層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	不明		1.48 *	1.72
07EB	367	I 区	C1-ノ		12層	LC1301	-154417.084	-41101.560	3.940	ナイフ形石器	サヌカイト	石刃状剥片		3.51 *	1.43
07EB	368	I 区	D1-オ		12層	LC1301	-154416.575	-41100.635	—	剥片	サヌカイト	不明		1.36 *	0.61 *
07EB	370	I 区	C1-ノ		13層	LC1301	-154416.736	-41101.014	3.949	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.58	2.58
07EB	371	I 区	C1-ゾ		13層	LC1301	-154417.249	-41103.161	3.842	剥片	サヌカイト	不明		0.74 *	1.69 *
07EB	373	I 区	C1-ト		13層	LC1301	-154417.082	-41101.623	3.885	ナイフ形石器	サヌカイト	横長剥片		3.58	1.29
07EB	376	I 区	C1-ト		13層	LC1301	-154417.108	-41102.548	3.861	剥片	サヌカイト	不明		1.11 *	1.76 *
07EB	377	I 区	C1-ト		13層	LC1301	-154417.201	-41102.006	3.818	剥片	サヌカイト	矩形剥片		6.29	3.69
07EB	378	I 区	D1-オ		13層	LC1301	-154415.902	-41100.222	3.793	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.86	2.28
07EB	379	I 区	D1-コ		13層	LC1301	-154416.203	-41099.562	3.911	剥片	サヌカイト	不明		1.56 *	1.68 *
07EB	381	I 区	C1-ゾ		13層	LC1301	-154417.281	-41103.005	3.821	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.52	1.00
07EB	383	I 区	C1-ゾ		13層	LC1301	-154417.854	-41102.839	3.785	剥片	サヌカイト	矩形剥片		1.70	1.67
07EB	387	I 区	A2-ク	○	12層	LC1302	-154425.357	-41109.170	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.76	2.19 *
07EB	388	I 区	C2-ナ	○	13層	LC1301	-154417.661	-41100.757	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.94	2.38
07EB	389	I 区	C1-ヌ	○	12層	LC1301	-154414.993	-41102.129	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		1.48	0.88
07EB	391	I 区	A2-ヌ	○	12層	LC1302	-154424.011	-41108.737	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		3.24 *	2.65
07EB	392	I 区	A2-イ	○	12層	LC1302	-154424.950	-41112.752	—	剥片	サヌカイト	不明		1.42 *	1.16 *
07EB	393	I 区	A2-ゾ	○	12層	LC1302	-154426.704	-41109.602	—	剥片	サヌカイト	不明		0.75 *	1.74 *
07EB	394	I 区	C2-ア	○	12層	LC1301	-154419.489	-41104.315	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.08	1.28
07EB	395	I 区	C2-ウ	○	12層	LC1301	-154421.268	-41103.401	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.62	2.14
07EB	396	I 区	A2-ヌ	○	12層	LC1302	-154424.011	-41108.737	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.55 *	1.24
07EB	398	I 区	A2-ヌ	○	12層	LC1302	-154424.011	-41108.737	—	剥片	サヌカイト	背部形剥片		0.62	1.22 *
07EB	399	I 区	B2-ウ	○	13層	LC1302	-154423.554	-41107.848	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		1.50	1.34
07EB	402	I 区	C2-ウ	○	12層	LC1301	-154421.268	-41103.401	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.28	1.74
07EB	403	I 区	C2-ウ	○	13層	LC1301	-154421.268	-41103.401	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		1.62 *	1.24
07EB	404	I 区	B2-ノ	○	12層	LC1302	-154423.504	-41103.376	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		2.24	2.38
07EB	405	I 区	B2-ウ	○	12層	LC1302	-154423.554	-41107.848	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.36	0.86
07EB	407	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.260	-41103.027	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.05	2.28
07EB	408	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.338	-41102.982	—	砂片	サヌカイト	砂片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	409	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154420.056	-41102.343	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.52 *	2.00
07EB	410	I 区	B2-ナ	○	12層	LC1302	-154419.946	-41105.205	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.00	1.92
07EB	411	I 区	C2-カ	○	12層	LC1301	-154419.032	-41103.426	—	剥片	サヌカイト	不明		1.42 *	1.91 *
07EB	413	I 区	A2-ス	○	12層	LC1302	-154424.925	-41110.516	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.24 *	1.74
07EB	414	I 区	A2-ゾ	○	12層	LC1302	-154424.468	-41109.627	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		3.44 *	1.26
07EB	415	I 区	A3-サ	○	12層	LC1302	-154427.593	-41109.145	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.85 *	1.69
07EB	417	I 区	B2-オ	○	13層	LC1302	-154425.333	-41106.934	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.82	0.79
07EB	418	I 区	C2-ウ		13層	LC1301	-154420.769	-41103.140	3.922	砂片	サヌカイト	砂片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	419	I 区	C2-ウ		13層	LC1301	-154420.871	-41103.110	3.916	剥片	サヌカイト	矩形剥片		0.68	1.78
07EB	420	I 区	C2-ウ		13層	LC1301	-154420.887	-41103.063	3.420	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.44	1.41
07EB	421	I 区	C2-ウ		12層	LC1301	-154421.432	-41102.800	3.966	剥片	サヌカイト	不明		1.82	1.58 *
07EB	422	I 区	C2-ケ		13層	LC1301	-154421.595	-41102.659	3.945	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.34	3.01
07EB	423	I 区	C2-ケ		13層	LC1301	-154421.550	-41102.570	3.939	剥片	サヌカイト	不明		1.62 *	1.74
07EB	424	I 区	C2-イ		13層	LC1301	-154419.754	-41103.735	3.874	砂片	サヌカイト	砂片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	429	I 区	C2-ウ		13層	LC1301	-154420.903	-41103.172	3.920	砂片	サヌカイト	砂片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	430	I 区	C2-ス		12層	LC1301	-154420.118	-41102.092	3.935	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.55 *	2.38
07EB	431	I 区	C2-オ	○	12層	LC1301	-154423.047	-41102.487	—	剥片	サヌカイト	不明		1.51 *	2.39 *
07EB	432	I 区	A2-ネ	○	12層	LC1302	-154424.900	-41108.280	—	剥片	サヌカイト	不明		1.85 *	1.94 *
07EB	433	I 区	A2-テ	○	12層	LC1302	-154424.900	-41108.280	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.84 *	1.32
07EB	434	I 区	C2-ク	○	12層	LC1301	-154420.811	-41102.511	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.70	2.34
07EB	435	I 区	C2-エ	○	12層	LC1301	-154422.158	-41102.944	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.64	4.46
07EB	436	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.731	-41103.112	3.858	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.00 *	1.24
07EB	437	I 区	C2-キ		12層	LC1301	-154419.963	-41103.037	3.898	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.40 *	0.74
07EB	438	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154420.184	-41102.997	3.833	剥片	サヌカイト	矩形剥片		2.65	2.18
07EB	439	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.791	-41102.856	3.814	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.98	1.52
07EB	440	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.987	-41102.811	3.792	剥片	サヌカイト	不明		0.39 *	1.74 *
07EB	441	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154420.045	-41102.770	3.793	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.68	2.56
07EB	442	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154420.216	-41102.666	3.795	剥片	サヌカイト	不明		1.24 *	0.74 *

表20 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(8)

厚さ (cm) *印欠損	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置		背面の 剥離痕 の方向		礫面の 残存位置		礫の 表面 比率	打面 形態	末端 形態	バルブ の状態	内湾 の 有無	図 番 号	写 真 図 版	備 考
				I	II	III	IV	I	II								
0.52	1.20		部分残存					○			なし	不明	ヒンジ弱	発達せず	なし		
0.32	0.60	完形						○			なし	口唇状	フェザー	発達せず	なし		
0.34	0.80		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	18
0.15	0.40		基部側					○			なし	不明	フェザー	発達せず	なし		
0.37	2.00		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	18
0.16	0.10		部分残存					○ ○			なし	不明	不明	発達せず	なし		
0.24	1.20	完形						○			なし	平坦	フェザー	発達	なし		
0.16	0.20		部分残存					○			なし	不明	不明	発達せず	なし		
0.52	2.10	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	18
0.32	0.60		部分残存					○			なし	不明	フェザー	不明	なし		
1.62	31.70	完形						○ ○	○	○	25%未満	平坦	アーチ	発達せず	なし	23	20
0.22	0.90	完形						○			なし	点状	フェザー	発達せず	あり		
0.29	1.10		部分残存						○ ○ ○ ○		全面	不明	不明	不明	なし		
0.55	0.30	完形						○			なし	平坦	ステップ	発達せず	なし		
0.31	1.00	完形						○			なし	線状	ヒンジ強	発達せず	なし		
0.36	0.70		左側縁					○ ○			なし	線状	ステップ	発達せず	なし		
0.42	0.80	完形						○			なし	複面	有底剥片	発達	なし		
0.45	0.60	完形						○			なし	線状	ステップ	発達せず	なし		
0.44	5.00		基部側					○ ○			なし	不明	ヒンジ強	発達せず	なし		
0.59	0.90		打点縦割れ						○ ○ ○ ○		全面	礫面	フェザー	発達せず	なし		
0.70	1.00		部分残存					○		○ ○ ○ ○	75%以上	不明	不明	不明	なし		
0.12	0.60	完形						○			○	25%未満	平坦	フェザー	発達せず	なし	
0.18	0.80	完形							○		なし	複面	ステップ	発達せず	なし		
0.26	0.90	ほぼ完形	基部側	○				○			なし	不明	フェザー	発達せず	なし		
0.25	0.20		左側縁					○ ○			なし	複面	フェザー	発達せず	なし		
0.24	0.40	完形						○			なし	線状	フェザー	発達せず	なし		
0.64	1.80	完形						○	○ ○		25%未満	礫面	フェザー	発達せず	あり		
0.23	0.60		基部側					○	○		なし	不明	ヒンジ弱	発達せず	なし		
0.56	3.90	完形						○		○	25%未満	平坦	ステップ	発達	なし		
0.19	0.40	完形						○		○	なし	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし		
0.60	1.80	完形						○		○	25%未満	礫面	ステップ	発達	なし		
0.1g未満				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.50	2.40	ほぼ完形	両端					○ ○	○		なし	粉碎	ヒンジ弱	発達せず	なし		
0.42	1.30	完形							○		なし	点状	フェザー	発達せず	なし		
0.31	0.70		部分残存					○ ○		○ ○ ○ ○	ほぼ全面	不明	ヒンジ強	発達せず	なし		
0.63	1.70	ほぼ完形	基部側	○				○	○	○	なし	平坦	フェザー	発達	なし		
0.39	1.60		基部側					○ ○ ○ ○			なし	不明	アーチ	不明	なし		
0.48	2.60	ほぼ完形	末端側					○			なし	平坦	ヒンジ強	発達せず	なし	26	20
0.70	0.90	完形						○		○	25%未満	平坦	フェザー	発達せず	なし		
0.1g未満				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.24	0.20	完形						○			なし	線状	フェザー	発達せず	なし		
0.24	0.20	完形						○			なし	複面	フェザー	発達せず	なし		
0.32	0.90		打点縦割れ					○			なし	平坦	フェザー	発達せず	あり		
0.36	1.10	完形						○			なし	線状	ヒンジ弱	発達	なし		
0.24	0.70		基部側					○ ○			なし	不明	ヒンジ弱	発達せず	なし		
0.1g未満				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.1g未満				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.26	1.90	ほぼ完形	基部側					○			なし	点状	ステップ	発達せず	なし		
0.28	1.30		部分残存	○				○ ○			なし	口唇状	有底剥片	発達せず	あり		
0.43	1.00		部分残存					○			なし	平坦	フェザー	発達せず	なし		
0.42	1.30		末端側					○ ○			なし	平坦	不明	発達せず	なし		
0.24	1.80	完形						○ ○			なし	線状	フェザー	発達せず	なし		
0.91	5.70	完形						○	○	○	25%以上	平坦	有底剥片	発達	なし	28	21
0.18	0.10	ほぼ完形	基部側	○				○			なし	線状	フェザー	発達せず	なし		
0.46	0.80	ほぼ完形	末端側					○ ○			○ 50%以上	点状	不明	発達せず	なし		
0.21	1.30	完形						○			なし	線状	ヒンジ強	発達せず	なし		
0.18	0.30	完形						○			なし	線状	フェザー	発達せず	あり		
0.35	0.30		部分残存					○			なし	不明	不明	発達せず	なし		
0.28	1.60	完形						○ ○ ○ ○			なし	点状	フェザー	発達せず	あり		
0.28	0.20		右側縁					○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		全面	点状	アーチ	発達せず	なし		

表21 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(9)

調査記号	遺物番号	地区	グリッド	箇分抽出	地層	遺構	X座標 (世界測地系)	Y座標 (世界測地系)	標高	器種	石材	剥片分類	接合番号	長さ (cm) *印欠損	幅 (cm) *印欠損
07EB	443	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.901	-41102.687	3.837	ナイフ形石器	サスカイト	横長剥片		2.44	1.21
07EB	445	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.696	-41102.792	3.791	剥片	サスカイト	石刃状剥片		2.28	0.81
07EB	446	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.678	-41102.734	3.732	叩き石	砂岩	—		13.58	4.92
07EB	448	I 区	C2-ク	○	12層	LC1301	-154420.811	-41102.511	—	剥片	サスカイト	横長剥片		1.24	1.90
07EB	450	I 区	B2-ク	○	12層	LC1302	-154423.097	-41106.959	—	剥片	サスカイト	短形剥片		1.42	0.90
07EB	451	I 区	C2-ク	○	12層	LC1301	-154420.811	-41102.511	—	剥片	サスカイト	短形剥片		1.62	1.32
07EB	452	I 区	B2-カ	○	12層	LC1302	-154421.318	-41107.873	—	剥片	サスカイト	横長剥片		1.86	2.80
07EB	453	I 区	B2-コ	○	12層	LC1302	-154424.875	-41106.044	—	剥片	サスカイト	横長剥片		1.00	1.56 *
07EB	454	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154418.847	-41103.240	—	剥片	サスカイト	横長剥片		1.30	2.24
07EB	455	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154420.154	-41102.939	3.789	剥片	サスカイト	横長剥片		2.36	2.62
07EB	456	I 区	B2-カ	○	12層	LC1302	-154421.318	-41107.873	—	剥片	サスカイト	石刃		4.76 *	1.93
07EB	457	I 区	A2-ニ		13層	LC1302	-154423.496	-41108.906	4.000	剥片	サスカイト	石刃状剥片		3.94 *	1.82
07EB	459	I 区	A2-ツ		13層	LC1302	-154424.408	-41110.035	4.024	碎片	サスカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	460	I 区	A2-ツ		13層	LC1302	-154424.045	-41109.625	4.005	碎片	サスカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	461	I 区	A2-ニ		13層	LC1302	-154423.500	-41109.275	4.001	ナイフ形石器	サスカイト	横長剥片		2.05	1.03 *
07EB	462	I 区	A2-イ		13層	LC1302	-154425.132	-41112.209	4.046	剥片	サスカイト	短形剥片		3.62 *	2.96
07EB	463	I 区	A2-イ		13層	LC1302	-154425.032	-41112.496	3.998	剥片	サスカイト	石刃状剥片		1.81	0.86
07EB	464	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.922	-41103.407	3.916	剥片	サスカイト	短形剥片		1.89 *	1.34
07EB	466	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154420.046	-41103.332	3.894	碎片	サスカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	467	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.547	-41103.026	3.851	剥片	サスカイト	石刃状剥片		1.86 *	0.82
07EB	468	I 区	A2-エ		13層	LC1302	-154426.353	-41111.610	4.024	碎片	サスカイト	碎片	単純最大長1.0cm未満		
07EB	469	I 区	A3-ゾ		13層	LC1302	-154431.475	-41107.302	4.003	碎片	サスカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	470	I 区	A2-チ		13層	LC1302	-154423.900	-41109.834	3.960	剥片	サスカイト	短形剥片		5.95 *	4.25
07EB	471	I 区	A2-ツ		13層	LC1302	-154424.436	-41110.003	4.021	碎片	サスカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	472	I 区	A3-ナ		13層	LC1302	-154426.426	-41107.704	4.036	剥片	サスカイト	不明		1.18 *	1.42
07EB	473	I 区	A2-ヌ		13層	LC1302	-154423.563	-41108.894	3.963	剥片	サスカイト	短形剥片		1.50	1.47
07EB	474	I 区	A2-ニ		12層	LC1302	-154423.756	-41109.391	4.057	碎片	サスカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	475	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.458	-41103.544	3.842	剥片	サスカイト	不明		0.94 *	1.89
07EB	476	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.538	-41103.447	3.882	剥片	サスカイト	横長剥片		1.50	1.94
07EB	477	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.061	-41103.591	3.861	剥片	サスカイト	短形剥片		1.91 *	1.66
07EB	481	I 区	C2-ク		13層	LC1301	-154420.627	-41102.831	3.870	剥片	サスカイト	短形剥片		1.75	0.92
07EB	482	I 区	C2-ク		13層	LC1301	-154420.586	-41102.402	3.900	ナイフ形石器	サスカイト	短形剥片		2.85 *	1.68
07EB	483	I 区	B2-ノ		13層	LC1302	-154423.541	-41103.306	3.979	剥片	サスカイト	横長剥片		1.94	2.51
07EB	484	I 区	C2-サ		13層	LC1301	-154418.376	-41102.762	3.813	剥片	サスカイト	横長剥片		0.56	1.24
07EB	485	I 区	C1-ノ		13層	LC1301	-154416.675	-41101.169	3.936	剥片	サスカイト	横長剥片		1.05 *	1.09 *
07EB	486	I 区	C1-ノ		13層	LC1301	-154416.701	-41101.088	3.918	剥片	サスカイト	横長剥片		1.62 *	1.70
07EB	487	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154418.816	-41104.099	3.845	碎片	サスカイト	碎片	単純最大長0.5cm未満		
07EB	488	I 区	C1-ノ		13層	LC1301	-154417.287	-41101.124	3.924	剥片	サスカイト	不明		1.82 *	1.34 *
07EB	490	I 区	C1-ノ		13層	LC1301	-154417.182	-41101.487	3.910	剥片	サスカイト	短形剥片		2.93	2.51
07EB	491	I 区	C1-ノ		13層	LC1301	-154416.905	-41100.775	3.892	剥片	サスカイト	横長剥片		1.39	1.42 *
07EB	492	I 区	D1-オ		13層	LC1301	-154416.919	-41100.408	—	剥片	サスカイト	不明		1.70 *	1.22 *
07EB	494	I 区	A2-セ		13層low	LC1302	-154426.267	-41110.119	3.916	剥片	サスカイト	短形剥片		3.67	3.05
07EB	497	I 区	C2-ナ		13層	LC1301	-154417.557	-41101.266	3.872	ナイフ形石器	サスカイト	横長剥片		4.12	1.55
07EB	498	I 区	C2-ウ		13層low	LC1301	-154421.453	-41102.918	3.731	剥片	サスカイト	短形剥片		2.05	1.36
07EB	500	I 区	A2-ニ		12層	LC1302	-154423.252	-41108.672	3.995	剥片	サスカイト	不明		2.50 *	2.30 *
07EB	501	I 区	C2-イ		12層	LC1301	-154420.246	-41103.370	3.892	剥片	サスカイト	横長剥片		0.95	1.06
07EB	502	I 区	C1-ト		13層	LC1301	-154417.518	-41101.792	3.876	剥片	サスカイト	石刃状剥片		2.63	1.28
07EB	504	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.701	-41103.470	3.791	剥片	サスカイト	横長剥片		1.50	2.15
07EB	505	I 区	C2-キ		12層	LC1301	-154419.666	-41103.510	3.917	剥片	サスカイト	不明		1.35 *	1.51
07EB	507	I 区	A2-セ	○	13層low	LC1302	-154425.567	-41110.650	—	剥片(不明)	サスカイト	—	—	—	—
07EB	508	I 区	A2-セ	○	13層low	LC1302	-154425.567	-41110.650	—	剥片(不明)	サスカイト	—	—	—	—
07EB	509	I 区	A2-セ	○	13層low	LC1302	-154425.567	-41110.650	—	剥片	サスカイト	不明		3.14 *	3.74
07EB	510	I 区	A2-セ	○	13層low	LC1302	-154425.567	-41110.650	—	剥片	サスカイト	横長剥片		3.36	3.38
07EB	511	I 区	A2-ス	○	13層low	LC1302	-154424.757	-41110.462	—	剥片	サスカイト	短形剥片		1.38	1.32
07EB	512	I 区	A2-ス	○	13層low	LC1302	-154425.482	-41110.781	—	剥片	サスカイト	不明		1.10 *	1.34
07EB	513	I 区	A2-テ	○	13層low	LC1302	-154425.458	-41108.545	—	剥片	サスカイト	石刃状剥片		3.02	1.51
07EB	514	I 区	A2-テ	○	13層low	LC1302	-154425.291	-41108.220	—	剥片	サスカイト	石刃状剥片		1.78 *	0.90
07EB	515	I 区	A2-テ	○	13層low	LC1302	-154425.291	-41108.220	—	剥片	サスカイト	横長剥片		0.95	1.51
07EB	516	I 区	A2-テ	○	13層low	LC1302	-154425.291	-41108.220	—	剥片	サスカイト	不明		1.24 *	0.86 *
07EB	517	I 区	A2-テ	○	13層low	LC1302	-154425.062	-41107.775	—	剥片	サスカイト	横長剥片		0.55	1.28

表22 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(10)

厚さ (cm) *印欠損	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置		背面の 剥離痕 の方向		礫面の 残存位置		礫の 表面 比率	打面 形態	末端 形態	バルブ の状態	内湾 の 有無	図 番 号	写 真 図 版	備 考	
				I	II	III	IV	I	II	III	IV							
0.42	1.20	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	18	
0.42	0.60	完形				○				○	25%以上	平坦	フェザー	発達せず	なし			
4.00	356.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	23	
0.48	0.60	完形				○		○			25%未満	礫面	ステップ	発達せず	なし			
0.56	0.40	完形				○					なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.14	0.30	完形				○					なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.34	1.70	完形				○					なし	複面	有底剥片	発達	なし			
0.38	0.50	ほぼ完形	右側縁	○		○ ○		○			25未満	礫面	フェザー	発達せず	あり			
0.28	0.60	完形				○		○ ○			50%以上	平坦	フェザー	発達せず	なし			
0.74	4.10	完形				○					なし	点状	ステップ	発達せず	なし			
1.01	8.60		基部側	○		○ ○					なし	平坦	アーチ	発達せず	なし	23	20	
0.45	2.70	ほぼ完形	基部側			○				○	25%未満	粉碎	ヒンジ弱	発達せず	なし	26	20	
	0.1g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	0.1g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
0.36	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	18	
0.66	8.00	ほぼ完形	基部側					○ ○ ○ ○		全面	粉碎	ステップ	発達せず	なし				
0.20	0.20	完形				○					なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.32	0.80	ほぼ完形	末端側			○					なし	平坦	フェザー	発達せず	なし			
	0.1g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
0.21	0.30	完形				○					なし	点状	フェザー	発達せず	なし			
	0.1g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	0.1g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
1.32	29.80	ほぼ完形	基部側			○		○ ○		25%以上	粉碎	ヒンジ強	発達せず	なし				
	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
0.24	0.40		基部側			○ ○					なし	不明	ヒンジ弱	発達せず	なし			
0.22	0.20	完形				○					なし	線状	フェザー	発達せず	あり			
	0.1g未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
0.24	0.30		基部側	○		○					なし	不明	ステップ	発達せず	なし			
0.18	0.30	完形				○ ○					なし	点状	フェザー	発達せず	あり			
0.38	0.60	ほぼ完形	基部側	○		○					なし	線状	フェザー	発達	なし			
0.26	0.40	完形				○				○	25%未満	平坦	フェザー	発達せず	あり			
0.36	1.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	18	
0.82	3.50	完形						○ ○		25%以上	礫面	フェザー	発達	なし				
0.38	0.20	完形				○					なし	平坦	フェザー	発達せず	なし			
0.36	0.40		左側縁			○			○		25%以上	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.22	0.80	ほぼ完形	末端側	○	○						なし	線状	ステップ	発達せず	なし			
	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
0.16	0.20		部分残存	○		○					なし	不明	不明	発達せず	なし			
0.48	3.10	完形				○	○	○		25%未満	平坦	アーチ	発達せず	なし				
0.20	0.30		右側縁			○					なし	点状	フェザー	発達せず	あり			
0.44	0.60		部分残存			○		○ ○ ○		50%以上	不明	不明	不明	不明	なし			
0.82	7.00	完形						○ ○ ○ ○		75%以上	平坦	アーチ	発達	なし				
0.46	2.50	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	18	
0.66	1.50	完形				○		○		25%未満	平坦	フェザー	発達	なし				
0.46	3.10		部分残存			○		○			なし	不明	フェザー	不明	なし			
0.21	0.20	完形				○					なし	線状	ヒンジ弱	発達せず	なし			
0.64	0.90	完形						○		25%以上	平坦	フェザー	発達せず	なし				
0.26	0.70	完形				○					なし	線状	フェザー	発達せず	なし			
0.40	0.80		平坦			○					なし	平坦	不明	発達	なし			
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	現場で紛失?		
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	現場で紛失?		
1.16	8.00		基部側			○ ○					なし	不明	アーチ	不明	あり			
0.89	6.90	完形					○ ○				なし	平坦	アーチ	発達せず	なし			
0.44	0.70	完形					○				なし	平坦	フェザー	発達せず	なし			
0.38	0.60		基部側			○					なし	不明	ヒンジ強	発達せず	なし			
0.62	2.60	完形				○					なし	平坦	フェザー	発達せず	なし	26	20	
0.30	0.60		基部側	○		○ ○					なし	不明	フェザー	発達せず	なし			
0.15	0.30	完形				○		○			なし	線状	ステップ	発達せず	なし			
0.24	0.30		部分残存	○	○	○		○ ○			不明	フェザー	発達せず	なし				
0.36	0.20	完形				○					なし	線状	フェザー	発達せず	なし			

表23 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(11)

調査記号	遺物番号	地区	グリッド	箇分抽出	地層	遺構	X座標 (世界測地系)	Y座標 (世界測地系)	標高	器種	石材	剥片分類	接合番号	長さ (cm) *印欠損	幅 (cm) *印欠損
07EB	518	I 区	C1-ク	○	13層	LC1301	-154420.811	-41102.511	—	剥片	サヌカイト	不明		0.86 *	1.22
07EB	519	I 区	C1-ケ	○	13層	LC1301	-154417.253	-41104.340	—	剥片	サヌカイト	短形剥片		7.52	4.08
07EB	520	I 区	C1-コ	○	12層	LC1301	-154418.143	-41103.883	—	剥片	サヌカイト	不明		1.50 *	1.80 *
07EB	521	I 区	C1-コ	○	12層	LC1301	-154418.143	-41103.883	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.90 *	2.39
07EB	522	I 区	C1-コ	○	12層	LC1301	-154418.143	-41103.883	—	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.20	0.78
07EB	523	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154419.886	-41103.971	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.14	0.74
07EB	525	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154419.772	-41103.748	—	剥片	サヌカイト	短形剥片		2.40	2.14
07EB	526	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154419.772	-41103.748	—	剥片	サヌカイト	打面再生剥片		2.70 *	1.46
07EB	527	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154419.772	-41103.748	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.70	1.49
07EB	528	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154419.772	-41103.748	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.74	1.05
07EB	529	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154420.325	-41104.026	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.34	2.79
07EB	530	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154420.096	-41103.582	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.67 *	0.60
07EB	531	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154420.096	-41103.582	—	剥片	サヌカイト	不明		0.90 *	1.24 *
07EB	533	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154420.096	-41103.582	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.60	1.28
07EB	534	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154420.319	-41103.467	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.75	1.09
07EB	535	I 区	C2-ウ	○	13層low	LC1301	-154420.775	-41103.514	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.85	1.70
07EB	536	I 区	C2-ウ	○	13層low	LC1301	-154421.214	-41103.569	—	剥片	サヌカイト	短形剥片		3.05 *	1.84
07EB	537	I 区	C2-ウ	○	13層low	LC1301	-154420.986	-41103.125	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.91	1.56
07EB	539	I 区	C2-ウ	○	13層low	LC1301	-154421.208	-41103.010	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.08	1.36
07EB	541	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.145	-41103.919	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.98	1.56
07EB	542	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.367	-41103.804	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.66 *	1.38
07EB	543	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.367	-41103.804	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.00	0.45
07EB	544	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.367	-41103.804	—	剥片	サヌカイト	不明		0.44 *	1.08 *
07EB	545	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.201	-41103.480	—	剥片	サヌカイト	不明		1.18 *	1.36 *
07EB	547	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.423	-41103.365	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.82	1.20
07EB	548	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.423	-41103.365	—	剥片	サヌカイト	不明		1.14 *	0.71 *
07EB	549	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.423	-41103.365	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.86	1.00
07EB	550	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.309	-41103.143	—	剥片	サヌカイト	不明		2.36 *	1.56 *
07EB	551	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.309	-41103.143	—	剥片	サヌカイト	不明		0.94 *	1.68
07EB	552	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.309	-41103.143	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.90	1.20
07EB	553	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.194	-41102.921	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.46	0.72
07EB	554	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.194	-41102.921	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.62	1.24
07EB	555	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.710	-41103.628	—	剥片	サヌカイト	不明		0.50 *	1.12 *
07EB	557	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.543	-41103.304	—	剥片	サヌカイト	短形剥片		2.00	1.36
07EB	558	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.543	-41103.304	—	剥片	サヌカイト	不明		1.00 *	1.46 *
07EB	559	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.429	-41103.081	—	剥片	サヌカイト	不明		1.49 *	1.12 *
07EB	560	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.429	-41103.081	—	剥片	サヌカイト	不明		1.30	0.92 *
07EB	561	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.429	-41103.081	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.58	1.27 *
07EB	562	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.314	-41102.859	—	剥片	サヌカイト	不明		2.32 *	1.16 *
07EB	563	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.314	-41102.859	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.85	1.20
07EB	565	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		2.67	1.33 *
07EB	566	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.36	2.24
07EB	567	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	不明		1.82 *	1.01 *
07EB	568	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.92	1.95
07EB	569	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	不明		1.52 *	0.72 *
07EB	570	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	不明		1.24 *	0.60 *
07EB	571	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	不明		0.82 *	1.00 *
07EB	572	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	不明		1.08 *	0.66 *
07EB	573	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.31 *	0.46
07EB	574	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.16	0.38
07EB	575	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.44	1.06
07EB	577	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.868	-41103.137	—	剥片	サヌカイト	不明		1.34 *	1.56 *
07EB	578	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.868	-41103.137	—	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.46	1.22
07EB	579	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.868	-41103.137	—	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.11	0.79
07EB	580	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.753	-41102.915	—	剥片	サヌカイト	不明		1.05 *	1.39 *
07EB	581	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.753	-41102.915	—	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.52 *	0.86
07EB	582	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.753	-41102.915	—	剥片	サヌカイト	短形剥片		1.16 *	0.65
07EB	583	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.639	-41102.692	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.86	3.15
07EB	584	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.639	-41102.692	—	剥片	サヌカイト	不明		1.35	0.56 *
07EB	585	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.257	-41103.347	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.00	1.91

表24 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(12)

厚さ (cm) *印欠損	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置		背面の 剥離痕 の方向				縦面の 残存位置		疎の 表面 比率	打面 形態	末端 形態	バルブ の状態	内湾 の 有無	図 番号	写 真 図 版	備 考	
				I	II	III	IV	I	II	III	IV									
0.38	0.30		基部側			○						なし	不明	ヒンジ強	発達せず	なし				
1.21	35.00	完形				○					○	25%以上	複面	フェザー	発達せず	なし	23	20		
0.26 *	0.60		部分残存			○						なし	不明	不明	不明	なし				
0.34	1.30		基部側					○ ○ ○ ○		全面	不明	ヒンジ弱	発達せず	なし						
0.20	0.20	完形						○ ○ ○ ○		全面	点状	フェザー	発達せず	なし						
0.16	0.30	完形				○						なし	点状	ヒンジ弱	発達せず	なし				
0.56	2.30	完形					○	○				25%未満	縦面	ヒンジ弱	発達せず	あり				
0.62	2.10		基部側			○						なし	不明	アーチ	発達せず	なし				
0.18	0.20	完形				○						25%未満	縦面	フェザー	発達せず	なし				
0.20	0.10	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし				
0.56	2.20	完形				○		○	○			25%未満	線状	フェザー	発達せず	なし				
0.31	0.30		末端側			○						なし	粉碎	不明	発達せず	なし				
0.28	0.20		部分残存				○ ○					なし	不明	不明	不明	なし				
0.64	1.90	完形					○			○		25%以上	平坦	フェザー	発達せず	なし				
0.24	0.40	完形				○						なし	線状	フェザー	発達	なし				
0.43	0.40	完形					○		○			25%未満	平坦	フェザー	発達せず	なし				
0.34	2.00	ほぼ完形	基部側	○		○						なし	線状	ヒンジ弱	発達せず	なし				
0.16	0.20	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし				
0.34	0.40	完形				○ ○		○				25%未満	縦面	フェザー	発達せず	なし				
0.30	0.40	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達せず	あり				
0.24	0.20		末端側			○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし				
0.11	0.00	完形				○			○			25%未満	線状	フェザー	発達せず	なし				
0.17	0.00		部分残存			○						なし	不明	不明	発達せず	なし				
0.25	0.30		基部側			○						なし	不明	ステップ	不明	なし				
0.21	0.10	完形				○						なし	線状	フェザー	発達せず	なし				
0.12	0.10		部分残存			○				○		25%未満	不明	不明	不明	なし				
0.16	0.10	完形				○						なし	線状	フェザー	発達せず	なし				
0.49	1.40		基部側			○		○				なし	不明	フェザー	発達せず	なし				
0.20	0.30		基部側			○				○		25%未満	不明	フェザー	発達せず	なし				
0.30	0.40	完形					○			○		25%未満	点状	フェザー	発達せず	なし				
0.36	0.30	完形				○				○		25%未満	点状	アーチ	発達せず	内湾強				
0.30	0.30	完形				○				○		25%未満	点状	アーチ	発達せず	なし				
0.24	0.10		部分残存			○						なし	不明	不明	不明	なし				
0.24	1.00	完形				○ ○						なし	複面	ヒンジ弱	発達せず	なし				
0.17	0.40		部分残存	○ ○		○						なし	不明	フェザー	発達せず	なし				
0.22	0.40		部分残存					○				なし	不明	不明	不明	なし				
0.36	0.40		打点縦割れ			○				○		50%以上	粉碎	フェザー	発達せず	なし				
0.16	0.10		右側縁			○						なし	点状	フェザー	発達せず	なし				
0.56	1.10		打点縦割れ			○			○ ○ ○			50%以上	不明	不明	不明	なし				
0.14	0.10	完形				○						なし	点状	フェザー	発達せず	なし				
0.36	1.60	ほぼ完形	右側縁			○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし	26	20		
0.16	0.60	完形				○						なし	線状	ヒンジ強	発達	あり				
0.28	0.40		部分残存	○		○				○		25%未満	不明	フェザー	発達せず	なし				
0.32	0.40	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達	なし				
0.18	0.20		部分残存			○						なし	不明	不明	不明	あり				
0.22	0.10		部分残存				○	○				なし	不明	不明	不明	なし				
0.12	0.10		部分残存			○						なし	不明	不明	発達せず	なし				
0.18	0.20		部分残存	○ ○ ○								なし	不明	不明	不明	なし				
0.18	0.10		基部側			○						なし	不明	フェザー	発達せず	あり				
0.15	0.00	完形				○ ○						なし	口唇状	フェザー	発達せず	なし				
0.12	0.00	完形				○						なし	点状	フェザー	発達せず	なし				
0.24	0.50		部分残存					○ ○ ○ ○				全面	不明	不明	不明	なし				
0.26	0.50	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし				
0.19	0.20	完形				○						なし	平坦	フェザー	発達せず	なし				
0.12	0.20		末端側			○						なし	線状	不明	発達せず	なし				
0.28	0.30		基部側			○				○		25%未満	不明	フェザー	不明	なし				
0.21	0.20		基部側	○		○						なし	不明	ヒンジ弱	発達せず	なし				
0.34	2.10	完形				○				○		25%未満	平坦	アーチ	発達せず	なし				
0.36	0.30		右側縁			○				○		25%以上	不明	不明	不明	なし				
0.36	0.80	完形						○ ○ ○ ○				全面	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし				

表25 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(13)

調査記号	遺物番号	地区	グリッド	箇分抽出	地層	遺構	X座標 (世界測地系)	Y座標 (世界測地系)	標高	器種	石材	剥片分類	接合番号	長さ(cm) *印欠損	幅(cm) *印欠損
07EB	586	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.257	-41103.347	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.90	1.51
07EB	587	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.257	-41103.347	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.71 *	0.76
07EB	588	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.257	-41103.347	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.14	1.43
07EB	589	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.861	-41102.578	—	剥片	サヌカイト	不明		0.41 *	1.00 *
07EB	590	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.479	-41103.233	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.62	1.37
07EB	591	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.312	-41102.908	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.70 *	2.14 *
07EB	593	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.198	-41102.686	—	剥片	サヌカイト	不明		0.37 *	1.38 *
07EB	594	I 区	C2-ク	○	13層low	LC1301	-154420.599	-41103.171	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.74	1.32
07EB	595	I 区	C2-ク	○	13層low	LC1301	-154420.432	-41102.847	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.20	1.45
07EB	596	I 区	C2-ク	○	13層low	LC1301	-154420.924	-41103.004	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		0.61	1.48
07EB	597	I 区	C2-ク	○	13層low	LC1301	-154421.146	-41102.890	—	剥片	サヌカイト	不明		1.00 *	1.89
07EB	598	I 区	C2-シ	○	13層low	LC1301	-154419.253	-41102.739	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.59	0.52
07EB	599	I 区	C2-シ	○	13層low	LC1301	-154419.800	-41102.458	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.74	0.86
07EB	600	I 区	C2-シ	○	13層low	LC1301	-154419.800	-41102.458	—	剥片	サヌカイト	不明		1.00 *	1.05 *
07EB	601	I 区	C2-セ	○	13層low	LC1301	-154421.032	-41101.825	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片		1.16 *	0.55
07EB	602	I 区	C2-タ	○	13層	LC1301	-154418.118	-41101.647	—	剥片	サヌカイト	横長剥片		1.45	1.82
07EB	603	I 区	C2-ナ	○	13層	LC1301	-154417.661	-41100.757	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片		1.00 *	0.40
07EB	605	I 区	不明	○	13層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	不明		1.12 *	2.23 *
07EB	23	I 区	C2区		12層	LC1301	—	—	—	石核	サヌカイト	—	07JEB 1	6.05	1.24
07EB	313	I 区	C2-シ		13層	LC1301	-154419.494	-41101.918	3.841	剥片	サヌカイト	—	07JEB 1	5.08 *	1.85 *
07EB	363	I 区	拡張区	○	—	西北部	—	—	—	剥片	サヌカイト	—	07JEB 1	3.72 *	4.18
07EB	449	I 区	C2-ク	○	12層	LC1301	-154420.811	-41102.511	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片	07JEB 1	1.10	0.62
07EB	JEB1A	I 区	—	—	13層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片	07JEB 1	8.68	4.18
07EB	94	I 区	2区東		12層crk	溝壁面	—	—	3.920	剥片	サヌカイト	—	07JEB 2	2.09 *	4.54 *
07EB	134	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.457	-41102.413	3.853	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 2	2.89 *	3.48
07EB	207	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154420.958	-41102.841	3.792	剥片	サヌカイト	—	07JEB 2	2.54 *	4.50 *
07EB	236	I 区	B2-ネ		13層	LC1302	-154422.227	-41103.583	4.011	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 2	2.52 *	4.08
07EB	JEB2A	I 区	—	—	12層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 2	4.62	5.49
07EB	121	I 区	C2-シ		12層crk	LC1301	-154419.238	-41102.185	3.851	剥片	サヌカイト	—	07JEB 3	2.66 *	1.27 *
07EB	124	I 区	C2-シ		12層	LC1301	-154419.897	-41101.913	3.838	剥片	サヌカイト	—	07JEB 3	2.86 *	1.32 *
07EB	JEB3A	I 区	—	—	12層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	石刃	07JEB 3	5.42	1.52
07EB	146	I 区	A2-ヌ		12層crk	LC1302	-154423.823	-41108.373	3.951	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 4	2.51 *	3.45 *
07EB	150	I 区	A2-ヌ		12層crk	LC1302	-154423.996	-41108.644	4.008	剥片	サヌカイト	石刃状剥片	07JEB 4	3.21 *	1.52
07EB	147	I 区	A2-ヌ		12層crk	LC1302	-154423.624	-41108.576	4.003	剥片	サヌカイト	矩形剥片	07JEB 5	3.55 *	3.29
07EB	148	I 区	A2-ヌ		12層crk	LC1302	-154423.521	-41108.506	3.940	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 5	3.19	4.15
07EB	175	I 区	A2-ネ		12層	LC1302	-154424.776	-41108.738	—	剥片	サヌカイト	不明	07JEB 5	1.61 *	4.01 *
07EB	225	I 区	A2-ニ		12層	LC1302	-154423.251	-41109.578	4.076	剥片	サヌカイト	矩形剥片	07JEB 5	2.59	2.08
07EB	159	I 区	A2-テ		12層	LC1302	-154425.664	-41109.001	4.123	剥片	サヌカイト	—	07JEB 6	2.12 *	3.36 *
07EB	160	I 区	A2-テ		12層	LC1302	-154425.618	-41108.923	4.129	剥片	サヌカイト	—	07JEB 6	2.61 *	3.14 *
07EB	174	I 区	A2-ゾ		13層	LC1302	-154426.241	-41109.654	3.971	剥片	サヌカイト	—	07JEB 6	1.36 *	1.81 *
07EB	180	I 区	B2-ク		12層	LC1302	-154423.577	-41107.083	3.929	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 6	0.70 *	1.51 *
07EB	233	I 区	A2-ツ		12層	LC1302	-154424.791	-41109.686	4.132	剥片	サヌカイト	矩形剥片	07JEB 6	2.31	1.55
07EB	JEB6A	I 区	—	—	13層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片	07JEB 6	5.41	3.95
07EB	161	I 区	A2-テ		12層	LC1302	-154425.546	-41108.881	4.125	石核	サヌカイト	—	07JEB 7	5.27	3.58
07EB	258	I 区	B3-カ		13層	LC1302	-154425.497	-41105.657	3.909	剥片	サヌカイト	矩形剥片	07JEB 7	2.88	2.39
07EB	152	I 区	A2-チ		12層crk	LC1302	-154423.009	-41109.961	4.001	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 8	1.80	2.31
07EB	163	I 区	A2-ネ		12層	LC1302	-154425.404	-41108.539	4.057	剥片	サヌカイト	石刃状剥片	07JEB 8	5.51 *	1.85
07EB	495	I 区	A2-ネ		13層low	LC1302	-154425.238	-41108.478	3.903	石核	サヌカイト	—	07JEB 8	5.19	5.22
07EB	193	I 区	C2-イ		13層	LC1301	-154419.948	-41103.720	3.830	剥片	サヌカイト	—	07JEB 9	3.31	4.26
07EB	198	I 区	C2-イ		12層	LC1301	-154419.801	-41103.739	3.941	剥片	サヌカイト	—	07JEB 9	1.44	1.74
07EB	JEB9A	I 区	—	—	12層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 9	4.12	4.26
07EB	316	I 区	C2-キ		12層	LC1301	-154420.365	-41102.769	3.865	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 9	3.38	3.46
07EB	348	I 区	C1-ノ		13層	LC1301	-154417.138	-41101.555	3.910	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 9	4.21 *	4.86
07EB	401	I 区	C2-カ	○	13層	LC1301	-154419.032	-41103.426	—	剥片	サヌカイト	—	07JEB 9	1.12 *	2.22 *
07EB	427	I 区	C2-サ		12層	LC1301	-154419.163	-41102.673	3.915	剥片	サヌカイト	矩形剥片	07JEB 9	3.48 *	3.67
07EB	428	I 区	C2-サ		12層	LC1301	-154419.210	-41102.699	3.898	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 9	2.82	4.14
07EB	447	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154420.090	-41102.432	3.786	剥片	サヌカイト	矩形剥片	07JEB 9	2.90	1.66
07EB	465	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154420.015	-41103.337	3.896	剥片	サヌカイト	—	07JEB 9	2.08	2.34
07EB	JEB9B	I 区	—	—	13層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	矩形剥片	07JEB 9	3.13	2.34
07EB	489	I 区	C1-ノ		12層	LC1301	-154417.169	-41100.971	3.911	剥片	サヌカイト	矩形剥片	07JEB 9	4.55	4.04

表26 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(14)

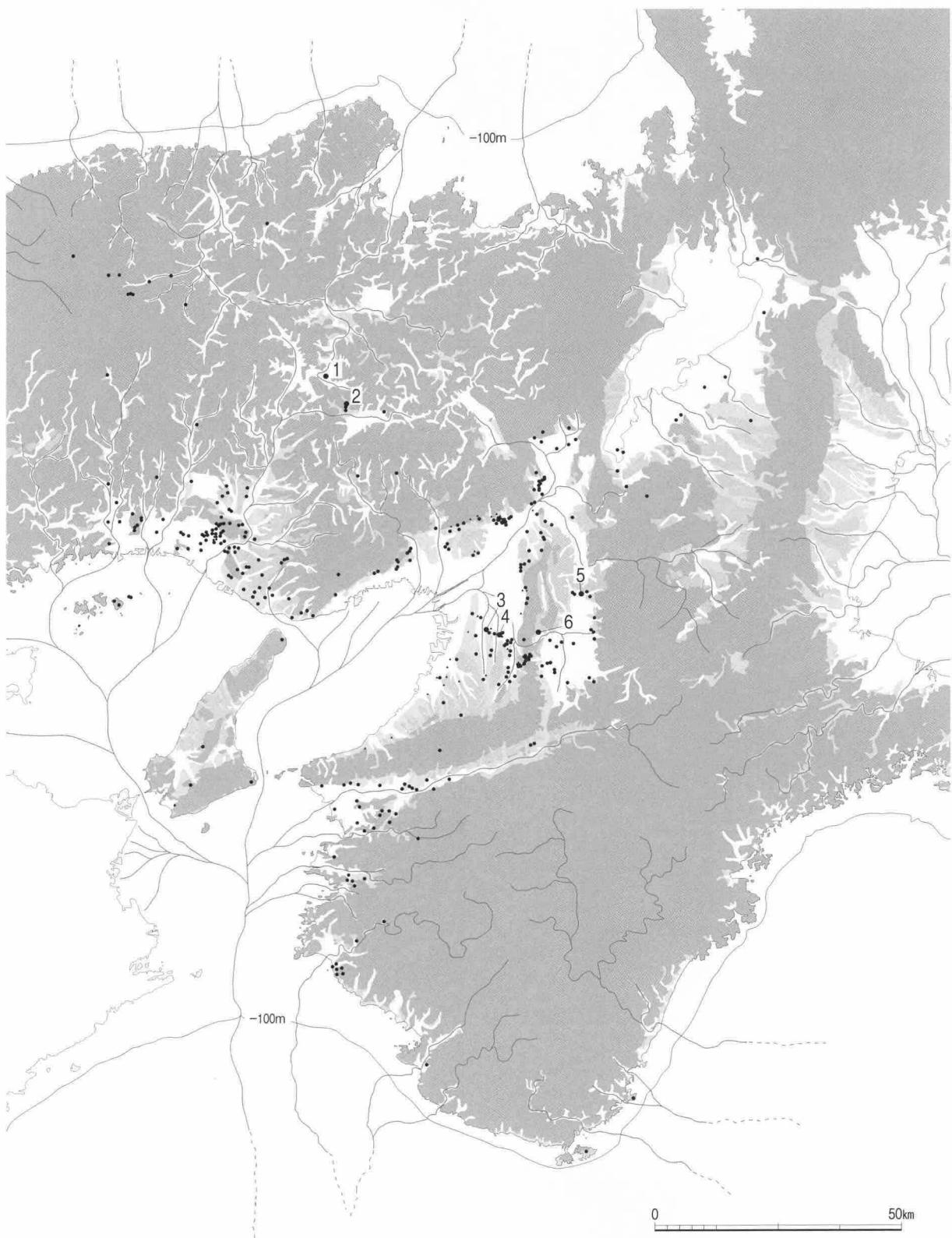
厚さ (cm) *印欠損	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新矢 の位置				背面の 剥離痕 の方向				縫面の 残存位置				礫の 表面 比率	打面 形態	末端 形態	バルブ の状態	内湾 の 有無	図 番 号	写 真 図 版	備 考	
				I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV									
0.36	0.40	完形						○								なし	平坦	アーチ	発達せず	なし				
0.19	0.30		末端側					○								なし	平坦	不明	発達せず	なし				
0.14	0.30	完形						○								なし	点状	フェザー	発達せず	なし				
0.15	0.00		部分残存					○								なし	不明	不明	不明	なし				
0.16	0.20	完形						○								なし	線状	ヒンジ強	発達せず	なし				
0.24	0.40	完形						○								なし	線状	フェザー	発達せず	なし				
0.16	0.00		部分残存					○								なし	粉砕	不明	発達せず	なし				
0.26	0.20	完形						○								なし	平坦	フェザー	発達	なし				
0.31	0.30	完形						○								なし	平坦	フェザー	発達せず	なし				
0.15	0.10	完形						○								なし	点状	フェザー	発達せず	あり				
0.36	0.60		基部側					○	○	○						なし	不明	フェザー	不明	なし				
0.22	0.20	完形						○								なし	平坦	フェザー	発達せず	なし				
0.20	0.20	完形						○								なし	線状	フェザー	発達せず	なし				
0.21	0.20		部分残存					○								なし	不明	不明	不明	なし				
0.22	0.10		基部側					○								○	25%以上	不明	フェザー	不明	なし			
0.36	0.80	完形						○	○							なし	線状	フェザー	発達せず	なし				
0.12	0.00		基部側					○								なし	不明	フェザー	不明	なし				
0.50	1.40		部分残存									○	○	○	○	全面	不明	ステップ	不明	なし				
4.52	37.70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31	21			
0.90	9.30	剥片07JEB1Aを参照のこと。																			31	21	剥片折れ(313+363)	
0.94	13.40	剥片07JEB1Aを参照のこと。																			31	21	剥片折れ(313+363)	
0.28	0.30	完形						○								なし	平坦	フェザー	発達せず	なし	31	21		
0.94	22.50	完形						○	○	○						なし	平坦	アーチ	発達せず	なし	31	21	剥片折れ(313+363)	
1.81	10.50	剥片07JEB2Aを参照のこと。																			40	22	剥片折れ(94+207)	
0.52	3.00	ほぼ完形	基部側					○	○	○	○					50%以上	粉砕	ヒンジ弱	発達せず	なし	40	22		
0.66	9.60	剥片07JEB2Aを参照のこと。																			40	22	剥片折れ(94+207)	
1.22	9.80	ほぼ完形	基部側					○		○	○	○	○			75%以上	不明	ヒンジ強	発達強	なし	40	22		
0.71	20.20	完形						○	○				○			25%以上	平坦	ヒンジ強	発達	内湾強	40	22	剥片折れ(94+207)	
0.35	1.30	剥片07JEB3Aを参照のこと。																			25	21	剥片折れ(121+124)	
0.46	2.30	剥片07JEB3Aを参照のこと。																			25	21	剥片折れ(121+124)	
0.46	3.60	完形						○	○							なし	点状	ヒンジ弱	発達せず	なし	25	21	剥片折れ(121+124)	
0.94	10.50		基部側									○	○	○	○	全面	不明	アーチ	発達せず	なし	40	22		
0.73	3.30		両端					○				○	○	○	○	ほぼ全面	平坦	不明	発達せず	あり	40	22		
1.15	19.10	ほぼ完形	基部側	○				○	○							なし	平坦	ヒンジ弱	発達強	なし	41	22		
1.25	5.40	完形						○		○	○	○	○			75%以上	平坦	アーチ	発達	あり	41	22		
0.79	4.40		末端側					○	○							25%以上	礫面	不明	発達せず	なし	41	22		
1.19	9.60	完形						○	○			○				50%以上	平坦	アーチ	発達	なし	41	22		
0.58	5.00	剥片07JEB6Aを参照のこと。																			40	21	折れ(159+160+174)	
0.68	6.50	剥片07JEB6Aを参照のこと。																			40	21	折れ(159+160+174)	
0.36 *	0.90	剥片07JEB6Aを参照のこと。																			40	21	折れ(159+160+174)	
0.43 *	0.70	部分残存						○					○	○		75%以上	不明	ヒンジ強	不明	なし	40	21		
0.46	1.20	完形						○								なし	平坦	フェザー	発達せず	なし	40	21		
0.68	12.30	完形						○					○	○		なし	平坦	フェザー	発達せず	あり	40	21	折れ(159+160+174)	
2.82	57.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32	19			
0.39	3.30	完形						○								なし	平坦	フェザー	発達	なし	32	19		
0.58	1.90	完形						○		○						なし	平坦	ステップ	発達せず	なし	32	22		
1.31	11.70	ほぼ完形	基部側	○				○					○			25%以上	不明	アーチ	発達せず	あり	32	22		
2.74	95.70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32	22			
1.35	20.90	剥片07JEB9Aを参照のこと。																			37	22	剥片折れ(193+198)	
0.54	1.10	剥片07JEB9Aを参照のこと。																			37	22	剥片折れ(193+198)	
0.54	22.00	完形										○	○			25%未満	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし	37	22	剥片折れ(193+198)	
0.74	8.50	完形															平坦	ヒンジ強	発達強	なし	38	22		
0.92	13.70	ほぼ完形	基部側		○	○		○				○				25%未満	平坦	ヒンジ弱	発達せず	あり	38	22		
0.49	1.20	剥片07JEB9Bを参照のこと。																			37	22	剥片折れ(401+465)	
1.14	13.30	ほぼ完形	基部側					○						○		50%以上	不明	フェザー	発達せず	なし	38	22		
1.09	11.20	完形						○	○				○			25%以上	平坦	アーチ	発達せず	なし	38	22		
0.22	1.20	完形						○									平坦	フェザー	発達せず	なし	37	22		
0.66	3.90	剥片07JEB9Bを参照のこと。																			37	22	剥片折れ(401+465)	
0.66	5.10	完形										○	○			25%未満	点状	アーチ	発達せず	あり	38	22		
0.86	10.50	完形															25%未満	平坦	ヒンジ強	発達せず	なし	37	22	剥片折れ(401+465)

表27 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(15)

調査記号	遺物番号	地区	グリッド	篩分抽出	地層	遺構	X座標 (世界測地系)	Y座標 (世界測地系)	標高	器種	石材	剥片分類	接合番号	長さ(cm) *印欠損		幅(cm) *印欠損	
07EB	506	I 区	C2-イ		13層	LC1301	-154420.163	-41104.531	3.761	剥片	サヌカイト	不明	07JEB 9	2.38	*	1.39	*
07EB	524	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154419.886	-41103.971	—	剥片	サヌカイト	不明	07JEB 9	1.39	*	0.96	*
07EB	532	I 区	C2-イ	○	13層low	LC1301	-154420.096	-41103.582	—	剥片	サヌカイト	石刃状剥片	07JEB 9	2.34		1.14	
07EB	546	I 区	C2-カ	○	13層low	LC1301	-154419.590	-41103.690	—	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 9	1.70		1.49	
07EB	556	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.543	-41103.304	—	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 9	4.57		2.50	
07EB	576	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154419.868	-41103.137	—	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 9	1.26	*	1.72	*
07EB	194	I 区	C2-イ		13層	LC1301	-154419.938	-41103.657	3.857	剥片	サヌカイト	—	07JEB 10	1.61	*	2.20	*
07EB	293	I 区	C2-ケ		13層	LC1301	-154421.617	-41102.187	4.072	剥片	サヌカイト	—	07JEB 10	1.70	*	1.55	*
07EB	365	I 区	C1-ゾ		13層	LC1301	-154417.899	-41102.828	3.822	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 10	4.99		7.08	
07EB	412	I 区	C2-カ	○	12層	LC1301	-154419.032	-41103.426	—	剥片	サヌカイト	—	07JEB 10	2.08	*	2.06	*
07EB	480	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154420.222	-41102.842	3.823	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 10	3.50		2.12	
07EB	499	I 区	C2-ナ		13層	LC1301	-154417.889	-41100.337	3.804	剥片	サヌカイト	—	07JEB 10	2.65	*	2.51	*
07EB	JEB10A	I 区	—	—	13層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 10	3.25		1.33	
07EB	JER10B	I 区	—	—	13層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 10	2.94	*	4.31	*
07EB	199	I 区	C2-イ		13層	LC1301	-154420.075	-41103.508	3.840	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 11	2.73		3.45	
07EB	479	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.963	-41103.037	3.821	剥片	サヌカイト	—	07JEB 11	1.62	*	1.24	*
07EB	493	I 区	不明		13層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	—	07JEB 11	2.36		1.58	*
07EB	JEB11A	I 区	—	—	13層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 11	2.36		2.49	
07EB	201	I 区	C2-ク		12層	LC1301	-154421.384	-41102.577	3.840	剥片	サヌカイト	—	07JEB 12	2.00	*	1.01	*
07EB	400	I 区	C2-ケ	○	12層	LC1301	-154421.701	-41102.054	—	剥片	サヌカイト	—	07JEB 12	3.58	*	1.45	
07EB	JEB12A	I 区	—	—	12層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	石刃	07JEB 12	5.41		1.45	
07EB	215	I 区	C2-エ		13層	LC1301	-154422.327	-41102.902	3.955	叩き石	砂岩	—	07JEB 13	7.01	*	4.10	*
07EB	366	I 区	C1-ゾ		13層	LC1301	-154417.277	-41103.204	3.860	叩き石	砂岩	—	07JEB 13	7.28	*	4.91	*
07EB	JEB13A	I 区	—	—	13層	—	—	—	—	叩き石	砂岩	—	07JEB 13	14.05	*	4.91	*
07EB	226	I 区	A2-ニ		12層	LC1302	-154423.373	-41109.569	4.079	ナイフ形石器	サヌカイト	—	07JEB 14	2.08		1.09	
07EB	406	I 区	A2-ナ	○	12層	LC1302	-154422.232	-41109.652	—	ナイフ形石器	サヌカイト	—	07JEB 14	1.46		0.78	
07EB	JEB14A	I 区	—	—	12層	—	—	—	—	ナイフ形石器	サヌカイト	石刃	07JEB 14	3.40	*	1.09	
07EB	337	I 区	C1-ゾ		12層	LC1301	-154417.152	-41102.896	3.943	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 15	1.95	*	1.76	
07EB	372	I 区	C1-ゾ		13層	LC1301	-154417.184	-41102.959	3.861	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 15	3.39	*	3.82	*
07EB	369	I 区	C1-ノ		13層	LC1301	-154416.991	-41101.203	3.896	剥片	サヌカイト	石刃状剥片	07JEB 16	4.60		1.69	
07EB	385	I 区	C1-ノ	○	12層	LC1301	-154416.772	-41101.214	—	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 16	2.12	*	1.22	
07EB	425	I 区	C2-ア		13層	LC1301	-154419.653	-41103.759	3.843	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 16	1.74	*	3.14	
07EB	444	I 区	C2-キ		13層	LC1301	-154419.882	-41102.584	3.806	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 16	2.86	*	2.20	
07EB	503	I 区	C1-ト		13層	LC1301	-154417.509	-41101.763	3.831	剥片	サヌカイト	打面再生剥片	07JEB 16	3.35		4.55	
07EB	374	I 区	C1-ト		13層	LC1301	-154416.895	-41101.893	3.849	剥片	サヌカイト	石刃状剥片	07JEB 17	3.12	*	0.80	
07EB	380	I 区	D1-コ		13層	LC1301	-154415.810	-41099.353	3.906	剥片	サヌカイト	石刃状剥片	07JEB 17	3.00	*	1.74	*
07EB	384	I 区	D2-ク	○	12層	LC1301	-154418.526	-41098.064	—	剥片	サヌカイト	—	07JEB 18	3.48	*	0.74	
07EB	386	I 区	C1-ノ	○	12層	LC1301	-154416.772	-41101.214	—	剥片	サヌカイト	—	07JEB 18	2.41	*	0.55	*
07EB	JEB18A	I 区	—	—	12層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	石刃	18	5.80		0.74	
07EB	426	I 区	C2-ア		13層	LC1301	-154419.650	-41103.676	3.838	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 19	5.82	*	3.55	
07EB	478	I 区	C2-イ		13層	LC1301	-154420.133	-41103.512	3.812	剥片	サヌカイト	横長剥片	07JEB 19	1.76		1.92	
07EB	496	I 区	C2-テ		12層	LC1301	-154420.720	-41099.927	3.911	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 19	5.41	*	3.60	
07EB	538	I 区	C2-ウ	○	13層low	LC1301	-154421.545	-41103.118	—	剥片	サヌカイト	—	07JEB 20	1.74	*	2.92	
07EB	540	I 区	C2-ウ	○	13層low	LC1301	-154421.545	-41103.118	—	剥片	サヌカイト	—	07JEB 20	1.38	*	2.47	*
07EB	JEB20A	I 区	—	—	13層	—	—	—	—	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 20	3.17		2.96	
07EB	375	I 区	C1-ト		13層	LC1301	-154416.873	-41102.298	3.884	剥片	サヌカイト	短形剥片	07JEB 21	2.75		1.94	
07EB	564	I 区	C2-キ	○	13層low	LC1301	-154420.035	-41103.462	—	石様	サヌカイト	—	07JEB 21	9.12		5.16	
07EB	138	I 区	C2-エ		12層	LC1301	-154422.034	-41103.468	3.946	剥片	サヌカイト	不明	07JEB 22	2.16	*	2.05	*
07EB	189	I 区	C2-カ		13層	LC1301	-154419.217	-41103.567	3.852	剥片	サヌカイト	不明	07JEB 22	2.67	*	2.12	*

表28 UR07-2次調査地出土旧石器一覧表(16)

厚さ (cm) *印欠損	重量 (g)	完形 有無	欠損 有無	新欠 の位置		背面の 剥離痕 の方向		縦面の 残存位置		礫の 表面 比率	打面 形態	末端 形態	バルブ の状態	内湾 の 有無	写 真 番 号	備 考	
				I	II	III	IV	I	II	III	IV						
0.36	1.40		打点縦割れ			○				○		25%未満	平坦	フェザー	発達せず	あり	37 22
0.12	0.30		部分残存			○						なし	不明	フェザー	発達せず	なし	38 22
0.38	1.20	完形				○						なし	平坦	ヒンジ弱	発達せず	なし	37 22
0.32	0.50	完形				○ ○						なし	点状	フェザー	発達せず	なし	37 22
1.09	11.60	完形				○	○			○		25%未満	平坦	アーチ	発達せず	あり	38 22
0.24	3.30		部分残存						○ ○ ○ ○		全面	不明	不明	不明	なし	37 22	
0.24	0.70	剥片07JEB10Aを参照のこと。													40 23	剥片折れ(194+293)	
0.36	1.00	剥片07JEB10Aを参照のこと。													40 23	剥片折れ(194+293)	
1.26	19.70	完形				○				○	50%以上	線状	ヒンジ強	発達強	あり	40 23	
0.91	4.40	剥片07JEB10Bを参照のこと。													40 23	剥片折れ(412+499)	
0.68	5.80	完形							○ ○ ○ ○	全面	平坦	ステップ	発達	あり	40 23		
0.89	7.10	剥片07JEB10Bを参照のこと。													40 23	剥片折れ(412+499)	
0.36	1.70	完形							○ ○ ○ ○	全面	平坦	フェザー	発達せず	なし	40 23	剥片折れ(194+293)	
0.89	11.40		部分残存					○ ○ ○ ○	全面	不明	ヒンジ弱	不明	なし	40 23	剥片折れ(412+499)		
0.76	8.00	完形				○ ○			○ ○	75%以上	平坦	ヒンジ弱	発達	内湾強	41 22		
0.26	0.40	剥片07JEB11Aを参照のこと。													41 22	剥片折れ(479+493)	
0.36	1.30	剥片07JEB11Aを参照のこと。													41 22	剥片折れ(479+493)	
0.36	1.60	完形				○			○ ○ ○ ○	75%以上	平坦	フェザー	発達せず	あり	41 22	剥片折れ(479+493)	
0.54	3.30	剥片07JEB12Aを参照のこと。													25 21	剥片折れ(201+400)	
0.82	3.20	剥片07JEB12Aを参照のこと。													25 21	剥片折れ(201+400)	
0.82	4.30	完形				○		○	○ ○ ○ ○	25%未満	平坦	アーチ	発達せず	あり	25 21	剥片折れ(201+400)	
2.42	88.70	剥片07JEB13Aを参照のこと。													20 23	製品折れ(215+366)	
2.78	166.50	剥片07JEB13Aを参照のこと。													20 23	製品折れ(215+366)	
2.78	255.20		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20 23	製品折れ(215+366)	
0.36	1.10	剥片07JEB14Aを参照のこと。													17 18	製品折れ(226+406)	
0.26	0.20	剥片07JEB14Aを参照のこと。													17 18	製品折れ(226+406)	
0.36	1.30		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17 18	製品折れ(226+406)	
0.83	2.20	ほぼ完形	末端側			○		○ ○		25%未満	平坦	ステップ	発達せず	なし	41 22		
0.82	6.40		末端側			○		○ ○		25%未満	末端側	不明	発達せず	なし	41 22		
0.75	6.70	完形				○			○	25%以上	複面	アーチ	発達せず	あり	34 21		
0.36	1.20		末端側			○				なし	平坦	不明	発達	なし	34 21		
0.72	4.30	ほぼ完形	基部側			○		○ ○	75%以上	不明	ヒンジ弱	不明	なし	34 21			
0.49	2.60		末端側	○	○					なし	平坦	フェザー	発達	なし	34 21		
0.84	10.00	完形				○			○	25%未満	平坦	アーチ	発達強	あり	34 21		
0.26	0.60	ほぼ完形	末端側			○			○	50%以上	平坦	不明	発達せず	なし	35 21		
0.42	2.20		末端側	○	○				○	25%未満	平坦	不明	発達せず	なし	35 21		
0.36	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25 21	剥片折れ(384+386)	
0.28	1.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25 21	剥片折れ(384+386)	
0.36	1.30	完形				○			○	50%以上	点状	フェザー	発達せず	なし	25 21	剥片折れ(384+386)	
1.12	18.70		基部側	○ ○	○			○	25%未満	不明	アーチ	不明	あり	35 21			
0.16	0.70	完形				○				なし	線状	フェザー	発達せず	内湾強	35 21		
0.56	8.10	ほぼ完形	基部側			○			○	25%未満	粉碎	アーチ	発達せず	内湾強	35 21		
0.41	2.20	剥片07JEB20Aを参照のこと。													40 22	剥片折れ(538+540)	
0.41	2.10	剥片07JEB20Aを参照のこと。													40 22	剥片折れ(538+540)	
0.46	4.30	完形				○ ○			○	50%以上	平坦	フェザー	発達	あり	40 22	剥片折れ(538+540)	
3.01	1.10	完形				○			○	25%未満	礫面	ステップ	発達せず	なし	40 23		
2.52	113.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40 23		
0.36	1.00		基部側			○			○	25%未満	不明	ヒンジ弱	不明	なし	41 22		
0.43	2.50		末端側			○			○	25%未満	点状	不明	発達せず	なし	41 22		



1 : 七日市遺跡、2 : 板井寺ヶ谷遺跡、3 : 瓜破北遺跡、4 : 長原遺跡、5 : 法華寺南遺跡、6 : 峯ノ阪遺跡

図89 近畿地方の旧石器時代遺跡分布図

引 用・参 考 文 献

- 赤沢威・小田静夫・山中一郎1980、『日本の旧石器』 立風書房
- 足利健亮1985、「地形発達と地質」：松原市史編さん委員会編『松原市史』第一巻、pp.17-36
- 泉拓良1996、「近畿地方の縄文土器」：大川清・鈴木公雄・工楽善通編『日本土器事典』 雄山閣、pp.117-118
- 市原実編著1993、『大阪層群』 創元社、p.340
- 今里幾次1943、「畿内遠賀川式土器の細別について－河内西瓜破遺跡水門西地点調査概報－」：『古代文化』第13巻第8号
- 大阪市文化財協会1978、『長原遺跡発掘調査報告』
- 1980、『瓜破北遺跡』
- 1981、『瓜破北遺跡』Ⅱ
- 1983、『瓜破遺跡』
- 1992、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅲ
- 1995、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅷ
- 1997、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』IX
- 2000、『瓜破・瓜破北遺跡発掘調査報告』
- 2002、『瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅱ
- 2003a、『瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅲ
- 2003b、『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XX
- 2005、『瓜破遺跡発掘調査報告』IV
- 2006、『瓜破北遺跡発掘調査報告』Ⅲ
- 2007、『瓜破遺跡発掘調査報告』V
- 大阪府立花園高校地歴部1970、『河内古代遺跡の研究』
- 大阪文化財センター1976、『大阪府高速大阪松原線建設に伴なう瓜破遺跡試掘調査報告書』
- 1991、『河内平野遺跡群の動態Ⅱ－北遺跡群旧石器・縄文・弥生時代前期編』
- 大野薫1997、「生駒山西麓域の縄文集落」：柏原市古文化研究会編『河内古文化研究論集』 和泉書院、pp.15-43
- 2001、「近畿・中国・四国地方における集落変遷の画期と研究の現状」：『縄文時代集落研究の現段階』 縄文時代文化研究会、pp.37-46
- 大庭重信2000、「瓜破・瓜破北遺跡の歴史的変遷」：大阪市文化財協会編『瓜破・瓜破北遺跡発掘調査報告』、pp.157-162
- 小倉徹也2000、「火山灰分析」：大阪市文化財協会編『長原遺跡東部地区発掘調査報告』Ⅲ、pp.135-138
- 小倉博之・吉川周作・此松昌彦・木谷幹一・三田村宗樹・石井久夫1992、「大阪府、上町台地南部の台地構成層と地形面の形成時期」：『第四紀研究』第31巻第17号、pp.179-185
- 尾上実1983、「南河内の瓦器碗」：古代を考える会編『藤澤一夫先生古稀記念古文化論叢』 藤澤一夫先生古稀記念論集刊行会、pp.689-705
- 鎌田博子1987、「瓜破遺跡」：韓式系土器研究会編『韓式系土器研究』I、pp.46-47
- 関西縄文文化研究会2002、「縄文時代の石器－関西の縄文草創期・早期－（第4回関西縄文文化研究会資料）」
- 2003、「縄文時代の石器Ⅱ－関西の縄文前期・中期－（第5回関西縄文文化研究会資料）」

- 2004、『縄文時代の石器III－関西の縄文後期・晚期－(第6回関西縄文文化研究会資料)』
 関西大学考古学等資料室1985、「馬野繁蔵氏寄贈 瓜破遺跡採集資料報告[Ⅰ]」:『関西大学考古学等資料室紀要』第2号、
 pp.33-78
- 1986、「馬野繁蔵氏寄贈 瓜破遺跡採集資料報告[Ⅱ]」:『関西大学考古学等資料室紀要』第3号、
 pp.17-84
- 1987、「馬野繁蔵氏寄贈 瓜破遺跡採集資料報告[Ⅲ]」:『関西大学考古学等資料室紀要』第4号、
 pp.23-80
- 絹川一徳1996、「近畿地方および中・四国地方のAT降灰遺構の石器群」:『石器文化研究』5 石器文化研究会、pp.429-450
- 2000、「石器器種とその分布」:大阪市文化財協会編『長原遺跡東部地区発掘調査報告』Ⅲ、pp.150-179
- 2008、「長原遺跡における始良Tn火山灰層準下位の石器群について」:大阪市文化財協会編『長原遺跡発掘調査報告』XVI、pp.73-91
- 旧石器文化談話会2007、『旧石器考古学辞典 三訂版』 学生社
- 京嶋覚1981、「瓜破北遺跡出土の前漢鏡片」:『考古学雑誌』第67巻第2号
- 1992、「瓜破台地の考古学的環境」:大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅲ、pp.1-6
- 久保勝正2002、「石鏃形態とその変遷－サヌカイト分布圈からみた様相－」:『縄文時代の石器－関西の縄文草創期・早期－(第4回関西縄文文化研究会資料)』 関西縄文文化研究会、pp.62-73
- 久保和士・宮本康治1997、「瓜破遺跡の弥生時代集落跡」:大阪市文化財協会編『葦火』67号、pp.2-4
- 久保弘幸1989、「大阪湾沿岸地域における小型ナイフ形石器とその編年について」:『旧石器考古学』38 旧石器文化談話会、pp.83-92
- 建設省国土地理院1965、「河内低地とその周辺」:『土地条件調査報告書(大阪平野)』第3編Ⅱ、pp.69-76
- 1983、「土地条件調査報告書(大阪平野)』
- 古環境研究所2001、「96-32-71次調査における自然科学分析」:大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XVI、pp.167-193
- 古代の土器研究会1992、「古代の土器1 都城の土器集成」
- 1993、「古代の土器2 都城の土器集成」Ⅱ
- 小山正忠・竹原秀雄1996、「新版 標準土色帖」 日本色研事業株式会社
- 2007、「新版 標準土色帖」29版 富士平工業株式会社 東京
- 佐藤良二1982、「備讃瀬戸地域の旧石器文化に関する二、三の問題(瀬戸大橋建設に伴う発掘調査の成果を中心として)」:『旧石器考古学』24 旧石器文化談話会、pp.69-84
- 1985、「近畿地方における縦長剥片生産技術」:『旧石器考古学』30 旧石器文化談話会、pp.49-68
- 1987、「備讃瀬戸型石刃技法についての覚書」:『花園史学』8 花園大学史学会、pp.20-30
- 1989、「近畿地方におけるナイフ形石器群の変遷」:『旧石器考古学』38 旧石器文化談話会、pp.121-132
- 清水和明1998、「山之内遺跡における旧石器時代の古環境」:大阪市文化財協会編『山之内遺跡発掘調査報告』、pp.469-474
- 新修大阪市史編纂委員会1988、「新修大阪市史」第一卷
- 1989、「新修大阪市史」第三卷
- 菅栄太郎1995、「石鏃資料の型式および製作技法の編年検討」:大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』Ⅷ、

- 杉原莊介・神沢勇一1961、「大阪府瓜破遺跡」：日本考古学協会編『日本農耕文化の生成』 東京堂出版
- 杉本厚典2003、「河内における布留式期の細分と各地との併行関係」：『古墳出現期の土師器と実年代』 大阪府文化財センター、pp.39-61
- 周藤賢治・小山内康人2002、『記載岩石学』上 共立出版
- 高原光1998、「近畿地方の植生史」：安田喜憲・三好教夫編『図説 日本列島植生史』 朝倉書店、pp.114-137
- 竹岡俊樹1989、「遺跡研究の方法」：『石器研究法』 言叢社、pp.34-164
- 田辺昭三1966、『須恵邑古窯址群』I 平安学園考古学クラブ
1981、『須恵器大成』 角川書店
- 地学団体研究会大阪支部1999、『大地のおいたち 神戸・大阪・奈良・和歌山の自然と人類』 築地書館
- 趙哲済1982、「長原遺跡南部の層序」：大阪市文化財協会編『長原遺跡発掘調査報告』II、pp.13-20
1983、「瓜破・瓜破北遺跡の層序」：大阪市文化財協会編『瓜破遺跡』、pp.17-20
- 1995a、「長原遺跡の地層」：大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』VIII、pp.17-44
1995b、「本書で用いる層位学的・堆積学的視点からの用語」：同上、pp.41-44
- 2001、「長原遺跡の地層」：大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』XVI、pp.7-28
- 2003、「大阪平野のおいたちと人類遺跡」：『大阪100万年の自然と人のくらし－普及講演会資料集－』 日本第四紀学会、pp.1-16
- 2005、「河内平野の古地理変遷」：平野区誌編集委員会編『平野区誌』、p.24
- 2007、「火山灰分析」：大阪市文化財協会編『瓜破遺跡発掘調査』V、pp.61-64
- 趙哲済・京嶋覚・高井健司1992、「長原遺跡の地形と地質の概要」：大阪市文化財協会編『長原・瓜破遺跡発掘調査報告』III、pp.15-18
- 寺沢薰・森井貞雄1989、「河内地域」：『弥生土器の様式と編年』近畿編 I 木耳社、pp.41-146
- 富井眞2003、「当該地方の縄文時代前中期の土器－石材研究を意識して－」：『縄文時代の石器II－関西の縄文前期・中期－(第5回関西縄文文化研究会資料)』 関西縄文文化研究会、pp.1-10
- 長橋良隆・吉川周作・宮川ちひろ・内山喬・牛山美郎2004、「近畿地方および八ヶ岳山麓における過去43万年間の広域テラフの層序と編年－EDS分析による火山ガラス片の主要成分化学組成－」：『第四紀研究』第43巻第1号、pp.15-35
- 難波宮址顕彰会1978、「森の宮遺跡－第3・4次発掘調査報告書」
- 奈良文化財研究所2003、「平城京左京二条二坊十四坪発掘調査報告(法華寺南遺跡)」奈良文化財研究所学報第67冊
- 奈良国立文化財研究所1976、「平城宮発掘調査報告」VII 奈良国立文化財研究所第26冊
1993、「木器集成図録」近畿原始篇
- 西村歩2003、「古墳出現期における和泉地域の土器様相と集落の動向」：『古墳出現期の土師器と実年代』 大阪府文化財センター、pp.5-38
- 日本考古学協会1949、「口絵及び口絵解説」：『考古学雑誌』35-終巻号
- パリノ・サーヴェイ株式会社2002、「植物珪酸体分析および土壤理化学分析」：大阪市文化財協会編『瓜破遺跡発掘調査報告』II
2003、「瓜破遺跡(UR00-11・01-17次調査)の自然科学分析」：大阪市文化財協会編『瓜破遺跡発掘調査報告』III、pp.47-65

東住吉区役所1961、『東住吉区史』

兵庫県教育委員会1990、『七日市遺跡 I 旧石器時代遺跡の調査』兵庫県文化財調査報告書第72-1冊

1991、『多紀郡西紀町板井寺ケ谷遺跡 - 旧石器時代の調査 - 』兵庫県文化財調査報告書第96-1冊

2004、『七日市遺跡調査報告書(Ⅲ)』兵庫県文化財調査報告第272冊

平口哲夫1987、「横剥ぎ技法の諸類型(その1)」:『太平臺窓』第6号、pp.1-12

福沢仁之1995、「天然の「時計」・「環境変動検出計」としての湖沼の年縞堆積物」:『第四紀研究』第34卷第3号、pp.135-149

古谷正和・田井昭子1993、「大阪層群と段丘堆積層・沖積層の花粉化石」:市原実編『大阪層群』 創元社、pp.247-255

古谷正和1978、「大阪平野西部の上部更新統」:『地質学雑誌』84、pp.341-358

町田洋・新井房夫・森脇広1981、「日本海を渡ってきたテフラ」:『科学』、p.51・pp.562-569

町田洋・新井房夫2003、『新編 火山灰アトラス - 日本列島とその周辺』 東海大学出版会、p.336

松尾信裕1997、「河内の海の西と南 - 大阪市内の縄文時代前半の土器 - 」:柏原市古文化研究会編『河内古文化研究論集』 和泉書院、pp.45-57

松藤和人1980、「近畿西部・瀬戸内地方におけるナイフ形石器文化の諸様相」:『旧石器考古学』21 旧石器文化談話会、pp.213-259

1992、「大阪平野部における旧石器編年研究に寄せて」:『旧石器考古学』44 旧石器文化談話会、pp.11-23

南秀雄1987、「瓜破遺跡で発見された7世紀の建物群」:大阪市文化財協会編『葦火』8号、pp.2-4

宮本康治1998、「瓜破遺跡の弥生時代方形周溝墓」:大阪市文化財協会編『葦火』74号、pp.4-5

森島康雄1992、「畿内産瓦器梶の併行関係と年代」:『大和の中世土器』II 大和古中近研究会、pp.113-127

文珠省三1986、「大和川河床出土の貨泉・鉢・台付無頸壺・蓋について - 瓜破遺跡出土資料の紹介(一)」:『大阪市博物館研究紀要』第18冊 大阪市立博物館

山本博1940、「河内国大和川川床出土の弥生式遺物に就いて」(一):『考古学雑誌』第30卷第11号

1941a、「河内国大和川川床出土の弥生式遺物に就いて」(二):『考古学雑誌』第31卷第2号

1941b、「続河内国大和川川床出土の弥生式遺物に就いて」:『考古学雑誌』第31卷第7号

吉川周作1976、「大阪層群の火山灰について」:『地質学雑誌』第82卷第8号、pp.497-515

1981、「堆積物中の火山ガラスの研究 - 大阪平野の更新～完新統について - 」:『第四紀研究』第20卷第2号、pp.75-87

吉川周作・那須孝悌・樽野博幸・古谷正和1986、「近畿地方中央部に分布する後期更新世～完新世の火山灰層について」:地学団体研究会編『地球科学』第40卷第1号、pp.18-38

吉川周作・井内美郎1991、「琵琶湖高島沖ボーリングコアの火山灰層序」:地学団体研究会編『地球科学』第45卷第2号、pp.81-100

1993、「琵琶湖高島沖ボーリング火山灰から見た中期更新世～完新世の噴火活動史」:地学団体研究会編『地球科学』第47卷第2号、pp.97-109

Tada, R., T. Irino, and I. Koizumi, Land-ocean linkages over orbital and millennial timescales recorded in late Quaternary sediments of the Japan Sea, *Paleoceanography*, 14, 236-247, 1999

あとがき

瓜破北遺跡発掘調査報告シリーズの第5冊目を上梓にこぎつけることができた。開発の波とともに増加した発掘調査により、当遺跡のさまざまな側面が解明されてきた。この間、バブル経済や経済低迷期を経験し、国土開発のあり方も大きく変わり、埋蔵文化財を取り巻く環境も時代を映して変化している。そのような中でも継続して発掘調査が行われ、その成果をここに刊行することができる喜びである。

今回報告するのは、これまで調査事例が少なかった遺跡東半部の成果である。特に良好な状態で見つかった旧石器時代の石器製作址は、太古の時代にこの地域を遊動した旧石器人たちの活動を浮かび上がらせることができた。こうして得られた新知見は、将来行われる調査の有効な指針となろう。報告書はひとつの区切りではあるが、これらの資料が広く活用されるよう望んでいる。今後とも、関係各位並びに市民の皆様のご協力・ご支援を賜るようお願い申し上げる次第である。

(趙哲済)

索引

索引は遺構・遺物に関する用語と地名・遺跡名などの固有名詞とに分割して収録した。

〈遺構・遺物に関する用語〉

- あ 始良Tn火山灰……… 18, 87, 109, 111, 114～
117
い 和泉型瓦器椀……… 85
異体字銘鏡……… 7
う ウートラ・パッセ……… 50, 53
鬱陵隱岐火山灰層……… 109
お 凹基無茎式石鏸……… 62～66, 85
か 貨泉……… 4, 7
き 鬼界アカホヤ火山灰……… 109, 111
鬼虎川火山灰……… 108～111
畿内第IV様式……… 79
畿内第V様式……… 73
吉備型甕……… 7
こ 国府型ナイフ形石器……… 26, 113
黒曜石……… 6
さ 阪手火山灰……… 18, 108, 109
削器……… 24, 26～28, 31, 60, 61,
113
三瓶浮布火山灰……… 109
し 滋賀里式……… 66
条痕文土器……… 6
庄内式……… 17, 75
す ステップ・フラクチャ… 43
せ 石刃技法……… 5, 36, 40, 45, 48, 50,
113, 115, 117
石器製作址……… 6
節理面……… 61
瀬戸内技法……… 5, 25, 26, 32, 113, 115,
117
た 台形石器……… 30, 113, 115, 117
大山ホーキ火山灰……… 109, 111
竪穴建物……… 5, 72, 117
ち 彫器……… 60, 61
と 土壙墓……… 6
凸基無茎式石鏸……… 73
な 内行花文鏡……… 5, 6
ナイフ形石器……… 5, 21, 24, 26～31, 113～
115, 117
は 剥離作業面……… 36, 48, 50, 60, 115
板状剥片……… 25, 36, 40, 45, 48, 77
ひ 備讃瀬戸型石刃技法……… 36, 45, 48, 113, 115
樋状剥離……… 61
ヒンジ・フラクチャ… 48, 50
ふ 船元式土器……… 6
布留式……… 17, 72, 73, 75
へ 平安神宮火山灰……… 108～111, 114
ほ 方格規矩鏡……… 5, 6
方形周溝墓……… 5, 6
北宋錢……… 83
掘立柱建物……… 5
み 港火山灰……… 108, 109
も 茂呂型……… 115
よ 横大路火山灰……… 18, 108～111
横型削器……… 61

〈地名・遺跡名など〉

- い 板井寺ヶ谷遺跡……… 117
う 瓜破台地……… 1, 3, 4, 76
か 河内台地……… 1, 87
な 七日市遺跡……… 117
ほ 法華寺南遺跡……… 117

**Archaeological Report
of the
Uriwari-kita Site
in Osaka, Japan**

Volume V

A Report of an Excavation
Prior to the Development of
the Prefectural Apartmenthouse

March 2009

Osaka City Cultural Properties Association

Notes

The following symbols are used to represent archaeological features, and others, in this text

SD: Ditch

SK: Pit

SP : Pit or Posthole

SX: Other feartures

LC: Lithic concentration

CONTENTS

Foreword
Explanatory notes
Acknowledgement

Chapter I Background and Progress of Research	1
S.1 Geographical setting of the Uriwari-kita site	1
S.2 Historical Background and Preceding Investigations	4
S.3 Background and Progress of Research	8
Chapter II Investigation Results	11
S.1 Geographical setting of the Uriwari-kita site	11
S.2 Features and Artifacts of the Excavation Area I (Palaeolithic Period)	19
1) Lithic concentrations LC1301, 1302	19
2) Backed knives and side scrapers	26
3) Cores, wedge and hammer stones	31
4) Flakes	39
5) Refitted artifacts	46
6) Stone artifacts from the central sector of the Excavation Area I	60
S.3 Features and Artifacts of the Excavation Area I (after the Jomon Period)	62
1) Stone artifacts of the Jomon period	62
2) Features and Artifacts of the Yayoi to Kofun period	66
3) Features and Artifacts of the Heian to early Modern period	73
S.4 Investigation Results of Excavation Area II	76
1) Features and Artifacts of the Jomon period	76
2) Features and Artifacts of the Yayoi to Medieval period	77
3) Features and Artifacts of the early Modern period	79
S.5 Investigation Results of Excavation Area III	84
1) Features and Artifacts	84
Chapter III Volcanic ash analysis	87
1) Purpose and outline of the analysis	87
2) Position of sampling and description of lithological faces	87
3) Processing of samples and refractometer measurement of volcanic glass	89
4) Results of analysis	90
5) Discussion	109
6) Conclusions	111
Chapter IV Conclusions	113
1) Distinctive features of stone artifacts from lithic concentrations	

LC1301,1302.....	113
2) Excavation results of the Jomon Period and later	117
References and Bibliography	135
Postscript and Index	
English Contents	
Reference card	

報 告 書 抄 錄

原色図版

原色図版一 後期旧石器時代の石器製作址



I区 石器遺物集中部LC1301・1302(北東から)



I区 石器遺物集中部LC1301・1302近景(北から)

原色図版二 後期旧石器時代の石器遺物



石器遺物集中部LC1301・1302出土のナイフ形石器



石器遺物集中部LC1301・1302出土の削器・石刃および石刃核

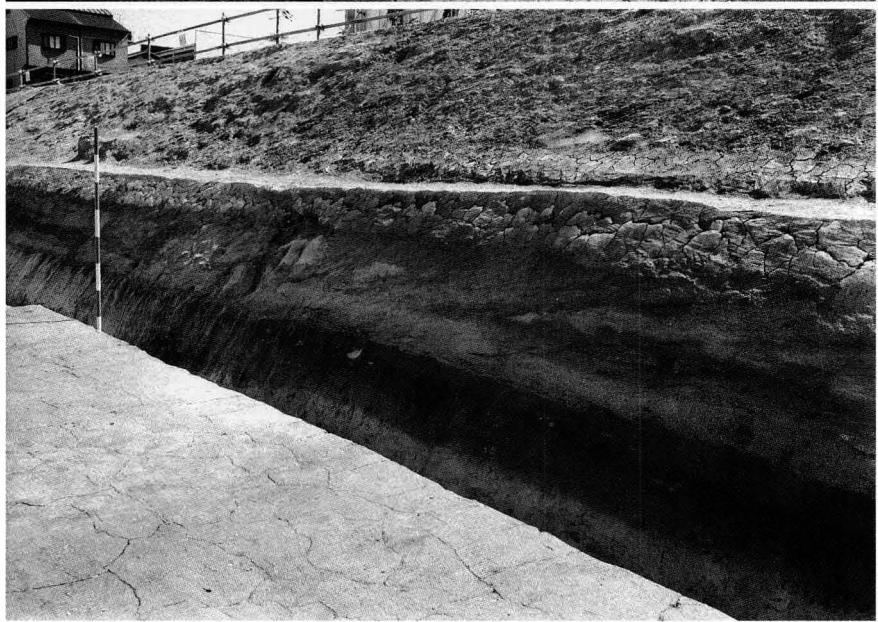
図 版

図版 I 区 地層断面(一)

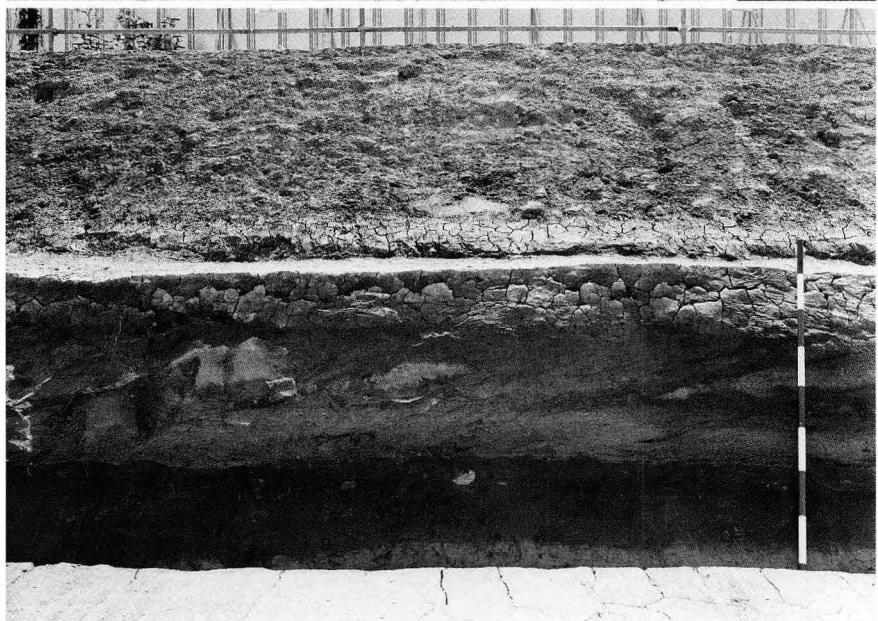
I 区 南西壁断面
(北西端、東から)



I 区 南西壁断面
(南東端、北から)



I 区 南西壁断面
(中央北側、北東から)



図版二
I区
地層断面
(二)



I区 南西壁断面
(中央南側、北東から)



I区 北東壁断面
(南東端、南西から)



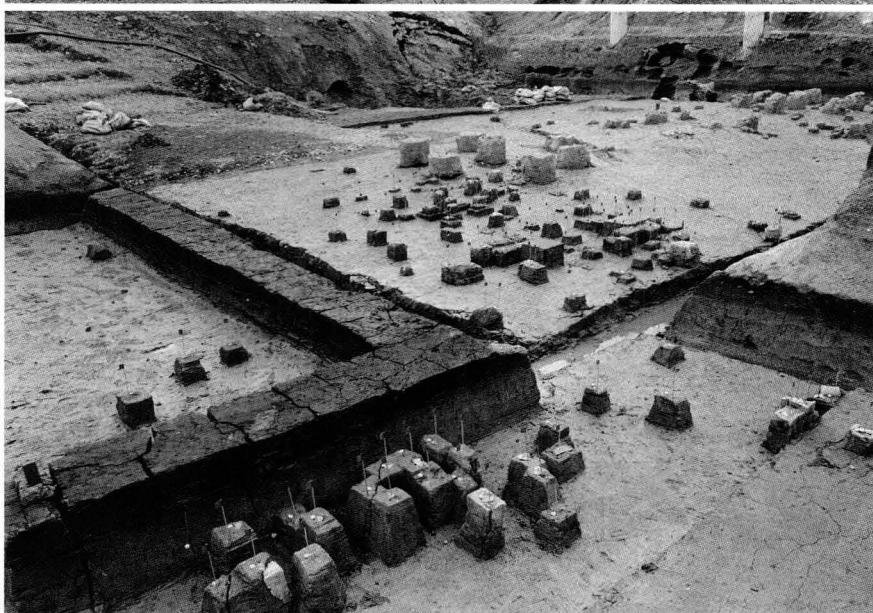
I区 北東壁断面
(北西から)

図版三 I区 旧石器時代の遺構（一）

I区 LC1301・1302
石器遺物出土状況
(北東から)



I区 LC1301
石器遺物出土状況
(北から)



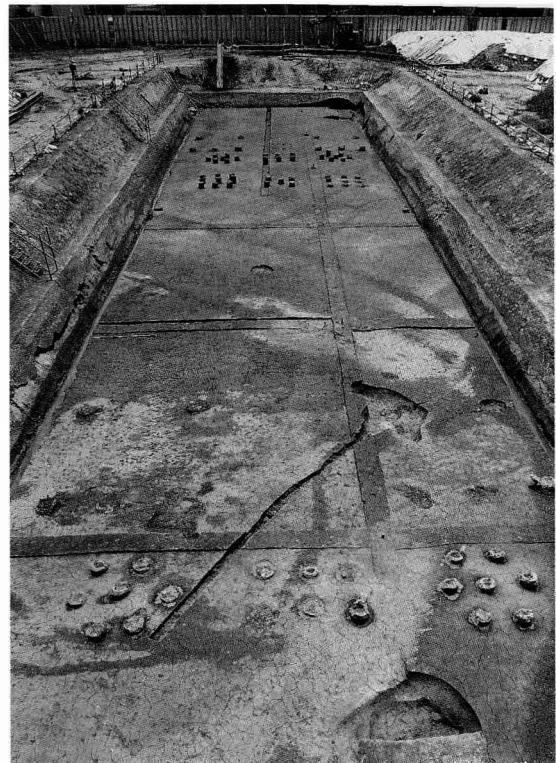
I区 LC1301
石器遺物出土状況
(南東から)



図版四
I 区
旧石器時代の遺構
(二)



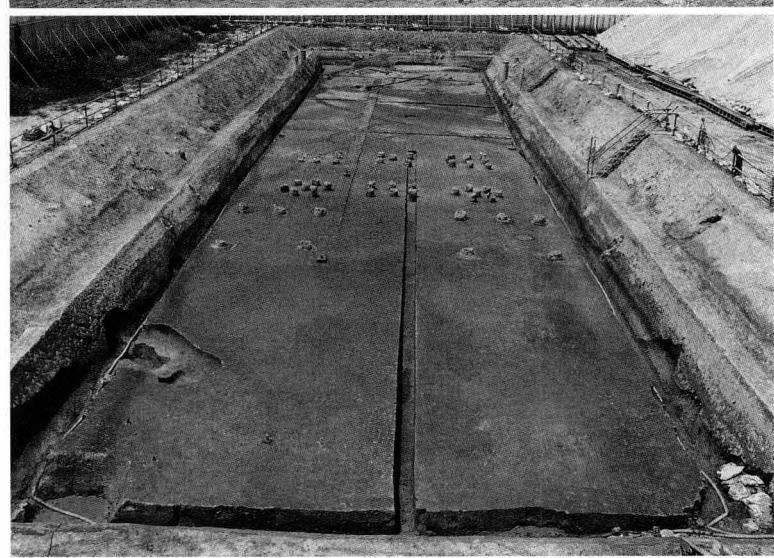
I区 第10A1層下面の
遺構全景
(検出状況：北西から)



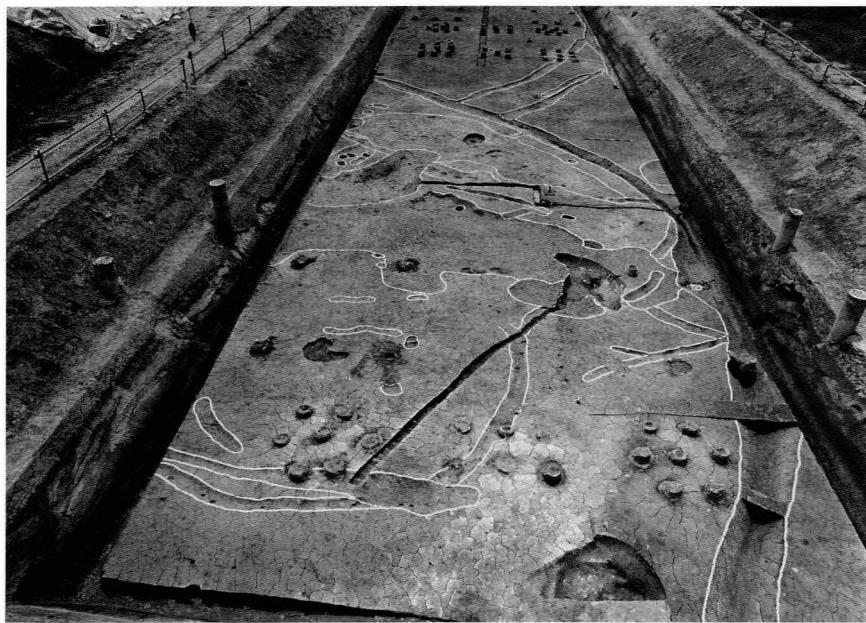
I区 第10A1層下面の
遺構北西側
(検出状況：北東から)



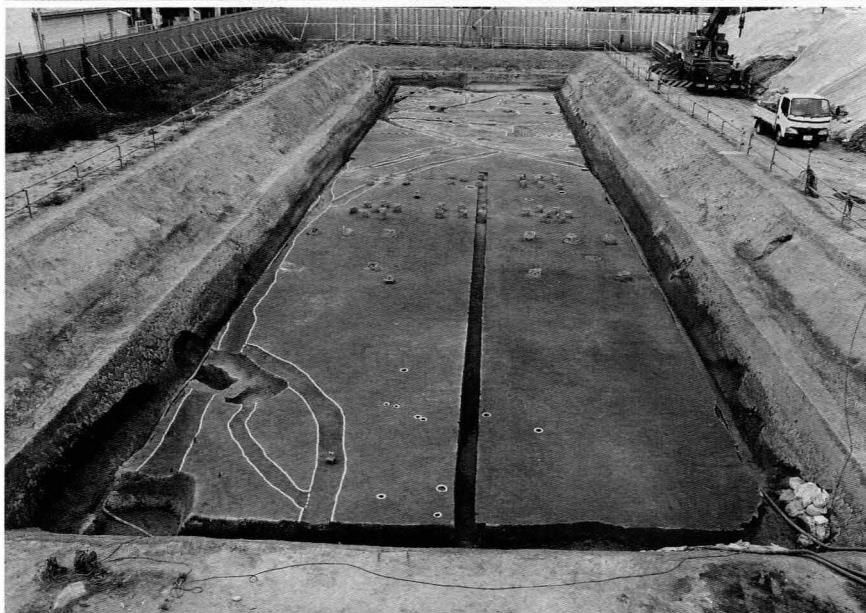
I区 第10A1層下面の
遺構全景
(検出状況：南東から)



図版六
I区
弥生～古墳時代の遺構
(二)



I区 第10A1層下面の
遺構全景
(完掘状況：北西から)



I区 第10A1層下面の
遺構全景
(完掘状況：南東から)



I区 SD1004完掘状況
(中央部、南東から)

図版七 I区 古代～近世の遺構（一）

I区 第9層上面の遺構
検出状況
(北西から)



I区 SD1002検出状況
(南から)



I区 SD1002完掘状況
(南から)



図版八 I 区 古代～近世の遺構 (二)



I 区 SK1001断面
(南東から)



I 区 SK1003断面
(南西から)



I 区 SK1003完掘状況
(南西から)

図版九 Ⅱ区 地層断面

Ⅱ区 南東壁断面
(西側、北から)

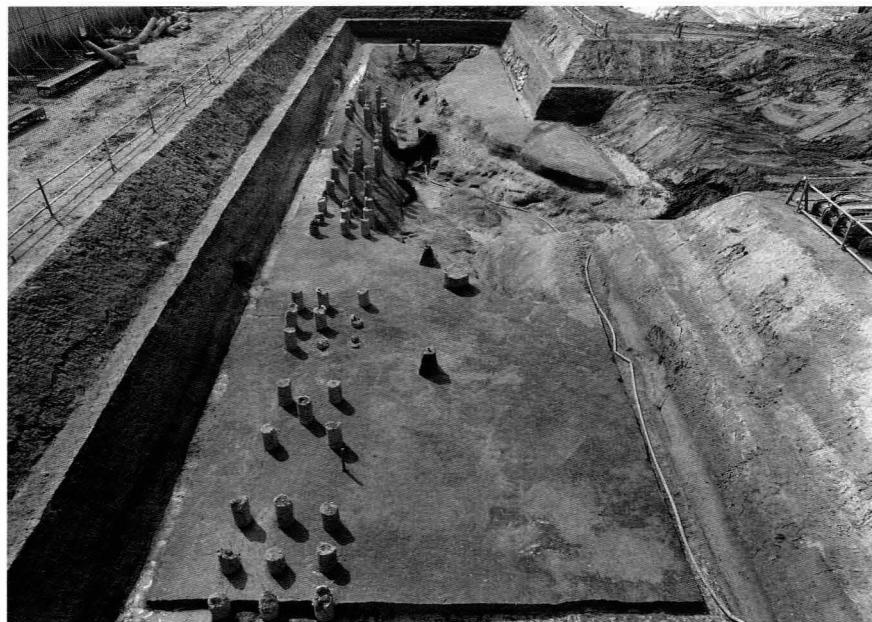


Ⅱ区 南東壁断面
(北東側、西から)



Ⅱ区 北東壁断面
(西から)





II区 NR2009完掘状況
(北東から)

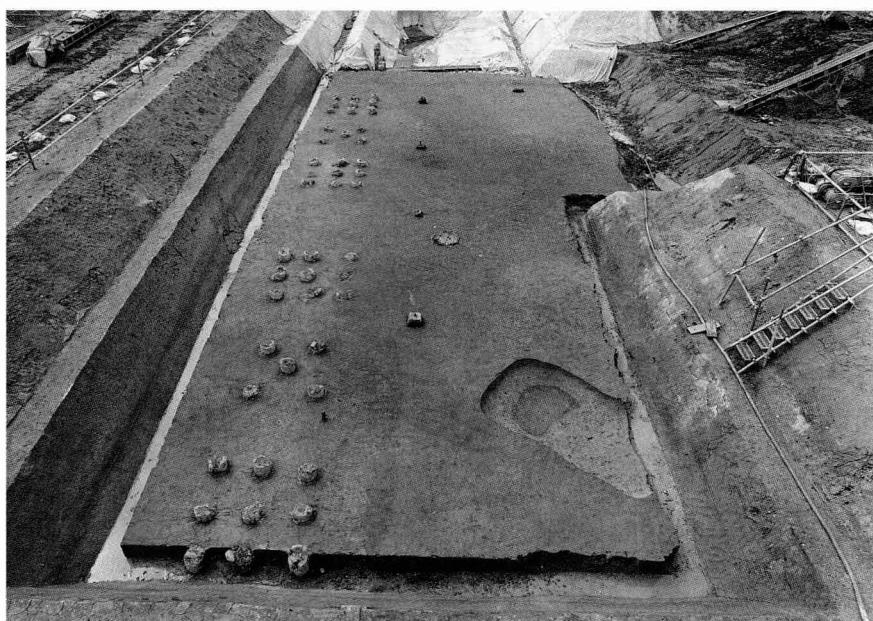


II区 NR2009完掘状況
(南西から)

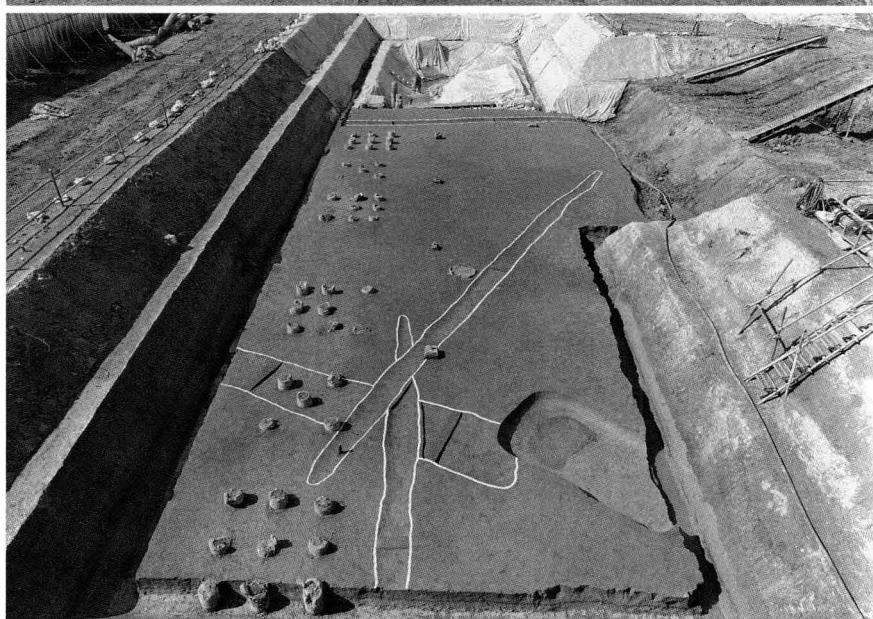


II区 NR2009完掘状況
(北から)

II区 第7層上面の
遺構全景
(検出状況: 北東から)

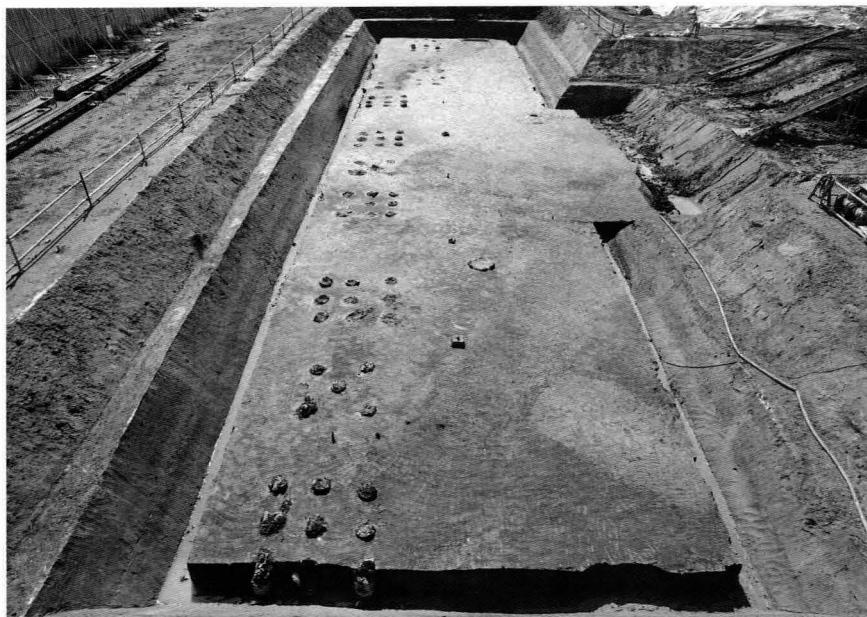


II区 第7層上面の
遺構全景
(完掘状況: 北東から)



II区 東北部第12層
上面の検出状況
(西から)





II区 第6層上面の
遺構全景
(検出状況: 北東から)



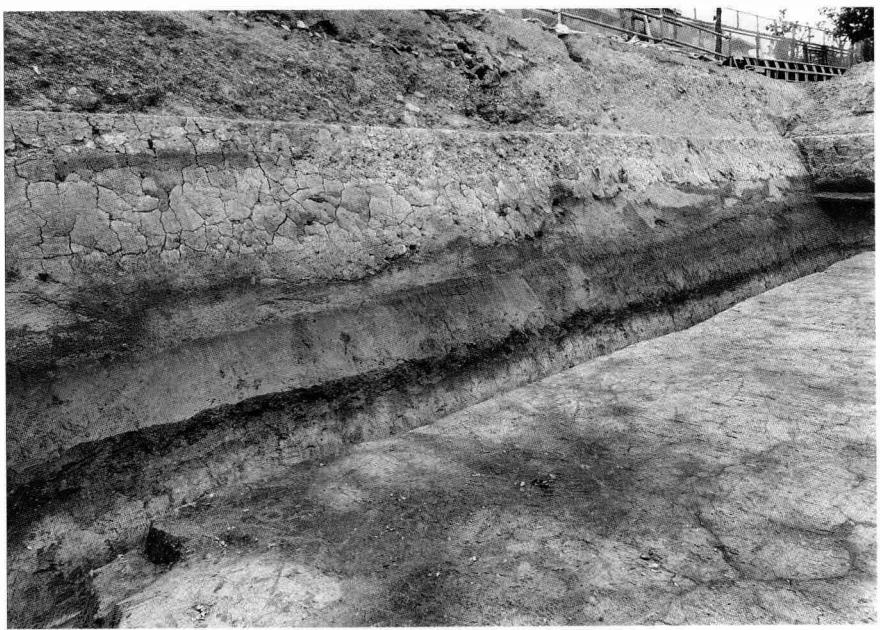
II区 第6層上面の
遺構全景
(検出状況: 南西から)



II区 SD2003完掘状況
(北東から)

図版一三 Ⅲ区 地層断面

Ⅲ区 北西壁断面
(南西側、南から)



Ⅲ区 北西壁断面
(北東側、南東から)



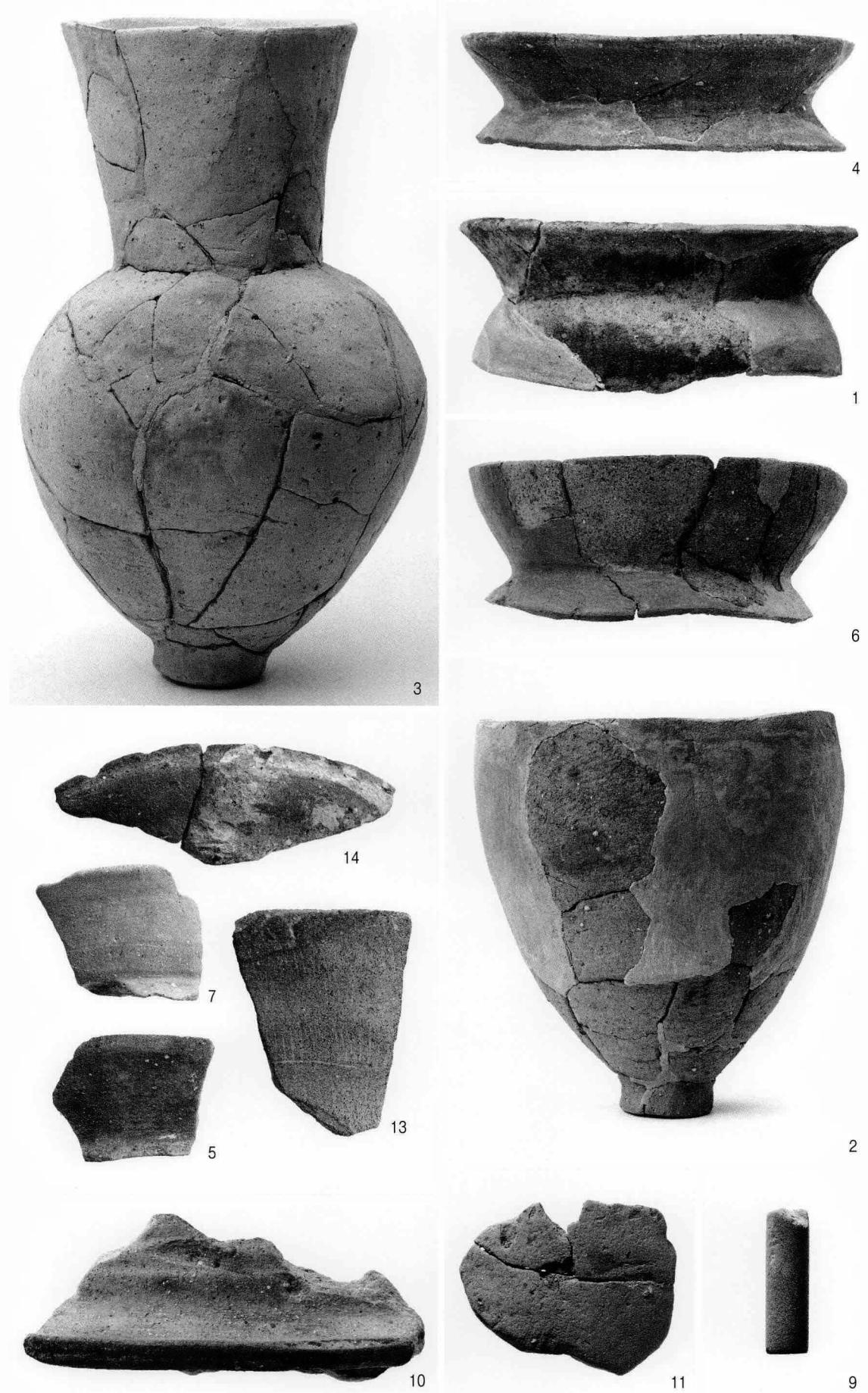
Ⅲ区 北東壁断面
(南西から)



図版一
III区
縄文～弥生時代の遺構



図版一五 各区出土の遺物（一）



I 区: SK1015(1~3)、SX1012(4·6)、SD1026(5)、SX1005(7)、第8層(10·11·13·14)、第10層(9)

図版一六 各区出土の遺物(二)



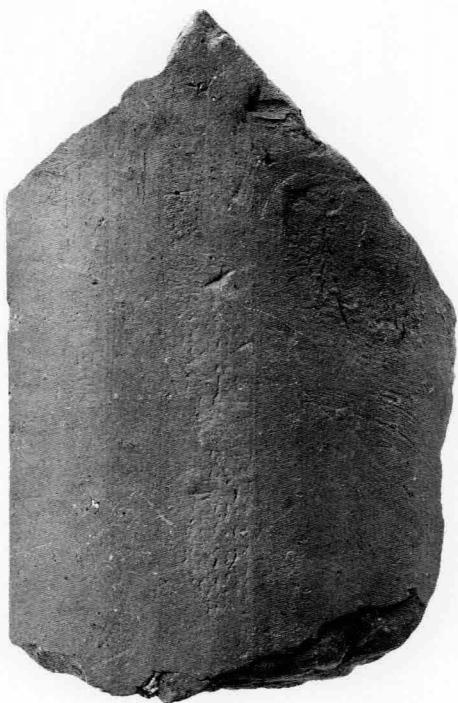
15



19



16



18



20



22



21



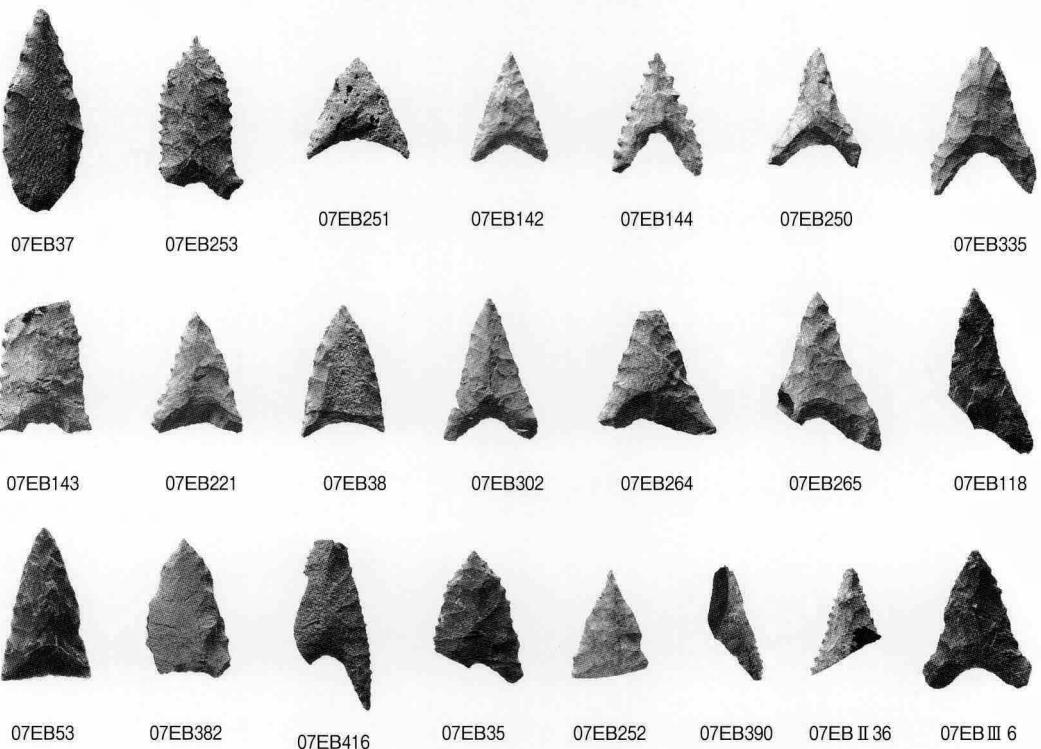
17



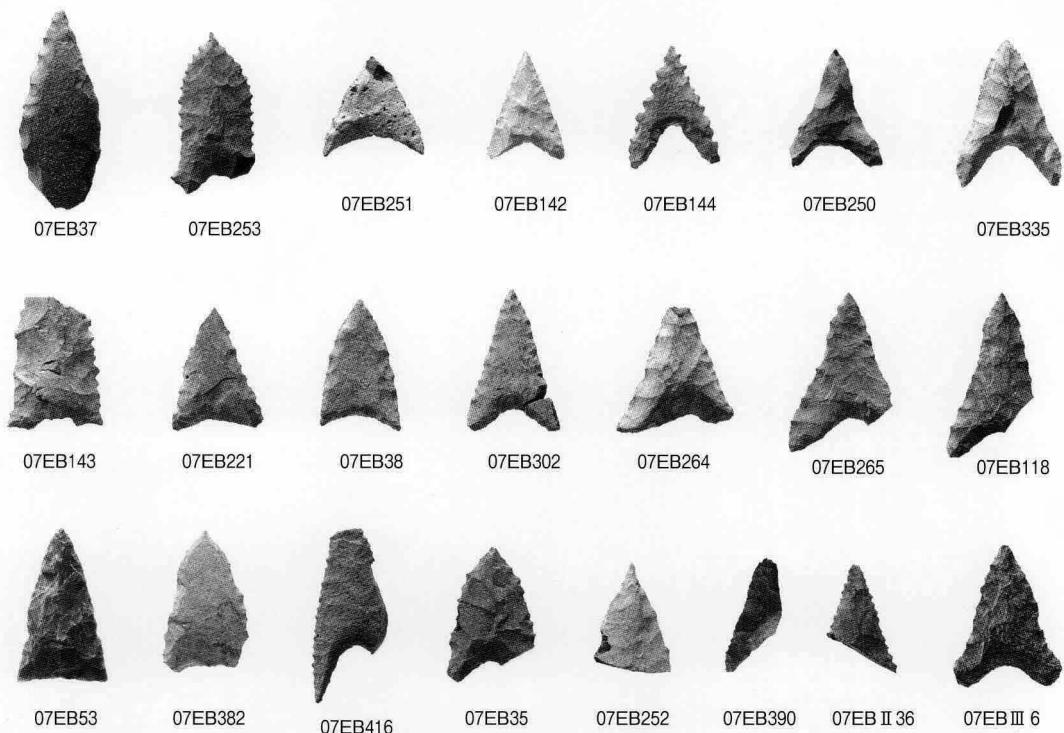
8

I 区：第10層下部(8) II 区：SD2003(15~22)

図版一七 各区出土の石鏃

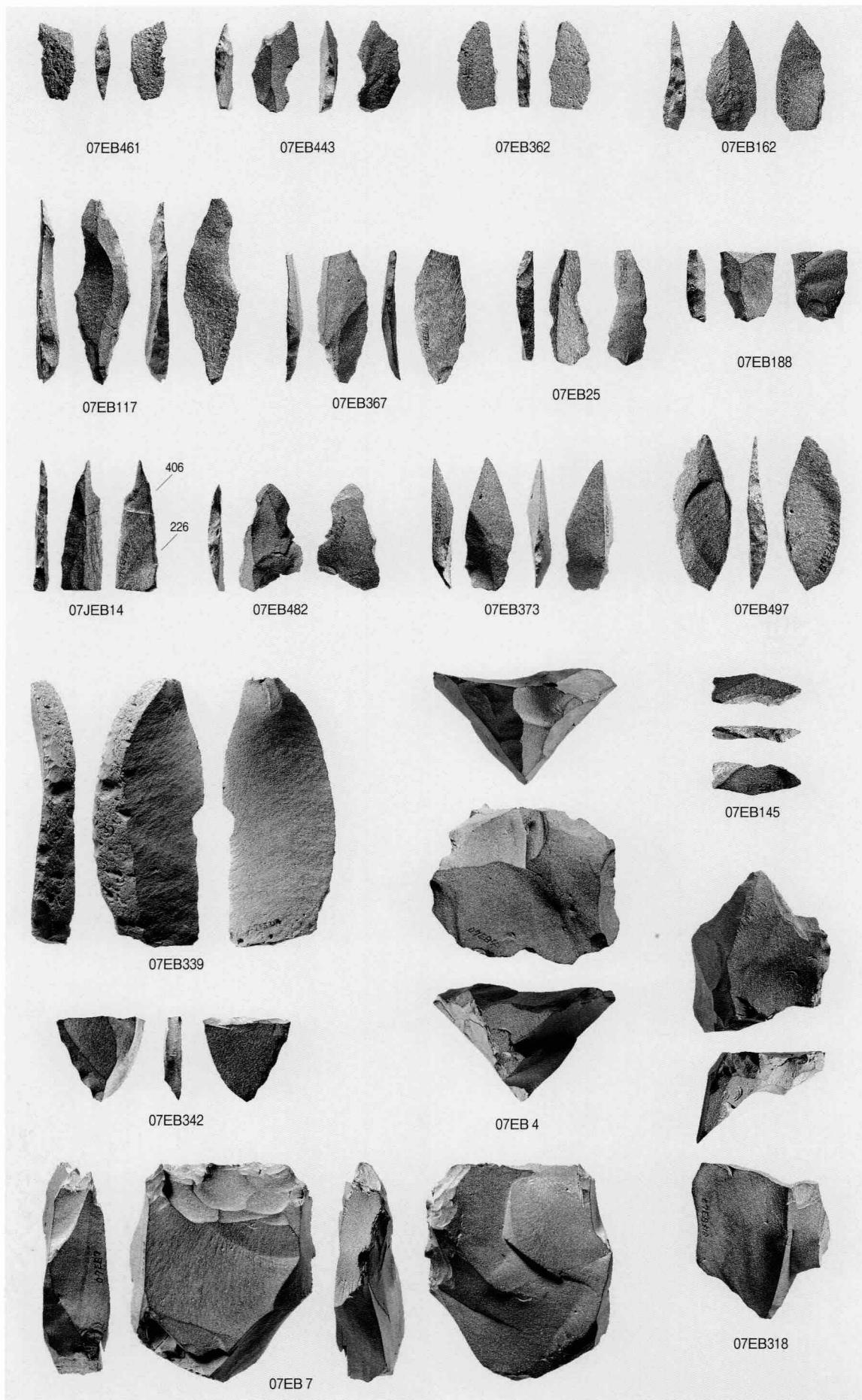


表面

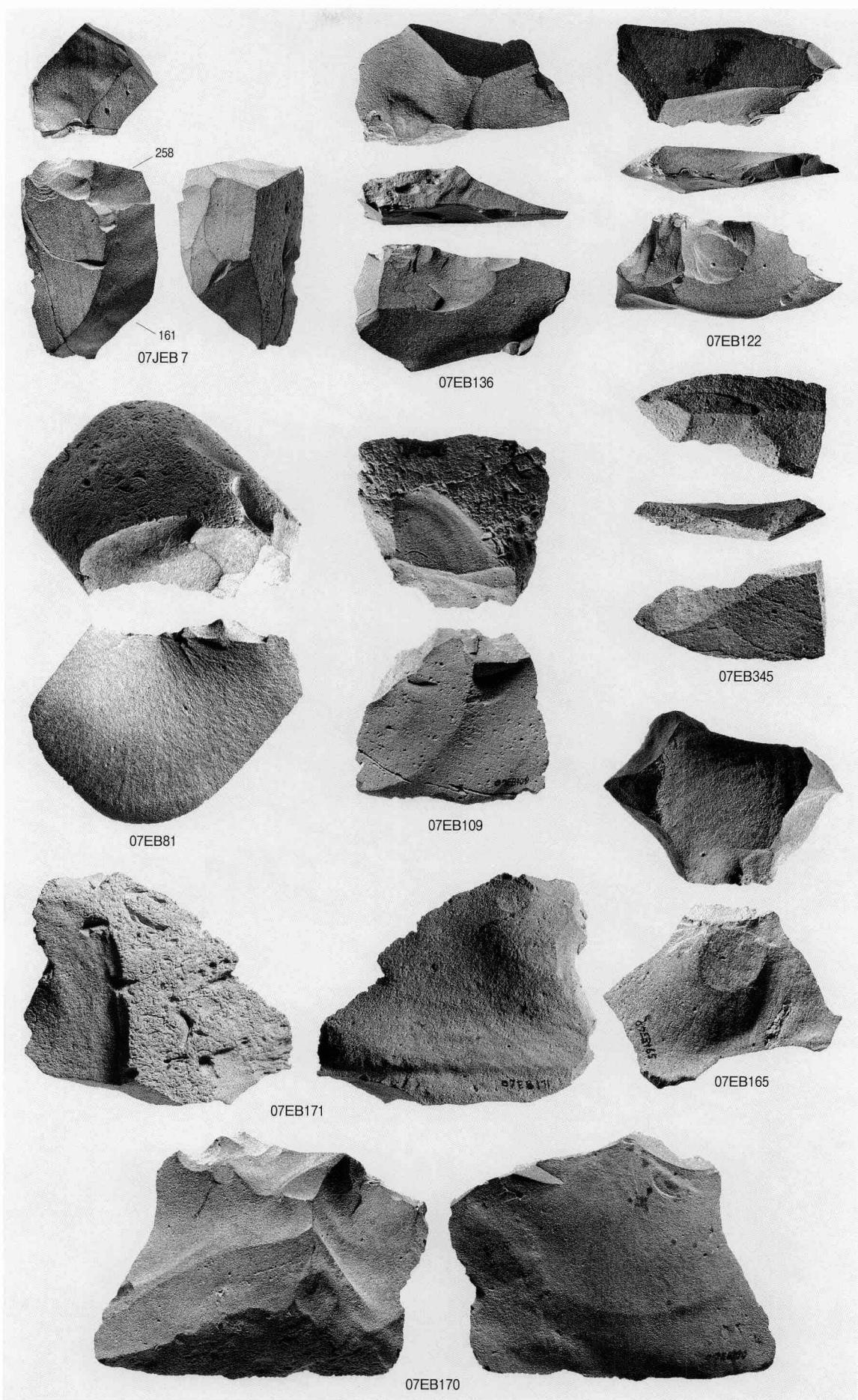


裏面

図版一八 I区出土の旧石器(一)

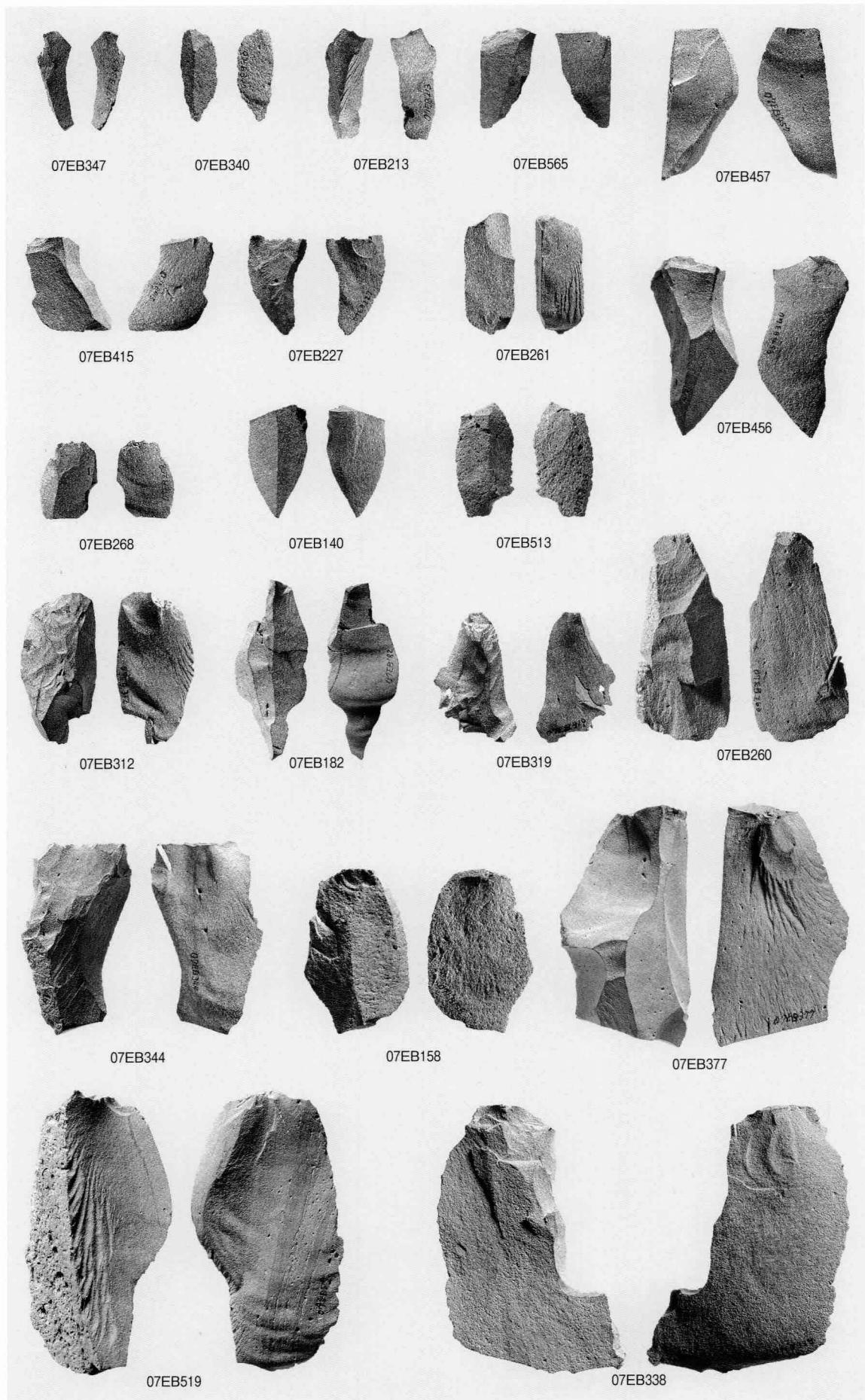


図版一九 I区出土の旧石器 (二)

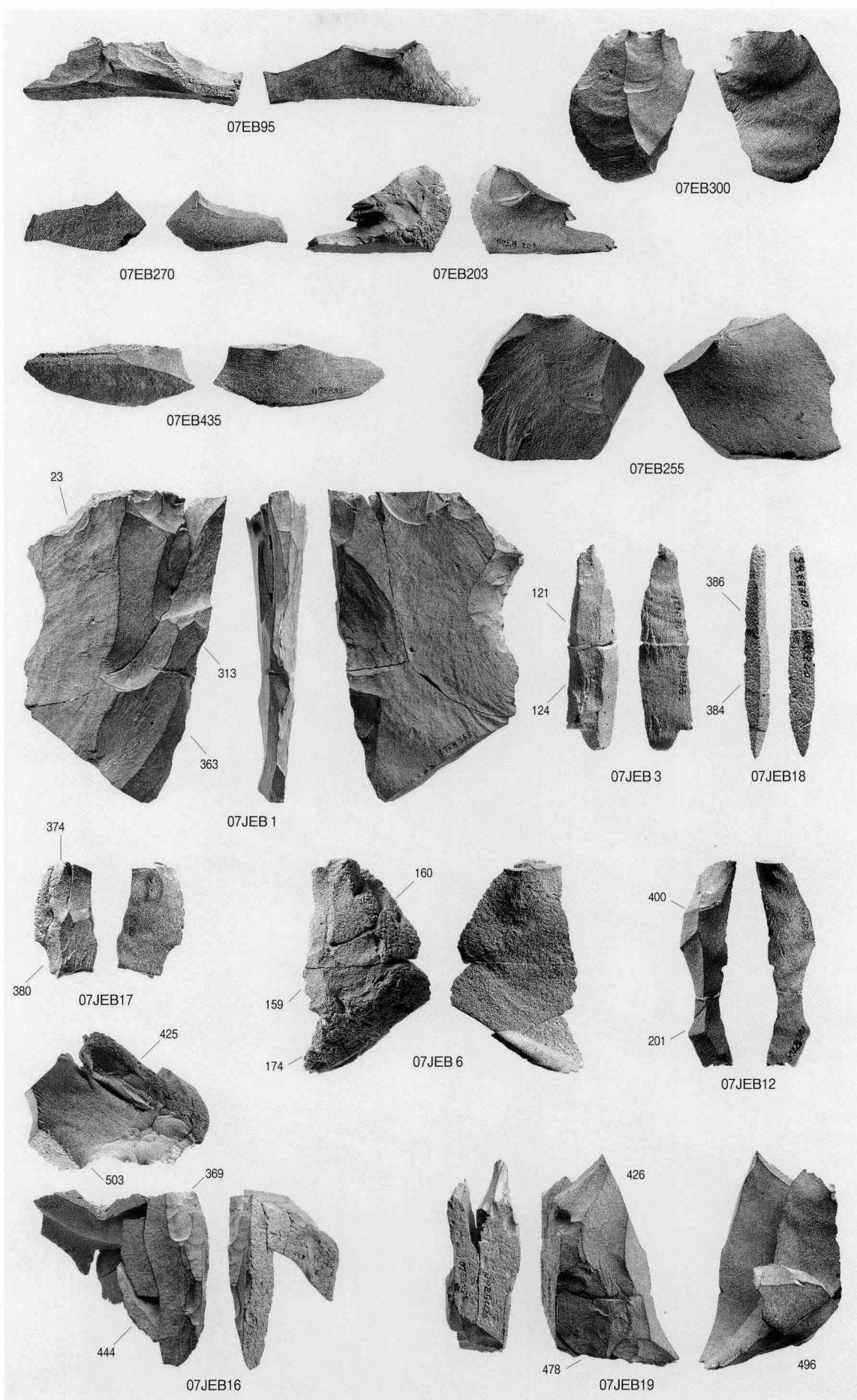


図版二〇　I区出土の旧石器

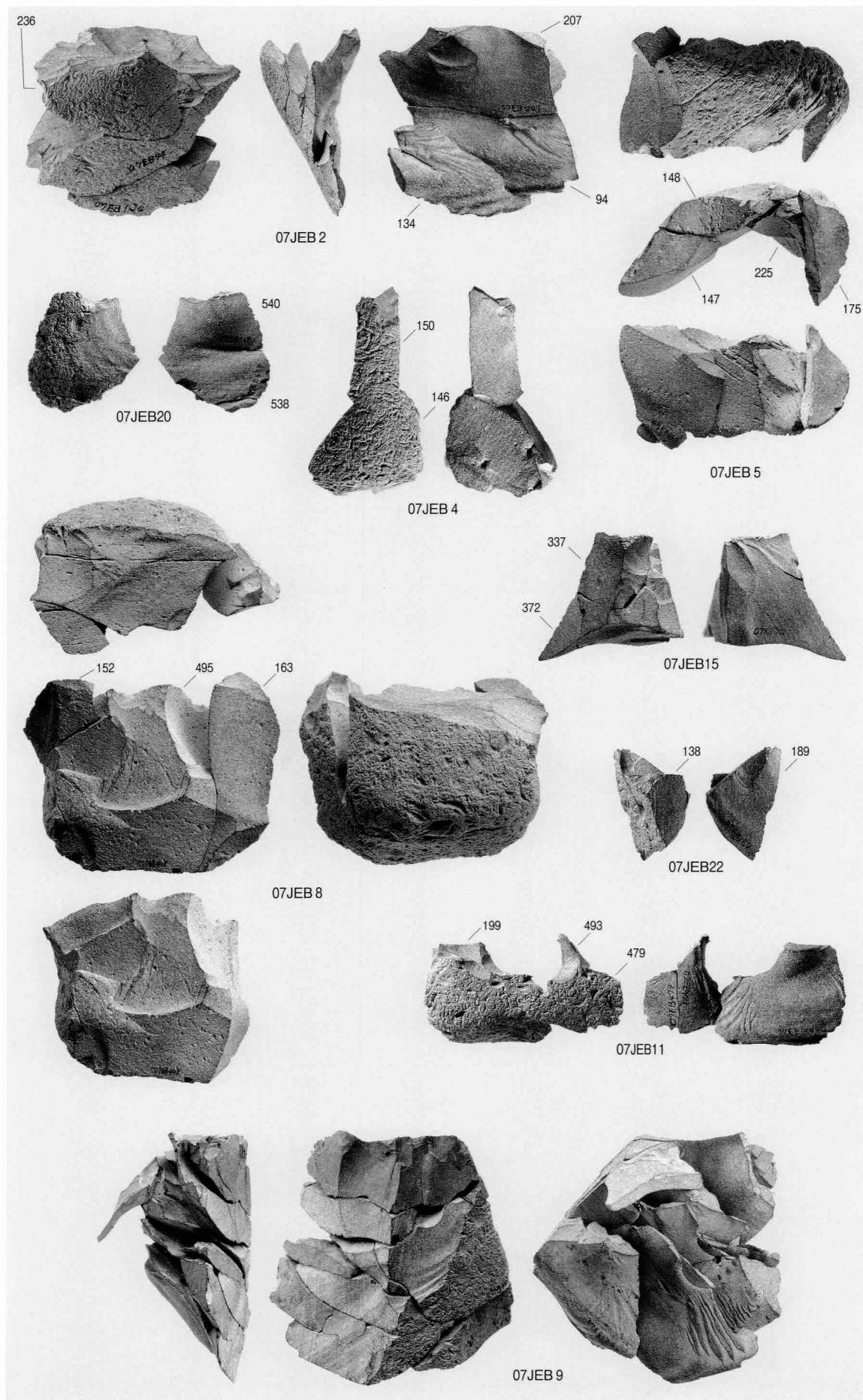
(II)



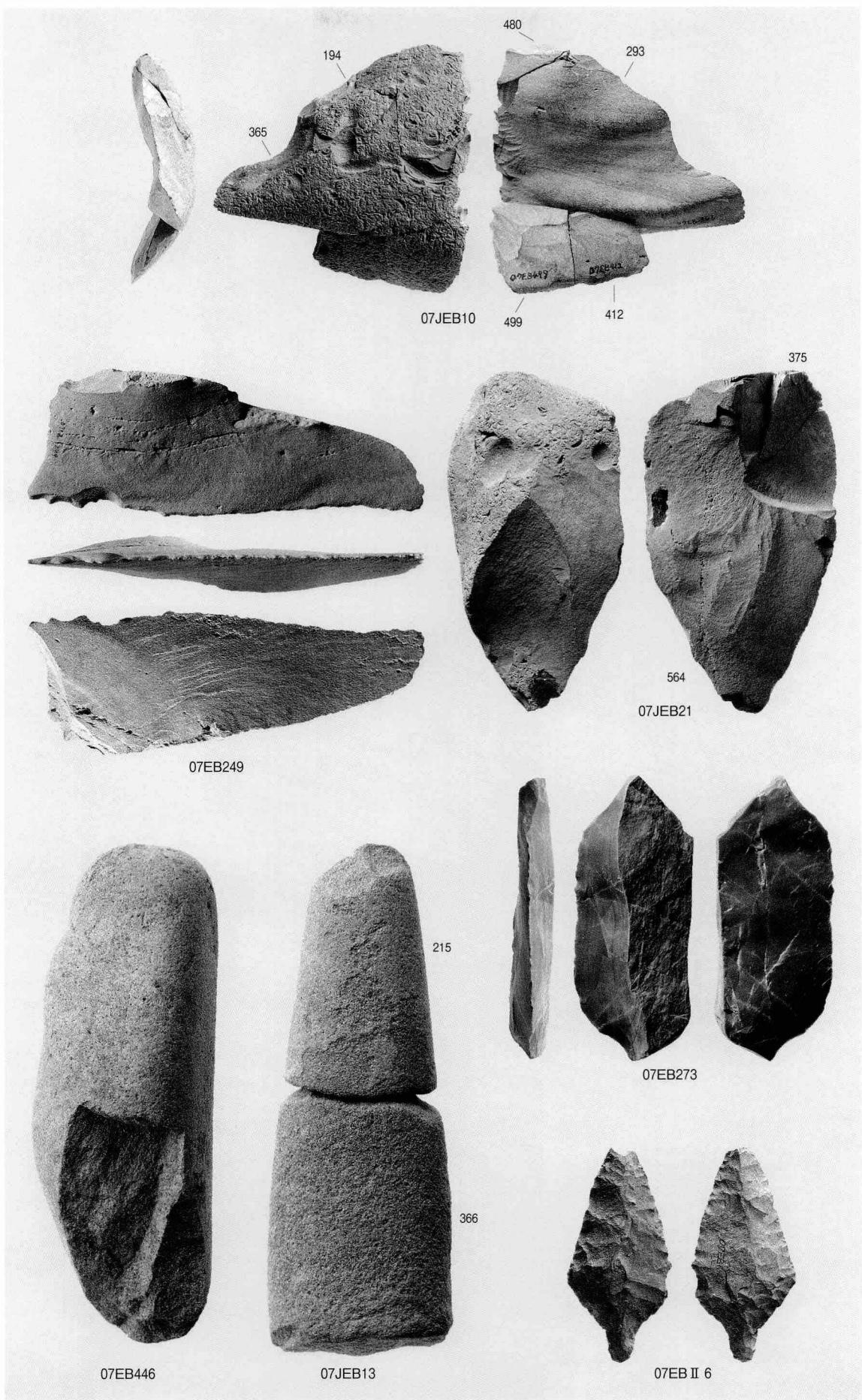
図版二
I区出土の旧石器



図版二
I区出土の旧石器
(五)



図版二三
I出石の旧石器 (六)



大阪市平野区 瓜破北遺跡発掘調査報告V
ISBN -978-4-86305-021-1
2009年3月19日 発行◎
編集・発行 財団法人 大阪市文化財協会
〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35
(TEL.06-6943-6833 FAX.06-6920-2272)
<http://www.occpa.or.jp/>
印刷・製本 株式会社 研文社
〒530-0027 大阪市北区堂山町13-17

✓

**Archaeological Report
of the
Uriwari-kita Site
in Osaka, Japan**

Volume V

A Report of an Excavation
Prior to the Development of
the Prefectural Apartmenthouse

March 2009

Osaka City Cultural Properties Association

**Archaeological Report
of the
Uriwari-kita Site
in Osaka, Japan**

Volume V

A Report of an Excavation
Prior to the Development of
the Prefectural Apartmenthouse

March 2009

Osaka City Cultural Properties Association